

一般教養科目

科目名 論理的思考
Title Logical Thinking
科目区分 一般教養科目

教授 担当教員 高松 正毅 (タカマツ マサキ)
担当教員との連絡方法
学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

論文において最も重要なのは「論証」(= 「根拠」と「結論」の組みで述べること)である。
本講義は、この「論証」の習得を目的とする。具体的には、特に「反論すること」により論理的に考え、論理的に書くトレーニングを行う。

達成目標

「論証」のしかた、すなわち、「根拠」と「結論」の組みで述べる方法を身につける。
本講義は、教科書『反論の技術—その意義と訓練方法』に沿って展開する。なお、() 内は教科書該当ページの進捗の目安である。

スケジュール

- 第1回 議論指導における反論の訓練の意義 / まず反論の訓練から始めよ / 反論ができれば十分である (pp.7-10.)
第2回 反論の二つの型—「主張型反論」と「論証(論破・切り崩し)型反論」 / 無視されている反論の訓練 (pp.10-18.)
第3回 反論は議論の本質である / 意見を述べるとは、反論すること (pp.18-24.)
第4回 誰も反対しないことを主張させる現行の意見文指導 (pp.24-35.)
第5回 反論ができなければ、議論もできない (pp.35-42.)
第6回 反論は真理を保証する / 反論のための反論は正当な方法である (pp.43-51.)
第7回 「違ったあり方も可能とするもの」 / 誰が詭弁をつかえるか / 反論は立論を強化する / 自分の議論に反論する / 対立する立場の意見をとりあげる / 予想される反対意見を先回りする (pp.51-72.)
第8回 反論の訓練 / 訓練を始める前に / 私の訓練方法の基本方針 / 教材文選択の条件 (pp.109-115.)
第9回 基礎訓練: 型の習得(その一) / 主張と根拠を確認する / 反論を考える / 型の提示と文章の作成 (pp.115-127.)
第10回 基礎訓練: 型の習得(その二) / 主張と根拠を確認する / 型の提示と文章の作成 (pp.139-150.)
第11回 相手の大前提を擊つ / 典型的失敗例 (pp.151-156.)
第12回 隠された大前提 (pp.156-161.)
第13回 大前提に反論する (pp.161-168.)
第14回 実践演習 (pp.168-169.)
第15回まとめ(自己点検・自己評価)

教科書・参考文献

教科書 香西秀信『反論の技術—その意義と訓練方法』明治図書出版

参考書 野矢茂樹『論理トレーニング』『論理トレーニング101題』産業図書、宇佐美寛『作文の論理』東信堂、『論理的思考』メジカルフレンド社、松本茂『頭を鍛えるディベート入門』講談社BB、他。

授業外での学習

教科書『反論の技術』の次回該当ページを熟読してくること。講義内でも毎回指示する。

評価方法

「提出物」の量と質による。なお、教科書がないと授業に参加できないので、必ず持参すること。

履修上の注意

内容が極めて高度であるため、1回でも欠席すればついていけなくなる可能性が高い。履修する意思があるのなら、第一回から必ず出席すること。
3回以上欠席すると単位を出さない。すなわち欠席は最大で2回まで可能だが、連続しての欠席は絶対に認めない。

科目名 哲学特講
Title Philosophy-Special Program
科目区分 一般教養科目

担当教員
休講

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

【ハンナ・アレントと哲学】

哲学の伝統故に、政治は蔑まれるべき二流の活動に貶められてしまった—哲学者ハンナ・アレントは哲学者であるにもかかわらずそう述べている。いったいいかなる意味で哲学は政治を蔑むに至ったというのか？また、どのように述べる際の政治とはいったいかなる活動のことであるのか？我々の生きるこの現代社会においてアレントの問題提起はどのような価値と限界を持っているのだろうか？それは現代の政治を考える上でどのように役に立つのだろうか？

この講義ではアレントの論文を精読しながら、以上の問い合わせについて考えていきたい。

達成目標

上記の目的を達成するのが目標である。

スケジュール

第1回	イントロダクション	
第2回	テキスト精読	哲学と政治(1)
第3回	テキスト精読	哲学と政治(2)
第4回	テキスト精読	哲学と政治(3)
第5回	テキスト精読	一と多(1)
第6回	テキスト精読	一と多(2)
第7回	テキスト精読	一と多(3)
第8回	中間試験	
第9回	テキスト精読	真理と意見(1)
第10回	テキスト精読	真理と意見(2)
第11回	テキスト精読	真理と意見(3)
第12回	テキスト精読	強制と説得(1)
第13回	テキスト精読	強制と説得(2)
第14回	テキスト精読	強制と説得(3)
第15回	結論	

教科書・参考文献

教科書 コピーを配布する。

参考書 適宜指示する。

授業外での学習

毎回、決められた箇所を読んでから講義に臨むこと。

評価方法

簡単な中間試験を行う。期末試験と中間試験の合計点で評価。

履修上の注意

一回目から講義するので、必ず一回目から出席するように。

特に前提知識は必要ない。

講義に出席しているのに私語をすることがないように。

科目名 社会哲学
Title Social Philosophy
科目区分 一般教養科目

担当教員
非常勤講師 串田 純一 (クシタ ジュンイチ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

まず社会哲学 (social philosophy) という言葉から考えてみると、social はラテン語、philosophy は古代ギリシア語に由来し、相互に異なった歴史的条件を持つ概念だと言われている。そしてこれらが結び付くということ自体が近代のある特性を表しており、さらにこれらが「社会」「哲学」と漢語に訳される東アジア特有の動きがある。この授業では、現代からの視点としてハンナ・アレントが『人間の条件』で提起した「労働」「仕事」「活動」の区別から入り、古代ギリシアから現代までの「社会」と「哲学」の関係を考えるための「条件」を大まかに探ってみたい。

達成目標

上記の目的を達成すること。

スケジュール

- 第1回 導入
- 第2回 アレントによる「労働」「仕事」「活動」の区別
- 第3回 「哲学」の土壤としての古代ギリシア、ポリス、「民主政」
- 第4回 『ソクラテスの弁明』とプラトンの『国家』、イデア論
- 第5回 続き
- 第6回 アリストテレス哲学とその『政治学』、『(ニコマコス)倫理学』
- 第7回 続き
- 第8回 古代ポリスの崩壊からローマ帝国、キリスト教的中世への流れ
- 第9回 初期近代の哲学と政治思想、デカルト、ボタン
- 第10回 ホップズの国家論と社会契約論、『リヴァイアサン』
- 第11回 ホップズへの応答、スピノザ、ルソー、ヒューム
- 第12回 近代市民社会の成立、カント、スマス、ヘーゲル
- 第13回 アレントとハイデガー
- 第14回 続き、市場と技術の時代の「社会哲学」
- 第15回 試験

教科書・参考文献

教科書 とくに指定はしない。

参考書 上記のスケジュールに挙げた一次文献、國分功一郎『近代政治哲学』、など。

授業外での学習

板書や口頭での話をノートに取って、持ち帰り自分の考えを整理する。

評価方法

受講者の数にもよるが、基本的に最終回の試験による。

履修上の注意

板書を反映させるため、いくつかの色の筆記具を用意するとよいでしょう。
また、当然のことですが講義に出ての私語は譲んでください。

科目名 現代思想
 Title Contemporary Thoughts
 科目区分 一般教養科目

非常勤講師 大池 惣太郎 (オオイケ ソウタロウ)	担当教員	担当教員との連絡方法
		学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

この授業では広く「現代思想」と呼ばれる20世紀の西洋哲学について概説します。具体的には、フランスの構造主義と精神分析、それに続く哲学者たち（フーコー、ドゥルーズ+ガタリ、ラカン、デリダ、アガンベンなど）の仕事を、いくつかのトピックに分けて解説していきます。西欧の伝統的な学問分野を逸脱する思想が今日必要とされているのはなぜか、また、歴史と知、無意識と欲望、「生政治（ビオ・ポリティック）」、技術と主体化といったトピックにおいて、現在どのようなことが問題とされているかについて基本的な理解を得ることが、講義の目的です。

達成目標

「現代思想」と呼ばれる多様な思想について理解を深める。

スケジュール

- 第1回 初回ガイダンス：「思考」とは何か
- 第2回 プレ・現代思想（1）：「近代」の概念について
- 第3回 プレ・現代思想（2）：「歴史」をめぐる三つのパースペクティブ
- 第4回 プレ・現代思想（3）：実存主義から構造主義へ
- 第5回 構造主義（1）：レヴィ=ストロースと神話学（1）
- 第6回 構造主義（2）：レヴィ=ストロースと神話学（2）
- 第7回 構造主義（3）：ソシユール言語学から口ラン・バルトへ
- 第8回 欲望の主体と精神分析の倫理（1）（ラカン）
- 第9回 欲望の主体と精神分析の倫理（2）（ラカン）
- 第10回 「欲望機械」から「内在平面」へ（ドゥルーズ+ガタリ）
- 第11回 「知=権力」とは何か（フーコー）
- 第12回 「生-政治」とは何か（フーコー / アガンベン）
- 第13回 技術と主体化
- 第14回 エクリチュールと他者（デリダ）
- 第15回 最終総括（レポート講評）

教科書・参考文献

教科書 なし

参考書 なし

授業外での学習

授業内で紹介する図書の読書を通じて、学習内容の定着をはかる。

評価方法

授業内で課される課題の提出、および学期末レポートで評価する。ただし、平常点（授業後に回収する「リアクション・ペーパー」による参加度）を加味する。

履修上の注意

とくになし。

科目名 科学哲学
Title Philosophy of Science
科目区分 一般教養科目

担当教員
非常勤講師 工藤 恵之 (クドウ サトシ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

現代社会では、科学というものが大きな影響力や権威を持っている。何かに対する批判・攻撃として「非科学的」「ニセ科学」といった言葉が使われることがあるのも、そのことの裏返しと言える。しかし、科学と疑似科学・ニセ科学は何が違うのかという問いは、よく考えてみると意外と簡単ではない。この講義では、科学と疑似科学・ニセ科学の線引きは可能なのか、という問いに科学哲学の見地から取り組む。そして、それを通じて、意見や判断が「非科学的だ」といった言葉をどんな意味で理解すればよいのか、疑似科学は社会にとって悪なのか、などを考える。科学哲学という分野の入門となることを意図しているが、知識の伝達よりも、受講者それぞれに关心をもって主体的に考えてもらうことを目指したい。

達成目標

科学に関する（あるいは、科学っぽい）身の回りの言説に対して、批判的態度で考えられるようになること。また、哲学的なものの見方や議論の方法を身につけること（特に、正解の与えられていない問いに取り組む姿勢を身につけること）。

スケジュール

- 第1回 講義のガイダンス・科学哲学の紹介
- 第2回 帰納法
- 第3回 仮説演繹法
- 第4回 反証主義
- 第5回 ハラダイム論
- 第6回 社会構成主義
- 第7回 科学と疑似科学の線引きは歴史に相対的か
- 第8回 科学と疑似科学の線引きは疑似問題か
- 第9回 科学と疑似科学の線引きは社会にとって重要か
- 第10回 中間レポートへのフィードバック（および講義の進行が遅れる場合の予備）
- 第11回 事例分析1（血液型性格判断）
- 第12回 事例分析2（占星術）
- 第13回 事例分析3（創造科学）
- 第14回 自然科学と社会科学
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 関連資料を適宜配布する

参考書 伊勢田哲治『疑似科学と科学の哲学』（名古屋大学出版会、2003年）、戸田山和久『科学哲学の冒険』（日本放送出版協会、2005年）

授業外での学習

授業内容に関わる文献資料を配布するので、予習として目を通していくこと。また、レポート課題に取り組むこと。教科書は指定しないが、科学哲学の入門書（具体的には講義中に紹介する）を自分で読んでおくことで、授業へのついていきやすさが違うはず。

評価方法

リアクションペーパー（20%）、中間レポート（30%）、学期末レポート（50%）。ただし、出席者が多い場合は、学期末レポートに代えて、学期末試験で評価を行う可能性がある。

履修上の注意

哲学の議論は、単に聞く・読むだけでなく、自分でも考えてみる（それを文章にまとめてみる）ことで、はじめてよくわかるという面がある。受け身の姿勢ではなく、「なぜこんな問題をわざわざ考える必要があるのか」という自分なりの問題意識を持って講義を受けてほしい（そのほうがきっと楽しい）。上述の通り、評価方法は出席者数を見てから決めるつもりなので、ご理解をお願いしたい。

科目名 教育心理学
Title Educational Psychology
科目区分 一般教養科目

教授 担当教員
木下 まゆみ (キノシタ マユミ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

この科目では、教育の受け手としての「人」の理解を目的とし、発達（人はどのように成長するのか）、学習（人はどのように学ぶのか）に関する心理学的知見を学ぶ。さらに、それらの知識を実際の教育活動にどのように結び付けていくのかを考える。

達成目標

心身の発達に関する学術的研究の知識を習得し、それに基づく人に対する多角的視点から、教育活動を理解することができる。

スケジュール

第1回	ガイダンス	発達における遺伝と環境
第2回	発達1	乳幼児の心身発達
第3回	発達2	認知の発達（ピアジェ理論）
第4回	発達3	道徳性の発達
第5回	発達4	仲間意識の発達
第6回	発達5	わたし意識の発達
第7回	学習1	経験から学ぶ - 学習理論 -
第8回	学習2	こころの重視 - 動機付け -
第9回	学習3	学習とこころの健康
第10回	学習4	記憶と忘却の仕組み
第11回	適応	子どもを巡る環境の変化
第12回	学級づくり1	構成的グループエンカウンター
第13回	学級づくり2	ソーシャル・スキル
第14回	心身障害児の理解と教育	発達障害の理解
第15回	総括授業	

教科書・参考文献

教科書 授業中にプリントを配布する。

参考書 適宜紹介する。

授業外での学習

授業は、大きく3つのテーマに分かれて展開する。同一テーマの授業は、内容が連続しているため、配布プリント・資料等で前回の復習を行った上で授業に臨むこと。また、教育に関するニュースにも関心を持ち、日頃から積極的に情報収集を行うこと。

評価方法

定期試験50%、平常点：50%（小テスト、および各回で授業の要約を作成）

履修上の注意

欠席回のプリントは、自己都合の場合、後日配布しません（公欠を除く）。なお、人格・知能については、別に開講する「教育測定及び方法」にて詳しく取り上げるため、関心のあるものはそちらも受講すること。

科目名 ジエンダー論
 Title Gender Studies
 科目区分 一般教養科目

担当教員
 非常勤講師 李 杏理（リ ヘンリ）

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

ジエンダーとは、身体的な差異に女や男といった意味を与え、社会的な関係をつくる装置といえる。ジエンダーオンセイシスは、近代市民革命による「人間」「市民」「國民」「労働者」「人権」という枠から取りこぼされてきた問題や差異を明らかにしてきた。もはやジエンダー抜きには世の中を見ることはできない。しかし「ジエンダー」という枠もまた同質ではありません。人種や階級、能力・健常主義にもとづく差異と問題群がある。

本講義では、差異が自然化されることで差別が維持されてきた歴史的プロセスと社会関係を捉えるジエンダー研究の成果と理論的変遷を概説する。その上で、人種・民族・階級・経済的地位・障害・能力にもとづく差異はどのような社会関係をもたらし、ジエンダーのあり方に影響を及ぼしているのか。近年の研究や社会運動、国際的な動向における問題提起を踏まえ、差別の解消に向けた批判的視座を養う。

達成目標

- ①自らの性や生について社会的・歴史的背景から相互作用を見ること。
- ②ジエンダーの観点から他者や社会問題について知り、想像力を養うこと。
- ③世界における差別や暴力の事例とそれに対する取り組みを参考し、思考すること。

スケジュール

- 第1回 「人間」とは何か？—人権の歴史と理論
- 第2回 ジエンダーとは何か？—性の多様性
- 第3回 身近にどのようなジエンダー規範があるか？—家族とジエンダー
- 第4回 性差別はなくなったのか？—階級とジエンダー
- 第5回 女性解放運動・男性解放運動とは何か？—歴史的プロセス
- 第6回 男女共同参画がもたらしたものとは？—意義と限界
- 第7回 クィアとは何か？—理論と新たな潮流
- 第8回 性の自己決定権とは？—性暴力・DV・犯罪
- 第9回 クィアを生きるとは？—ゲスト講義
- 第10回 生まれにもとづく差別はなくなったのか？—人種とジエンダー
- 第11回 国民とは何か？—エスノセントリズムとジエンダー
- 第12回 フェミニズムは何を周辺化してきたか？—第三世界フェミニズムの問題提起
- 第13回 「慰安婦」問題が問うたものとは？—戦争・帝国主義とジエンダー
- 第14回 優生思想とは何か？—能力・障害とジエンダー
- 第15回 来るべき世界のための思考とは？—差別廃絶をめぐる世界の動き

教科書・参考文献

教科書 特定のものは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書 ベル・フックス『フェミニズムはみんなのもの』堀田碧訳、新水社、2003年。
 加藤秀一『はじめてのジエンダー論』有斐閣、2017年、ほか授業中提示。

授業外での学習

授業中に提示した文献を読んだり、映画を見たりして具体例をつかむ復習を要する。幅広いテーマを扱うため特に关心のある問題については、期末試験に備えて独自に情報収集することが求められる。

評価方法

- ①各回講義後のレスポンシシートの内容 20%
- ②中間レポート 指定した映像リストから1つを選んで映評を書く 20%
- ③期末定期試験 60%

履修上の注意

性にまつわる事象は身近なことであるため、ジエンダーに向き合うことは時にセンシティブな反応を引き起こす。履修者には、個人的なことに見える性現象がどのように社会とつながっているのか、その相互作用と性の多様性を見つめる姿勢が求められる。

科目名 日本国憲法
 Title The Constitution of Japan
 科目区分 一般教養科目

担当教員 担当教員との連絡方法
 非常勤講師 辻 健太 (ツジ ケンタ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

日本国憲法に関する学説・判例を主たる素材にして立憲主義や民主主義といった憲法の基本原理を学習し、それを通じて憲法は何のために存在するのかという基本的かつ根本的な問題の理由を探ることを目的とする。

達成目標

憲法の基本原理をおおむね理解した上で、身の周りで生じるさまざまな憲法問題を自分自身で考える力を涵養することを目標とする。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション：講義内容の見取り図・教科書・参考文献等の指示を行う。
- 第2回 なぜ立憲主義か
- 第3回 主権が国民に存するとはどういうことか
- 第4回 平和主義とは何か
- 第5回 日本国憲法は押しつけ憲法か：日本憲法史
- 第6回 憲法を尊重するとはどういうことか：憲法改正と憲法尊重擁護義務
- 第7回 誰に / 何を / 誰から / いかにして保障するか：人権総論
- 第8回 国歌の押しつけは思想の押しつけか：思想良心の自由
- 第9回 宗教を理由に義務を免除できるか：信教の自由
- 第10回 表現の自由の優越的地位
- 第11回 健康で文化的な最低限度の生活をいかに保障するか
- 第12回 国民主権とは国籍保有者主権か：参政権
- 第13回 二院制は無駄か
- 第14回 議院内閣制の本質とは
- 第15回 憲法の番人の意義

教科書・参考文献

- 教科書 君塚正臣ほか『大学生のための憲法』(法律文化社、2018年刊行予定)、野中俊彦・江橋崇編著、渋谷秀樹補訂『憲法判例集〔第11版〕』(有斐閣、2016年)。最新版の六法。
- 参考書 川岸令和ほか『憲法〔第4版〕』(青林書院、2016年)、君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法〔第3版〕』(法律文化社、2017年)ほか。詳細は教場で指示する。

授業外での学習

各回で示す参考文献を手掛かりにして予習・復習をすること。

評価方法

期末レポート(85%)、復習レポート(15%)で評価する。単なる出席は評価の対象にならない。

履修上の注意

科目名 国際法
Title International Law
科目区分 一般教養科目

教授 梅島 修 (ウメジマ オサム)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

国際法は、国と国との関係を規律し、国際社会の秩序を作る、そして日々変化する、生きたルールです。国際社会において「国」とは何でしょうか。国はどのような権利があり、他国に対してどのような義務を負っているのでしょうか。これに、国際連合、WTO（世界貿易機関）といった国際機関は、どのように係っているのでしょうか。さらに、国際的な取引、人の移動がある中で、個人と国家、個人と個人との関係はどのように規律されているのでしょうか。

本講では、国際法の成立と基本的な考え方から始め、現在、確立している重要な国家間の合意と規律、さらに民間の国際経済活動の支援と制約に関する制度的枠組みについて検討してゆくとともに、まさに、今、動いている国際問題において、国際法が演じている役割と一緒に考えてゆきます。

達成目標

国際社会において活動するための規範としての規則を学び、その基本的な考え方について理解する。さらに、それらを現実的問題に応用できるようになることを目指す。

スケジュール

- 第1回 国際法とは何か - この講義では何を学ぶのか。
- 第2回 「国」とは何か - 不平等条約はどうして生まれたのか。
- 第3回 国家が守るべき決まりとは - 慣習法と成文法
- 第4回 國際組織の発展とその役割 - 國際連盟、國際連合、IMF/世界銀行、GATT/WTO
- 第5回 なぜ沖ノ鳥島は「島」でなければならないか？ - 領海、領空、大陸棚、排他的經濟水域
- 第6回 人権は誰が守るのか - 人権保障の国際化
- 第7回 地球規模での環境保護 - 京都議定書、貿易と環境
- 第8回 武力ではない国家間の紛争解決 - 集団安全保障、国際司法裁判所、WTO紛争解決
- 第9回 兵器を取りさせない、作らせない - 貿易制裁、輸出管理とワッセナーアレンジメント等
- 第10回 國際売買・ビジネス契約はなぜ長いのか - 合意の形成、準拠法、裁判管轄
- 第11回 民間の国際取引にWTOが関係するのか - 最惠国待遇、内国民待遇、数量制限の一般的禁止
- 第12回 國際基準を制定した者は世界を制す - Suicaカードの国際標準化、非関税障壁
- 第13回 自由貿易協定(EPA/FTA/TPP)は脅威か、チャンスか - 關稅減免の約束、原産地規則
- 第14回 國際取引における紛争をどう解決するか - 商事仲裁、投資家対國家の紛争解決(ISDS)、執行
- 第15回 日本法と国際法の関係 - 宪法98条と直接適用

教科書・参考文献

教科書 渡部茂己・喜多義人『国際法[第2版]』 弘文堂 (2014)

参考書 位田隆一・最上敏樹『コンサイス条約集』三省堂 (2015)
小寺彰・森川幸一・西村弓『国際法判例百選 第2版』別冊ジュリスト204 有斐閣 (2011)

授業外での学習

日常から、国際的な紛争に広く目を向け、紛争当事者の主張、基本的対立点について自分なりに考えておく。

評価方法

期末筆記試験70%、平常点30%

履修上の注意

講義において、質問を投げかけてゆく。学生諸君の積極的参加を期待する。

科目名 日本政治
Title Japanese Politics
科目区分 一般教養科目

担当教員
准教授 土谷 岳史 (ツチヤ タケシ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

トピックごとに日本の政治制度を理解し、それにより日本の政治制度に対する反省的思考を培う。政治制度の多様性を慣習や文化といったより広い要素も視野に入れ、検討したい。体系的な視座に立ち、論じるというよりも様々な制度に対する理解を深め、各人の興味関心を発展させていく基盤となることを目的とする。

達成目標

各事項の基本的な知識を習得する。
55年体制の特徴について理解する。
現代日本の政治制度をめぐる課題を理解する。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション：本講義の概要・目的
- 第2回 立憲制
- 第3回 議院内閣制と大統領制
- 第4回 日本の議院内閣制
- 第5回 議会の役割
- 第6回 選挙制度と代表性
- 第7回 日本の選挙制度
- 第8回 政党制①：政党制の類型と特徴
- 第9回 政党制②：戦後日本の政党
- 第10回 行政①：近代日本の行政制度
- 第11回 行政②：鉄の三角形
- 第12回 司法①：司法の役割
- 第13回 司法②：日本の司法制度
- 第14回 地方自治制度
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 とくになし

参考書 講義で指示する

授業外での学習

講義の復習のほか、新聞などで積極的に情報を集めること、参考文献を読んで能動的に学習することが求められる。

評価方法

基本的にテストまたはレポートで評価するが、毎回の講義でのリアクションペーパーも加味する。

履修上の注意

現実の政治情勢に従い、講義内容は変更することがある。
毎時間の講義の1/3ほどは履修者からの質問・コメントへの応答にあてる予定である。

科目名 西洋史
Title European History
科目区分 一般教養科目

担当教員
非常勤講師 宮川 剛 (ミヤガワ ツヨシ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

本講義は、中世から近代のヨーロッパの社会や歴史に様々な角度から光をあてて、世界史におけるヨーロッパの役割、他の地域・文明に与えた影響などをさぐる。現代世界形成に大きな役割を果たしたヨーロッパの歴史的背景について理解を深めることで、グローバル化の進んだ現代にふさわしい教養・認識を身につけることを目指す。

達成目標

中世から近代のヨーロッパの政治、経済、宗教など、毎回設定したテーマについての講義を通じて基本的な知識を身につけるとともに、講義の内容に関する資料を読み込むことで、現代世界の諸問題の歴史的背景を理解する。

スケジュール

第1回	イントロダクション：西洋史概説
第2回	西洋中世社会
第3回	主権国家体制の確立
第4回	宗教改革
第5回	宗教改革の社会的影響
第6回	大航海時代とその影響
第7回	近世イギリスの海外進出
第8回	17世紀の「危機」
第9回	イギリスにおける内乱
第10回	啓蒙と改革
第11回	アメリカの独立
第12回	イギリスの産業革命
第13回	フランス革命
第14回	自由主義とナショナリズム
第15回	まとめ

教科書・参考文献

教科書 特になし

参考書 授業中に指示する。

授業外での学習

前回の授業中に指示した事柄について、事前に参考図書などで調べておくこと。
授業後はノートや配布資料に目を通し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

テスト：100%。

履修上の注意

高等学校の「世界史」の知識を前提として講義します。

科目名 宗教学
Title Religion
科目区分 一般教養科目

担当教員
非常勤講師 下村 育世 (シモムラ イクヨ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

本講義では、宗教学の基本的な考え方や概念をつかみ、諸宗教（仏教、キリスト教、イスラーム等）の特徴を概略的に学んだ上で、現代の日本の宗教状況、そしてそれらを考え・捉えるにあたって欠かすことのできない日本の宗教史、すなわち宗教に関する制度、慣習などの変遷について学ぶ。本講義では、近代を中心に扱う。

達成目標

宗教学の基本的な考え方や概念を理解し、諸宗教についての基本的な知識を身につけた上で、様々な宗教に関する問題を多様な視点から自分自身で考える力を涵養する。

スケジュール

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2回 | 「宗教」への視角 宗教学のなりたち |
| 第3回 | 日本における宗教の概観I 日本人は無宗教なのか？ |
| 第4回 | 日本における宗教の概観II 『宗教年鑑』を読んでみる |
| 第5回 | 日本における宗教の概観III 信教の自由をめぐる問題① 政教分離 |
| 第6回 | 日本における宗教の概観IV 信教の自由をめぐる問題② 「カルト」問題 |
| 第7回 | キリスト教と日本I 世界の宗教分布とキリスト教 |
| 第8回 | キリスト教と日本II 近世の宗教統制 |
| 第9回 | イスラームと日本 |
| 第10回 | 仏教と日本I |
| 第11回 | 仏教と日本II 日本の葬儀と墓 |
| 第12回 | 近代国家と宗教I 神仏分離と国家神道 |
| 第13回 | 近代国家と宗教II 民衆宗教 |
| 第14回 | 近代国家と宗教III 戦争と宗教 |
| 第15回 | 戦後の宗教 |

教科書・参考文献

教科書 櫻井義秀・平藤喜久子編著『よくわかる宗教学』ミネルヴァ書房、2015年（初回の授業で紹介するので出席のこと。第2回授業から使用）

参考書 講義中に具体的なテーマに即して適宜紹介する。

授業外での学習

以下のような復習を指示します。
(復習) 講義を聞いた上で、教科書の指定ページを読み理解を深める。

評価方法

学期末試験（60%）、授業終了時に提出してもらうリアクション・ペーパーおよび不定期に課す小レポート等（40%）を総合して判断する。

履修上の注意

10分以上遅れての入室は遅刻扱いとする。

科目名 **自然地理学**
 Title Physical Geography
 科目区分 一般教養科目

担当教員
 非常勤講師 中牧 崇 (ナカマキ タカシ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

本講義では、地理的見方・考え方を身につけながら、地理学の一分野である自然地理学のさまざまな現象のうち地形・気候・水を取り上げる。たとえば地形では、大地形や小地形の名称・形態だけでなく、それらがいつ、どこで、どのような過程を経て形成されたかを理解する。気候では、大気の大循環のしくみ、日本列島における降雪・積雪のしくみなどを理解する。水では、「資源」をめぐる問題を日本と外国との関係、河川の上流と下流との関係に着目しながら理解する。また、本講義で取り上げる地形・気候・水が人間生活とどのように関わっているかについて注意を払いたい。なお、下記のスケジュールは履修者の人数などにより変更することがある。

達成目標

講義を通して、自然現象への関心を深め、考える機会を増やすことができる。さらに、積極的にフィールドに出で、地域を観察する姿勢をもつことにより、インターネットを含む既存の資料では分からぬ現実の地域を知ることができる（バーチャルと現実とは異なる）。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス、地理学とは何か
- 第2回 (自然)地理的見方・考え方について
- 第3回 地図から地域を読む(1)
- 第4回 地図から地域を読む(2)、レポートの作成について
- 第5回 内作用によりつくられる大地形(1)
- 第6回 内作用によりつくられる大地形(2)、近年の変動帯における地震・火山活動(1)
- 第7回 近年の変動帯における地震・火山活動(2)
- 第8回 外作用によりつくられる小地形(1)
- 第9回 外作用によりつくられる小地形(2)
- 第10回 外作用によりつくられる小地形(3)
- 第11回 さまざまなスケールからみた気候(1)
- 第12回 さまざまなスケールからみた気候(2)
- 第13回 さまざまなスケールからみた気候(3)
- 第14回 水資源をめぐる問題(1)
- 第15回 水資源をめぐる問題(2)

教科書・参考文献

教科書 配付プリント、地図帳（高等学校で使用したものでもよいが、新たに購入する場合、二宮書店の『基本地図帳』を用意するとよい）。

参考書 必要に応じて授業で紹介する。

授業外での学習

授業の復習を中心とした事後学習に取り組むこと（プリント、ノート、地図帳を活用すること）により、授業の内容の定着をはかること。なお、事前学習については授業で指示する。

評価方法

定期試験65%、レポート10%、受講状況25%（出席を重視、必要に応じて小課題を出す予定）

履修上の注意

部活動、就職活動、アルバイトなどで欠席回数の多い学生の履修はすすめない。高等学校での地理の履修・未履修に關係なく、明確な目的意識をもち、かつ学習意欲のある学生の参加を歓迎する。

科目名 日本地誌
 Title Japan Topography
 科目区分 一般教養科目

担当教員 教授 大島 登志彦(オオシマ トシヒコ)	担当教員との連絡方法 学内ポータルサイトのシラバス参照
------------------------------	--------------------------------

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

日本及び身近な群馬県の歴史や概要を学んだうえで、現在の日本における地方都市の問題や環境問題などを考察させる。また、身近な地域の地理・歴史的文化遺産の調査をレポート課題として、各自で文化遺産をみつけて現地をさせ、自分で見て確認させる習慣を身につけさせる。さらにその内容を発表を通して、資料作成とレポートを再考して指導できるスキルを養うことなどを目的とする。

達成目標

日本全国と群馬県のおおまかな地誌を理解する。都道府県レベルの地域区分や各地域の概要、郷土に関する地誌の教養を学び、歴史地理の指導的要素を高め、この課題のレポートを課す。また、上記したレポート課題を通して、各自の身近な地域を再認識して、調査する資質を身に着ける。また、受講者全員の発表を通して、日本全国各地の地誌や遺産を事例学習するとともに、発表のための資料作成と能力を効果的に高める。

スケジュール

- 第1回 授業の概要説明
- 第2回 日本の地誌の概要と課題
- 第3回 日本の地形と地域区分の歴史的変遷
- 第4回 日本の文化遺産の概要とレポート課題の指示
- 第5回 群馬県の概要と地域区分
- 第6回 上毛かるたとその地理的意義
- 第7回 地図の基本と読み方
- 第8回 温暖化と最近の日本の気候
- 第9回 自然災害と地震・原発事故の考察
- 第10回 日本の市町村や地名に関する考察
- 第11回 レポートの提出とその講評、発表の指示
- 第12回 レポートの内容をもとにした学生の発表と講評(1)
- 第13回 レポートの内容をもとにした学生の発表と講評(2)
- 第14回 レポートの内容をもとにした学生の発表と講評(3)
- 第15回 本授業の総括と定期試験の指示

教科書・参考文献

教科書 地図帳を各自持参：高校の地理の授業で使った地図帳
 授業の概要や要点：毎回プリントを配布します。
 参考書 必要に応じて、その都度指示します。

授業外での学習

学期内に数枚配布する地名や用語などの穴埋め作業プリントを地図帳などを参照して完成させる。
 身近な地域のフィールド調査を行って、課題のレポートを完成させる。

評価方法

受講態度重視(25%程度)、レポートの提出とその内容の発表(25%程度)
 学期末に筆記試験を行う(期末試験50%程度)

履修上の注意

予備知識：要望：中学校での地理学習を理解していることを前提として授業を進める。また、高校で地理を履修していることが好ましい。資格への対応：地理・地誌に関する試験や検定を受けた学生にはその成果を評価します。(旅行業務取扱管理者、旅行地理検定、地図地理検定、高崎学検定等通称ご当地検定など地理・地誌に関する資格や検定各種)

科目名 日本史（近現代）
 Title Japanese History II
 科目区分 一般教養科目

担当教員
 非常勤講師 小田 義幸（オダ ヨシユキ）

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

明治維新150年の節目を迎える今年、テレビや新聞などで近代日本の歴史が大きく取り上げられます（2018年NHK大河ドラマの主人公は西郷隆盛）。来年4月には平成が幕を閉じ、昭和の戦後史（1945～1989年）が遠い過去となります。本講義では、明治～昭和戦後期（1868年～1989年）の日本政治・外交を対象とし、近代日本や戦後日本の命運を決定づけるような出来事や現在起きている様々な現象と関連の深い出来事を取り上げながら、それが後世にいかなる影響を及ぼし、現在生きている我々にどのようなメッセージを伝えようとしているのか、わかりやすくお話しするつもりです。また、この講義では、歴史=後世の人達によって作られたものだという観点に立ち、中学・高校時代の歴史学習とは一線を画し、世に溢れている歴史の見方や評価に対して疑いの目を持つことの大切さについても伝えるつもりです。

達成目標

近現代の日本政治外交史について理解を深めると共に、歴史に対する批判的な見方を身につけることを目標とします。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション・明治維新はなぜ成功したのか？
- 第2回 明治政府が不平等条約を改正できたのはなぜか？
- 第3回 憲法上明文化されていない元老がなぜ戦前の日本政治を仕切ることになったのか？
- 第4回 日清戦争・日露戦争が勃発したのはなぜか？なぜ、韓国が日本の植民地となったのか？
- 第5回 なぜ、明治憲法体制の下で政党政治が実現できたのか？
- 第6回 第一次世界大戦と戦後の国際秩序に日本はどう向き合ったのか？
- 第7回 普通選挙の実施はその後の日本政治にどのような影響を及ぼしたのか？
- 第8回 第1回～第6回までの総括・中間テストの実施
- 第9回 1930年代前半に軍人たちがテロやクーデターを企てたのはなぜか？
- 第10回 日中戦争がなぜ勃発したのか？どうして泥沼化したのか？
- 第11回 中国と戦っていた日本がアメリカと戦争することになったのはなぜか？
- 第12回 なぜ、日本は早期にアメリカとの戦争を終結させることができなかつたのか？
- 第13回 GHQによる約7年間の占領統治が戦後日本に何をもたらしたのか？
- 第14回 なぜ、日米安保体制が必要とされ、今日に至るまで定着しているのか？
- 第15回 自由民主党が38年間にもわたって政権を担当し続けることができたのはなぜか？

教科書・参考文献

- 教科書 特に指定せず、授業のたびにレジュメを配付します。ただし、レジュメだけではテストでの高得点は難しいので、しっかり授業を聞いて自分なりに復習してください。
- 参考書 鳥海靖『もういちど読む山川日本近代史』（山川出版社、2013年）、北岡伸一『日本政治史-外交と権力 増補版』（有斐閣、2017年）など。その他の文献は授業で隨時紹介します。

授業外での学習

授業で紹介した参考文献（新書レベルでOK）を読む、または、NHKスペシャルやNHK歴史教養番組を収録したDVDを視聴しておくと授業の理解がより一層深まります。

評価方法

学期末試験60% + 中間テスト20% + リフレクションペーパー・小テストなど20%

履修上の注意

高校時代に日本史を履修しなかった学生や高校日本史で日本近現代史をほとんど学ばなかった学生も歓迎します。

科目名 宇宙と地球
Title Space and Earth
科目区分 一般教養科目

担当教員
非常勤講師 濱根 寿彦 (ハマネ トシヒコ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

宇宙を見つめることは、地球を知ることである。世界の見聞を広めることができ、自国をより深く知ることになるよう。天文学は「最古の実用科学」と言われ、時を計り、季節変化を知るための「天測」、現代で言う「位置天文学」に始まる。以来、文明とともにありその成果を反映して、地上界と天界を包含する世界像（宇宙像）が描かれた。本科目では、宇宙を探求する人間の物語を交えつつ、現代の天体観測と理論によって描き出された科学的宇宙像を概説し、天体観測の対象にならない唯一の天体である地球が、この宇宙で特別な存在であるかどうかへの疑問へと向かう。そうして、天文学を含む諸科学によって判明してきた物質の進化、惑星系の誕生と進化のシナリオを基に、地球の普遍性と特殊性を浮き彫りにするとともに、人間の活動と地球表面環境との不可分の関係にあり、私たちが自らの行いが自らに返ってくる「地球システム」に生きていることを明らかにする。

達成目標

以下の事柄以下の事柄について理解し、概ね中学生以上を対象者に想定して、図解・言語等により説明できる。

1. 科学、特に天文学・惑星科学の探究手法と、現代の科学的宇宙観。
2. 地球や人間が「ここ」に存在することが、宇宙の物質進化と不可分の関係にあること。
3. 比較惑星学・惑星形成論の観点から見た地球の普遍性と特殊性および「第二第三の地球」の存在可能性。

スケジュール

- | | |
|------|------------------------|
| 第1回 | イントロダクション： 宇宙探求史、宇宙の景色 |
| 第2回 | 現代の天体観測 |
| 第3回 | 太陽系 |
| 第4回 | 物質分析と探査 |
| 第5回 | 恒星 |
| 第6回 | 銀河系と銀河 |
| 第7回 | 宇宙論 |
| 第8回 | スケール毎の宇宙 |
| 第9回 | 物質進化 |
| 第10回 | 生命の可能性 |
| 第11回 | 太陽系の誕生と惑星 |
| 第12回 | 系外惑星 |
| 第13回 | 見えてきた地球 |
| 第14回 | 地球システム |
| 第15回 | 宇宙と人間 |

教科書・参考文献

教科書 指定しない

参考書 放送大学テキスト「宇宙を読み解く'13」（教養基礎として）
「シリーズ『現代の天文学』第1巻「人類の住む宇宙」（評論社）（天文学入門として）

授業外での学習

扱う範囲が非常に広いので、総合的な学習よりも、自分が興味を持った宇宙や地球に関するニュース・話題等について、情報発信元まで辿って、表面的な事実だけでなく背景まで掘ることを勧める。ひとつのことしつかり理解すると、他のこともより深く見えてきて、全体の理解が進むものである。

評価方法

定期試験： 70 % 受講状況（平常点）： 30 %

履修上の注意

- ・原則として数式を用いず、図解や画像を多用する。図解にはグラフを含む。
- ・グラフの見方を含め、中学校卒業程度以上の数学概念が必要な場合には、その都度導入・説明する。
- ・これから的人生で、この種の講義を受ける機会は滅多にない。現代人の素養として積極的に受講してもらいたい。

科目名 生態系と環境
 Title Ecosystem and Environment
 科目区分 一般教養科目

担当教員 担当教員との連絡方法
 非常勤講師 仁木 拓志 (ニキ タクシ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

環境問題は我々の「生活の質」に直結する極めて現実的な問題である。したがって解決にあたっては「問題となる生態系や環境についての科学的理 解」が出発点となる。しかし日本社会では、善悪分類したキーワードを思想的解釈でつぎはぎしただけの「道徳的寓話」が躊躇し、問題解決に向けた人々の努力の足を引っ張っている現実すらある。特に放射能汚染等の問題では災害も大きい。

本講義では、生態系管理、環境汚染、地球温暖化等について、実事例や実測データを元に「問題となる事象の科学的理 解」を確立することを目的とする。その過程を通じて、知性を蝕む「善悪キーワード・美しい物語依存症」と決別し、将来直面した問題に対して合理的に解決策を導けるようになるための科学的思考習慣を養う。

達成目標

「キーワードについての良い意見」という思考習慣から脱却する。外来生物、地球温暖化、放射能汚染等について、「どのような事象がどのような仕組みでどう問題になるのか」という視点から、「物語や見解」ではなく「実事例や実測データ」に基づいて理解する。さらに、個別の事例ごとに具体的かつ合理的な対策を「問題となる事象の仕組み」に基づいて導き、説明できるようになる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス / 「生態系が崩れる」「地球に優しく」の有害性
- 第2回 人間はどうやって命をつないでいるか?
- 第3回 生物多様性保全の客観的根拠
- 第4回 外来生物は何がどう問題なのか?
- 第5回 環境汚染(1) - 「有害・有毒」物質による環境汚染
- 第6回 環境汚染(2) - 生物濃縮と環境汚染物質対策
- 第7回 富栄養化(1) - 「きれいな水」と富栄養化
- 第8回 富栄養化(2) - 富栄養化が引き起こす問題と富栄養化対策
- 第9回 地球温暖化(1) - 温暖化が起こる仕組み
- 第10回 地球温暖化(2) - 気候変化
- 第11回 地球温暖化(3) - 温暖化によって生じる問題
- 第12回 化石燃料と「クリーンなエネルギー」の問題(1) - 主要な再生可能エネルギー
- 第13回 化石燃料と「クリーンなエネルギー」の問題(2) - 再生可能エネルギーを活かす技術
- 第14回 福島第一原子力発電所事故に伴う放射能汚染(1) - 「放射能」と「被曝」の基礎
- 第15回 福島第一原子力発電所事故に伴う放射能汚染(2) - 放射能汚染の今

教科書・参考文献

教科書 特に使用しない

参考書 初回講義時に紹介する。必要に応じて隨時追加紹介する。

授業外での学習

授業後には復習をし、疑問点は放置しないこと。日常から、善悪分類やメリット・デメリットではなく「何をする」とどういう仕組みで何が起こるか」に関心を持って生活すること。「○○はよい/悪い」「意味/効果があるのか?」等の悪しき思考習慣は捨て、字面を暗記するのではなく現象の姿を把握することを努めること。

評価方法

平常点(出席カード裏の評価) 50%
 テスト 50%

履修上の注意

学内Webの科目ページを隨時参照すること。わからないことは積極的に質問すること。

科目名 医療と健康
 Title Health and Medicine
 科目区分 一般教養科目

担当教員 担当教員との連絡方法
 非常勤講師 一戸 真子（イチノヘ シンコ）

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

人々が質の高い生活を送るためにには健康であることが大変重要であり、また病気や障害になった際には、医療や介護などの各種サービスの質は大変重要であることについて理解を深めることを本講義の目的とする。心身の機能的理解に基づく運動や栄養、休養の重要性についても理解する。また現代社会においては医療や健康を取り巻く各種産業構造はどのようにになっているかについても、理解することを目的とする。

達成目標

1. 健康や医療の重要性について理解できる。
2. 身体活動・運動の実際と重要性について理解できる。
3. 栄養や休養の実際と重要性について理解できる。
4. 医療・介護サービス提供の仕組みやヘルスケアビジネスについて理解できる。

スケジュール

- 第1回 健康とは何か - 健康の定義、健康寿命、
- 第2回 病気とは何か - 死因、生活習慣病、NCD(非感染性疾患)
- 第3回 健康日本21と健康増進法、ヘルスプロモーション、
- 第4回 セルフケア、セルフメディケーション、セルフヒーリング
- 第5回 フィットネス、スポーツ、リハビリテーション
- 第6回 サーカディアンリズム、ホメオスタシス、睡眠（レム・ノンレム）
- 第7回 休養（積極的・消極的）、余暇活動、ツーリズム
- 第8回 メンタルヘルス、ストレスコーピング
- 第9回 栄養・食育、医食同源、トクホ・サプリメント、スーパーフード
- 第10回 統合医療、代替相補・補完医療
- 第11回 一次予防の重要性、プライマリ・ヘルスケア
- 第12回 病院と診療所、薬局、介護施設と居宅
- 第13回 医療サービスと介護サービス、連携、チームアプローチの重要性、地域包括ケア
- 第14回 健康産業、医療周辺ビジネス、医薬品業界と医療機器業界、
- 第15回 ITと電子カルテ、介護ロボット、健康と医療の今後の関係

教科書・参考文献

教科書 教科書は特に使用しない。必要に応じて授業中に資料を配付する。

参考書 一戸真子、「ヘルスケアサービスの質とマネジメント - 患者中心の医療を求めて」、社会評論社、2012.

授業外での学習

予習、復習の習慣をつけてください。

評価方法

レポート（40%）、試験（60%）により評価する。

履修上の注意

健康の保持・増進および病気になった場合の医療は、誰しもが望み経験する分野です。積極的な参加を期待します。

科目名 技術とものづくり
Title Technology and Engineering
科目区分 一般教養科目

担当教員
非常勤講師 横本 弘 (カシモト ヒロシ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

現代の生活は多くの科学技術によって支えられており、ここ数十年間だけをみてもすさましく変化しています。そしてものづくりの未来も大きく変わろうとしています。この様な時代を前にして、ものを設計するとはどのような事かを簡単に（理系ではない人を対象にして）説明します。また、歴史的な事例を取り上げ、理解を深めます。

達成目標

- ・ものづくりに必要な基礎的な工学の技術について、主に機械設計を中心に概要を把握する。
- ・科学技術について歴史的事例を紹介し、理解を深める。

スケジュール

第1回	講義の概要、実践的なものづくりとは
第2回	単位について(1)、SI単位について
第3回	単位について(2)
第4回	機構設計(1)、いろいろなメカニズム
第5回	機構設計(2)
第6回	機構設計(3)
第7回	構造設計(1)、機械に働くいろいろな力
第8回	構造設計(2)
第9回	構造設計(3)、最適な設計とは
第10回	材料設計(1)、材料と試験方法
第11回	材料設計(2)、金属材料
第12回	材料設計(3)、金属以外の材料
第13回	要素設計(1)、いろいろな機械要素と電気要素
第14回	要素設計(2)
第15回	全体のまとめ

教科書・参考文献

教科書 特にありません。

参考書 特にありません。

授業外での学習

予習の必要はありません。
講義で扱った内容が身近にある製品にも応用されているかもしれません。色々な製品を今までとは違った視点や観点から眺めて下さい。

評価方法

受講状況と提出物（40%）、期末試験（60%）
出席状況（出席が授業の3分の2以上）を満たさなければ不合格になることがあります。（履修要綱）

履修上の注意

ものづくりと日本の経営法のように経済的な観点からの話は含みませんので、注意して下さい。
また、授業中に簡単な計算を行ってもらう事があります。

科目名 物理学
Title Physics
科目区分 一般教養科目

担当教員
非常勤講師 赤羽 良一 (アカバ リョウイチ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

自然科学には、大きく分けて物理学、化学、生物学、地学、がありますが、物理学は大きな物体から目に見えない極微の粒子（素粒子など）の運動や性質を扱う自然科学の最も基本的な分野の一つです。また、物理学は化学や生物学などとも深い関係を持っており、身の回りの物質や生命に関わる諸現象を物理学として取り扱う分野もあります。この講義では、このような自然界全般に渡る諸現象を扱う物理学の基礎（入門）として、まず物体の運動（力学）を学びます。そして、それを理解するために必要な高校・大学入門レベルの微分・積分学の基礎を物理現象に即して学んでいきます。また、物理学の広さについて理解を得るために、身近な問題にも注目しながら、化学や生物に關係した現象を物理学の目で見ていくことも試みます。科学の歴史にも触れます。この授業は、広大な自然界の諸現象を理解するための切り口の一としての物理学の基礎を学ぶ授業です。

達成目標

- 1) 速度、加速度、力、運動量、エネルギー、などの基本のことがらについて理解し、説明できること。
- 2) 1) の現象を表わす数学的表現の基礎について理解していること。
- 3) 身の回りの化学、生物などについて基礎的知識をもち、それを物理（学）的に考える態度を持っていること。

スケジュール

- | | |
|------|-----------------|
| 第1回 | 自然と自然科学 |
| 第2回 | 物理入門—物理量・単位 |
| 第3回 | 物理と数学基礎—変数と関数 |
| 第4回 | 物理と数学基礎—関数と導関数 |
| 第5回 | いろいろな運動（1） |
| 第6回 | いろいろな運動（2） |
| 第7回 | 力と運動方程式（1） |
| 第8回 | 力と運動方程式（2） |
| 第9回 | エネルギーとは（1） |
| 第10回 | エネルギーとは（2） |
| 第11回 | 波と音の物理 |
| 第12回 | 化学と物理 |
| 第13回 | 生物と物理 |
| 第14回 | 分子の世界—その物理と化学入門 |
| 第15回 | まとめ—物理学の歴史も考える |

教科書・参考文献

教科書 2018年度学期始めに指定します。

参考書 「生物学と医学のための物理学」、ポール・デヴィドヴィッツ、曾我部正博監訳、共立出版、他適宜指示します。

授業外での学習

- 1) まわりの現象に興味を持とう。
- 2) 科学や技術の歴史を勉強すると面白い。
- 3) 高校の数学や物理を学び直そう。
- 4) 参考書の紹介やプリントの配布は授業中に隨時行います。

評価方法

期末試験 60%、レポートと小テストで合わせて 40%

履修上の注意

高等学校で物理を履修していない学生を対象とした授業です。物理学をはじめ、自然科学全般に親しめるよう、幅広い読書を心がけてください。

科目名 キャリア・デザイン

Title Career Design

科目区分 一般教養科目

担当教員

休講

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

キャリア・デザインとは、主に職業を中心とした自分の生き方を長期的な視点から考えること。自分のキャリアをしつかり意識して毎日を送るかどうかで、将来が大きく変わる可能性がある。キャリアとそのデザインについて考えることにより、キャリア・デザインの一般的な知識と、自分自身のキャリア（生き方）について考えることを支援する。また各業界、企業の仕事についても情報を提供する。

達成目標

経済学部学生として、キャリアデザインの知識や考え方を習得することにより、学生生活（勉学、諸活動）を充実したものにし、それが卒業後のキャリアにつながるように、卒業後も自律的に行動できるようになること。あるいはまた、そのことの重要性を理解し、他者にもアドバイスできること。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション キャリアデザインとは何か、その意義を理解する
- 第2回 職業論 1 職業観を確立することの意義を理解する
- 第3回 職業論 2 企業が求める人材要件をどう考えるか、自立的なキャリアとは何かを考える
- 第4回 職業論 3 生きる意味と価値にまでさかのぼってキャリアを考えてみる
- 第5回 キャリア論 1 キャリアというものの特徴、類型を理解する
- 第6回 キャリア論 2 近年の社会環境の変化とキャリアの関係を考える
- 第7回 キャリア論 3 情報化とキャリアの関係を考える
- 第8回 キャリア論 4 国際化とキャリアの関係を考える
- 第9回 キャリア論 5 キャリアのケーススタディを通じて自身のキャリアデザインへのヒントを得る
- 第10回 業界・仕事論 1 自動車・電気機械に関係する業界と仕事の特徴、事例
- 第11回 業界・仕事論 2 商社のビジネスの変化と仕事の特徴、事例
- 第12回 業界・仕事論 3 金融のビジネスの種類と仕事の特徴、事例
- 第13回 業界・仕事論 4 小売り業のビジネスの変化と仕事の特徴、事例
- 第14回 業界・仕事論 5 サービス業界、公務の特徴、事例
- 第15回 まとめとメッセージ 生き方としてのキャリアデザイン

教科書・参考文献

教科書 山口憲二（編著）「200万人のキャリアデザイン講座」現代図書

参考書 山口憲二（編著）「キャリアデザインの多元的探究」現代図書

授業外での学習

講義計画に応じて事前学習を行うこと。また、講義後は学習内容の定着を図ること。

評価方法

最終レポート 40% 中間レポート 40%。毎時間の講義感想コメントの充実度・提出状況 20%

履修上の注意

科目名 コンピュータ・リテラシーII A・B

Title Computer Literacy II

科目区分 総合科目

担当教員

非常勤講師 松井 洋子(マツイ ヨウコ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

データを整理・加工・分析するための基本的な操作スキル(コンピュータ・リテラシー)を修得し、情報を効果的に活用できるようになることを目的とする。具体的には、コンピュータ・リテラシーで学習した表計算ソフト(Excel)の基本的な内容を踏まえ、より幅広いExcelの活用およびデータ分析等への応用について学修する。

達成目標

表計算ソフト(Excel)でよく使われる特徴的な関数の使い方およびデータ集計・分析ツールの機能を修得し、データ処理・分析ができるようになる。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション(授業の内容および進め方、成績の評価方法、Excelの基礎レベルの確認)
- 第2回 関数の活用1(日付、時刻の扱い方)
- 第3回 関数の活用2(データベース関数の使い方、データベース機能)
- 第4回 関数の活用3(数学、三角関数の使い方)
- 第5回 関数の活用4(文字列操作関数の使い方)
- 第6回 集計機能1(小計機能とピボットテーブル)
- 第7回 集計機能2(複数シート、複数ファイル間での集計、データの統合)
- 第8回 グラフ機能1(複雑なグラフの作成、スパークライン)
- 第9回 グラフ機能2(数式のグラフ作成)
- 第10回 データ分析への応用1(ヒストグラムの作成と基本統計量)
- 第11回 データ分析への応用2(相関)
- 第12回 データ分析への応用3(回帰と予測1)
- 第13回 データ分析への応用4(回帰と予測2)
- 第14回 データ分析への応用5(ゴールシーク・ソルバー)
- 第15回 マクロの利用 / 講義のまとめ

教科書・参考文献

教科書 初回の講義において指示する予定。

参考書 授業において必要に応じて提示する予定。

授業外での学習

授業で提示された演習の宿題を必ず行い、次回の授業で結果を確認できること。

授業の中にできなかつた個所は時間外に資料を見て解決し、分からぬ個所は、次回質問できるようにしておくこと。

評価方法

2/3以上の出席を前提とする。演習課題の提出状況と成果および学習状況(60%)、期末テスト(40%)で評価する。

履修上の注意

PC教室で授業を行うので、PC教室の定員を超えた場合抽選を行います。Excelの基礎(「コンピュータ・リテラシー」)レベルを修得した学生を前提とする。課題の提出期限は厳守。演習が中心で、演習課題作成の積み上げが必要となるため、遅刻・欠席をしないよう心掛けのこと。欠席した場合は、その日の授業内容をPDFファイルにて提示するため、時間外に自習して次の講義に出席すること。

科目名 コンピュータ・リテラシーII C・D

Title Computer Literacy II

科目区分 総合科目

担当教員

非常勤講師 舟田 真理子 (フナダ マリコ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

コンピュータ・リテラシーIに続く科目です。
コンピュータ・リテラシーIで学習した内容を前提に、VBA (Visual Basic for Applications、Microsoft Office 上の全てのアプリケーションで利用可能なプログラミング言語) による Excel を用いたプログラミングを中心で学習します。1つのプロシージャから成るプログラム作成から始め、複数のサブプロシージャを含むプログラム、フォームを用いたプログラムの作成までを学びます。また、株式投資のシミュレーションを行います。

達成目標

1. コンピュータのコミュニケーション機能が理解でき、他者に説明できる。
2. VBA の基本文法がわかる。
3. 複数のサブプロシージャから成るプログラムを作成できる。
4. フォームを用いたプログラムを作成できる。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション（授業・演習の進め方、成績評価の方法）、VBAの紹介、VBAの基本文法
第2回 VBAの基本文法(1)（シートとのデータ入出力）、インターネットの概観
第3回 VBAの基本文法(2)(for文)と基本統計量の計算(1)、ドメイン名とアドレス
第4回 基本統計量の計算(2)、経路制御
第5回 ソートと基本統計量の計算(3)、プロトコル
第6回 基本統計量の計算(4)、上位プロトコル
第7回 privateサブプロシージャを用いた統計量の計算(1)、帯域と圧縮
第8回 privateサブプロシージャを用いた統計量の計算(2)、Webの動き方
第9回 privateサブプロシージャを用いた統計量の計算(3)、HTML
第10回 フォームを利用したプログラム（四則演算）、Webのセキュリティ
第11回 フォームを用いた株価発生のシミュレーション(1)、暗号(1)
第12回 フォームを用いた株価発生のシミュレーション(2)、暗号(2)
第13回 フォームを用いた株式投資シミュレーション(1)、データ・情報：プライバシー(1)
第14回 フォームを用いた株式投資シミュレーション(2)、データ・情報：プライバシー(2)
第15回 フォームを用いた株式投資シミュレーション(3)、まとめ、定期試験の説明

総合科目

教科書・参考文献

教科書 教科書は特に使用しません。教材は印刷物や学内LANを使用して配布します。

参考書 Brian W. Kernighan著、久野靖訳、デジタル作法、カーニギーハン先生の「情報」教室、オーム社、2013. 師啓二他著、情報科学の基礎と活用、(pp194-227)、同友館、2006.

授業外での学習

毎回宿題を提示します。宿題は復習と次回の授業で使用する内容などを含んでいるので必ず提出してください。
授業開始時に前回の内容に関する確認小テストを行うことがあります。必要に応じて宿題の解答例や説明を行います。

評価方法

定期試験（全ての資料持ち込み可）：50%、 授業内課題・宿題：50%

履修上の注意

PC教室で授業を行うので、PC教室の定員を超えた場合抽選を行います。
前提科目：コンピュータ・リテラシーIをなるべく受講しておいてください。
関連資格：基本情報処理技術者試験に間接的に役立ちます。

科目名 Readings on Economics and Management II
Title Readings on Economics and Management II
科目区分 総合科目

教授 担当教員
今野 昌信 (コンノ マサノブ)
担当教員との連絡方法
学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

経済・経営の英語を学びます。英文を音読し、日本語訳を付け、その意味を検討します。

達成目標

英文の経済・経営分野の文章が読め、理解できるようになることです。英語が使えるビジネス・パーソンになることです。

スケジュール

毎回英語の文章を音読し、日本語訳を付け、内容を検討します。毎回同じ作業です。

教科書・参考文献

教科書 各受講生が新聞,webなどから選んだ経済・経営関連の英文をコピーし読んでいきます。昨年度は、例えばNikkei Asian Review,The Japan Timesなどから日銀金融緩和、AI失業などを読みました。

参考書 授業で適宜示します。

授業外での学習

予習が大事です。受講生の数だけテキストがあります。文章の難易度も違います。ブツツケでは太刀打ちできません。

評価方法

出席回数と分担箇所の訳読の出来具合です。期末試験は行わない予定です。

履修上の注意

英語力の涵養を目指して参加する人を歓迎します。休まず、遅れず、授業に参加してください。

科目名 Readings on Economics and Management II
 Title Readings on Economics and Management II
 科目区分 総合科目

教授 梅島 修 (ウメジマ オサム)
 担当教員 担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

"Getting Past No: Negotiating in Difficult Situations" を講読します。
 Readings on Economics and Management I(外書講読)では "Getting to YES" という「原則に基づいた交渉」により Win-Win の合意を形成する交渉の進め方、いわゆる「ハーバード流交渉術」の基本書を講読しますが、本講で講読する "Getting Past No" は、その続編であり、補足であり、応用編です。交渉の場で NO と言って譲ろうとしない相手をいかにして交渉に乗せるか、そのための言葉遣いや言い回し、そして相手方の利害と関心を引き出してお互いが満足する合意へと導く具体的な交渉方法に焦点を当てています。
 この講読を通じて、国際社会で直面するであろう困難な時、困難な相手、困難な交渉を英語的発想で乗り切るための方法を学びましょう。

達成目標

生の英語に触れ、その言い回し、言葉使いを体得する。
 また、「ハーバード流交渉術」とはどのようなものか、さらに深く理解する。
 これにより、国際社会に通用するために必要とされる英語の基本的考え方を身につける。

スケジュール

- 第1回 Introduction, Assignment of Reading parts
- 第2回 Reading 1, and discussion
- 第3回 Reading 2, and discussion
- 第4回 Reading 3, and discussion
- 第5回 Reading 4, and discussion
- 第6回 Reading 5, and discussion
- 第7回 Reading 6, and discussion
- 第8回 Reading 7, and discussion
- 第9回 Reading 8, and discussion
- 第10回 Reading 9, and discussion
- 第11回 Reading 10, and discussion
- 第12回 Reading 11, and discussion
- 第13回 Reading 12, and discussion
- 第14回 Reading 13, and discussion
- 第15回 Summary of How to Getting Past No

教科書・参考文献

教科書 William Ury "Getting Past No: Negotiating in Difficult Situations" (Bantam Dell, 1991)

参考書 講義において適宜資料を紹介する。

授業外での学習

次の授業までに、指定された箇所を熟読してくること。
 当該箇所について、自分なりの意見を持って、授業に参加すること。

評価方法

平常点(授業への積極的参加)60%、レポート 40%

履修上の注意

平常点には、授業における積極的な発言、質問、討議参加を評価する。

科目名 Readings on Economics and Management II
Title Readings on Economics and Management II
科目区分 総合科目

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 中路 敬 (ナカジ タカシ) 学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

理論経済学において急速に重要な役割を担いつつある凸解析 (convex analysis) に関する基本書を輪読します。

達成目標

アカデミッククリーディングの習得。
TOIEC など各種試験対策にのみ関心のある人はそれをうたう科目を受講してください。

スケジュール

第1回	ガイダンス
第2回	輪読・報告：討論など
第3回	輪読・報告：討論など
第4回	輪読・報告：討論など
第5回	輪読・報告：討論など
第6回	輪読・報告：討論など
第7回	輪読・報告：討論など
第8回	輪読・報告：討論など
第9回	輪読・報告：討論など
第10回	輪読・報告：討論など
第11回	輪読・報告：討論など
第12回	輪読・報告：討論など
第13回	輪読・報告：討論など
第14回	輪読・報告：討論など
第15回	総括

教科書・参考文献

教科書 ROCKAFELLAR, R. Tyrrel. CONVEX ANALYSIS. Princeton U.P. 1970
※ PDF ファイルを配布します。

参考書 英和中辞典必須。英英辞典があると望ましい。(電子辞典はなるべく避けてください。)
そのほか数学辞典や邦語文献は隨時指定します。

授業外での学習

高校時代や受験における数学の得手不得手は一切不問です。下調べや予習に積極的に取り組むことを求めます。
一般均衡理論やゲーム理論、最適化理論一般、線形計画法、最適制御理論などに興味を持つ諸君の受講を特に歓迎します。

評価方法

平素点のみ。

履修上の注意

履修希望者はなるべく1回目から参加してください。

科目名 Readings on Economics and Management II
Title Readings on Economics and Management II
科目区分 総合科目

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 永田 瞬（ナガタ シュン） 学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

この講義では、雇用問題に関する英文テキストの輪読を通じて、現代企業経営の課題を理解することを目的とする。外国人労働者、生産管理、性別職掌分離等のテーマを通じて、該当テーマに関する理解を深めたい。

達成目標

- 英語論文を読んで日本語訳を作れる。
- 該当テーマに関して議論を行うことができる。

スケジュール

第1回 授業ガイダンス
・検討する文献を配布する。毎回検討する箇所を最初に決定するので、必ず出席をすること。

第2回～第7回 文献の輪読

第8回 小テスト

第9回～第14回 文献の輪読

第15回 小テスト

総合科目

教科書・参考文献

教科書 Wayne A.Counelious eds (2004)Controlling Immigration: A Global Perspective, Stanford University Press.など。

参考書 講義中に指定する。

授業外での学習

予習と復習で相当程度の準備が必要。1週間当たり4～5時間程度必要となる。

評価方法

授業への参加・意欲75%、課題等提出25%。

履修上の注意

・輪読方式であるので欠席をしないこと。

科目名 Readings on Economics and Management II
Title Readings on Economics and Management II
科目区分 総合科目

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 佐藤 敦子 (サトウ アツコ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

当該教員が担当する外書講読に引き続いだ、国際的な文化の違いをテーマに取り上げている。テキストには、ヨーロッパを代表するビジネススクールのINSEADで教員を務めるErin Meyerの著作「The Culture Map」(2015年刊行のInternational Edition)を用いる。国際的なビジネスや交渉に携わる上で、英語を話せば事足りる訳ではなく、目に見えない文化の影響も理解して臨まないと様々な意思疎通の失敗が生じる、という異文化マネジメントの必要性とフレームワークについて、事例研究に基づいて議論している著作である。このテキストの講読と、それに基づくディスカッションを通じて、様々な国籍の人々とビジネスや交渉で交わるということはどのような状況なのかを理解し、将来的にそういう環境に自身が身を置く場合の考え方を得することを目的としている。

達成目標

前期からの続きで、テキストのChapter 5, 6, 7, 8およびEpilogueを講読対象とする。次の3項目を目標として取り組む。(1)国際的なビジネスや交渉における文化の影響について理解する。(2)コミュニケーションや文化差に関する英語表現を理解する。(3)グループディスカッションで積極的かつ建設的に自分の考えを述べることが出来る。

スケジュール

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | イントロダクション：文献の説明と授業の進め方の説明 |
| 第2回 | 輪読とディスカッション |
| 第3回 | 輪読とディスカッション |
| 第4回 | 輪読とディスカッション |
| 第5回 | 輪読とディスカッション |
| 第6回 | 輪読とディスカッション |
| 第7回 | 輪読とディスカッション |
| 第8回 | 輪読とディスカッション |
| 第9回 | 輪読とディスカッション |
| 第10回 | 輪読とディスカッション |
| 第11回 | 輪読とディスカッション |
| 第12回 | 輪読とディスカッション |
| 第13回 | 輪読とディスカッション |
| 第14回 | 輪読とディスカッション |
| 第15回 | 総括 |

教科書・参考文献

教科書 Erin Mayer(2015), The Culture Map(International Edition), PublicAffairs, NY(ISBN 978-61039-276-1 または ISBN 978-1-61039-671-4)

参考書 適宜紹介する。

授業外での学習

1回の授業で英文テキスト10ページ程度の進行速度を予定しているので、全員が事前に該当箇所を読んでくること。

評価方法

授業での発表と、ディスカッションへの参加、発言を評価する。

履修上の注意

前期、後期の通年で一冊のテキストを読み終えるので、通年での履修を推奨するが、後期のみの履修も可能であり、そういう場合への配慮を行なながら授業を進めていく。

科目名 Readings on Economics and Management II
 Title Readings on Economics and Management II
 科目区分 総合科目

担当教員	担当教員との連絡方法
教授 野崎 謙二（ノザキ ケンジ）	学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

世界経済の中で、アジア地域の占める役割が非常に重要になってきています。この授業では、国際機関として、アジア地域の経済開発を推進するために設立されたアジア開発銀行が毎年公表している報告書を輪読します。国際機関が作成する報告書の形式に慣れ、経済開発や経済政策に関する英語表現を習得し、世界情勢を把握する能力を醸成します。

達成目標

- (1) 経済開発、経済政策に関する英語表現を習得し、国際機関の報告書を読みこなすことができるようになる。
- (2) 近年のアジア経済の状況及び政策的な課題を理解できるようになる。

スケジュール

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | イントロダクション：文献の説明と講義の進め方 |
| 第2回 | Part I 輪読：討論(1)アジア経済への逆風 |
| 第3回 | Part I 輪読：討論(2)米国の金利上昇 |
| 第4回 | Part I 輪読：討論(3)資本移動と金融リスク |
| 第5回 | Part II 輪読：討論(1)中進国の持続的成長 |
| 第6回 | Part II 輪読：討論(2)技術革新の効果 |
| 第7回 | Part II 輪読：討論(3)新興市場ニーズに対応する人的資本 |
| 第8回 | Part II 輪読：討論(4)構造改革を促進するインフラ投資 |
| 第9回 | Part II 輪読：討論(5)高所得国への道 |
| 第10回 | Part III 輪読：討論(1)各国分析(中国) |
| 第11回 | Part III 輪読：討論(2)各国分析(韓国) |
| 第12回 | Part III 輪読：討論(3)各国分析(タイ) |
| 第13回 | Part III 輪読：討論(4)各国分析(カンボジア) |
| 第14回 | Part III 輪読：討論(5)各国分析(インド) |
| 第15回 | Highlightsによる総括議論 |

教科書・参考文献

- 教科書 Asian Development Bank (2017) 'Asian Development Outlook 2017: Transcending the Middle-income Challenge' (ADBのウェブサイトよりダウンロードできます。)
 参考書 必要に応じて講義で適宜紹介します。

授業外での学習

授業において、次回の履修範囲を指示しますので、全員必ずよく読んで理解して来てください。報告担当者は、レジュメを作成してください。

評価方法

担当分の報告内容及び講義への参加態度により評価します。

履修上の注意

報告担当者以外にもコメントを求めるので、必ず予習をして参加してください。十分に理解できない点は質問してください。
 なお、履修者の学年、人数等に応じてスケジュールを調整(変更)します。また、各国分析編は履修者の関心に合わせて選択してもらおうと考えています。

科目名 Readings on Economics and Management II
Title Readings on Economics and Management II
科目区分 総合科目

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 西川 静華（ニシカワ シズカ） 学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

英語で書かれた経済学の入門書と様々なニュース記事や論説を講読する。英文をたくさん読んで英語力をつけるとともに経済学で使われる用語をマスターする。議論を通して自分の意見を相手に伝えられるようになる。

達成目標

正しい英文法だけでなく、発音や抑揚もマスターする。英文の逐語訳を作るだけではなく意訳やニュアンスをくみ取れるようになる。コミュニケーションや文化の違いなどの感覚を身につける。

スケジュール

- | | |
|------|-------------------------|
| 第1回 | ガイダンス、自己紹介 |
| 第2回 | 輪読とディスカッション（Chapter 14） |
| 第3回 | 輪読とディスカッション（Chapter 14） |
| 第4回 | 輪読とディスカッション（Chapter 15） |
| 第5回 | 輪読とディスカッション（Chapter 15） |
| 第6回 | 輪読とディスカッション（ニュース記事） |
| 第7回 | 輪読とディスカッション（ニュース記事） |
| 第8回 | 輪読とディスカッション（ニュース記事） |
| 第9回 | 輪読とディスカッション（Chapter 16） |
| 第10回 | 輪読とディスカッション（Chapter 16） |
| 第11回 | 輪読とディスカッション（Chapter 17） |
| 第12回 | 輪読とディスカッション（Chapter 17） |
| 第13回 | 輪読とディスカッション（ニュース記事） |
| 第14回 | 輪読とディスカッション（ニュース記事） |
| 第15回 | 総括 |

教科書・参考文献

教科書 <https://openstax.org/details/books/principles-microeconomics-ap-courses> など

参考書 講義で適宜紹介する

授業外での学習

講義の終わりに指定された箇所を次回までに全員が予習してくること。ただし、上記のスケジュールは目安です。

評価方法

講義への出席、積極的な参加（70%）、課題の提出（30%）

履修上の注意

積極的な参加を求めます。間違いを恐れずどんどん発言してください。

科目名 Language Learner DevelopmentII
Title Language Learner DevelopmentII
科目区分 総合科目

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 高橋 栄作 (タカハシ エイサク)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

「グローバル時代を生き抜く英語力の習得」を目指し、国際人として対応できる英語力を育てることを目的とします。従来の授業形態とは異なる反転授業(Flipped Class)を実践し、学習者が主体的に取り組むことを目的とします。また、ICTと資料(教科書など)とのBlended Learningを実践します。授業では「動画」を主に用います。英語の音声面に働くいろいろな法則などを学びます。授業では、コンピュータを使用して発話の仕組み、発音矯正を行います。

達成目標

英語学修力を身につけること。英語の基礎的な文法や音声知識を身につけることを目標とします。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 8 Care for an Exoskeleton?
- 第3回 Unit 8 関連教材
- 第4回 Unit 9 Health on the Go
- 第5回 Unit 9 関連教材
- 第6回 Unit 10 E-books Rising
- 第7回 Unit 10 関連教材
- 第8回 Unit 11 Health in the Forest
- 第9回 Unit 11 関連教材
- 第10回 Unit 12 Gravity-defying Skateboards
- 第11回 Unit 12 関連教材
- 第12回 Unit 13 Living Your High-tech Dreams
- 第13回 Unit 13 関連教材
- 第14回 Unit 14 Onward to Jupiter
- 第15回 Unit 14 関連教材

教科書・参考文献

教科書 VOA News Plus SEIBIDO

参考書 授業中に紹介する。

授業外での学習

授業のための予習・復習に加え、EnglishCentral(e-Learning教材)を使って英語力の向上(ListeningとSpeaking)に務めてください。

評価方法

EnglishCentralの使用状況 20%、授業でおこなうクイズ・課題など 30%、学期末試験50%

履修上の注意

授業ではコンピュータ教室を使用するので、履修者を制限することがある。

「英語をものにするぞ！」という積極的な姿勢で履修してください。

遅刻：授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以降は欠席扱いとなる。遅刻3回で欠席1回とみなす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 スポーツ科学I A～F
Title Sport Sciences I
科目区分 総合科目

担当教員
履修要綱別冊参照

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1～4	単位区分 選択	単位数 1	開講時期 前期 または後期
-------------	------------	----------	------------------

目的

スポーツは、今や世界の共通語として、年齢・性別を問わず極めて広範な人びとが享受する文化となっている。また、人間の生物的進化と文明的発展のあいだの著しいインバランスの上に成立している現代の生活の中にあって、スポーツは今後ますます重要な位置を占めることが予想され、すべての人びとがスポーツに関する教養を生涯にわたって高めていくことが期待されている。本講義では、生活様式となりつつあるスポーツを生涯学習へと動機づける立場、およびスポーツ活動を文化的な実践と捉える立場から、人間にとて健康であるということやからだを動かすということの科学的・文化的意味を考える。

達成目標

各種のスポーツを通じてさまざまな技術的内容を学び、より豊かなスポーツ活動を自主的・主体的かつ創造的に進めるための知識を習得し、スポーツという文化の創造的な担い手として高い教養を身につけることをねらいとしている。

スケジュール

第1回	オリエンテーション	講義概要、スケジュール、評価方法等
第2回	体力測定	体力・運動能力カテスト
第3回	体力分析	体力の診断と評価
第4回	スポーツ実技	実施種目…ソフトボール、サッカー、テニス
第5回	同 上	バスケットボール、バレーボール、バドミントン
第6回	同 上	フットサル、卓球他
第7回	同 上	競技の特性
第8回	同 上	基本技術の理解、練習
第9回	同 上	応用技術の理解、練習
第10回	同 上	個人戦術とチーム戦術
第11回	同 上	ゲームの運営と審判法
第12回	同 上	
第13回	同 上	
第14回	同 上	
第15回	総括	これからのスポーツライフのために

総合科目

教科書・参考文献

教科書 適宜指示する。

参考書 適宜指示する。

授業外での学習

日常生活における健康管理（栄養、休養、運動等）の実践。

評価方法

受講態度等を総合的に判断して評価する。とくに出席し、積極的に参加する姿勢は重視される。

履修上の注意

定員40名。定員を超えた場合、初回の授業で抽選を行う。

スポーツ科学IIAと連続で履修すること。

運動能力の高低は問わないが、スポーツ活動に対して意欲的な学生の参加を希望する。

なお、実施種目の特性や施設・用具の関係から受講者数を制限する場合がある。

科目名 スポーツ科学II A～F
Title Sport Sciences II
科目区分 総合科目

担当教員
履修要綱別冊参照

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1～4	単位区分 選択	単位数 1	開講時期 前期 または後期
-------------	------------	----------	------------------

目的

スポーツは、今や世界の共通語として、年齢・性別を問わず極めて広範な人びとが享受する文化となっている。また、人間の生物的進化と文明的発展のあいだの著しいインバランスの上に成立している現代の生活の中にあって、スポーツは今後ますます重要な位置を占めることが予想され、すべての人びとがスポーツに関する教養を生涯にわたって高めていくことが期待されている。本講義では、生活様式となりつつあるスポーツを生涯学習へと動機づける立場、およびスポーツ活動を文化的な実践と捉える立場から、人間にとて健康であるということやからだを動かすということの科学的・文化的意味を考える。

達成目標

各種のスポーツを通じてさまざまな技術的内容を学び、より豊かなスポーツ活動を自主的・主体的かつ創造的に進めるための知識を習得し、スポーツという文化の創造的な担い手として高い教養を身につけることをねらいとしている。

スケジュール

第1回	オリエンテーション	身体計測、健康診断
第2回	体力測定	体力・運動能力テスト
第3回	体力分析	体力の診断と評価
第4回	スポーツ実技	実施種目…ソフトボール、サッカー、テニス
第5回	同 上	バスケットボール、バレーボール、バドミントン
第6回	同 上	フットサル、卓球他
第7回	同 上	
第8回	同 上	競技の特性
第9回	同 上	基本技術の理解、練習
第10回	同 上	応用技術の理解、練習
第11回	同 上	個人戦術とチーム戦術
第12回	同 上	ゲームの運営と審判法
第13回	同 上	
第14回	同 上	
第15回	総括	これからのスポーツライフのために

教科書・参考文献

教科書 適宜指示する。

参考書 適宜指示する。

授業外での学習

日常生活における健康管理（栄養、休養、運動等）の実践。

評価方法

受講態度等を総合的に判断して評価する。とくに出席し、積極的に参加する姿勢は重視される。

履修上の注意

定員40名。定員を超えた場合、初回の授業で抽選を行う。

スポーツ科学IAと連続で履修すること。

運動能力の高低は問わないが、スポーツ活動に対して意欲的な学生の参加を希望する。

なお、実施種目の特性や施設・用具の関係から受講者数を制限する場合がある。

科目名 基礎数学 A — 3・4

Title Basic Mathematics A

科目区分 数理系科目

担当教員

非常勤講師 平方 孝 (ヒラカタ タカシ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
前期 または後期

目的

本科目は高校数学から大学での数学へと移行するための導入教育といえるものであり、さらには経済学・経営学で広く活用される数学の基礎固めも目指す。特に下記のこととに重点を置く。

- ・1次・2次関数、無理関数、分数関数、三角関数、指数・対数関数、等の様々な関数の性質を扱う。また、その導関数やグラフについて理解を深める。
- ・連立方程式、連立不等式について理解を深める。
- ・経済学を学ぶ上での数学の活用例に触れ、数学の重要性を知る。
- ・新聞等に使用される数学用語の正しい理解と活用ができる。

達成目標

様々な関数の特徴を理解し、そのグラフが描ける。
基本的な方程式・不等式、連立方程式・不等式が解ける。

スケジュール

第1回	ガイダンス (アンケート・基礎学力テストなど)
第2回	式 (数、式の展開、因数分解、因数定理)
第3回	1次・2次・n次関数(1)
第4回	1次・2次・n次関数(2)
第5回	連立方程式・連立不等式
第6回	円、領域の図示、グラフの平行移動
第7回	中間テスト
第8回	指数・対数関数(1)
第9回	指数・対数関数(2)
第10回	指数・対数関数(3)
第11回	指数・対数関数(4)
第12回	三角関数(1)
第13回	三角関数(2)
第14回	経済学・経営学への応用 1
第15回	経済学・経営学への応用 2

教科書・参考文献

教科書 特に指定はしない。配布プリントに沿って授業を進める。

参考書 「経営・経済を学ぶ学生のための基礎数学」(共立出版)
「高校数学からはじめる やさしい経済数学テキスト」(Ohmsya)など。

授業外での学習

配布プリントだけでなく、高校時に使用した問題集や参考書を利用し演習時間を確保すること。

評価方法

日常点 (出席回数ではなく、授業等の提出課題) 40パーセント、中間テスト 30パーセント、期末テスト 30パーセント

3分の2以上の出席がないと、単位は出ない。出席は点数化しない。欠席届の扱いは初回授業時に説明する。

履修上の注意

重要事項は初回に話すこと。
遅刻・欠席、授業中の私語・携帯電話の使用は厳に慎み、常識ある行動をすること。

科目名 基礎数学B－3・4

Title Basic Mathematics B

科目区分 数理系科目

担当教員

非常勤講師 山口 知彦 (ヤマグチ トモヒコ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
前期 または後期

目的

本科目は高校数学から大学での数学へと移行するための導入教育といえるものであり、さらには経済学・経営学で広く活用されている数学の基礎固めも目指す。特に下記のこととに重点を置く。
集合・論証の基礎の定着を図り、様々な事象を論理的に表現するときの知識や技能を用いて、事象や数学の諸概念を多角的に見たり統合的に処理できるようにする。また、等差数列や等比数列をはじめ様々な数列、漸化式と数学的帰納法について理解を深める。ベクトルでは、ベクトルの意味や演算、成分及び内積などの基本的な概念を理解するとともに、ベクトルの考え方が有用なこと認識し、活用できるようにする。

達成目標

- 1 数学的な論拠に基づいて、証明を正しく表現できる。
- 2 基本的な数列を理解し、預貯金の元利計算など身近な問題解決に活用できる。
- 3 ベクトルの基本的な演算について理解するとともに、基本的な平面・空間図形の性質や関係をベクトルを用いて表現できる。

スケジュール

第1回	ガイダンス (基礎学力テスト)	
第2回	証明・集合・論理 { 1 }	集合と写像
第3回	証明・集合・論理 { 2 }	論理のしくみ
第4回	証明・集合・論理 { 3 }	全称命題と存在命題
第5回	証明・集合・論理 { 4 }	証明法
第6回	これまでのまとめと中間テスト	
第7回	数列 { 1 }	等差数列と等比数列
第8回	数列 { 2 }	等比数列の和と複利法
第9回	数列 { 3 }	いろいろな数列と漸化式
第10回	数列 { 4 }	連続複利と極限値
第11回	ベクトル { 1 }	ベクトルの基本概念と有用性
第12回	ベクトル { 2 }	位置ベクトルと内積
第13回	ベクトル { 3 }	ベクトル方程式と空間ベクトル
第14回	ベクトル { 4 }	経済学におけるベクトルの活用
第15回	経済学・経営学への応用	

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。配布プリントに沿って講義を進める。

参考書 第1回の講義の時に紹介する。また必要があれば講義中に適宜紹介する。

授業外での学習

数学力は、論理的な理解（頭）と演習的な理解（手）の積み重ねで身につくものです。学んだ後の演習だけではなく、事前に配付したプリントを活用し、自ら考える予習的な学習を心がけ講義に臨むことが必要です。

評価方法

日常点（課題等）40%、中間テスト30%、期末テスト30%
3分の2以上の出席がないと単位はできません。出席は点数化しません。

履修上の注意

- 1 重要事項や欠席届の扱いについては、初回に話しますので必ず出席すること。
- 2 遅刻、欠席、私語、携帯電話等は厳に慎み、学生としてのマナーを守ること。

科目名 微積分 I
 Title Calculus I
 科目区分 数理系科目

担当教員
 非常勤講師 荒川 達也 (アラカワ タツヤ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

微積分は、おおざっぱにいうと、関数の凹凸を調べグラフをかくための微分と、図形の面積や体積を調べる積分を扱います。微積分は、大学で学習する数学の中心であり、自然科学のみならず経済学等の社会科学でも必要とされる学問ですので、できるだけ早いうちに履修してほしい科目です。「微積分 I」では、極限の概念を理解し1変数関数の微分公式や計算方法を学習し、関数のグラフを描くことや、関連するいろいろな応用を理解することを目的とします。

達成目標

- (1) 極限の考え方を理解し、微分係数や導関数の概念を理解する。
- (2) 微分公式を理解し、計算方法を習得する。
- (3) 様々な関数の微分法を理解し、関数の増減表やグラフ・接線等に応用できる。

スケジュール

第1回	ガイダンス
第2回	いろいろな関数
第3回	極限
第4回	微分の定義
第5回	導関数の計算 (1)
第6回	導関数の計算 (2)
第7回	導関数の計算 (3)
第8回	微分の応用 (1) 増減表 (1)
第9回	微分の応用 (2) 増減表 (2)
第10回	微分の応用 (3) 増減表 (3)
第11回	微分の応用 (4) 接線
第12回	微分の応用 (5) 2次微分とグラフの凹凸
第13回	微分の応用 (6) その他の話題
第14回	微分の応用 (7) 経済学への応用
第15回	問題演習

教科書・参考文献

教科書 新版微分積分、岡本和夫監修、実教出版

参考書 高校で使っていた数学の教科書

授業外での学習

毎回授業時間中に練習問題を何問か出題します。必ず自分で解いてみてください。各回授業は原則として前回までの練習問題を解いたことを前提に進めます。

評価方法

定期試験100% その他の重要事項は初回ガイダンスで説明します。

履修上の注意

高校「数学II」の教科書の問題レベルが前提知識です。基礎力に自信のない学生は、「基礎数学 A」を先に履修して下さい。重要事項は初回ガイダンスで説明しますので、必ず出席して下さい。

科目名 微積分II
Title Calculus II
科目区分 数理系科目

教授 担当教員
山崎 薫里 (ヤマザキ カオリ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

微積分は、おおざっぱに言うと、関数の凹凸を調べグラフをかくための微分と、図形の面積や体積を調べる積分を扱います。「微積分」は「線形代数」と並び大学数学の中心であり、経済学等の社会科学分野でも必要とされます。「微積分II」では、多変数関数の微分（偏微分）、1変数関数の積分、多変数関数の積分（重積分）を学習します。

達成目標

- 2変数関数のグラフの切断面と偏微分の関係を理解し、極値問題等へ応用できる。
- 様々な関数の不定積分・定積分の計算方法を身につけ、面積を求めることに応用できる。
- 重積分の意味を理解し、基本的計算方法を身につける。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス、微積分Iの復習、1変数関数から2変数関数へ
- 第2回 偏導関数（偏微分）の定義
- 第3回 2変数関数のティラーの定理
- 第4回 接平面の方程式
- 第5回 2変数関数の極値
- 第6回 条件付き極値問題
- 第7回 積分の考え方
- 第8回 置換積分
- 第9回 部分積分
- 第10回 様々な関数の積分
- 第11回 広義積分、図形の面積、回転体の体積、曲線の長さ
- 第12回 重積分の考え方
- 第13回 積分順序の交換
- 第14回 簡単な微分方程式の解き方
- 第15回 まとめ（レポート解答等）

教科書・参考文献

教科書 岡本和夫監修 「新版微分積分」 実教出版

参考書 必要に応じて、授業中に紹介します。

授業外での学習

授業前に、前回までの内容を思い出しておいてください。演習問題を配布しますので、ノートを作りながら問題を解き、講義内容が身についているか確認して下さい。

評価方法

レポート50%、期末試験50%

履修上の注意

「微積分I」からの段階履修科目です。高校で「数学III」を履修している（かつ、身についている）場合を除き必ず「微積分I」を先に履修して下さい。重要事項は初回ガイダンスで説明しますので、必ず出席して下さい。

科目名 線形代数概論－1・2

Title Linear Algebra

科目区分 数理系科目

教授 担当教員

山崎 薫里（ヤマザキ カオリ）

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4単位区分
選択必修単位数
2開講時期
前期 または後期

目的

連立方程式を効率よく解いたり解があるかを判定したり、平面や空間上の点の移動を考えたり、一定の割合で移動が繰り返されるときの将来の比を予想したりするには、複数の計算を同時にこなす「線形代数」の考え方が必要です。「線形代数」は「微積分」と並び大学数学の中心であり、経済学・経営学・統計学等でも必要とされます。本講義では、線形代数学の基礎である「行列」の基本的な概念や計算方法を身につけることを目的とします。

達成目標

1. 行列の概念、基本演算や性質を理解し、連立1次方程式が解をもつか判定できる。
2. 行列式の性質や計算方法を理解し、逆行列や連立1次方程式の解を求めることに応用できる。
3. 固有値・固有ベクトルの意味を理解し、行列を対角化できる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス・導入・ベクトルの復習
- 第2回 行列の基本演算（行列の和差積、逆行列）
- 第3回 行基本変形（掃き出し法）
- 第4回 連立1次方程式の解と行列の階数
- 第5回 掃き出し法による逆行列の求め方
- 第6回 1次変換と行列の图形的意味
- 第7回 行列式の定義
- 第8回 行列式の性質
- 第9回 行列式の計算
- 第10回 余因子行列を用いた逆行列の求め方
- 第11回 クラメールの公式による連立1次方程式の解き方
- 第12回 固有値と固有ベクトル
- 第13回 行列の対角化
- 第14回 対角化の応用（人口移動問題等への応用）
- 第15回 まとめ（レポート解答等）

教科書・参考文献

教科書 岡本和夫監修 「新版線形代数」 実教出版

参考書 必要に応じて、授業中に紹介します。

授業外での学習

授業の前に、前回までの内容を思い出しておいてください。演習問題を配布しますので、ノートを作りながら問題を解き、講義内容が身についているか確認して下さい。

評価方法

レポート50%、期末試験50%

履修上の注意

ベクトル等の「数学IIB」を履修していると理解が深まりますが、必要な数学は復習しますので、特別な予備知識は要りません。「基礎数学A・B」と同時履修も可能です。重要事項は初回ガイダンスで説明しますので、必ず出席して下さい。

科目名 確率・統計入門－1・2
Title Introduction to Probability and Statistics
科目区分 数理系科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 荒川 達也 (アラカワ タツヤ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 前期または後期
-------------	--------------	----------	-----------------

目的

確率論は統計学、計量経済学、数理ファイナンス、ゲーム理論など、経済学、経営学に関わる不確実性を扱う分野で重要な基礎的な学問である。本講座ではそのための入門として、より本格的な統計学を学ぶための確率・統計の基本的事項を理解することを目的とする。

達成目標

- (1) 基本的な記述統計量を計算でき、その意味が理解できる。
- (2) 離散型および連続型確率変数の基本を理解し、簡単な問題を解くことができる。
- (3) 正規分布の意味を理解し、正規分布表を用いた確率の計算ができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス、度数分布表とヒストグラム
- 第2回 平均、分散、標準偏差
- 第3回 散布図と相関係数
- 第4回 回帰直線
- 第5回 条件付き確率とベイズの定理(1)
- 第6回 条件付き確率とベイズの定理(2)
- 第7回 離散型確率変数1(確率変数の定義)
- 第8回 離散型確率変数2(平均と分散)
- 第9回 離散型確率変数3(2項分布)
- 第10回 離散型確率変数4(ポアソン分布)
- 第11回 連続型確率変数1(確率密度関数)
- 第12回 連続型確率変数2(平均と分散)
- 第13回 連続型確率変数3(正規分布(1))
- 第14回 連続型確率変数4(正規分布(2))
- 第15回 問題演習

教科書・参考文献

教科書 確率統計、岡本和夫監修、実教出版

参考書

授業外での学習

毎回授業時間中に練習問題を何問か出題します。必ず自分で解いてみてください。各回授業は原則として前回までの練習問題を解いたことを前提に進めます。

評価方法

定期試験100%。その他の重要事項は初回ガイダンスで説明しますので、必ず出席して下さい。

履修上の注意

科目名 データ分析入門－1～4
 Title Introduction to Data Analysis
 科目区分 数理系科目

担当教員 担当教員との連絡方法
 非常勤講師 金井 康弘 (カナイ ヤスヒロ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1～4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 前期 または後期
-------------	--------------	----------	------------------

目的

この授業では、Excelを用いた、基礎的なデータ分析手法について学習します。現代社会は、株価、為替、野球選手の打率など、たくさんのデータで溢れています。これらのデータから役に立つ情報を得るためにには、収集したデータについて適切な統計処理をする必要があります。卒業論文を書くときや社会に出て具体的な問題に接したときに、基礎的な統計的扱いができることを目指します。

達成目標

- (1) 統計処理の仕組みがイメージとして理解できる。
- (2) Excelを用いて、統計処理ができる。
- (3) 統計処理により導出された数値の意味がわかる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス、Excelの基本的な使い方
- 第2回 度数分布表、ヒストグラム
- 第3回 円グラフ、折れ線グラフ
- 第4回 平均値、中央値、分散、標準偏差
- 第5回 四分位数、箱ひげ図、標準化変量
- 第6回 散布図、相関係数、外れ値が相関係数に与える影響
- 第7回 演習（記述統計）
- 第8回 演習 レポート作成
- 第9回 単回帰分析(回帰直線、予測、決定係数)
- 第10回 標本調査、区間推定
- 第11回 仮説検定1（検定の考え方）、クロス集計表
- 第12回 仮説検定2（カイ2乗検定）
- 第13回 仮説検定3（t検定）
- 第14回 演習（推測統計）
- 第15回 演習 レポート作成

教科書・参考文献

教科書 前田一貴、平井裕久、後藤晃範、Excelによるデータ分析入門、学術研究出版

参考書 鶩尾泰俊、日常のなかの統計学、岩波書店

授業外での学習

教科書の次回の範囲を事前に読んでおくことを推奨します。
 また、この授業で学習するデータ分析法は具体的に使わないとなかなか身に付かないため、授業で行ったExcelファイルの演習を復習することも推奨します。

評価方法

第7、8回と、第14、15回に行う、演習課題をレポートとして提出していただき、評価します。
 なお、演習を中心進めることで、授業回数の3分の2以上の出席を単位認定の条件とします（ただし出席の点数化はされません）。

履修上の注意

統計学の理論をしっかり学びたい方には、統計学I・IIを受講することをお薦めします。
 この授業の定員は60名です。履修希望者が60名を超える場合は抽選をしますので、履修希望者はなるべく初回の授業に出席してください。
 この授業はExcelでの演習を中心とした実践的な内容となっています。高校数学の予備知識は仮定しません。

科目名 多変量データの分析B 1・2

Title Multivariate Data Analysis B

科目区分 数理系科目

担当教員

非常勤講師 新井 康平 (アライ コウヘイ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
前期または後期

目的

アンケートなどの手法で収集されたサーベイ・データの分析のための基礎的な統計および統計ソフトウェアの理解を深めることを目的としている。具体的には、主成分分析および因子分析と呼ばれる手法を用いて、サーベイデータの分析を行う。また、そのための基本的な数理的な基礎を講義し、さらにはサーベイデータの前提となるアンケートの作成方法などについても適宜補足的な説明を行う。そして、無料の統計ソフトである「R」を用いた実習を適宜行う。

達成目標

次の3点の達成をめざす。

- ・ 主成分分析、因子分析についての基本的な理解を得ていること。
- ・ サーベイデータについて、実際に統計ソフトである「R」を用いて解析が実施できること。
- ・ 適切な統計解析を前提としたアンケートの設計ができること。

スケジュール

- | | |
|------|------------------|
| 第1回 | イントロダクション |
| 第2回 | 質問紙調査の概要 |
| 第3回 | 調査計画の立案 |
| 第4回 | 測定尺度（1） |
| 第5回 | 測定尺度（2） |
| 第6回 | 作成から配布 |
| 第7回 | 基本操作とデータのコーディング |
| 第8回 | 尺度の信頼性：クロンバッックのα |
| 第9回 | 記述統計 |
| 第10回 | 因子分析 |
| 第11回 | 共分散構造分析（1） |
| 第12回 | 共分散構造分析（2） |
| 第13回 | 分析結果の報告方法 |
| 第14回 | 分析結果報告会（1） |
| 第15回 | 分析結果報告会（2） |

教科書・参考文献

教科書 清水裕士・莊島宏二郎 (2017) 『社会心理学のための統計学：心理尺度の構成と分析』 誠信書房。

参考書 青木繁伸 (2009) 『Rによる統計解析』 オーム社。

授業外での学習

講義開始前までに基礎的な統計学を予習しておくこと。

評価方法

講義中に提出してもらうレポートで評価する。レポートは実習会だけでなく、全ての講義で提出してもらう。

履修上の注意

定員40名。定員を超えた場合、2年生以上を優先するという条件で抽選を行います。数学についての知識だけでなく、プログラミングの知識がある方が望ましい。

科目名 論理学
Title Logic
科目区分 数理系科目

担当教員
非常勤講師 岡野 健一 (オカノ ケンイチ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

「愛があれば幸せである。愛がある。ゆえに幸せである」は正しい推論です。ところが「愛があれば幸せである。幸せである。ゆえに愛がある」は正しくない推論とされます。これは古代ギリシャ以来知られている事実です。ではなぜその説明せよ、と問われると困ってしまうのではないか。そんなことはあたりまえだろう。と言いたくなるかもしれません。あるいは、そもそも前者が正しく、後者が誤りだとする判定からして怪しく思えるかも知れません。一般に、正しい推論とそうでない推論を分ける基準は何か、と問われるともっと困るのではないか。ポイントは「でない」「または」「かつ」「ならば」等の論理語といわれる言葉の用法にあります。これらの言葉こそが論理的推論の正誤を支えていると言えそうです。この授業では、主に推論の正誤の判定を通じて、論理とは何かについて理解を深めていただくつもりです。

達成目標

- (1) 真理値分析の手法を用いて、命題論理における推論の正誤の判定ができるようになる。
- (2) 定言三段論法とはいがなる推論であるかを理解しベン図を用いて妥当であるか否か判定できるようになる。
- (3) 論理語が、NOT回路、AND回路、OR回路といった論理素子として、電卓やコンピュータの設計等で中心的役割を果たしていることを理解する。具体的には加算器の論理式と論理回路が書けるようになる。

スケジュール

- 1 論理学の対象
- 2 論理語の定義
- 3 真理値表を描く
- 4 真理値分析
- 5 日常文の記号化
- 6 推論の正誤の判定(1)
- 7 推論の正誤の判定(2)
- 8 定言命題とベン図
- 9 定言三段論法
- 10 定言三段論法の正誤の判定(1)
- 11 定言三段論法の正誤の判定(2)
- 12 論理回路
- 13 加算器
- 14 全加算器
- 15まとめ

教科書・参考文献

教科書 使用しません。毎回、必要なプリントを配布します。

参考書 『新版現代論理学』坂井秀寿・坂本百大著 東海大学出版局、『入門! 論理学』野矢茂樹 中公新書
『痛快! コンピュータ学』坂村健著 集英社文庫

授業外での学習

毎回、問題を解くなどの宿題を出す予定です。

評価方法

期末テストの結果で80%評価し、4回予定している小テストの結果で20%評価する見込みです。

履修上の注意

予備知識は不要ですが、多少の勤勉さが求められます。前回の学習内容を理解していないと次の授業内容が理解ができず、問題が解けない、という事態が起こります。

科目名 社会調査法
 Title Method of Social Survey
 科目区分 数理系科目

担当教員 担当教員との連絡方法
 非常勤講師 熊島 修治 (トビシマ シュウジ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

この授業は、社会調査によって資料やデータを収集し、それを分析可能な形に整理していく方法の習得を目的とする。また、統計データの基礎的な集計・分析の方法についてもあわせて学習する。

達成目標

- ・社会調査の目的と種類についての知識を身につける。
- ・量的な社会調査の方法と技術（統計分析の基礎を含む）についての知識を身につける。
- ・以上の知識を用いて、社会調査の全体像を適切に説明できる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 社会調査とは何か
- 第3回 社会調査の種類
- 第4回 社会調査のプロセス
- 第5回 社会調査のデザイン
- 第6回 実査の方法
- 第7回 調査票の作成
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施
- 第10回 データの電子ファイル化
- 第11回 データの基礎的集計
- 第12回 統計的推測
- 第13回 変数間の関連
- 第14回 調査報告とデータの管理
- 第15回 社会調査の意義と今日的課題

教科書・参考文献

教科書 藤亮・杉野勇（編），2017，『入門・社会調査法：2ステップで基礎から学ぶ（第3版）』法律文化社

参考書 授業時に適宜紹介する。

授業外での学習

日頃からニュースや新聞などを見て、さまざまな社会調査に関する情報（たとえば世論調査の結果）をチェックしておくこと。

評価方法

学期末試験：70% 課題の提出状況：30%

履修上の注意

科目名 Oral CommunicationII

Title Oral CommunicationII

科目区分 英語発展

教授 担当教員

岡村 晃子 (オカムラ アキコ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

この授業では、話す英語と書く英語の違いを明らかにし、話すために必要な話す技術を磨く。そのために、口語で利用する言い方を英語の映像を見ることで、その実際の利用の仕方を学習する。そして、授業の中で実際に利用する機会を作り、簡単な英語を使いながら、少しづつ自分の考えをグループの中で発表できるようにする。

達成目標

Oral communication I で実施したことをさらに向上できるようにする。

言語系科目

スケジュール

- | | |
|------|--|
| 第1回 | Introduction |
| 第2回 | TED Talk 1 Deepika Kurup: 音声に切れ目になれる + BBC English Learning site |
| 第3回 | TED TALK 1 Sound change: assimilation, linking and deletion |
| 第4回 | TED TALK 1 Structure and discourse markers: +BBC English Learning site |
| 第5回 | TED TALK 2 Ramsey Musallam 口語のスピードになれる + BBC English learning site |
| 第6回 | TED TALK 2 Useful phrases +BBC English Learning site |
| 第7回 | TED TALK 2 Vocabulary, Speed/use of pause |
| 第8回 | TED TALK 3 Adam Alter 繰り返し、例の出し方になれる :+BBC English Learning site |
| 第9回 | TED TALK 3 Sound change, use of pause:+BBC English Learning site |
| 第10回 | TED TALK 3 Comparison of the transcript and the speech+BBC English Learning site |
| 第11回 | TED TALK 4 James Veitch 笑いの取り方になれる + BBC English learning site |
| 第12回 | TEd TALK 4 Use of hedges and emphasis |
| 第13回 | TEd TALK 4 Laughter in the talk |
| 第14回 | Starting project on the analysis of TED TALKS |
| 第15回 | Rehersal of the project |

教科書・参考文献

教科書 授業で配布

参考書

授業外での学習

小テストの準備、授業の課題

評価方法

Dictation test 6回 5x6 = 30点、Recitation Test4回 5x4=20点、Analysis: 5x4=20点、プロジェクト : 30点

履修上の注意

PC教室で授業を行うので、PC教室の定員を超えた場合抽選を行います。英語で発表できる力を目指すための小テストを授業の開始時にほぼ毎回実施します。遅刻をするとテストが受けられないで注意してください。
※遅刻：授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以後は欠席扱いとなる。遅刻3回で欠席1回とみなす。
欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 Advanced Oral CommunicationII

Title Advanced Oral CommunicationII

科目区分 英語発展

担当教員

担当教員との連絡方法

非常勤講師 ヒライワ ナン (ヒライワ ナン)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

The aim of this course is to provide students with the opportunity to develop the English skills necessary to communicate and function effectively in a variety of contexts and to become effective communicators in the rapidly expanding global community. The students will work in pairs and in small groups on a number of interactive communication activities to develop fluency in English and build confidence in expressing their opinions and speaking in English.

達成目標

Students will have acquired sufficient vocabulary to express themselves more confidently on matters connected to topics covered in the course and be able to: 1) readily handle and sustain extended conversations on these topics 2) initiate, maintain and end discourse naturally and 3) use the skills practiced as the basis for meaningful communication.

スケジュール

- 第1回 Course overview and guidance
- 第2回 Course introduction and interviews on various topics for mutual understanding
- 第3回 Chapter 1: Getting Started
- 第4回 Chapter 14: Sharing Experiences
- 第5回 Chapter 15: California Calling - Chatting
- 第6回 Chapter 16: Reading Pleasures and Tastes - Exchanging Views
- 第7回 Chapter 17: Moving to Music - Sharing Musical Moments
- 第8回 Chapter 18: Talking about Television - Getting Acquainted
- 第9回 Chapter 19: Talking about Movies - Chatting
- 第10回 Chapter 20: Talking about Movies: The Sequel - Reviewing Movies
- 第11回 Chapter 21: Playing and Watching Sports - Chatting
- 第12回 Chapter 22: Gardening - Small Talk
- 第13回 Chapter 23: Enjoying the Beach - Sharing Stories
- 第14回 Chapter 24: Holidays and Celebrations - Sharing Memories
- 第15回 Review, reflection, and consolidation

教科書・参考文献

教科書 Compelling Conversations: Questions and Quotations on Timeless Topics (2008, 2nd edition),
Chimayo Press (ISBN: 1-4196-5828-X) by Eric H. Roth and Toni W. Aberson

参考書

授業外での学習

Students are to complete all assignments before class and prepare for each class in advance.

評価方法

Active participation (40%) - Actively participate in every class in English and complete all tasks as required. Homework (30%) - Completion of all assignments and evidence of preparation of chapter topics and vocabulary. Vocabulary quizzes (20%). Final Examination (10%)

履修上の注意

受講の目安：TOEIC 600点またはTOEFL iBT 60点以上程度。なお、初回授業で診断テスト（スピーキング）を実施するので、必ず出席すること。 Particular focus will be placed on interactive communicative activities; therefore, full student participation in English at all times is essential.

科目名 English Language and Culture II
 Title English Language and Culture II
 科目区分 英語発展

担当教員 担当教員との連絡方法
 准教授 阿久津 由佳 (アクツ ユカ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

主に、短期留学などの機会に役立つ英語コミュニケーション力をつけることを目的とする。留学のシチュエーションを題材として、話す、聞く、読む、書くの4技能を学ぶ。特に留学先で使える会話表現の学習に重点を置く。IIでは、オーストラリア等、アメリカ以外の英語や文化についても学習していく。また、興味のある地域や留学先に関連する情報を英語で収集し英語で発表することにより、留学で必要になる「英語をツールとして利用する」トレーニングを行う。

達成目標

- 短期留学等に必要な英語コミュニケーション力を身に付ける。
- 英語を情報収集と発信のツールとして利用できるようになる。
- さまざまな英語圏の英語に慣れ、その文化についての基礎知識を身に付ける。

スケジュール

第1回	オリエンテーション：授業の進め方、成績の付け方、課題、連絡方法などについて説明
第2回	留学の会話①(Chapter3-5)・さまざまな英語圏の英語と文化①
第3回	留学の会話②(Chapter3-6)・さまざまな英語圏の英語と文化②
第4回	留学の会話③(Chapter3-7)・さまざまな英語圏の英語と文化③
第5回	留学の会話④(Chapter3-8)・さまざまな英語圏の英語と文化④
第6回	Unit test1
第7回	英語プログラム中の会話①(Chapter4-5)・プレゼンテーションリサーチ①
第8回	英語プログラム中の会話②(Chapter4-6)・プレゼンテーションリサーチ②
第9回	英語プログラム中の会話③(Chapter4-7)・プレゼンテーションリサーチ③
第10回	英語プログラム中の会話④(Chapter4-8)・プレゼンテーションリサーチ④
第11回	Unit test2
第12回	プレゼンテーション①
第13回	プレゼンテーション②
第14回	プレゼンテーション③
第15回	プレゼンテーションまとめ

教科書・参考文献

教科書 留学＆ホームステイのための英会話 (アルク)

参考書 授業中に指定する

授業外での学習

宿題と小テスト等の準備を必ずすること。プレゼンはグループで実施するので、個人での授業内外の準備の他、グループで授業外に集まって準備をする必要がある。

評価方法

授業への積極的な参加 (10%)、宿題・小テスト・unit tests (60%)、プレゼンテーション (ドラフト + 発表30%)

履修上の注意

* 定員24名。定員を超えた場合、TOEIC 450点以上または英検2級以上の学生を優先するので、証明となるものを持参すること。証明がない学生については、初回の授業で選抜テストを実施するので、必ず出席すること。

* 遅刻：授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以後は欠席扱いとなる。遅刻3回で欠席1回とみなす。
 欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 GrammarII
 Title GrammarII
 科目区分 英語発展

准教授	担当教員 石渡 華奈 (イシワタリ カナ)	担当教員との連絡方法 学内ポータルサイトのシラバス参照
-----	--------------------------	--------------------------------

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

本授業では、文法を学ぶことは規則を暗記することだという誤解や難解な英文を解読していれば英語力が向上するという思い込みからの脱却を目指し、特に日本人が苦手とする文法項目の知識を整理するとともに高校までに習う機会のない規則を学び、正しい英語感覚を養成する。

目と手だけの問題演習という悪しき習慣を捨て、耳と口も駆使する学習方法を身につけ、知っていても使えない知識をやみくもに増やすのではなくきちんと使える英語力を向上させてもらいたい。また文法規則の裏にある本質を知ることで広がる英語の世界を楽しんではほしい。

達成目標

後期に扱う文法項目（スケジュール参照）について

- ・正しくルールを適用できる
- ・文章を読んだり自然なスピードの発話を聞いたりしてその意味が正確に理解できる
- ・意図した内容を適切かつ正確に表現できる

スケジュール

第1回	オリエンテーション	診断テスト
第2回	Adjective Clauses with Subject Relative Pronouns	
第3回	Adjective Clauses with Object Relative Pronouns or 'When' and 'Where'	
第4回	Modals and Similar Expressions	
第5回	Speculations and Conclusions about the Past	
第6回	Review	
第7回	The Passive: Overview	
第8回	The Passive with Modals and Similar Expressions	
第9回	The Passive Causative	
第10回	Review	
第11回	Present Real Conditionals	
第12回	Future Real Conditionals	
第13回	Present and Future Unreal Conditionals	
第14回	Past Unreal Conditionals	
第15回	Review	

教科書・参考文献

教科書 Focus on Grammar 4 (Pearson)

参考書

授業外での学習

毎回の課題および教科書付属のオンライン教材にスケジュールの遅延なく取り組むこと。課題によってはペアあるいはグループで授業外に集まって取り組む必要がある。

評価方法

授業参加の積極度：授業内および授業外の課題(60 %)、期末試験(40 %)
 オンライン教材への取り組みが不足している場合、単位は認定されない。

履修上の注意

- ・定員24名。定員を超えた場合、TOEIC 500点以上または英検2級以上の学生を優先するので、証明となるものを持参すること。なお、初回授業で実力診断テストを実施するので、必ず出席すること。
- ・基礎的な英文法（英検2級レベル）を習得済みで、さらに英語力を向上させたいと本気で考えている学生を想定している。大量の課題に取り組む意欲と覚悟を持ち、かつオンライン教材に取り組む時間を確保すること。

科目名 WritingII
Title WritingII
科目区分 英語発展

担当教員
准教授 夏苅 佐宜 (ナツカリ サヨ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

英文ライティングの基本であるパラグラフの構成を学び、まとまりのあるパラグラフを書けるようにする。
Pre-writing、drafting、revising、editingなどのステップを踏みながら、ライティングを仕上げる。
また、capitalization、punctuationなどのmechanicsを学ぶ。

言語系科目

達成目標

1. 英文パラグラフの構成を理解し、まとまりのあるパラグラフを書くことができる。
2. 英文ライティングのプロセスを理解し、ステップを踏みながらライティングを仕上げることができる。

スケジュール

- | | |
|------|--|
| 第1回 | Introduction, Chapter 4: Listing descriptive details, Outlining |
| 第2回 | Chapter 4: Model paragraphs, Topic sentences and concluding sentences, 1st draft |
| 第3回 | Chapter 4: Supporting sentences with specific details, 2nd draft |
| 第4回 | Chapter 4: Adjectives, Order of adjectives, Prepositions, Final draft |
| 第5回 | Writing assignment (1) A descriptive paragraph |
| 第6回 | Chapter 5: Listing and outlining with reasons and examples |
| 第7回 | Chapter 5: Model paragraphs, Organization, 1st draft |
| 第8回 | Chapter 5: Transition signals, 2nd draft |
| 第9回 | Chapter 5: Sentence structure, Mechanics, Final draft |
| 第10回 | Writing assignment (2) Stating reasons and using examples |
| 第11回 | Chapter 6: Getting ideas from reading, Outlining |
| 第12回 | Chapter 6: Model paragraphs, Organization, 1st draft |
| 第13回 | Chapter 6: Transition signals in opinion paragraphs, 2nd draft |
| 第14回 | Chapter 6: Sentence structure, Mechanics, Final draft |
| 第15回 | Writing assignment (3) An opinion paragraph |

教科書・参考文献

教科書 Longman Academic Writing Series 2: Paragraphs, Third Edition (Pearson)

参考書 Bailey, S. (2015). The essentials of academic writing for international students.
Oxon: Routledge.上村妙子・大井恭子(2004)『英語論文・レポートの書き方』東京:研究社

授業外での学習

毎週課題が出されるので、授業前後に使う。また、ライティングのフォーマットを行う。

評価方法

Portfolio (Outlines, 1st drafts, 2nd drafts, Final drafts, etc.) 40%, Writing assignment 60%

履修上の注意

遅刻: 授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以降は欠席扱いとなる。遅刻3回で欠席1回とみなす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。授業中は、スマートフォンやインターネットの使用を認めない。各自、英語学習に適した辞書を持参すること。

科目名 ReadingII
Title ReadingII
科目区分 英語発展

担当教員
准教授 石渡 華奈 (イシワタリ カナ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4単位区分
選択必修単位数
2開講時期
後期**目的**

本授業では、学習者が自身の「読みの過程」に注意を向けながら、漫然と訳しながら読んだり適当に推測しながら読んだりする習慣から脱却し、適切な「読む技能」を身に付けることを目的とする。
素早く読み概要を把握する、特定の情報を求めて飛ばし読みをする、じっくりと正確に情報を読み取る、多読する、など場面に応じたさまざまな「読み方」のトレーニングを行うとともに、読みの基盤となる語彙増強の効果的な方法を学び、語彙力の向上も目指す。

達成目標

- ・状況や必要に応じて、自然なスピードで適切な「読み方」ができる
- ・読んだ内容を英語でメモを取ったり、英語でまとめたりすることができる
- ・語彙が増える

スケジュール

- | | |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション 診断テスト |
| 第2回 | Study Skills / Dictionary Work |
| 第3回 | Understanding Paragraphs / Word Parts |
| 第4回 | Understanding Paragraphs / Word Parts |
| 第5回 | Understanding Paragraphs / Guessing Meaning from Context |
| 第6回 | Making Inferences / Guessing Meaning from Context |
| 第7回 | Making Inferences / Guessing Meaning from Context |
| 第8回 | Making Inferences / Phrases and Collocations |
| 第9回 | Recognizing Patterns / Phrases and Collocations |
| 第10回 | Recognizing Patterns / Following Ideas in Text |
| 第11回 | Recognizing Patterns / Following Ideas in Text |
| 第12回 | Recognizing Patterns / Following Ideas in Text |
| 第13回 | Study Skills / Thinking in English |
| 第14回 | Reading for Study / Thinking in English |
| 第15回 | Reading for Study / Thinking in English |

教科書・参考文献

教科書 Maximize Your Reading 3 (Pearson)

参考書

授業外での学習

指示された場合を除き「予習は禁止」とする。ただし毎回、大量の復習課題を課すので、必ずその課題に取り組むこと。

評価方法

授業参加の積極度・授業内および授業外の課題 (60 %)、期末試験 (40 %)

履修上の注意

- ・定員24名。定員を超えた場合、TOEIC 500点以上または英検2級以上の学生を優先するので、証明となるものを持参すること。なお、初回授業で実力診断テストを実施するので、必ず出席すること。
- ・基礎的な英文読解力（英検2級レベル）を有し、さらに英語力を向上させたいと本気で考えている学生を想定している。量をこなさなければ読む力は身につかない。授業外で大量の課題に取り組む意欲と覚悟を持つこと。

科目名 ListeningII
 Title ListeningII
 科目区分 英語発展

担当教員
 非常勤講師 小池 惣 (コイケ ソウ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
 1~4

単位区分
 選択必修

単位数
 2

開講時期
 後期

目的

(This is a continuation of Listening I course) This course aims to develop students' listening and speaking abilities. Students will watch and listen to authentic material at natural speed in order to get accustomed to phonological changes, rhythms, and the pitch and intonation of natural spoken English. Students will also learn phrases and expressions typically found in natural English. Furthermore, students will have opportunities to express and organize their own ideas in the form of discussion & academic presentation.

達成目標

Upon completion of this course, students should be able to: [1] pick out the main ideas, key details and inferred meanings from short, authentic listening activities; [2] express and organize their own ideas in spoken English; and [3] respond properly in interactions held in English.

スケジュール

- 第1回 Course orientation
- 第2回 Unit 5 'Give Thanks' [1] Introduction - Listening (pp. 82-88)
- 第3回 Unit 5 [2] After You Listen - Speaking (pp. 89-91)
- 第4回 Unit 5 [3] TED Talks (pp. 92-98)
- 第5回 Unit 6 'Tell Me Why...' [1] Introduction - Listening (pp. 102-108)
- 第6回 Unit 6 [2] After You Listen - Speaking (pp. 109-111)
- 第7回 Unit 6 [3] TED Talks (pp. 112-118)
- 第8回 Mid-term Presentation
- 第9回 Unit 7 'The Livable City' [1] Introduction - Listening (pp. 122-127)
- 第10回 Unit 7 [2] After You Listen - Speaking (pp. 128-130)
- 第11回 Unit 7 [3] TED Talks (pp. 131-137)
- 第12回 Unit 8 'Life Lessons' [1] Introduction - Listening (pp. 142-148)
- 第13回 Unit 8 [2] After You Listen - Speaking (pp. 149-151)
- 第14回 Unit 8 [3] TED Talks (pp. 152-158)
- 第15回 Final Presentation

教科書・参考文献

教科書 21st Century Communication 1 by Lida Baker and Laurie Blass. Cengage Learning
 [ISBN: 978-1-305-94592-0]

参考書

授業外での学習

- Unit preview / review (watching videos, listening to audios, exercises)
- Extra materials occasionally distributed by instructor

評価方法

Attendance & Participation: 20%
 Homework: 20% (10% for completion, 10% for quality)
 Mid-term Presentation score: 20% Final Presentation score: 20% Final Exam score: 20%

履修上の注意

PC教室で授業を行うので、PC教室の定員を超えた場合抽選を行います。
 履修上の注意: 遅刻 : 授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以降は欠席扱いとなる。
 遅刻3回で欠席1回とみなす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 DiscussionII
Title DiscussionII
科目区分 英語発展

担当教員
非常勤講師 ヒライワ ナン (ヒライワ ナン)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

The aim of this course is to help students develop their confidence and ability to discuss a wide range of subjects in English. Students will be given extensive practice in a variety of discussion strategies and learn to express their opinions, lead discussions, and actively participate in discussions. To facilitate communication, group work, pair work, and building relationships will play a central role in this course.

達成目標

Students will be able to prepare and organize their ideas to support their point of view persuasively in various discussion scenarios. Students will also acquire general discussion strategies to sustain a discussion by providing relevant explanations, arguments and comments and develop discussions by listening actively and encouraging others to participate.

スケジュール

- 第1回 Course overview and guidance
- 第2回 Introduction activities
- 第3回 Discussion as exploration (Further elaborated)
- 第4回 Building relationships / Self-awareness
- 第5回 Common experiences / Individual experiences
- 第6回 Improving question asking skills / Being an effective listener
- 第7回 Encouraging others' ideas and opinions
- 第8回 Midterm Assessment: Group Discussion
- 第9回 Exploring values
- 第10回 Reaching agreement on values
- 第11回 Giving opinions assertively
- 第12回 Disagreeing without making the speaker wrong / Expressing friendly disapproval
- 第13回 Understanding and sharing opinions on news items
- 第14回 Understanding and sharing opinions on news items
- 第15回 Review, reflection, and consolidation

教科書・参考文献

教科書 No textbook required. All course materials will be provided by the instructor.

参考書

授業外での学習

Students are to complete all assignments before class and prepare for each class in advance. Students are also expected to work within one another and communicate with one another outside of class. Group work is a major component of the course.

評価方法

Active participation in class (40%) – Based on the core course skills of active participation, asking questions, and encouraging others to speak. Homework (40%) – Completion of all assignments and evidence of preparation for topics and discussion leader. Final Examination (20%)

履修上の注意

定員12名。定員を超えた場合、TOEIC 500点以上または英検2級以上の学生を優先するので、証明となるものを持参すること。なお、初回授業で実力診断テスト（スピーチング）を実施するので、必ず出席すること。
Particular focus will be placed on interactive communicative activities; therefore, full student participation in English at all times is essential.

科目名 Advanced Discussion II

Title Advanced Discussion II

科目区分 英語発展

准教授 担当教員
石渡 華奈 (イシワタリ カナ)

担当教員との連絡方法

[学内ポータルサイトのシラバス参照](#)

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

A discussion is not just a simple process of exchanging ideas and opinions. A successful discussion always involves spontaneous give-and-take interaction between/among people. Advanced Discussion I & II are designed to equip students with the productive and interactive communication skills to enable such interaction.

The aim of Advanced Discussion II is to allow you to use the discussion strategies and English skills you learned in Advanced Discussion I in less-structured and open discussions. This course also aims at assisting you to improve not only fluency but also pronunciation, intonation and vocabulary so that you can become better English communicators.

達成目標

You will be able to verbally share your ideas and opinions in a wide variety of topics.
You will be able to lead and participate in a discussion more actively, adequately, and effectively.

スケジュール

- 第1回 Orientation and Diagnostic Speaking Test
- 第2回 Internet Safety or Freedom of Expression? / Students' Choice 1
- 第3回 Honor or Burden? / Students' Choice 2
- 第4回 Clean Energy or Potential Threat? / Students' Choice 3
- 第5回 Real Risk or Great Technology? / Students' Choice 4
- 第6回 Legalization or Outlawing of Gay Marriage? / Students' Choice 5
- 第7回 Separate Smoking Area or Total Ban? / Students' Choice 6
- 第8回 Right to Die or Responsibility to Live? / Students' Choice 7
- 第9回 Punishment or Discipline? / Students' Choice 8
- 第10回 To Skip or Not to Skip? / Students' Choice 9
- 第11回 Performance or Seniority? / Students' Choice 10
- 第12回 Free Trade or Protection? / Students' Choice 11
- 第13回 Animal Rights or Human Profits? / Students' Choice 12
- 第14回 Peace Constitution or Revision? / Students' Choice 13
- 第15回 Death Penalty or Human Rights? / Students' Choice 14

教科書・参考文献

- 教科書
- Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues (Cengage Learning)
 - iKnow!

参考書

授業外での学習

Homework will be assigned and pre-class preparation will be required every week.

評価方法

Homework, pre-class and in-class activities (60 %); Final exam (40 %)
If the achievement on iKnow! does not meet the requirement, you will fail the course.

履修上の注意

受講の目安：TOEIC 600点またはTOEFL iBT 60点以上程度。なお、初回授業で診断テスト（スピーキング）を実施するので、必ず出席すること。

科目名 English for Academic Purposes II
 Title English for Academic Purposes II
 科目区分 英語発展

担当教員
 非常勤講師 ヒライワ ナン (ヒライワ ナン)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
 1~4

単位区分
 選択必修

単位数
 2

開講時期
 後期

目的

The aim of this course is to develop the academic skills necessary for the college learning environment. Lessons will explore academic vocabulary, English grammar, academic writing and essential student skills for students to participate effectively in a variety of academic situations.

達成目標

Students will have developed: 1) the ability to express and effectively communicate their ideas and opinions in English 2) wider academic vocabulary 3) academic writing skills necessary for successful writing in academic settings.

スケジュール

- | | |
|------|--|
| 第1回 | Course overview and guidance |
| 第2回 | Introductory Activities |
| 第3回 | Unit 5: Introduction to the Essay (Psychology: Creativity) |
| 第4回 | Unit 5: Introduction to the Essay (Psychology: Creativity) |
| 第5回 | Unit 5: Introduction to the Essay (Psychology: Creativity) |
| 第6回 | Unit 6: Classification Essays (Health: Food in Society) |
| 第7回 | Unit 6: Classification Essays (Health: Food in Society) |
| 第8回 | Unit 6: Classification Essays (Health: Food in Society) |
| 第9回 | Unit 7: Process Essays (Social Work: Social Activism) |
| 第10回 | Unit 7: Process Essays (Social Work: Social Activism) |
| 第11回 | Unit 7: Process Essays (Social Work: Social Activism) |
| 第12回 | Unit 8: Comparison and Contrast Essays (Finance: Personal Finance) |
| 第13回 | Unit 8: Comparison and Contrast Essays (Finance: Personal Finance) |
| 第14回 | Unit 8: Comparison and Contrast Essays (Finance: Personal Finance) |
| 第15回 | Review, reflection, and consolidation |

教科書・参考文献

教科書 Final Draft 2 (Cambridge University Press, 2016) by Jill Bauer, Mike S. Boyle, Sara Stapleton, ISBN: 978-1-107-49541-8

参考書

授業外での学習

Students are to complete all assignments before class, do their research, and prepare for each class in advance.

評価方法

Active participation in class activities (40%), Homework (40%) - Completion of all textbook assignments and submission of all writing assignments. Final Examination (20%)

履修上の注意

受講の目安 : TOEIC 600点またはTOEFL iBT 60点以上程度。なお、初回授業で診断テスト（英検形式）を実施するので、必ず出席すること。 Particular focus will be placed on interactive communicative activities ; therefore, full student participation in English at all times is essential.

科目名 TOEIC Basic 1～9

Title TOEIC Basic

科目区分 英語発展

担当教員

担当教員との連絡方法

履修要綱別冊参照

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1～4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
前期 または後期

目的

2016年5月にTOEIC Listening & Reading Testとなった新形式問題に対応し、初級者が年度末までに500点に到達することを目的とする。

達成目標

- ①基礎となる文法と語彙を徹底的に見につける。
- ②テストの形式・内容を理解する。
- ③問題の解答時間の配分を修得する。
- ④TOEICテストに頻出のリスニング・リーディング問題の攻略法を身につける。
- ⑤TOEICテストで年度末に500点を獲得する。

スケジュール

- 第1回 Guidance & Unit 1 Entertainment : 映画や音楽などの娯楽；文型と名詞
- 第2回 Unit 2 Personnel : 求人広告や社内人事；現在形と代名詞
- 第3回 Unit 3 Office Work & Supplies : オフィス業務や備品など；過去形と形容詞
- 第4回 Unit 4 Office Messages : 電話やEメールなどオフィスメッセージ；未来を表す表現と冠詞
- 第5回 Unit 5 Eating Out : ランチやパーティーなどの外食；進行形と副詞
- 第6回 Unit 6 Technology : コンピューターなどの科学技術；完了形と比較
- 第7回 Unit 7 Research & Merchandise Development : 研究調査や商品開発；助動詞と動詞
- 第8回 Unit 8 Finance & Budgets : 銀行業務や経理などの財務；受動態と不定詞
- 第9回 Unit 9 Purchases : ショッピングや注文・出荷など；時制の一一致と分詞
- 第10回 Unit 10 Manufacturing : 工場管理や生産ラインなどの製造；主語と動詞の呼応と動名詞
- 第11回 Unit 11 Marketing & Sales : マーケティングや販売；仮定法、他
- 第12回 Unit 12 Travel : 交通機関や旅行関連；平叙文と関係詞
- 第13回 Unit 13 Contracts & Negotiations : 契約や交渉など；命令文と等位接続詞、他
- 第14回 Unit 14 Housing & Properties : 住宅やビルなどの不動産；疑問文と從位接続詞
- 第15回 Unit 15 Health : 医療や健康；感嘆文と前置詞、他

教科書・参考文献

教科書 Sussessful Setps for the TOEIC L&R Test-A Topic-Based Approach-New Edition 『テーマ別TOEIC L&Rテスト総合演習-最新版-』塚野壽一他著、(株)成美堂刊

参考書 授業中に紹介します。

授業外での学習

巻末のBridge Practice Cornerを毎週宿題とします。それ以外にも自主的に学習することが望まれる。

評価方法

授業に取り組む姿勢と期末テストなどを総合的に評価します。

履修上の注意

TOEIC公開テストを必ず受験してください。定員40名であるが、PC教室の収容人数によっては定員がこれより少なくなることがある。定員を超えた場合は初回の授業で抽選する。遅刻は、授業開始後10分以内に到着した場合で、それ以降は欠席とする。遅刻3回で欠席1回と見なす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合は、単位を認定しない。

科目名 TOEIC Intermediate 1・2

Title TOEIC Intermediate

科目区分 英語発展

担当教員

非常勤講師 長 和重 (チョウ カズシゲ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
前期 または後期

目的

本講義は、「語彙力」と「攻略法」だけでなく、シャドーイングや音読を通じて、スコアアップの土台となる「英語力」を身につけることを目的とします。正しく勉強を継続し、9月の公開テストで目標スコアを達成しましょう。

達成目標

TOEICスコア700点を目指し、頻出語彙700語を定着させるとともに、試験の特徴に合わせた効率のよい解き方を学ぶ。また、授業で紹介される学習法から、自分にあった方法を取り入れて自宅での学習に活かす。

スケジュール

- 第1回 コース概要の説明・Pre-test
- 第2回 Unit 1 : テスト形式を知る
- 第3回 Unit 2 : 基本戦略①
- 第4回 Unit 3 : 基本戦略②
- 第5回 Unit 4 : 英文の基本構造を見抜く
- 第6回 Unit 5 : 解答根拠の登場準
- 第7回 Unit 6 : 正解の言い換えパターンを知る
- 第8回 Unit 7 : 機能疑問文を聞き取る
- 第9回 Unit 8 : 動詞の時制を見極める
- 第10回 Unit 9 : 接続詞 vs. 前置詞
- 第11回 Unit 10 : 複数パッセージの攻略
- 第12回 Unit 11 : 接続副詞に強くなる
- 第13回 Unit 12 : NOT型設問のコツ
- 第14回 Post-test
- 第15回 模試演習

教科書・参考文献

教科書 Level-up Trainer for the TOEIC Test / 横川綾子著 / センゲージラーニング株式会社
TOEIC Test L&R 出る単特急 金のフレーズ / TEX加藤著 / 朝日新聞出版

参考書 授業中にお伝えします。

授業外での学習

毎回100語づつ単語テストを実施します。読んすぐ分かる、聞いてすぐ分かるレベルを目指して、高得点を取り続けて下さい。

評価方法

授業参加(10%)・単語テスト(40%)・期末テスト(50%)

履修上の注意

受講の目安：TOEIC700点程度を目標とする。

定員40名。ただし、PC教室の収容人数によっては定員より少なくなることがある。定員を超えた場合、初回の授業で抽選する。ただし、TOEIC 500点以上または英検2級以上の学生を優先するので、証明となるものを持参すること。

担当教員
履修要綱別冊参照

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4単位区分
選択必修単位数
2開講時期
後期**目的**

This course will introduce you to the strategies and skills required for the listening and speaking sections of the TOEFL Test. Graded practice will also be available online. We will practice focused listening and note taking. In preparation for the speaking section, we will learn how best to organize your thoughts for the independent speaking section.

達成目標

This course aims to help you discover your strengths and weaknesses regarding the listening section of the test. The online lessons and practice will enable you to focus on improving your listening skills at a pace that suits you.

スケジュール

- 第1回 Course orientation: Introduction to the TOEFL iBT test (Listening & Speaking sections)
- 第2回 Listening section [1]: Understanding the gist
- 第3回 Listening section [2]: Understanding the details
- 第4回 Listening section [3]: Understanding the function
- 第5回 Listening section [4]: Understanding the speaker's stance
- 第6回 Listening section [5]: Understanding the organization
- 第7回 Listening section [6]: Understanding relationships
- 第8回 Practice Test 1: Listening section review
- 第9回 Speaking section [1]: Independent task - Planning the response
- 第10回 Speaking section [2]: Independent task - Making the response
- 第11回 Speaking section [3]: Integrated task (Reading & Listening) - Noting the topics and main points
- 第12回 Speaking section [4]: Integrated task (Reading & Listening) - Planning and making the response
- 第13回 Speaking section [5]: Integrated task (Listening) - Noting the topics and main points
- 第14回 Speaking section [6]: Integrated task (Listening) - Planning and making the response
- 第15回 Practice Test 2: Speaking section review

教科書・参考文献

教科書 Textbook: Longman Introductory Course for the TOEFL Test: iBT Second Edition Student Book + CD-ROM without Answer Key by Deborah Phillips. Pearson Longman ISBN: 9780134053448

参考書

授業外での学習

Homework assignments will be given at the end of each class session, and students are expected to work on each of those.

評価方法

Attendance & Participation: 40%
Homework: 20% (10% for completion, 10% for quality)
Practice Test scores: 20% Final Exam score: 20%

履修上の注意

PC教室で授業を行うので、PC教室の定員を超えた場合抽選を行います。
履修上の注意: 遅刻 : 授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以降は欠席扱いとなる。
遅刻3回で欠席1回とみなす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 日本語リテラシー上級II
Title Advanced Japanese Literacy II
科目区分 日本語上級

担当教員

担当教員との連絡方法

休講

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

日本語リテラシーI・IIでは、文章の読み方、書き方を学んで来た。その次の段階は、「問う姿勢の取得」である。レポートの質は、問い合わせの姿勢で決まる。この講義では、<読む力><書く力><聴く力>のスキルアップと、その根底となる<問う力>のパワーアップを目指す。具体的には①KJ法の演習、②「知的複眼思考法」の輪読、③ゲスト講話による傾聴力と問い合わせの育成を柱とする。前期社会学に引き続き大喜利手法による自己啓発も行う。昨年度はプロマジシャンのカルロス西尾さん、落語家の柳家三語楼さん、俳優の濱本暢博さん、女優の手島実優さん、元no1ホスト、元山一証券アナリスト、カンボジアのカレー屋社長、高崎の会社のベトナム支社長さんなど、多彩なゲストをお迎えし、わっしー組ならではのキャリア教育を行った。今期も最強のゲストから人生を考えもらう。そして、講義を通じて身につけた問い合わせで人生を勝ち抜く。

達成目標

レポートを書くことは、どのような問い合わせを立て、いかに展開するかということだ。「レポートの質」は「問い合わせの質」によって決まる。「問い合わせを立てる」姿勢を徹底的に磨く。多彩なゲスト講話や様々な記事から「問い合わせの素材」を提供していく。また、公務員や銀行だけが就職先では無いことを、生き方の多様性を知り自分の進路選択の幅を広げていくこと、学歌絶唱を通じて母校愛を育むこともあわせて目標とする。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス/教育社会学的パースペクティブへのイントロダクション。
- 第2回 KJ法①/KJ法とは何か?
- 第3回 KJ法②/グループワークによる演習(履修人数によっては大喜利大会に変更)
- 第4回 ゲストスピーカー講話1/生き方の多様性を知ろう!
- 第5回 大喜利脳で自己表現を鍛えろ～大喜利のスキルは日本語リテラシーそのものだ!
- 第6回 ゲストスピーカー講話2/生き方の多様性を知ろう!!
- 第7回 思考法①/問い合わせの二形態と問い合わせのブレイクダウン -「実態を問う問い合わせ」と「因果関係を問う問い合わせ」-
- 第8回 思考法②/「因果関係を問う問い合わせ」の展開 - 考えを誘発する問い合わせの形とは何か -
- 第9回 ゲストスピーカー講話3/生き方の多様性を知ろう!!!
- 第10回 思考法③/「実体論的な見かた」と「関係論的な見かた」
- 第11回 ゲストスピーカー講話4/生き方の多様性を知ろうIV
- 第12回 思考法④/意外性を見つけるための「逆説の発見」・ ものごとの前提を疑うための「メタを問うものの見かた」
- 第13回 プロマジシャンから人生を学べ! ~カルロス西尾さんをお迎えして~
- 第14回 古典落語を通じて、「日本語」を再検討しよう ~柳家三語楼師匠をお迎えして~
- 第15回 総括講義/この講義で伝えたかったこと、伝えきれなかったこと。

教科書・参考文献

教科書 砥谷剛彦『知的複眼思考法』講談社(文庫版)、2002年

参考書 授業中に随時、紹介、配布をしていきます。

授業外での学習

社会現象に問い合わせの姿勢を常に持つてもらうため、新聞やネット記事の中から「問い合わせ」をたて、コメントを記載した課題を毎週提出してもらいます。それが芸能人のゴシップ記事でも、必ず「問い合わせ」は存在します。期末には4000字程度のレポートを課すので、文献の読み込みなど積極的な授業外学習を望みます。

評価方法

毎週出してもらう「問い合わせ」のレポート・ 30 % / 期末試験・ 40 % / 期末レポート・ 30 %

履修上の注意

毎回、発言やら課題やら、ある意味「うざい授業」です。過去に鷺北の授業を取ったことがある学生は、仕上げの意味で参加してみてください。

科目名 日本語リテラシー上級II
 Title Advanced Japanese Literacy II
 科目区分 日本語上級

担当教員 担当教員との連絡方法
 准教授 黒崎 龍悟 (クロサキ リュウゴ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

レポートや論文作成、社会で必要とされる文章作成やプレゼンテーションに関する総合的な能力を身につけることが目的です。大きく「読む」・「書く」・「論じる」・「伝える」というテーマを設定し、それぞれに対応するスキルを身に付けるためのトレーニングを積んでいきます。「読む」・「書く」・「論じる」ということに関してもは、自分が関心のある資料（雑誌記事、論文、図書、新聞等）を用意し、それを題材に各回のポイントに沿った作業に取り組みます。「伝える」の作業では、教室外で日常的に遭遇するプレゼンテーション（看板・標識・掲示物等）を探索し、それを批判的に検討しながら学びます。以上のこととふまえながら最終課題として短いプレゼンテーション（パワーポイントを使用）を作成します。受講者同士で良い点や問題点、改良点を検討し合い、時間をかけてプレゼンテーションを練り上げるプロセスを経験します。

達成目標

自分のアイデアや考えを正確に、要領よくまとめ、それを効果的に他者に伝える技術を身に付ける。

スケジュール

第1回	ガイダンス-授業の進め方について
第2回	情報の取得・活用：ルール①
第3回	情報の取得・活用：ルール②
第4回	読む：ポイントを抽出する
第5回	読む：内容をまとめる
第6回	書く：事実と評価
第7回	書く：具体化と抽象化
第8回	論じる：コメントの方法1
第9回	論じる：コメントの方法2
第10回	伝える：情報の選択
第11回	伝える：情報の提示
第12回	課題発表のテーマ選定
第13回	課題発表の準備
第14回	課題発表の予行演習
第15回	課題発表

教科書・参考文献

教科書 特に指定しません。毎回テーマに沿って配布資料や映像資料を用意します。

参考書 川喜田二郎 1967. 『発想法-創造性開発のために』中央新書。
 藤沢晃治. 1999. 『「分かりやすい表現」の技術』講談社ブルーバックス。

授業外での学習

各回のテーマにあわせて授業時間内に発表する課題を提示しますので、そのための準備が必要になります。

評価方法

受講状況50%
 課題発表50%

履修上の注意

最終課題はパワーポイントを使用します。ワード、エクセル、パワーポイントの基礎を習得していることが受講の条件です。

授業の内容や順序は一部変更になる場合があります。

科目名 日本語リテラシー上級II
Title Advanced Japanese Literacy II
科目区分 日本語上級

講師 斎川 貴嗣 (サイカワ タカシ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

この授業では、社会科学の古典的入門書の精読を通して、社会を科学的かつ総体的に把握し、言語化する方法を学ぶ。専門分化が著しく進んだ現在の学問状況において、経済学など特定の分野から社会全体をトータルに把握することはますます困難になってきている。しかしながら、他方で、複雑化した現代社会を平易な言葉で一般の人々に説明する能力が大学人に求められている。したがって、社会科学の根本的動機に立ち戻って、社会を理解するとはどのようなことか、それはいかにして可能なのかということを考え直す必要があるだろう。この授業では、社会科学入門の古典的名著を読み、その内容を理解するだけでなく、その文体（「語り方」）をも吟味したい。毎回担当者を決め、課題文献について内容の要約と論点を提示してもらい、全員で議論する。授業の最後には、文献いずれか一つについて書評（4000字程度）を執筆し、提出してもらう。

達成目標

経済学のより広い文脈、すなわち社会科学の考え方、社会認識の方法を理解し、それを他者に伝わるように表現する技法の習得を目標とする。

スケジュール

第1回	イントロダクション
第2回	吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫、1982年。
第3回	同上
第4回	同上
第5回	同上
第6回	高島善哉『社会科学入門』岩波新書、1954年。
第7回	同上
第8回	同上
第9回	内田義彦『社会認識の歩み』岩波新書、1971年。
第10回	同上
第11回	同上
第12回	大塚久雄『社会科学における人間』岩波新書、1977年。
第13回	同上
第14回	同上
第15回	まとめ

教科書・参考文献

教科書 上記の課題文献はあくまで予定であり、初回授業で参加者と相談の上決める。

参考書 授業において適宜紹介する。

授業外での学習

授業で課題となる文献だけでなく、関連する文献も積極的に読むこと。

評価方法

期末エッセイ（60%）、平常点・議論への貢献度（40%）

履修上の注意

参加者の数や関心にしたがって、授業計画及び形式を変更する可能性がある。

科目名 日本語リテラシー上級II
 Title Advanced Japanese Literacy II
 科目区分 日本語上級

担当教員 担当教員との連絡方法
 准教授 三牧 聖子(ミマキ セイコ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

私たちが生きているこの世界は、「平和」だろうか。そもそも、「平和」とはどのような状態をいうのだろうか。歴史上、様々な人々が「平和」を目指し、努力を傾けてきたにもかかわらず、なぜそれは実現されていないのだろうか。本授業は、「平和」をめぐる諸問題を、思想的・歴史的な視座から考えることを目的とする。授業前半は文献を輪読する。各回担当者を決定し、担当者作成のレジュメに基づき、参加者全員の議論形式で進める。担当者以外も、積極的な参加が求められる。後半は現代世界の平和の諸問題について調べてみたいことを決定し、教官と相談の上、テーマを確定し、そのテーマに基づいた報告を行う。報告内容は最終的に期末レポート(4000文字程度)にまとめ、提出する。授業における2回の報告および討論、期末レポートが成績評価の対象となる。

達成目標

課題の分量はリテラシーIと同等を想定しているが、その内容については、より高度なものが求められる。テーマの設定においても、何がいま、日本や世界で問題となっているのかを分析すること、テーマの展開についても、単に自分の議論を一方的に展開するのではなく、先行研究をしつかり踏まえ、そこで十分に展開されていない論点を洗い出す作業などが求められる。

スケジュール

第1回	授業の進行と目標についてのオリエンテーション
第2回	文献輪読(1)人道と人権
第3回	文献輪読(2)不戦・反戦・非暴力
第4回	文献輪読(3)戦争犯罪・戦犯裁判・戦争責任
第5回	文献輪読(4)核の脅威の下で
第6回	文献輪読(5)真実と和解
第7回	現代平和の諸問題(1)
第8回	現代平和の諸問題(2)
第9回	現代平和の諸問題(3)
第10回	現代平和の諸問題(4)
第11回	プレゼンテーション実践(1)
第12回	プレゼンテーション実践(2)
第13回	プレゼンテーション実践(3)
第14回	プレゼンテーション実践(4)
第15回	1学期の学習のリフレクション

教科書・参考文献

教科書 前半に輪読するテキストは、小菅信子『原点でよむ 20世紀の平和思想』(岩波書店、2015年、定価2300円)のほか、時事論説や記事(日英)を予定。

参考書 授業中に追って指示する。

授業外での学習

文献や課題を指定された場合には、積極的に取り組むこと。また日々アンテナを張って、自分の関心の所在を探ってほしい。

評価方法

期末レポート50% プrezentation・授業時間の貢献50%。
 なお、毎回の積み重ねが重要な授業であるため、公的に認められるもの以外の欠席が5回以上に及んだ場合、失格とする。

履修上の注意

本授業を通じて、1つのレポートとプレゼンテーションを作成していくことを通じ、今後、同様の課題に取り組む際に助けとなるような、知識や関心のストックを築き上げていってほしい。主体的な取り組みが求められる授業であり、意欲的な受講生を歓迎する。

科目名 中国古典研究
 Title Study of Chinese Classics
 科目区分 日本語上級

担当教員
 非常勤講師 笠見 弥生 (カサミ ヤヨイ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

中国と日本は長い文化交流の歴史をもち、日本人も中国の古典に自然と親しんできた。そのため、中国の古典は日本の文化や文学にも多大な影響を及ぼしており、中国の古典を学ぶことは中国、更には日本をよりよく理解することにつながる。本授業では、中国の古典の中でも特になじみやすいであろう小説に焦点をあて、中国古典小説の発展の歴史をたどりながらいくつかの作品を読んでいく。中国の古典小説発展の歴史とそれぞれの作品の特徴を知り、中国文化・文学への理解を深めることを目的とする。

達成目標

中国古典小説の発展の歴史とそれぞれの作品の特徴を知り、中国文化・文学への理解を深めることを達成目標とする。

スケジュール

第1回	イントロダクション
第2回	漢・魏：小説のはじまり
第3回	六朝①：志怪小説
第4回	六朝②：志人小説
第5回	唐①：伝奇小説（1）
第6回	唐②：伝奇小説（2）
第7回	唐③：伝奇小説（3）
第8回	宋：伝奇小説
第9回	元：雑劇
第10回	明①：文言小説
第11回	明②：長編白話小説（1）
第12回	明③：長編白話小説（2）
第13回	明④：長編白話小説（3）
第14回	明⑤：短編白話小説（4）
第15回	清：文言小説

教科書・参考文献

教科書 特になし。プリントを配布する。

参考書 前野直彬『中国文学史』（東京大学出版社、1975）、竹田晃『中国小説史入門』（岩波書店、2002）。その他、授業中に適宜紹介する。

授業外での学習

事前に配布するプリントを読んで予習をしてくること。

評価方法

受講状況（全体の成績の15%）と授業内での課題（30%）、期末試験（55%）。詳細は授業中に説明する。

履修上の注意

中国の古典、または中国を深く理解する意欲のある学生の受講を歓迎する。なお、上記のスケジュールはあくまで目安であり、授業の進行状況によって変更する場合がある。

科目名 ドイツ語II 1~3

Title German II

科目区分 ドイツ語

担当教員

履修要綱別冊参照

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

この講座ではドイツ語で学習した内容を踏まえてさらにドイツ語の基礎を学習します。前置詞、助動詞、複合動詞、形容詞の格変化、再帰動詞、過去形、現在完了形を扱います。

言語系科目

達成目標

に引き続き「読む」「聞く」「書く」「話す」の総合的な学習を目指します。学習範囲はドイツ語技能検定4級レベルに相当します。

スケジュール

- | | |
|------|----------------|
| 第1回 | 前置詞の格支配(1) |
| 第2回 | 前置詞の格支配(2) |
| 第3回 | 従属の接続詞 非人称のes |
| 第4回 | 語法の助動詞 |
| 第5回 | 語法の助動詞 分離動詞 |
| 第6回 | 分離動詞 |
| 第7回 | 形容詞の格変化 |
| 第8回 | 形容詞の格変化 zu 不定詞 |
| 第9回 | zu 不定詞 |
| 第10回 | 動詞の3基本形 |
| 第11回 | 現在完了形 |
| 第12回 | 現在完了形 |
| 第13回 | 過去 |
| 第14回 | 再帰代名詞 |
| 第15回 | 再帰動詞 |

教科書・参考文献

教科書 開講時に紹介します。

参考書 辞書などの参考書等の購入については開講時に説明します。

授業外での学習

宿題をきちんとやって授業に出席してください。

評価方法

出席点・平常点 30% 期末試験 70%

3分の2以上の出席が期末試験を受験する条件です。その上で試験と出席態度を総合的に評価します。

履修上の注意

定員40名。定員を超えた場合、初回に抽選を行う可能性があります。

科目名 ドイツ語IV
Title German IV
科目区分 ドイツ語

担当教員
非常勤講師 木戸 裕 (キド ユタカ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

ドイツ語I、IIおよびIIIで学んだ文法知識を確認しながら、ドイツ人の生活を描写する読み物を講読し、あわせて発音、表現、語彙等を総合的に学習することにより、ドイツ語能力の定着をはかる。

言語系科目

達成目標

ドイツ語I、IIおよびIIIで学んだ知識の上に、ドイツ語の基礎的な能力（「読む」「書く」「聞く」「話す」）を確実に運用できるようになる。

スケジュール

第1回	前期の振り返りと期末試験の解説、後期の授業計画等の説明
第2回	読み物の講読（発音、表現、語彙、文法の説明等を含む）および確認小テスト
第3回	読み物の講読（発音、表現、語彙、文法の説明等を含む）および確認小テスト
第4回	読み物の講読（発音、表現、語彙、文法の説明等を含む）および確認小テスト
第5回	読み物の講読（発音、表現、語彙、文法の説明等を含む）および確認小テスト
第6回	読み物の講読（発音、表現、語彙、文法の説明等を含む）および確認小テスト
第7回	読み物の講読（発音、表現、語彙、文法の説明等を含む）および確認小テスト
第8回	読み物の講読（発音、表現、語彙、文法の説明等を含む）および確認小テスト
第9回	読み物の講読（発音、表現、語彙、文法の説明等を含む）および確認小テスト
第10回	読み物の講読（発音、表現、語彙、文法の説明等を含む）および確認小テスト
第11回	読み物の講読（発音、表現、語彙、文法の説明等を含む）および確認小テスト
第12回	読み物の講読（発音、表現、語彙、文法の説明等を含む）および確認小テスト
第13回	読み物の講読（発音、表現、語彙、文法の説明等を含む）および確認小テスト
第14回	読み物の講読（発音、表現、語彙、文法の説明等を含む）および確認小テスト
第15回	前期を含む全体のまとめ

教科書・参考文献

教科書 大谷弘道著『ドイツ人の生活を知る11章』（三修社）

参考書 独和辞典。特に指定しないが、『アクセス独和辞典』（三修社）『クラウン独和辞典』（三省堂）『アボロン独和辞典』（同学社）『郁文堂独和辞典』（郁文堂）など。

授業外での学習

毎授業ごとに、次回までの予習内容および復習内容について指示する。

評価方法

授業時に行う小テスト（40%）、期末試験（60%）。詳細については、初回授業で説明する。

履修上の注意

定員40名。定員を超えた場合、初回の授業で抽選を行う。期末試験は、特段の理由がない限り、出席回数が3分の2以上の者のみが受験できる。

科目名 ドイツ語文獻講読II
Title German Readings II
科目区分 ドイツ語

担当教員
非常勤講師 木戸 裕 (キド ユタカ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

ドイツ語の初級文法を一通り習得した学習者を対象に、現代ドイツの政治・経済・社会の諸問題に関する記事をさまざまなメディアから適宜抽出し、これらを講読することにより、現代ドイツ語の文章を読み解く能力を涵養する。あわせて、それらの背景となっているドイツ事情を解説することにより、現代ドイツが抱える諸問題に関する基礎知識を身に付ける。

達成目標

さまざまな現代ドイツ語の文章を、書かれている内容に関する背景知識の理解とあわせて、辞書を用いて、独力で読み進めることができるようになる。

スケジュール

第1回	授業の進め方、学習の仕方等のガイダンス、取り上げるテーマについての説明
第2回	講読 (文法の説明、背景知識の解説等を含む)
第3回	講読 (文法の説明、背景知識の解説等を含む)
第4回	講読 (文法の説明、背景知識の解説等を含む)
第5回	講読 (文法の説明、背景知識の解説等を含む)
第6回	講読 (文法の説明、背景知識の解説等を含む)
第7回	講読 (文法の説明、背景知識の解説等を含む)
第8回	講読 (文法の説明、背景知識の解説等を含む)
第9回	講読 (文法の説明、背景知識の解説等を含む)
第10回	講読 (文法の説明、背景知識の解説等を含む)
第11回	講読 (文法の説明、背景知識の解説等を含む)
第12回	講読 (文法の説明、背景知識の解説等を含む)
第13回	講読 (文法の説明、背景知識の解説等を含む)
第14回	講読 (文法の説明、背景知識の解説等を含む)
第15回	後期のまとめ

教科書・参考文献

教科書 とくなし。講読用のプリントを配布する。

参考書 独和辞典。特に指定しないが、『アクセス独和辞典』(三修社)、『クラウン独和辞典』(三省堂)
『アボロン独和辞典』(同学社)、『郁文堂独和辞典』(郁文堂)など。

授業外での学習

毎授業ごとに、次回までの予習内容および復習内容について指示する。

評価方法

平常点：授業への積極的取組み等(60%)、期末試験(40%)。詳細については、初回授業で説明する。

履修上の注意

期末試験は、特段の理由がない限り、出席回数が3分の2以上の者のみが受験できる。

科目名 フランス語I 1~5

Title French I

科目区分 フランス語

担当教員

担当教員との連絡方法

履修要綱別冊参照

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
前期 または後期

目的

フランス語の文法・語彙・発音などの基礎を身につけ、フランスの文化・社会に関心を持つこと。

言語系科目

達成目標

発音と綴り字の規則に慣れる。名詞の性と数、冠詞、基本的な動詞の活用等を理解し、簡単な文を書けるようにする。挨拶の表現を覚える。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 アルファベ、発音と綴り字
- 第3回 être の直説法現在、形容詞の性と数
- 第4回 名詞の性と数、不定冠詞
- 第5回 avoir の直説法現在
- 第6回 否定文、定冠詞
- 第7回 第一群規則動詞の現在形
- 第8回 疑問文の作り方
- 第9回 指示形容詞・所有形容詞
- 第10回 人称代名詞強勢形
- 第11回 形容詞の女性形と複数形
- 第12回 疑問代名詞・疑問副詞
- 第13回 近接未来・近接過去
- 第14回 前置詞と冠詞の縮約
- 第15回 中性代名詞 y

教科書・参考文献

教科書 教科書『新・東京—パリ、初飛行』藤田裕二 藤田知子 S. Gillet 著 駿河台出版 2017年 [新装改訂二版]

参考書 適宜指示します。

授業外での学習

指示されたテキストの箇所を予習・復習し、次回の授業に備えること。内容は主として、動詞の活用、文法練習問題、会話文の和訳となる。小テストを課すことがある。またNHKラジオのフランス語講座などを利用して、フランス語に触れる時間を増やすこと。

評価方法

平常点(小テスト、受講態度等)40%、期末試験60%の総合で評価。詳細は初回授業で説明します。

履修上の注意

定員40名。定員を超えた場合、初回の授業で抽選を行います。授業の予習・復習を習慣してください。

科目名 フランス語II 1~3

Title French II

科目区分 フランス語

担当教員

担当教員との連絡方法

履修要綱別冊参照

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

フランス語Iに続き、フランス語の文法・語彙・発音などの基礎をさらに身につけ、フランスの文化・社会について理解を深めること。

達成目標

発音と綴り字の規則を覚える。補語人称代名詞、代名動詞等を理解する。また未来時制や過去時制、命令法等を学び、表現の幅を広げる。

スケジュール

- | | |
|------|-------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 非人称動詞と非人称構文 |
| 第3回 | 部分冠詞、数量表現 |
| 第4回 | 中性代名詞 en |
| 第5回 | 補語人称代名詞 |
| 第6回 | 補語人称代名詞 |
| 第7回 | 代名動詞 |
| 第8回 | 代名動詞 |
| 第9回 | 命令法 |
| 第10回 | 命令、義務を表す動詞 |
| 第11回 | 直説法単純未来 |
| 第12回 | 直説法単純未来 |
| 第13回 | 直説法複合過去 |
| 第14回 | 直説法複合過去 |
| 第15回 | まとめ |

教科書・参考文献

教科書 教科書『新・東京—パリ、初飛行』藤田裕二 藤田知子 S. Gillet著 駿河台出版 2017年 [新装改訂二版]

参考書 適宜指示します。

授業外での学習

指示されたテキストの箇所を予習・復習し、次回の授業に備えること。内容は主として、動詞の活用、文法練習問題、会話文の和訳となる。小テストを課すことがある。またNHKラジオのフランス語講座などをを利用して、フランス語に触れる時間を増やすこと。

評価方法

平常点(小テスト、受講態度等)40%、期末試験60%の総合で評価。詳細は初回授業で説明します。

履修上の注意

定員40名。定員を超えた場合、初回の授業で抽選を行います。授業の予習・復習を習慣としてください。

科目名 フランス語IV

Title French IV

科目区分 フランス語

担当教員

担当教員との連絡方法

非常勤講師 田口 宏明 (タグチ ヒロアキ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

フランス語IIIに続き、フランス語の基礎を復習しながら、中級レベルの文法や語彙を学び、フランス語による表現能力を向上させます。また、フランスやフランス語圏についてのさまざまな情報を紹介します。

達成目標

実用フランス語技能検定試験4級に合格できる程度のフランス語能力を身につけることを目指します。

スケジュール

- | | |
|------|------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 強調構文 |
| 第3回 | 中性代名詞 |
| 第4回 | 条件法現在1 |
| 第5回 | 条件法現在2 |
| 第6回 | 条件法過去 |
| 第7回 | 接続法現在1 |
| 第8回 | 接続法現在2 |
| 第9回 | 接続法過去 |
| 第10回 | 時制のまとめ |
| 第11回 | 間接話法 |
| 第12回 | 時制の一致 |
| 第13回 | 前置詞と前置詞句 |
| 第14回 | 接続詞と接続詞句 |
| 第15回 | 上記の内容についてのまとめと総括 |

教科書・参考文献

教科書 藤田裕二著『新・彼女は食いしん坊！2』朝日出版社、2014年

参考書 上記教科書の前編にあたる『彼女は食いしん坊！』を適宜参照の予定

授業外での学習

毎回の授業で練習問題や暗記事項を指示するので、次の授業までに各自取り組んで、学習内容の復習として下さい。

評価方法

平常点(小テスト及び授業中の口頭発表)40%と期末試験60%をもとに総合的に評価します。

履修上の注意

定員40名。定員を超えた場合、初回の授業で抽選を行います。毎回の授業を復習し、指示された課題はきちんとおこなうようにして下さい。

科目名 フランス語文献講読II

Title French ReadingsII

科目区分 フランス語

担当教員
非常勤講師 大池 惣太郎 (オオイケ ソウタロウ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2~4単位区分
選択必修単位数
2開講時期
後期**目的**

【フランス詩を読む②】前期に引き続き、フランス語で書かれた韻文を読みます。後期は、フランス詩のより技術的・方法的な側面について考察します。「詩はファジーな情感を表すもの」と思われるがちですが、実のところ韻文とは驚くほど知的な構築物であり、複雑な情報を短い語数で伝達する高度な言語的方法でもあります。受講者は、フランス詩の読み方、考え方を学びながら、最終的には自分で韻文（フランス詩だけでなく、フランスのポップスやヒップホップを含む）を知的に読み、他人に説明することを試みます。

達成目標

フランス語の音韻規則に馴染み、閑達に発音できるようになること。また、韻文の構造や特徴を理解し、説明する方法を学ぶこと。

スケジュール

- 第1回 フランス詩の読み方、数え方
- 第2回 フランス詩を解説する(1)
- 第3回 フランス詩を解説する(2)
- 第4回 フランス詩を解説する(3)
- 第5回 フランス詩を解説する(4)
- 第6回 フランス詩を解説する(5)
- 第7回 フランス詩を解説する(6)
- 第8回 作品批評の方法
- 第9回 フランス詩を解説する(1)
- 第10回 フランス詩を解説する(2)
- 第11回 フランス詩を解説する(3)
- 第12回 フランス詩を解説する(4)
- 第13回 フランス詩を解説する(5)
- 第14回 フランス詩を解説する(6)
- 第15回 フランス詩を解説する(7)

教科書・参考文献

教科書 とくになし。

参考書 ピエール・ギロー『フランス詩法』(文庫クセジュ、1983)

授業外での学習

発音練習、毎回配布するテクストの予習と復習

評価方法

授業内で行われる小テスト(60%)、および期末レポート(40%)で評価する。

履修上の注意

前期授業「フランス語文献講読I」の履修を行ってください。

科目名 中国語 I 1 ~ 11

Title Chinese I

科目区分 中国語

担当教員

担当教員との連絡方法

履修要綱別冊参照

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
前期 または後期

目的

これから世界においても、中国語圏の人々との交流の重要性が低くなることはないであろう。また、日本語や英語で読める中国語圏の情報は限られており、中国語圏の実情を理解しようとするならば、中国語を学ぶことが最良の道である。この科目ではまず先に発音編で中国式表音ローマ字である「ピンイン」や、「四声」・母音・子音・鼻母音など中国語の基礎的な発音に慣れることを目指す。その後で基本的な挨拶等を学び、本編に入つて様々な語彙や文法事項を学んでいく。また、必要に応じて中国の習慣やマナーなどを紹介する。

達成目標

この科目ではまず中国語の基礎を習得することを達成目標とする。

スケジュール

第1回	イントロダクション（中国語の特徴、学習上の注意、「簡体字」「ピンイン」など）[場合によっては抽選]
第2回	発音の基礎（1）中国語の音節構造、声調、单母音など
第3回	発音の基礎（2）複母音、子音①など
第4回	発音の基礎（3）子音②など
第5回	発音の基礎（4）鼻音、軽声、声調変化、あいさつなど
第6回	中間の復習・練習など
第7回	第1課「你好！」
第8回	第1課「你好！」
第9回	第1課「你好！」
第10回	第2課「学校」
第11回	第2課「学校」
第12回	第2課「学校」
第13回	第3課「新宿」
第14回	第3課「新宿」
第15回	第3課「新宿」

教科書・参考文献

教科書 相原茂・陳淑梅・飯田敦子著『初級テキスト 日中のぶくみ広場』（朝日出版社）

参考書 中日辞典（講談社、東方書店、小学館、大修館書店を推薦）、相原茂他『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書』（同学社）等。その他、授業中に随時紹介する。

授業外での学習

授業について行くためには、宿題をこなすだけでなく、毎週一定量の予習と復習が必須。その際、教科書附属の音声教材も併用し、複数の辞書・参考書の説明や用例を参照すれば、より学習効果が向上する。

評価方法

平常点（宿題・提出物、小テスト、授業中の発言、受講態度など）4割程度、期末試験6割程度。詳細は初回授業で説明する。

履修上の注意

1クラスの履修者数の定員は40名。履修希望者が多数の場合は、初回の授業で抽選を行うことがあるため、履修希望者は必ず初回の授業に出席すること。また、上記のスケジュールは目安であり、授業の進行状況によって変更する場合もある。

科目名 中国語II 1~9

Title Chinese II

科目区分 中国語

担当教員

担当教員との連絡方法

履修要綱別冊参照

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
前期または後期

目的

これから世界においても、中国語圏の人々との交流の重要性が低くなることはないであろう。また、日本語や英語で読める中国語圏の情報は限られており、中国語圏の実情を理解しようとするならば、中国語を学ぶことが最良の道である。この科目では、前期「中国語I」で学んだ内容を踏まえ、引き続き中国語の様々な語彙・文法事項・表現を学んでいく。また、必要に応じて中国の習慣やマナーなども紹介する。

達成目標

この科目では「中国語I」で学んだ内容を土台として中国語の基礎を固め、更に多様な語彙、文法、表現を習得することを達成目標とする。

スケジュール

第1回	イントロダクション[場合によっては抽選]、第4課「买相机」
第2回	第4課「买相机」
第3回	第4課「买相机」
第4回	第5課「谈家庭」
第5回	第5課「谈家庭」
第6回	第5課「谈家庭」
第7回	第6課「富士山」
第8回	第6課「富士山」
第9回	第6課「富士山」
第10回	第7課「咖啡馆」
第11回	第7課「咖啡馆」
第12回	第7課「咖啡馆」
第13回	第8課「街上」
第14回	第8課「街上」
第15回	第8課「街上」

教科書・参考文献

教科書 相原茂・陳淑梅・飯田敦子著『初級テキスト 日中のぶくみ広場』(朝日出版社)

参考書 中日辞典(講談社、東方書店、小学館、大修館書店を推薦)、相原茂他『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書』(同学社)等。その他、授業中に随時紹介する。

授業外での学習

授業について行くためには、宿題をこなすだけでなく、毎週一定量の予習と復習が必須。その際、教科書附属の音声教材も併用し、複数の辞書・参考書の説明や用例を参考すれば、より学習効果が向上する。

評価方法

平常点(宿題・提出物、小テスト、授業中の発言、受講態度など)4割程度、期末試験6割程度。詳細は初回授業で説明する。

履修上の注意

1クラスの履修者数の定員は40名。履修希望者が多数の場合は、初回の授業で抽選を行うことがあるため、履修希望者は必ず初回の授業に出席すること。また、上記のスケジュールは目安であり、授業の進行状況によって変更する場合もある。

科目名 中国語IV
 Title Chinese IV
 科目区分 中国語

担当教員
 非常勤講師 廖 海涛 (リョウ カイトウ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

これから世界においても、中国語圏の人々との交流の重要性が低くなることはないであろう。また、日本語や英語で読める中国語圏の情報は限られており、中国語圏の実情を理解しようとするならば、中国語を学ぶことが最良の道である。この科目では「中国語III」までに習った内容を踏まえて、中国で旅行あるいは生活できる程度の実用的な運用能力の鍛錬を目的とする。また、中国語で手紙や電子メールを書く練習も行う。他に、必要に応じて中国の習慣やマナーなども紹介する。

達成目標

「中国語III」までに習った内容を基礎に、中国語の実践的な運用能力を伸ばすことを達成目標とする。

スケジュール

第1回	イントロダクション
第2回	第14課 「机场外边」
第3回	第14課 「机场外边」
第4回	第14課 「机场外边」
第5回	第15課 「饭店」
第6回	第15課 「饭店」
第7回	第15課 「饭店」
第8回	第16課 「房间内」
第9回	第16課 「房间内」
第10回	第16課 「房间内」
第11回	中国語で手紙・電子メールを書く (1) 文例講読①
第12回	中国語で手紙・電子メールを書く (2) 文例講読②、作文練習
第13回	中国語で手紙・電子メールを書く (3) 作文練習
第14回	復習と応用 (1) 会話練習1
第15回	復習と応用 (2) 会話練習2

教科書・参考文献

教科書 相原茂・陳淑梅・飯田敦子著『初級テキスト 日中いぶこみ広場』(朝日出版社)

参考書 講談社『中日辞典』『日中辞典』、東方書店『東方中国語辞典』、小学館『中日辞典』『日中辞典』相原茂他『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書』(同学社)等。他は授業中に指示。

授業外での学習

授業について行くためには、宿題をこなすだけでなく、毎週一定量の予習と復習が必須。その際、教科書附属の音声教材も併用し、複数の辞書・参考書の説明や用例を参照すれば、より学習効果が向上する。また、現代中国語の総合的学習の一環として、「中国語文獻講読」の履修も推奨する。

評価方法

平常点(宿題・提出物、小テスト、授業中の発言、受講態度など)4割程度、期末試験6割程度。詳細は初回授業で説明する。

履修上の注意

1クラスの履修者数の定員は40名。履修希望者が多数の場合は、初回の授業で抽選を行うことがあるため、履修希望者は必ず初回の授業に出席すること。また、上記のスケジュールは目安であり、授業の進行状況によって変更する場合もある。

科目名 中国語文献講読II
Title Chinese Readings II
科目区分 中国語

担当教員
非常勤講師 笠見 弥生 (カサミ ヤヨイ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

中国語を学ぶ以上、教科書に載っている文章だけでなく、実際に中国の人人が読んでいる文章を理解できるようにならなければ、本当の中国語力を身につけたとは言えないだろう。本授業では、中国で出版された書籍に掲載された長めの文章を講読し、中国語の文章の読解能力を向上させるとともに、書かれた内容を通して中国の文化や実情に対する理解を深めることを目的とする。

達成目標

現代中国語で書かれた長めの文章を講読することによって、中国語の文章の読解能力を伸ばすとともに、中国の文化や実情を理解することを達成目標とする。

スケジュール

第1回	冰心『寄小读者』講読(1)
第2回	冰心『寄小读者』講読(2)
第3回	冰心『寄小读者』講読(3)
第4回	冰心『寄小读者』講読(4)
第5回	冰心『寄小读者』講読(5)
第6回	冰心『寄小读者』講読(6)
第7回	冰心『寄小读者』講読(7)
第8回	冰心『关于女人』講読(1) 「择偶的条件」①
第9回	冰心『关于女人』講読(2) 「择偶的条件」②
第10回	冰心『关于女人』講読(3) 「我的房东」①
第11回	冰心『关于女人』講読(4) 「我的房东」②
第12回	冰心『关于女人』講読(5) 「我的房东」③
第13回	冰心『关于女人』講読(6) 「我的房东」④
第14回	冰心『关于女人』講読(7) 「我的房东」⑤
第15回	冰心『关于女人』講読(8) 「我的房东」⑥

教科書・参考文献

教科書 特になし。プリントを配布する。

参考書 中日辞典（講談社、東方書店、小学館、三省堂、大修館書店を推薦）、商務印書館『现代汉语词典』など。その他、授業中に適宜指示する。

授業外での学習

授業の性質上、予習は必須。辞書等を用いて予習してくること。授業においては、基本的に原文を現代中国語で音読してから、その内容を日本語訳してもらう。そのため、履修者は「中国語」科目履修済みか履修中であること。

評価方法

受講状況（全体の成績の15%）と予習を含む授業内の発表（30%）、期末試験（55%）。詳細は授業中に説明する。

履修上の注意

辞書は毎回持参すること。紙媒体のものか電子辞書かは問わないが、紙媒体をより推奨する。なお、上記のスケジュールはあくまで目安であり、授業の進行状況によって変更する場合がある。

科目名 ハングルI 1~6

Title Korean I

科目区分 ハングル

担当教員

担当教員との連絡方法

履修要綱別冊参照

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
前期 または後期

目的

過去においても現在においても、日本と朝鮮半島は歴史的にも経済的にも深い関係にある。
本授業ではハングルを通じて、朝鮮半島を知り、相互理解を深めることを目的とする。

言語系科目

達成目標

韓国語の読み書きができる。
はい、いいえで答えられる程度の簡単な会話ができる。

スケジュール

第1回	ガイダンス
第2回	1課 基本母音字母と合成母音字母（1）
第3回	2課 基本子音字母
第4回	3課 合成母音字母（2）
第5回	4課 パッチム①
第6回	4課 パッチム②
第7回	韓国語の発音
第8回	5課 私は～です①
第9回	5課 私は～です②
第10回	映画学習①
第11回	映画学習②
第12回	かしこまったく「です」「ます」体
第13回	6課 時間ありますか？①
第14回	6課 時間ありますか？②
第15回	復習

教科書・参考文献

教科書 『最新チャレンジ韓国語』（白水社）

参考書 なし

授業外での学習

次回授業時までに前回分の復習を必ずすること。テキスト付属のCDを活用し、テキストの読みを練習すること。

評価方法

出席及び平常点20%・中間試験30%・定期試験50%

履修上の注意

定員40名。定員を超えた場合、初回の授業で抽選を行う。ハングルを初めて学習する者、入門レベル程度の者の受講を勧める。予習・復習は欠かさないこと。

科目名 ハングルII 1・2

Title Korean II

科目区分 ハングル

担当教員

担当教員との連絡方法

履修要綱別冊参照

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

日本と朝鮮半島は歴史的、経済的に深い関係にある。本授業ではハングルを通じて朝鮮半島を知り、相互理解を深めることを目的とする。

達成目標

韓国語の読み書きができる。韓国語で簡単な会話ができる。ハングル検定5級程度の習得をめざす。

スケジュール

第1回	ガイダンス
第2回	前期の復習
第3回	7課 これは何ですか？①
第4回	7課 これは何ですか？②
第5回	8課 日曜日に何をしますか？①
第6回	8課 日曜日に何をしますか？②
第7回	韓国語の数字
第8回	9課 何が好きですか？
第9回	9課 変則用言
第10回	10課 週末に何をしましたか？①
第11回	10課 週末に何をしましたか？②
第12回	映画学習①
第13回	映画学習②
第14回	復習①
第15回	復習②

教科書・参考文献

教科書 『最新チャレンジ韓国語』(白水社)

参考書 なし。

授業外での学習

次回授業時までに前回分の復習を必ずすること。テキスト付属のCDを活用し、テキストの読みを練習すること。

評価方法

平常点20%、小テスト30%、期末試験50%

履修上の注意

定員40名。定員を超えた場合、初回の授業で抽選を行う。ハングルIを履修済み、ないし同等の語学能力を備えた者のみ履修を許可する。予習・復習は欠かさないこと。次年度にハングルIIIを継続受講することを奨励する。

科目名 ハングルIV
Title Korean IV
科目区分 ハングル

担当教員
非常勤講師 河 正一 (ハ ジヨンイル)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

本授業は、ハングルIIもしくはハングルIIIの履修を終え、ハングルの正確な読み書きや基本文型を身につけたと
いう前提で、日常よく使われる表現や、覚えておけば役に立つ便利な表現等、日常会話のスキルを身につけさせ
ることを目的とする。すなわち、初級レベルを終えた学生に対してより多様な日常表現を習得させ、ハングル検
定3級（韓国能力試験3級と同等）を身につけさせる。

達成目標

日常会話や意思表現ができるような言語運用能力の土台を作る。
作文練習を通じ、正確なハングルの表記を習得する。
会話練習を通して、日常会話のスキルを身につける。
韓国語能力試験3級レベルのコミュニケーション運用能力を習得する。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：ハングルIIIのまとめ
第2回 第7課 文法
第3回 第7課 会話
第4回 第8課 文法
第5回 第8課 会話
第6回 第9課 文法
第7回 第9課 会話
第8回 ちょこチャレ③ いちど行ってみてください。
第9回 第10課 文法
第10回 第10課 会話
第11回 第11課 文法
第12回 第11課 会話
第13回 第12課 文法
第14回 第12課 会話
第15回 ちょこチャレ④ 今では韓国の「情」を感じます。

教科書・参考文献

教科書 金順玉・阪堂千津子・崔栄美（2017）『ちょこっとチャレンジ！韓国語《改訂版》』本体2,400円
+税

参考書 斎藤明美（2005）『ことばと文化の日韓比較—相互理解をめざして』世界思想社、1995円（税込み）
任栄哲（2004）『箸とチョッカラク—ことばと文化の日韓比較』大修館書店、1890円（税込み）

授業外での学習

前回授業分の復習をしっかりすること。

評価方法

授業への参加度40%、小テスト30%、期末試験30%
詳細については初回授業で説明する。

履修上の注意

定員40名。定員を超えた場合、初回の授業で抽選を行う。ハングルIIもしくはIIIを履修した上で履修するのが望
ましい。または、それと同等の語学能力を備えた場合に履修可能。

科目名 スペイン語I 1~6

Title Spanish I

科目区分 スペイン語

担当教員
履修要綱別冊参照

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 前期 または後期
-------------	--------------	----------	------------------

目的

文字と発音でスペイン語を読めるようになります。主に事物を表す名詞には性と数がありますが、それを修飾する形容詞、冠詞も同様です。文の主語には、人称と数の区別のある主語代名詞があります。主語と補語をつなぐいわゆる「be動詞」は現在形だけで6つの形があります。また、「be動詞」は3種類あるので、その区別を学びます。平叙文以外の、疑問文や否定文を学び、疑問詞を確認しましょう。「AはBである」が表現できたら、身の回りのこと、たとえば、自分、家族や友人などを描写できるように他の動詞、英語のいわゆる「一般動詞」の直説法現在形を学びます。3種類の原形があること、規則(活用の)動詞と不規則(活用の)動詞があることを学びましょう。自動詞、他動詞の区別を確認し、人が目的語のときにつく前置詞の“a”を学びます。そのほか、名詞を修飾する指示形容詞と所有形容詞や、日付や天候の表し方なども学びます。

達成目標

さまざまな間柄で「挨拶」ができる。自分や他者を「紹介」し、「職業、身分、国籍、特徴」を描写できる。人物の「気分」や事物の「状態」「存在」と「所在」を表現できる。1~100の「数字」で、年齢、電話番号などを表現できる。「時刻」、「日付」、「月」、「曜日」について表現できる。あるテーマの動作や状態などが表現、描写、質問、否定できる。名詞について、どこにある、誰のものであるか表現できる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス(履修者数制限のため場合により抽選を実施)
- 第2回 文字と発音I
- 第3回 文字と発音II
- 第4回 名詞、冠詞、主語代名詞I
- 第5回 名詞、冠詞、主語代名詞II
- 第6回 ser動詞I
- 第7回 ser動詞II、形容詞の性と数、疑問文と否定文
- 第8回 estar動詞、hay動詞
- 第9回 ser動詞とestar動詞とhay動詞の比較、指示形容詞
- 第10回 ar動詞の直説法現在、疑問詞の用法
- 第11回 間接目的語につく前置詞a、直接目的語が人間の場合につく前置詞a
- 第12回 er動詞の直説法現在、ir動詞の直説法現在I
- 第13回 er動詞の直説法現在、ir動詞の直説法現在II
- 第14回 所有形容詞の短縮形(前置形)、所有形容詞の完全形(後置形)
- 第15回 今学期のまとめ

教科書・参考文献

教科書 青砥清一ほか. 2014.『プラサ・マヨール 改訂ソフト版 -ベーシック・スペイン語-』. 朝日出版社.

参考書

授業外での学習

文法の予習・復習のみではなく、スペイン語圏の文化にも普段から接触するような態度を望みます。現在、インターネットなどで以前より比較的容易に情報が得られるので実際のスペイン語にも触れやすいです。その際には、当該サイトのソース(出所、情報源、引用元等)を常に確認するようにしましょう。

評価方法

出席、課題などの「平常点」50%
期末試験などの「考查点」50%

履修上の注意

定員40名。定員を超えた場合、第1回の授業で抽選を行います。第1回の授業には必ず出席してください。この科目はスペイン語を初めて学習する学生が対象です。既習、未習は問いません。語学の学習は授業のみでなく、より良い理解のためには予習と復習が求められます。新出単語などは事前に調べ、既習項目は分からぬ箇所を残さず、また未習項目に備えて暗記しましょう。

科目名 スペイン語II 1~4

Title Spanish II

科目区分 スペイン語

担当教員

履修要綱別冊参照

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

文の中の直接目的語と間接目的語は、それより短い直接目的人称代名詞と間接目的人称代名詞で置換できます。このうち後者を用いれば、趣味や嗜好を表すgustar動詞が学べます。副詞と接続詞を学ぶと、動詞に修飾を加えたり要素間の論理関係を明確にしたりできます。動詞では、規則動詞以外の不規則動詞を使い、依頼したり、許可を得たり、天候・気候を表したり、年齢を尋ねたり、未来を描写したりといった表現、例文や用例をみていきます。動詞には、規則と不規則という形の上での分類以外にも、自動詞、他動詞や再帰動詞といった意味的な分類があるので、辞書を参考しつつ学びましょう。再帰動詞を使った「人は一般的に～する」という無人称文や、感嘆文を学びつつ、これらの文法項目をもとに和文西訳および西文和訳にも挑戦しましょう。最後に、現在完了形を学ぶと、自分や相手、第三者などの動作、状態の完了や経験の意味を表現できるようになります。

達成目標

自動詞、他動詞を区別し、直接目的人称代名詞を理解する。自分や他人の日常生活での動作や状態を、動詞を使って描写し感嘆できる。自分や他人の趣味や嗜好が表現できる。PODER動詞で依頼や許可を表現できる。TENER動詞で年齢、事物の数量、家族を表現できる。HACER動詞で天気、天候、気候を描写できる。IR動詞で未来を表現できる。再帰動詞で一般的なことを表現できる。自分や他人が完了したり経験したりしたことを表現できる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス(履修者数制限のため場合により抽選を実施)、「スペイン語I」の復習
- 第2回 目的格人称代名詞I
- 第3回 目的格人称代名詞II
- 第4回 gustar型動詞
- 第5回 語根母音変化動詞I
- 第6回 語根母音変化動詞II
- 第7回 quererとpoderの用法
- 第8回 1人称単数形が不規則な動詞、haceの用法
- 第9回 その他の不規則動詞
- 第10回 再帰動詞I
- 第11回 再帰動詞II、無人称文、感嘆文
- 第12回 過去分詞
- 第13回 直説法現在完了I
- 第14回 直説法現在完了II、現在分詞
- 第15回 今学期のまとめ

教科書・参考文献

教科書 青砥清一ほか. 2014. 『プラサ・マヨール 改訂ソフト版 -ベーシック・スペイン語-』. 朝日出版社.

参考書

授業外での学習

文法の予習・復習のみではなく、スペイン語圏の文化にも普段から接触するような態度を望みます。現在、インターネットなどで以前より比較的容易に情報が得られるので実際のスペイン語にも触れやすいです。その際には、当該サイトのソース(出所、情報源、引用元等)を常に確認するようにしましょう。

評価方法

出席、課題などの「平常点」50%
期末試験などの「考查点」50%

履修上の注意

定員40名。定員を超えた場合、第1回の授業で抽選を行います。第1回の授業には必ず出席してください。本科目をとる予定の学生は、「スペイン語I」を履修済みであること。語学の学習は授業のみでなく、より良い理解のためには予習と復習が求められます。新出単語などは事前に調べ、既習項目は分からぬ箇所を残さず、また未習項目に備えて暗記しましょう。

科目名 スペイン語IV
Title Spanish IV
科目区分 スペイン語

担当教員
非常勤講師 山本 浩史 (ヤマモト ヒロシ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

未来形と過去未来形を学ぶことで、スペイン語の時制についてより深く知るとともに、感情や意思を表す際に使う接続法について学んでゆく。直説法と接続法の違いはスペイン語のみならずヨーロッパ系の言語の多くで共通があるので、これを学んでおく意義は大きい。

達成目標

未来や推測について、また感情や意思表示をスペイン語で理解できるようになる。また簡単な作文などができるようになる。

スケジュール

- | | |
|------|-----------|
| 第1回 | 未来形規則活用 |
| 第2回 | 未来形不規則活用 |
| 第3回 | 過去未来形 |
| 第4回 | 直接話法と間接話法 |
| 第5回 | 命令形規則活用 |
| 第6回 | 命令形不規則活用 |
| 第7回 | 命令形 + 代名詞 |
| 第8回 | 接続法現在1 |
| 第9回 | 接続法現在2 |
| 第10回 | 接続法現在3 |
| 第11回 | 接続法現在4 |
| 第12回 | 接続法過去1 |
| 第13回 | 接続法過去2 |
| 第14回 | 現実的条件文 |
| 第15回 | 非現実的条件文 |

教科書・参考文献

教科書 福井千鶴. 1999. 「España y Latinoamérica de mañana (スペイン語の鍵)」. 大学書林

参考書

授業外での学習

インターネット上で様々なコンテンツがスペイン語で公開されているので、ニュースや流行について調べてみる。

評価方法

授業参加、課題など平常点50%
期末試験など考查点50%

履修上の注意

定員40名。定員を超えた場合、初回の授業で抽選を行います。

科目名 イタリア語II 1~3

Title Italian II

科目区分 イタリア語

担当教員

担当教員との連絡方法

非常勤講師 島津 寛 (シマツ ヒロシ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

伊語学習を通じてイタリア文化、ヨーロッパ文化に対する知識と理解を深め、それを受講者の専門領域の研究に生かすことを目的とします。

言語系科目

達成目標

初級文法の習得

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 過去形・再帰動詞の復習
- 第3回 大過去形の練習
- 第4回 大過去形の練習
- 第5回 遠過去形の練習
- 第6回 遠過去形の練習
- 第7回 接続法の練習
- 第8回 接続法の練習
- 第9回 接続法の練習
- 第10回 接続法の練習
- 第11回 命令形の練習
- 第12回 未来形の練習
- 第13回 条件法の練習
- 第14回 条件法の練習
- 第15回 条件法の練習

教科書・参考文献

教科書 印刷教材を配布します。

参考書

授業外での学習

宿題。音声教材の聞き込み。

評価方法

平常点(宿題履行状況、授業内演習等への参加度)40%、定期試験60%

履修上の注意

定員40名。定員を超えた場合、初回の授業で抽選を行う。予習・復習は欠かさないこと。

科目名 イタリア語IV

Title Italian IV

科目区分 イタリア語

担当教員

担当教員との連絡方法

非常勤講師 島津 寛(シマツ ヒロシ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2~4単位区分
選択必修単位数
2開講時期
後期**目的**

伊語学習を通じてイタリア文化、ヨーロッパ文化に対する知識と理解を深め、それを受講者の専門領域の研究に生かすことを目的とします。

達成目標

実用的な運用能力の習得

スケジュール

第1回	ガイダンス
第2回	聞き取り、会話、作文、テクスト読解の練習
第3回	聞き取り、会話、作文、テクスト読解の練習
第4回	聞き取り、会話、作文、テクスト読解の練習
第5回	聞き取り、会話、作文、テクスト読解の練習
第6回	聞き取り、会話、作文、テクスト読解の練習
第7回	聞き取り、会話、作文、テクスト読解の練習
第8回	聞き取り、会話、作文、テクスト読解の練習
第9回	聞き取り、会話、作文、テクスト読解の練習
第10回	聞き取り、会話、作文、テクスト読解の練習
第11回	聞き取り、会話、作文、テクスト読解の練習
第12回	聞き取り、会話、作文、テクスト読解の練習
第13回	聞き取り、会話、作文、テクスト読解の練習
第14回	聞き取り、会話、作文、テクスト読解の練習
第15回	聞き取り、会話、作文、テクスト読解の練習

教科書・参考文献

教科書 印刷教材を配布します。

参考書

授業外での学習

宿題。音声教材の聞き込み。

評価方法

平常点(宿題履行状況、授業内演習の参加度)40%、定期試験60%

履修上の注意

定員40名。定員を超えた場合、初回の授業で抽選を行う。予習・復習・宿題は欠かさないこと。

科目名 アラビア語の世界
Title Introduction to Arabic Languages
科目区分 諸言語

担当教員
非常勤講師 山下 真吾 (ヤマシタ シンゴ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

目的

アラビア語は、アラビア半島、シリア、パレスチナ、エジプトなどをはじめとする中東や北アフリカなどで使われ、2億人から3億人の話者がいるとされています。またこれらの地域は古い歴史を有すると共に、成長する大きな市場を有し、また同時に国際政治の焦点になることもまれではありません。これらのことから、アラビア語が話されている地域は、これからますます重要になるといえるでしょう。本講義では、言葉から出発したアラブ圏の文化・社会をごく簡単に紹介するほか、アラビア文字、アラビア語の基礎文法を中心に据えて学んでいきます。

達成目標

本講義では、まずアラビア語の基礎知識について、アラビア文字の習得、アラビア文字で書かれた単語や基礎的表現を読んで理解すること、これに関連して初步的な文法を理解することを目標とします。また、アラビア語圏イスラーム文化圏における歴史や現代社会・文化に関する基本的知識を身に付けることも目標とします。

スケジュール

- 第1回 世界の諸言語におけるアラビア語の位置付け、アラビア語とイスラーム文化圏の歴史
第2回 アラビア文字と発音の学習
第3回 アラビア文字と発音の学習
第4回 アラビア文字と発音の学習
第5回 アラビア文字と発音の学習
第6回 アラビア文字と発音の学習
第7回 単語と基礎的表現、文法（名詞文と主格の機能）
第8回 単語と基礎的表現、文法（名詞文と主格の機能）
第9回 単語と基礎的表現、文法（名詞文と属格の機能）
第10回 単語と基礎的表現、文法（名詞文と前置詞）
第11回 単語と基礎的表現、文法（名詞文と前置詞）
第12回 単語と基礎的表現、文法（様々な名詞文）
第13回 単語と基礎的表現、文法（様々な名詞文）
第14回 単語と基礎的表現、文法（動詞文と対格の機能）
第15回 単語と基礎的表現、文法（動詞文と対格の機能）

教科書・参考文献

教科書

参考書 石垣聰子・金子順子著『はじめてのアラビア語』ナツメ社、2010年。

授業外での学習

授業で学習した内容について、授業ノートや配布したプリント類などをよく復習すること。

評価方法

受講状況（40%）、試験（60%）によって評価する。

履修上の注意

アラビア語には、標準語としてのフスハーと、各国方言であるアンニーヤがありますが、本講義ではフスハーを中心で解説します。

科目名 General EnglishII : クラス 1~2

Title General EnglishII

科目区分 英語

担当教員

担当教員との連絡方法

履修要綱別冊参照

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1

単位区分
必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

General Englishは、英語コミュニケーション力の向上を目的とする。学生はリスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、文法、発音などを含む統合的英語学習アクティビティをタスクに積極的に取り組むことを通して、英語の知識を増強し、英語を使用する能力を伸ばす。General English IとIIでは、身の回りのさまざまなトピックに関して、より自由に英語でコミュニケーションをとる力を高める。

達成目標

身の回りのことからについて、英語で詳細に正確にかつ流暢に描写でき、また、英語でスムーズに情報交換できるようになることを目指す。具体的にGeneral English IIでは 1) 様々な価値観、2) 生物の生存、3) 芸術・芸術家をテーマに、自身の意見を発信する能力を養成する。

スケジュール

- | | |
|------|---|
| 第1回 | Introduction |
| 第2回 | Unit 4 Discuss your financial habits and things that people value |
| 第3回 | Unit 4 Talk about banking |
| 第4回 | Unit 4 Talk about different types of wealth |
| 第5回 | Unit 4 Video Journal & Review Test |
| 第6回 | Unit 5 Talk about emergency situations |
| 第7回 | Unit 5 Evaluate survival method, Describe how animals survive |
| 第8回 | Unit 5 Write a brochure |
| 第9回 | Unit 5 Video Journal & Review Test |
| 第10回 | Unit 6 Report what another person said |
| 第11回 | Unit 6 Express your opinions about a piece of art, Describe your favorite artists and their art |
| 第12回 | Unit 6 Talk about public art |
| 第13回 | Unit 6 Video Journal & Review Test |
| 第14回 | Common Speaking Test (スピーキング共通テスト) |
| 第15回 | まとめ |

教科書・参考文献

教科書 World English 3A (Second Edition), Cengage Learning

参考書 授業中に随時紹介する。

授業外での学習

教科書付属のオンライン教材にアクセスし、授業の前後に予習復習する。その他、授業で指示された課題に取り組む。

評価方法

20% : スピーキング共通テスト
80% : 試験(期末テスト、小テストなど)、授業内課題、授業外課題

履修上の注意

遅刻：授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以降は欠席扱いとなる。

遅刻3回で欠席1回とみなす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 General EnglishII : クラス3~10
Title General EnglishII
科目区分 英語

担当教員
履修要綱別冊参照

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

英語または日本語
外国语科目

配当年次
1

単位区分
必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

General Englishは、英語コミュニケーション力の向上を目的とする。リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、文法、発音などを含む統合的英語学習アクティビティをタスクに積極的に取り組むことを通し、英語の知識を増強し、英語運用力を向上させる。General English IとIIでは、身の回りのさまざまなトピックに関して、自由にコミュニケーションをはかれる英語力を身に着ける。

達成目標

次のことについて英語で話し、読み、聞き、表現できるようにする。また必要な語彙を増やし、いろいろな側面から英語で語ることができるようになる。後期は、4. ライフスタイル、5. これからの課題、6. 人生の中での重要な折り返し点、について扱う。

スケジュール

- 第1回 Introduction
- 第2回 Unit 4: The body: talking about your body and your health: p42-47, giving a unprepared talk
- 第3回 Unit 4: p48-51: talking about food as medicine: Dictation test
- 第4回 Unit 4: p52-53: talking about life style and health
- 第5回 Presentation of a speech on the way you maintain your health
- 第6回 Unit 5: p54-59: Challenges: talking about challenges in life
- 第7回 Unit 5: p60-63: talking about your own experience in the challenging situation: Dictation test
- 第8回 Unit 5: p64-65: learning some phrases to describe a personal challenge
- 第9回 Presentation of a speech on your approach to the difficult situation.
- 第10回 Unit 6: p66-73: Traditions: talk about milestones in your life
- 第11回 Unit 6: p74-77: listening to a TED talk about overcoming personal challenges: Dictation test
- 第12回 Unit 6: p78-81: Summary of the course: giving a unprepared talk as a practice
- 第13回 Project preparation: a speech on your experience in this course.
- 第14回 スピーキング共通テスト
- 第15回 Project rehearsal

教科書・参考文献

教科書 World English 2A (Second Edition), Cengage Learning

参考書

授業外での学習

小テストの準備、授業の課題、インターネット上で英語を聞き、英語音声になれる。

評価方法

20% : スピーキング共通テスト、80% : 期末試験(oral presentation)、小テスト、宿題、課題など

履修上の注意

遅刻：授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以降は欠席扱いとなる。遅刻3回で欠席1回とみなす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 General EnglishII : クラス 11 ~ 20
Title General EnglishII
科目区分 英語

担当教員
履修要綱別冊参照

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1	単位区分 必修	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

General Englishは、英語コミュニケーション力の向上を目的とする。学生はリスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、文法、発音などを含む統合的英語学習アクティビティをタスクに積極的に取り組むことを通して、英語の知識を増強し、英語を使用する能力を伸ばす。General English IとIIでは、身の回りのさまざまなトピックに関して、より自由に英語でコミュニケーションをとる力を高める。

達成目標

生活習慣に関する英語表現、いろいろな出来事を表す英語表現、何かを決定する際の英語表現を習得する。

スケジュール

- | | |
|------|--|
| 第1回 | Orientation |
| 第2回 | Unit 10 Give advice on healthy habits |
| 第3回 | Unit 10 Compare lifestyles |
| 第4回 | Unit 10 Ask about lifestyles |
| 第5回 | Unit 10 Evaluate your lifestyles |
| 第6回 | Unit 10 Evaluate your lifestyles, Video Journal |
| 第7回 | Unit 11 Talk about today's chores |
| 第8回 | Unit 11 Interview for a job |
| 第9回 | Unit 11 Talk about personal accomplishments |
| 第10回 | Unit 11 Discuss humanity's greatest achievements |
| 第11回 | Unit 12 Talk about managing your money |
| 第12回 | Unit 12 Make choices on how to spend your money |
| 第13回 | Unit 12 Talk about cause and effect |
| 第14回 | スピーキング共通テスト |
| 第15回 | まとめ |

教科書・参考文献

教科書 World English 1B、 Cengage Learning

参考書 授業中に紹介する。

授業外での学習

教科書付属のオンライン教材にアクセスし、授業の前後に予習復習する。その他、授業で指示された課題に取り組む。

評価方法

20% : スピーキング共通テスト
80% : 試験(期末テスト、小テストなど)、授業内課題、授業外課題

履修上の注意

遅刻：授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以降は欠席扱いとなる。
遅刻3回で欠席1回とみなす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 General EnglishII : クラス 21 ~ 26
Title General EnglishII
科目区分 英語

担当教員
履修要綱別冊参照

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1	単位区分 必修	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

General Englishは、英語コミュニケーション力の向上を目的とする。リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、文法、発音などを含む統合的英語学習アクティビティやタスクに積極的に取り組むことを通し、英語の知識を増強し、英語運用力を向上させる。General English IとIIでは、身の回りのさまざまなトピックに関して、自由にコミュニケーションをはかれる英語力を身に着ける。

達成目標

身の回りのことからについて、英語でその詳細をより流暢かつ正確に描写することができる。また、英語でスムーズに情報交換することができる。

スケジュール

- 第1回 Introduction
- 第2回 Unit 4 Giving a recipe
- 第3回 Unit 4 Ordering a meal and talking about diets
- 第4回 Unit 4 Discuss unusual food
- 第5回 Unit 4 Video journal & Review test
- 第6回 Unit 5 Describing and comparing activities
- 第7回 Unit 5 Talking about favorite sports
- 第8回 Unit 5 Discussing adventures
- 第9回 Unit 5 Video journal & Review test
- 第10回 Unit 6 Discussing past vacations
- 第11回 Unit 6 Describing personal experience
- 第12回 Unit 6 Describing a discovery from the past
- 第13回 Unit 6 Video journal & Review test
- 第14回 共通テスト
- 第15回 Unit 6 TED Talks

教科書・参考文献

教科書 World English 1A (Second Edition) Cengage Learning

参考書 授業中に随時紹介する。

授業外での学習

教科書付属のオンライン教材または付属のワークブックを用いて、授業の前後に学習項目を予習復習する。その他、授業で指示された課題に取り組む。

評価方法

20% : 共通テスト
80% : 試験(期末テスト、小テストなど)、授業内課題、授業外課題(宿題など)

履修上の注意

遅刻：授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以降は欠席扱いとなる。
遅刻3回で欠席1回とみなす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 General EnglishIV : クラス 1~2
Title General EnglishIV
科目区分 英語

担当教員
履修要綱別冊参照

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2	単位区分 必修	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

General Englishは、英語コミュニケーション力の向上を目的とします。学生はリスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、文法、発音など含む、統合的英語学習アクティビティやタスクに積極的に取り組むことを通じて、英語の知識を増強し、英語を使用する能力を伸ばします。General English IIIとIVでは、さまざまな学術的トピックやグローバルな社会問題などを取扱い、問題をより深くクリエイタルに思考する力を養います。そのうえで自分の意見を英語で論理的に表現する力を養います。

達成目標

英語の音声を聞くことに慣れて、相手の言っていることを理解することを目指す。そして、相手の話に対して自己のコメントを英語で表現できる語彙力、文法力、発音力を伸ばすことを目指す。

スケジュール

- 第1回 Introduction
- 第2回 Unit 5 What Risks are Good to Take? (Skills: separating risks and outcomes)
- 第3回 Unit 5 What Risks are Good to Take? (Skills: identifying amounts)
- 第4回 Unit 5 What Risks are Good to Take? (Skills: speaking presentation)
- 第5回 Unit 6 Are we Responsible for the World we Live in? (Skills: inferring a speaker's attitude)
- 第6回 Unit 6 Are we Responsible for the World we Live in? (Skills: building an outline for a discussion)
- 第7回 Unit 6 Are we Responsible for the World we Live in? (Skills: speaking presentation)
- 第8回 Unit 7 Can Money Buy Happiness? (Skills: listening for signposts)
- 第9回 Unit 7 Can Money Buy Happiness? (Skills: agreeing and disagreeing, discussion)
- 第10回 Unit 7 Can Money Buy Happiness? (Skills: discussion)
- 第11回 Unit 8 What can we Learn from Success and Failure? (Skills: listening for examples)
- 第12回 Unit 8 What can we Learn from Success and Failure? (Skills: asking for and giving clarification)
- 第13回 Unit 8 What can we Learn from Success and Failure? (Skills: pair discussion)
- 第14回 共通テスト
- 第15回 Review and preparation

教科書・参考文献

教科書 Q:Skills for Success Listening and Speaking 3. Second Edition. Oxford University Press

参考書

授業外での学習

英語を聞き話す練習、小テスト、授業、課題の準備など

評価方法

20%: 共通テスト
80%: 試験(期末テスト、小テストなど)、授業内課題、授業外課題

履修上の注意

遅刻: 授業開始後 10 分以内に到着した場合を指す。それ以降は欠席扱いとなる。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。欠席回数が全授業の 3 分の 1 を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 General EnglishIV : クラス 3~10
Title General EnglishIV
科目区分 英語

担当教員
履修要綱別冊参照

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

英語または日本語
外国语科目

配当年次
2

単位区分
必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

General Englishは、英語コミュニケーション力の向上を目的とする。学生はリスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、文法、発音など含む、統合的英語学習アクティビティやタスクに積極的に取り組むことを通して、英語の知識を増強し、英語を使用する能力を伸ばす。General English IIIとIVでは、より自然に正確に、英語を理解し英語で表現できるようになるための活動を行う。

達成目標

平易な英語を日本語に訳すことなく理解し、適切な反応ができるようになること。
自分の中にある英語を駆使して自分が伝えたいことを表現できること。

スケジュール

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション (授業の進め方、成績のつけかた、課題、連絡方法などについて) |
| 第2回 | Unit 5 What does it mean to be part of a family? (Listening & Speaking 1) |
| 第3回 | Unit 5 What does it mean to be part of a family? (Listening & Speaking 2) |
| 第4回 | Unit 5 What does it mean to be part of a family? (Unit assignment) |
| 第5回 | Unit 6 Why do things yourself? (Listening & Speaking 1) |
| 第6回 | Unit 6 Why do things yourself? (Listening & Speaking 2) |
| 第7回 | Unit 6 Why do things yourself? (Unit assignment) |
| 第8回 | Mid-term Exam |
| 第9回 | Unit 7 What happens to our trash? (Listening & Speaking 1) |
| 第10回 | Unit 7 What happens to our trash? (Listening & Speaking 2) |
| 第11回 | Unit 7 What happens to our trash? (Unit assignment) |
| 第12回 | Unit 8 How important is cleanliness? (Listening & Speaking 1) |
| 第13回 | Unit 8 How important is cleanliness? (Listening & Speaking 2) |
| 第14回 | 共通テスト |
| 第15回 | Unit 8 How important is cleanliness? (Unit assignment) |

教科書・参考文献

教科書 Q : Skills for Success 'Listening and Speaking 2' 2nd edition (Oxford)

参考書 各教員が指定する。

授業外での学習

毎回予習として事前に教科書に目を通し、知らない単語をすべて辞書で調べてから授業に臨むこと。また毎回宿題が課されるので、必ずそれに取り組むこと。
www.Qonlinepractice.com にアクセスし、オンライン教材に取り組み、さらに進度テストを受けること。

評価方法

共通テスト (20%) 、期末テスト、小テスト、授業への積極的な参加、および授業外課題 (80%)
詳細は初回オリエンテーションで説明する。

履修上の注意

遅刻：授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以降は欠席扱いとなる。遅刻3回で欠席1回とみなす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 General EnglishIV : クラス 11 ~ 20

Title General EnglishIV

科目区分 英語

担当教員
履修要綱別冊参照

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2

単位区分
必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

このコースは General English I から引き続き、リスニングとスピーキングのスキルを更に向上させる。現代英語圏の文化を学びながら様々なトピックについて話せるようになる。

達成目標

今現在、社会で起きているトピックについて、適切な英語で自分の意見を述べる事が出来る。

スケジュール

- 第1回 Introduction and Talking About the Summer Vacation
- 第2回 Unit 5 Why do we enjoy sports? (Skills: Note taking - numbered lists to organize information)
- 第3回 Unit 5 Why do we enjoy sports? (Speaking skill: Asking for and giving opinions)
- 第4回 Unit 5 Why do we enjoy sports? (Skills: Speaking presentations)
- 第5回 Unit 6 When is honesty important? (Skills: Note taking - using abbreviations and symbols)
- 第6回 Unit 6 When is honesty important? (Speaking skill: Sourcing information)
- 第7回 Unit 6 When is honesty important? (Skills: Speaking presentations - survey report)
- 第8回 Unit 7 Is it ever too late to change? (Skills: Listening for different opinions)
- 第9回 Unit 7 Is it ever too late to change? (Speaking skill: Checking for listener's understanding)
- 第10回 Unit 7 Is it ever too late to change? (Skills: Speaking presentations - giving instructions)
- 第11回 Unit 8 When is it good to be afraid? (Skills: Note taking - Cornell method)
- 第12回 Unit 8 When is it good to be afraid? (Speaking skill: Expressing emotion)
- 第13回 Unit 8 When is it good to be afraid? (Skills: Tell a personal story)
- 第14回 共通テスト
- 第15回 Review and Exam Preparation

教科書・参考文献

教科書 Q: Skills Listening and Speaking 1. Second Edition. OUP. ISBN-13: 978-0194818407

参考書 授業中に随時紹介する。

授業外での学習

毎回予習として事前に教科書に目を通し、知らない単語を全て辞書で調べてから授業に臨むこと。また毎回宿題が課されるので、www.Qonlinepractice.com にアクセスし、必ず予習、宿題を行うこと。

評価方法

20%: 共通テスト
80%: 試験(期末テスト、小テストなど)、授業内課題、授業外課題

履修上の注意

遅刻: 授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以降は欠席扱いとなる。
遅刻3回で欠席1回とみなす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 General EnglishIV : クラス 21 ~ 26
Title General EnglishIV
科目区分 英語

担当教員
履修要綱別冊参照

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2	単位区分 必修	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

General Englishは、英語コミュニケーション力の向上を目的とします。学生はリスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、文法、発音など含む、統合的英語学習アクティビティやタスクに積極的に取り組むことを通して、英語の知識を増強し、英語を使用する能力を伸ばします。General English IIIとIVでは、さまざまな学術的トピックやグローバルな社会問題などを取扱い、問題をより深くクリエイティブに思考する力を養います。そのうえで自分の意見を英語で論理的に表現する力を養います。

英語または日本語
外国语科

達成目標

英語の音声を聞くことに慣れて、相手の言っていることを理解することを目指す。そして、相手の話に対して自己のコメントを英語で表現できる語彙力、文法力、発音力を伸ばすことを目指す。

スケジュール

- 第1回 Introduction
- 第2回 Unit 6 Listening
- 第3回 Unit 6 Listening-dictation test
- 第4回 Unit 6 Speaking-short presentation
- 第5回 Unit 7 Listening
- 第6回 Unit 7 Speaking-dictation test
- 第7回 Unit 8 Listening
- 第8回 Unit 8 Listening-dictation test
- 第9回 Unit 8 Speaking-short presentation
- 第10回 Unit 9 Listening
- 第11回 Unit 9 Speaking-dictation test
- 第12回 Unit 10 Listening
- 第13回 Unit 10 Speaking-dictation test
- 第14回 CST (Common Speaking Test)
- 第15回 Review

教科書・参考文献

教科書 Q:skills for Success Listening and Speaking Intro. Second Edition. Oxford University Press

参考書 授業中に随時紹介する。

授業外での学習

英語を聞き話す練習、小テスト、授業、課題の準備など

評価方法

20% : スピーキング共通テスト
80% : 試験 (期末試験、小テストなど)、授業内課題、授業外課題

履修上の注意

遅刻：授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以降は欠席扱いとなる。遅刻3回で欠席1回とみなす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 Business EnglishII : クラス 1~2

Title Business EnglishII

科目区分 英語

担当教員

担当教員との連絡方法

履修要綱別冊参照

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1

単位区分
必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

Business English II コースは、職場で不可欠な英語によるコミュニケーションスキルの向上を目指す。ビジネスミーティング、会議でのメモの取り方、短くても効果的なプレゼンテーションのやり方も学ぶ。

達成目標

Business English II コースは、4つのスキル(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング)を習得。リーディングとライティングはホームワークが中心となり、授業では主にリスニング、スピーキング、プレゼンテーションに力を置く。

スケジュール

- 第1回 Introduction to Business English II
- 第2回 Unit 5 Getting your message across: talking about communication media
- 第3回 Unit 5 Grammar focus: past perfect
- 第4回 Unit 5 Listening and speaking: listening to business news + vocabulary
- 第5回 Unit 6 Meeting and discussions: planning an international conference
- 第6回 Unit 6 Grammar focus: review of goingto and will-future
- 第7回 Unit 6 Listening and speaking: closing a meeting + vocabulary
- 第8回 MINI TOEIC test
- 第9回 Unit 7 Presentations: the dos and don'ts of presentations
- 第10回 Unit 7 Grammar focus: the passive
- 第11回 Unit 7 Listening and speaking: how was my presentation? + vocabulary
- 第12回 MINI TOEIC test
- 第13回 Prepare the common test
- 第14回 共通テスト
- 第15回 Prepare the final presentation: promoting the book you were most impressed.

教科書・参考文献

教科書 Business Plus Level 3, Cambridge ISBN: 978-1-107-66187-5

参考書 授業中に随時紹介する。

授業外での学習

教科書の各ユニットを予習し、授業を受ける前には、新しい語彙を調べておく事。

評価方法

20% 共通テスト 80% 試験(期末テスト、小テストなど)、授業内課題、授業外課題(Extensive Reading 10%を含む)

履修上の注意

遅刻：授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以降は欠席扱いとなる。

遅刻3回で欠席1回とみなす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 Business EnglishII : クラス 3~10

Title Business EnglishII

科目区分 英語

担当教員
履修要綱別冊参照

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1	単位区分 必修	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

Business Englishコースは、社会にて即戦力となる英語力を身に着けることを目的としている。Business English IとIIでは、ビジネスにおいて基本的かつ不可欠なコミュニケーションスキルの向上を目指す。リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの4技能の育成に加え、グローバル社会における異文化理解も深める。

達成目標

ビジネスの場でよく使われる語彙、表現を習得し、実践でスムーズに使えるようになることを目指す。具体的にBusiness English IIでは、1)銀行とのやり取り、2)キャリア設計、3)クレームの対応、4)ビジネスの社交辞令、5)会議の進行といったテーマを扱う。

スケジュール

- 第1回 Introduction
- 第2回 Unit 6: p45-49
- 第3回 Unit 6: p50-54
- 第4回 TOEIC practice (特にSpeakingとWritingに重点を置く)
- 第5回 Unit 7: p55-59
- 第6回 Unit 7: p60-62
- 第7回 Unit 8: p63-67
- 第8回 Unit 8: p68-72
- 第9回 TOEIC practice (特にSpeakingとWritingに重点を置く)
- 第10回 Unit 9: p73-77
- 第11回 Unit 9: p78-80
- 第12回 Unit 10: p81-85
- 第13回 Unit 10: p86-90
- 第14回 Common Written Test (共通テスト)
- 第15回 まとめ TOEIC practice (特にSpeakingとWritingに重点を置く)

教科書・参考文献

教科書 Business Plus 2, Cambridge University Press

参考書 授業中に随時紹介する。

授業外での学習

小テストの準備、授業の課題

評価方法

20%: 共通テスト

80%: 試験(期末テスト、小テストなど)、授業内課題、授業外課題(Extensive Reading 10%を含む)

履修上の注意

遅刻: 授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以降は欠席扱いとなる。

遅刻3回で欠席1回とみなす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 Business EnglishII : クラス 11 ~ 20
Title Business EnglishII
科目区分 英語

担当教員
履修要綱別冊参照

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1	単位区分 必修	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

Business Englishコースは、社会にて即戦力となる英語力を身に着けることを目的としている。Business English IとIIでは、ビジネスにおいて基本的かつ不可欠なコミュニケーションスキルの向上を目指す。リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの4技能の育成に加え、グローバル社会における異文化理解も深める。

達成目標

仕事で使う英語に慣れ、英語で対応できるようにする。後期は、1)銀行での支払い、2)将来について、3)苦情への対応、4)ネットワーキング、5)会議の司会、を扱う。

スケジュール

- 第1回 Introduction to Business English II
- 第2回 Unit 6: How would you like to pay?: banks and their services
- 第3回 Unit 6: Grammar + listening and speaking in the bank
- 第4回 Unit 6: Vocabulary focus
- 第5回 Unit 7: Future trends: searching for top jobs for the future
- 第6回 Unit 7: Grammar + listening and speaking about the future of education
- 第7回 Unit 7: Vocabulary focus
- 第8回 MINI TOEIC test
- 第9回 Unit 8: When things go wrong: dealing with a complaint
- 第10回 Unit 8: Grammar + listening and speaking about making complaints
- 第11回 Unit 8: Vocabulary focus
- 第12回 MINI TOEIC test
- 第13回 Preparation of the common test
- 第14回 共通テスト
- 第15回 Preparation of a speech on the book you would like to promote

教科書・参考文献

教科書 Business Plus 2 Cambridge University Press

参考書

授業外での学習

小テストの準備、授業の課題

評価方法

20% 共通テスト 80% 試験(期末テスト、小テストなど)、授業内課題、授業外課題(Extensive Reading 10%を含む)

履修上の注意

遅刻：授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以降は欠席扱いとなる。遅刻3回で欠席1回とみなす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 Business EnglishII : クラス 21 ~ 26

Title Business EnglishII

科目区分 英語

担当教員

担当教員との連絡方法

履修要綱別冊参照

学内ポータルサイトのシラバス参照

英語または日本語
外国语科

配当年次
1

単位区分
必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

Business Englishコースは、社会に出て即戦力となる英語力を身に着けることを目的とする。Business English IとIIでは、ビジネスにおいて基本的かつ不可欠なコミュニケーションスキルの向上を目指す。リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの4技能の育成に加え、グローバル社会における異文化理解も深める。

達成目標

ビジネスのシチュエーションでよくつかわれる基本的な語彙や表現を身につけ、使えるようになること。社会で使われている「ツールとしての英語」に慣れ、理解できるようになること。英語で自分の意志や意見を伝えることに慣れること。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション（成績の付け方、授業の進め方、課題、連絡方法について）
第2回 Unit 5 What are you doing tomorrow? (Business Situation, Grammar Focus)
第3回 Unit 5 What are you doing tomorrow? (Listening & Speaking, Vocabulary Focus)
第4回 Unit 5 What are you doing tomorrow? (Reading, Culture Focus)
第5回 Unit 6 Out and about (Business Situation, Grammar Focus)
第6回 Unit 6 Out and about (Listening & Speaking, Vocabulary Focus)
第7回 Unit 6 Out and about (Reading, Business Writing)
第8回 Mid-term Exam
第9回 Unit 7 Tell me about your company (Business Situation, Grammar Focus)
第10回 Unit 7 Tell me about your company (Listening & Speaking, Vocabulary Focus)
第11回 Unit 7 Tell me about your company (Reading, Culture Focus)
第12回 Unit 8 Let's eat out (Business Situation, Grammar Focus)
第13回 Unit 8 Let's eat out (Listening & Speaking, Vocabulary Focus)
第14回 共通テスト
第15回 Unit 8 Let's eat out (Reading, Business Writing)

教科書・参考文献

教科書 Business Plus I (Cambridge University Press)

参考書 授業内で適宜指示する。

授業外での学習

毎回、授業で指定される範囲にあらかじめ目を通し、分からぬ單語の意味を調べておくこと。
宿題は必ずすること。

評価方法

共通テスト:20% , 授業内課題(中間・期末テスト、小テスト、授業への積極的な参加など) + 授業外課題(宿題):70%, Extensive Reading: 10%

履修上の注意

教科書を忘れた場合は、授業前に友人に教科書を借りてコピーを取り持参すること。

遅刻：授業開始後10分以内に到着した場合。それ以降は欠席扱いとなる。

遅刻3回で欠席1回と見なす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合単位を認定しない。

科目名 Business EnglishIV : クラス 1~2

Title Business EnglishIV

科目区分 英語

担当教員

担当教員との連絡方法

履修要綱別冊参照

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2単位区分
必修単位数
2開講時期
後期**目的**

Business Englishコースは、社会にて即戦力となる英語力を身に着けることを目的とする。Business I, IIで学んだビジネスにおいて英語コミュニケーションスキル、ビジネス用語などの知識を強固にし、さらに問題解決のためのディスカッションやビジネスプレゼンテーションの方法を学ぶ。

達成目標

- ・ビジネスの現場で用いられる語彙やフレーズを学び、これを適切な文脈で用いることができる。
- ・改まった表現から日常的な話し言葉まで、場面に合わせた表現を用いることができる。

スケジュール

第1回	オリエンテーション（成績の付け方、授業の進め方、課題、連絡方法について）
第2回	5 Customers (working with words, language at work)
第3回	5 Customers (practically speaking, business communication)
第4回	5 Customers (case study, summary)
第5回	6 Guests & Visitors (working with words, language at work)
第6回	6 Guests & Visitors (practically speaking, business communication)
第7回	6 Guests & Visitors (case study, summary)
第8回	Mid-term exam
第9回	8 Working together (working with words, language at work)
第10回	8 Working together (practically speaking, business communication)
第11回	8 Working together (case study, summary)
第12回	10 Facilities (working with words, language at work)
第13回	10 Facilities (practically speaking, business communication)
第14回	共通テスト
第15回	10 Facilities (case study, summary)

教科書・参考文献

教科書 Business Result Intermediate 1st Edition (Oxford University Press)

参考書 授業中に適宜指示する。

授業外での学習

授業の前後に予習復習する。授業で指示された課題に取り組む。

評価方法20%: 共通テスト
80%: 試験(期末テスト、小テストなど)、授業内課題、授業外課題**履修上の注意**

遅刻：授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以降は欠席扱いとなる。遅刻3回で欠席1回とみなす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 Business English IV : クラス 3~10

Title Business English IV

科目区分 英語

担当教員

担当教員との連絡方法

履修要綱別冊参照

学内ポータルサイトのシラバス参照

英語または日本語
外国语科目

配当年次
2

単位区分
必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

Business English IV コースは、職場で不可欠な英語によるコミュニケーションスキルの向上を目指す。ビジネスミーティング、会議でのメモの取り方、短くても効果的なプレゼンテーションのやり方も学ぶ。

達成目標

Business English IV コースは、4つのスキル(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング)を習得。リーディングとライティングはホームワークが中心となり、授業では主にリスニング、スピーキング、プレゼンテーションに力を置く。

スケジュール

- 第1回 Unit 6 Using Innovation – Describing problems and finding solutions
- 第2回 Unit 6 Presentations 2: Structuring a talk
- 第3回 Preparing for presentations
- 第4回 Presentations
- 第5回 Unit 7 Work Styles and Careers – Discussing and reaching agreement
- 第6回 Unit 7 Emails 2: Job applications
- 第7回 Unit 8 Processes – Checking understanding and clarifying
- 第8回 Unit 8 Processes – Time management
- 第9回 Unit 9 The Business of Sport – Changing Plans
- 第10回 Unit 9 Describing personal qualities at work
- 第11回 Unit 10 Great partnerships – Catching up
- 第12回 Unit 10 Teleconferencing and videoconferencing
- 第13回 Preparing for presentations
- 第14回 Presentations
- 第15回 共通テスト

教科書・参考文献

教科書 International Express, Intermediate, 3rd Ed. Oxford

参考書 授業中に随時紹介する。

授業外での学習

教科書の各ユニットを予習し、授業を受ける前には、新しい語彙を調べておく事。

評価方法

20%: 共通テスト
80%: 試験(期末テスト、小テストなど)、授業内課題、授業外課題

履修上の注意

遅刻: 授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以降は欠席扱いとなる。
遅刻3回で欠席1回とみなす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 Business EnglishIV : クラス 11 ~ 20
Title Business EnglishIV
科目区分 英語

担当教員
履修要綱別冊参照

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2	単位区分 必修	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

Business Englishコースは、社会に出て即戦力となる英語力を身に着けることを目的とする。
Business English IIIとIVでは、ビジネスにおいて不可欠な英語コミュニケーションスキル、ビジネス用語などの知識を強固にしさらに問題解決のためのディスカッションやビジネスプレゼンテーションの方法を学ぶ。

達成目標

あいさつ、電話での応答、アポイントメント、苦情対応、商品説明、交渉、進捗状況確認、規則、プレゼンテーション、ミーティング、問題解決など、ビジネスの現場において用いられる語彙やフレーズを学び、これを適切な文脈で用いることができるようになる。また、改まった表現から日常的な話し言葉まで、場面に合わせた表現を用いることができる。

スケジュール

- | | |
|------|--|
| 第1回 | Introduction, Unit 7 Complaints and problems 1 |
| 第2回 | Unit 7 Complaints and problems 2 |
| 第3回 | Unit 8 Checking progress 1 |
| 第4回 | Unit 8 Checking progress 2 |
| 第5回 | Unit 9 Future prospects 1 |
| 第6回 | Unit 9 Future prospects 2 |
| 第7回 | Review of Unit 7, 8, and 9 |
| 第8回 | Unit 10 Regulations and advice 1 |
| 第9回 | Unit 10 Regulations and advice 2 |
| 第10回 | Unit 11 Meetings and discussions 1 |
| 第11回 | Unit 11 Meetings and discussions 2 |
| 第12回 | Unit 12 Speaking in public 1 |
| 第13回 | Unit 12 Speaking in public 2 |
| 第14回 | 共通テスト |
| 第15回 | Review of Unit 10, 11, and 12 |

教科書・参考文献

教科書 Business Venture 2 (Oxford University Press)

参考書 授業中に随時紹介する。

授業外での学習

授業の前後に予習復習する。ボキャブラリーノートブックを作成する。その他、授業で指示された課題に取り組む。

評価方法

20%: 共通テスト
80%: 試験(期末テスト、小テストなど)、授業内課題、授業外課題

履修上の注意

遅刻: 授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以降は欠席扱いとなる。
遅刻3回で欠席1回とみなす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 Business EnglishIV : クラス 21 ~ 26

Title Business EnglishIV

科目区分 英語

担当教員

担当教員との連絡方法

履修要綱別冊参照

学内ポータルサイトのシラバス参照

英語
日本語
外國語科
日本語
英語

配当年次
2

単位区分
必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

「会社案内」「電話対応」などの日本国内で外国人と仕事で接する際に遭遇しそうな場面や「ホテルのチェックイン」などの海外出張のときに役立つ場面といった「実践的な英語力」「仕事で役に立つような英語力」の向上を目指す。

達成目標

この授業を通じて、次のような知識や能力を身につけることを目標とする。
ビジネスの場面で遭遇する基本的な英語表現を身につけ、それらの表現が言えるようになる。日本とアメリカのビジネス習慣の違いについて理解する。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7 Making Offers
- 第3回 Unit 7 Making Offers
- 第4回 Unit 8 Invitation
- 第5回 Unit 8 Invitation
- 第6回 Unit 9 Small Talk
- 第7回 Unit 9 Small Talk
- 第8回 Unit 10 Location
- 第9回 Unit 10 Location
- 第10回 Unit 11 Directions
- 第11回 Unit 11 Directions
- 第12回 Unit 12 Instructions
- 第13回 Unit 12 Instructions
- 第14回 共通テスト
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 First Steps to Office English, CENGAGE Learning

参考書 各教員が指定する。

授業外での学習

授業の予習復習に加え、TOEICの単語帳などを使って、ビジネス語彙を増やしてください。

評価方法

20%: 共通テスト
80%: 試験(期末テスト、小テストなど)、授業内課題、授業外課題

履修上の注意

遅刻: 授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以降は欠席扱いとなる。遅刻3回で欠席1回とみなす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 日本語 A2 (後期)

Title Japanese A2

科目区分 日本語

担当教員

担当教員との連絡方法

非常勤講師 前坊 香菜子 (マエボウ カナコ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1単位区分
必修単位数
2開講時期
後期

目的

前期で学んだレポートの基礎を踏まえ、学術文章で使用される語彙、表現のバリエーションを増やし、質の高いレポート作成を目指す。テーマを決め、序論、本論、結論を段階的に作成し、最終的にレポートを完成させる。講義だけでなく、グループ（あるいはペア）で、作成した文章を読み合い、相互でコメントを述べる等の活動も行う。

達成目標

1. 学術文章の型を学ぶ。
2. 各構成の中で使用される語彙、表現のバリエーションを増やす。
3. 相互にコメントをすることで、読む力、コメント力を身につける。

スケジュール

第1回	ガイダンスと前期の振り返り
第2回	序論 1
第3回	序論 2
第4回	演習 レポート構成と序論作成
第5回	本論 1
第6回	本論 2
第7回	本論 3
第8回	演習 本論アウトライン
第9回	演習 ピアレスポンスによる検討
第10回	本論 4 接続表現
第11回	演習 本論の検討
第12回	本論 5
第13回	結論
第14回	演習 結論の検討
第15回	レポート完成に向けて

教科書・参考文献

教科書

参考書 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』二通信子他 スリーエーネットワ
ーク

授業外での学習

どのような語彙、表現がレポートで使われているのか、意識して書物、論文を読むように心掛けること。また、必ず課題を行い、次週の授業で相互コメントができるようにすること。

評価方法

授業内課題への取り組み (30 %) 、課題提出 (20 %) 、最終レポート (50 %)

履修上の注意

科目名 日本語 A 4 (後期)

Title Japanese A4

科目区分 日本語

担当教員

担当教員との連絡方法

非常勤講師 前坊 香菜子 (マエボウ カナコ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2

単位区分
必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

日本語の表現に含まれている日本の社会的な背景を知ることで、新聞などの内容を深く理解できることを目指す。また、さらに日本語力を伸ばすために必要な知識を身につける。

英語または日本語
外国语科目

達成目標

1. 慣用句、背景知識の必要な語彙・表現を増やす。
2. 日本の社会的な知識を増やすことで、さらに新聞等の理解を深める。
3. 資格試験としての日本語試験に対応できるようにする。

スケジュール

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2回 | 慣用表現 1 |
| 第3回 | 慣用表現 2 |
| 第4回 | 背景知識が必要な語彙・表現 1 |
| 第5回 | 背景知識が必要な語彙・表現 2 |
| 第6回 | 発表課題 |
| 第7回 | 日本語試験の紹介 : J.TEST 1 |
| 第8回 | J.TEST 2 |
| 第9回 | J.TEST 3 |
| 第10回 | J.TEST 4 |
| 第11回 | 日本語試験の紹介 : BJTビジネス日本語能力テスト 1 |
| 第12回 | BJT 2 |
| 第13回 | BJT 3 |
| 第14回 | BJT 4 |
| 第15回 | 全体のまとめ |

教科書・参考文献

教科書

参考書 『留学生のためのジャーナリズムの日本語—新聞・雑誌で学ぶ重要語彙と表現 上級』スリーエーネットワーク

授業外での学習

日頃から意識的に新聞や雑誌を読み、慣用句や日本の社会的な背景が含まれた語彙・表現を探すように心掛けること。

評価方法

授業内課題への取り組み (30 %) 、課題 (30 %) 、確認テスト (40 %)

履修上の注意

科目名 日本語 B2 (後期)

Title Japanese B2

科目区分 日本語

担当教員

担当教員との連絡方法

非常勤講師 高野 敦志 (タカノ アツシ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1

単位区分
必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

前期に引き続いて、基本的な文型の習得、および論文の読解、作文などを通して、レポートを書くための基礎的な学力の習得を目指す。

達成目標

論文を読みこなし、レポートを書くための更なる技術を習得する。

スケジュール

- | | |
|------|----------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 文化・異文化・国際化 |
| 第3回 | 論文購読（政治問題） |
| 第4回 | 小論文作成（政治問題） |
| 第5回 | メディア・コミュニケーション |
| 第6回 | 論文購読（インターネット） |
| 第7回 | 小論文作成（インターネット） |
| 第8回 | 自然・環境 |
| 第9回 | 小論文購読（環境問題） |
| 第10回 | 論文作成（環境問題） |
| 第11回 | 医療・健康 |
| 第12回 | 論文購読（医療問題） |
| 第13回 | 小論文作成（医療問題） |
| 第14回 | 現代社会・日本事情 |
| 第15回 | その他の諸問題 |

教科書・参考文献

教科書 教場でプリントを配布する。

参考書

授業外での学習

事前に与えられた論文は、辞書を引きながら目を通しておくこと。
課題は資料を参照しながら、ていねいに作成すること。

評価方法

平常点20% 筆記試験50% 提出物30%

履修上の注意

各回で課された提出物は、次の授業までに提出すること。日中辞典や日韓辞典などではなく、なるべく国語辞典を使用すること。

科目名 日本語 B 4 (後期)

Title Japanese B4

科目区分 日本語

担当教員

担当教員との連絡方法

非常勤講師 高野 敦志 (タカノ アツシ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2

単位区分
必修

単位数
2

開講時期
後期

目的

前期に引き続いて、論文を書く際に必要な文型の習得、および論文の読解、小論文の作成を通して、論理的な文章を構成する能力を養うことを目指す。

達成目標

論文を読みこなした上で、自己の意見を客観的に述べる能力、論文を書くのに必要な文型を習得する。

スケジュール

- | | |
|------|-------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 原因の考察 |
| 第3回 | 論文購読（経済問題） |
| 第4回 | 小論文作成（経済問題） |
| 第5回 | 列挙 |
| 第6回 | 論文購読（教育問題） |
| 第7回 | 小論文作成（教育問題） |
| 第8回 | 引用 |
| 第9回 | 論文購読（社会問題） |
| 第10回 | 小論文作成（社会問題） |
| 第11回 | 同意と反論 |
| 第12回 | 帰結 |
| 第13回 | 結論の提示 復習 |
| 第14回 | 論文購読（政治問題） |
| 第15回 | 小論文作成（政治問題） |

教科書・参考文献

教科書 『大学・大学院 留学生の日本語 4 論文作成編』 (アカデミック・ジャパニーズ研究会編 アルク) を使用し、参考資料はプリントで配布する
参考書

授業外での学習

事前に与えられた論文は、辞書を引きながら目を通しておくこと。
課題は資料を参照しながら、ていねいに作成すること。
小論文を作成するときは、教科書を常に参照すること。

評価方法

平常点20% レポート50% 提出物30%

履修上の注意

各回で課された提出物は、次回の授業までに提出すること。

科目名 統計学II
Title Statistics II
科目区分 1群 基礎科目

担当教員
准教授 宮田 庸一(ミヤタ ヨウイチ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

仮説検定とは、あるグループに対して行った新しい指導方法に効果があったかどうか、同一業種、同一勤続年数の男子と女子の平均給与に差があるのかどうかなどを、データから検証する手法のことである。この講義では、仮説検定の理論（有意水準、検定統計量、p値など）およびExcelを用いた統計処理について説明を行う。

達成目標

以下の2点を目標とする

- (1) 仮説検定の理論を理解する
- (2) 実際のデータに対して、適切な仮説を設定し、Excelを用いて検定を行うことができる

スケジュール

- 1 ガイダンス、シグマ記号の復習
- 2 標本平均、標本分散、標準偏差
- 3 確率の定義、加法定理
- 4 確率分布、期待値、分散（分散の計算公式は説明しない※1）
- 5 期待値、分散の性質
- 6 同時分布、確率変数の独立性（条件付き確率は説明しない※2）
- 7 連続型確率変数、標準正規分布、正規分布（標準化などは結果のみ示す※3）
- 8 無作為標本、標本分布（8.1～8.5章）
- 9 中心極限定理（8.6章）
- 10 仮説検定1（帰無仮説、対立仮説、検定統計量、母平均の両側検定）（10.1～10.2章）
- 11 仮説検定2（2種の誤り、母平均の片側検定）（10.2～10.4章）
- 12 t分布、分散の不偏推定量（10.8章）
- 13 仮説検定3（t検定）（10.8章）
- 14 仮説検定4（2標本問題）（10.9章）
- 15 Excelを用いた仮説検定

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 宮田庸一 (2012) 統計学がよくわかる本、アイ・ケイコーポレーション

参考書 [1] 刈屋武昭・勝浦正樹 (1994) 統計学、東洋経済新報社
[2] 統計学入門、東京大学出版会、1991

授業外での学習

講義で理解できない箇所があったときには、次回の講義までに、勉強して理解しておくこと。
講義もしくは教科書の説明がわかりにくく感じた場合、参考書[1]を見ると良い。数学の素養がある学生であれば[2]の方がよいかもしれない。

評価方法

評価1:試験60%，小テスト/宿題/課題提出40% 評価2:試験80%，小テスト/宿題20%
評価1と評価2で点数の高い方を成績とする。

履修上の注意

第1回から第9回目までは統計学に関する復習となるが、理論的な詳細は省略する箇所がある。このため事前に「統計学（統計学I）」を受講しておくことを強く勧める。また上記の※2の条件付き確率に関しては、教養科目の「確率・統計入門」で説明を行う。前の講義内容の知識を用いて、次の講義を進めることが多いので、休まずに出席し理解するようにしてください。

科目名 経済数学入門II
Title Introduction to Mathematics for Economics II
科目区分 1群 基礎科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 安達 剛 (アダチ ツヨシ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

この講義では、基礎レベルの数学知識を理解している履修者を前提として、具体例を通じて経済学の問題を数学的に考えるトレーニングを積んでもらうことで、経済学で使われる数学に習熟することを目指します。

達成目標

微分を用いた最大化・最小化の計算方法について習熟し、利潤最大化や効用最大化などの経済学の問題を解けるようになる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンスと前期の復習
- 第2回 一変数の微分（合成関数の微分・逆関数）
- 第3回 最適化問題とは
- 第4回 一変数最適化の一階条件（導入）
- 第5回 一変数最適化の一階条件（練習）
- 第6回 ベクトルとn次元グラフの座標
- 第7回 多変数関数とは
- 第8回 中間テスト
- 第9回 多変数の微分（偏微分、偏導関数）
- 第10回 多変数の微分（チェインルール）
- 第11回 多変数最適化の一階条件
- 第12回 制約付き最適化の一階条件（導入）
- 第13回 ラグランジュ未定乗数法
- 第14回 制約付き最適化の一階条件（練習）
- 第15回 講義のまとめ

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 講義テキストをwebで配布します。

参考書 尾山大輔・安田洋祐『改訂版 経済学で出る数学』日本評論社、2013年
石川秀樹『経済学と経済がイッキにわかる!!』学習研究社、2009年

授業外での学習

授業中に解けなかった練習問題をよく復習しておくこと。また授業前には、前回の授業内容を確認し、整理してから講義に臨むこと。

評価方法

学期末試験40% 中間テスト40% 平常点（宿題）20%

履修上の注意

経済数学入門Iを履修積み、または同程度の知識を有していることを前提とする。

科目名 資本主義経済の理論II

Title Capitalism II

科目区分 1群 基礎科目

教授 岡田 和彦 (オカダ カズヒコ) 担当教員 担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

マルクス経済学の基礎理論の後半部分と、世界経済の(発展)段階論および現状分析について講義します。(発展)段階論とは、経済学の基礎理論を参考基準として、資本主義世界経済の歴史的な発展のありかたを総括的に説明するものです。本講義の目的は、現実の資本主義経済とはどのようなものか、受講者に明確に理解していただくことです。

達成目標

本講義の達成目標は、資本主義世界経済の歴史的な発展のありかたと現状について、受講者が自分の言葉で説明できるようになることです。

スケジュール

- | | | |
|------|---------------|-------------------|
| 第1回 | 1. 資本の動員 | (1)商業と信用 |
| 第2回 | 1. 資本の動員 | (2)銀行と貨幣市場 |
| 第3回 | 1. 資本の動員 | (3)株式市場と資本市場 |
| 第4回 | 2. 経済変動 | (1)景気循環 |
| 第5回 | 2. 経済変動 | (2)長期波動 |
| 第6回 | 3. 世界経済の歴史的発展 | |
| 第7回 | 4. 重商主義段階 | (1)霸権国の推移と商人資本の蓄積 |
| 第8回 | 4. 重商主義段階 | (2)重商主義の経済政策 |
| 第9回 | 5. 自由主義段階 | (1)霸権国の推移と産業資本の蓄積 |
| 第10回 | 5. 自由主義段階 | (2)自由主義の経済政策 |
| 第11回 | 6. 帝国主義段階 | (1)霸権国の推移と金融資本の蓄積 |
| 第12回 | 6. 帝国主義段階 | (2)帝国主義の経済政策 |
| 第13回 | 7. 現代の資本主義 | (1)第二次世界大戦後の世界経済 |
| 第14回 | 7. 現代の資本主義 | (2)第二次世界大戦後の日本経済 |
| 第15回 | 7. 現代の資本主義 | (3)現代の大不況 |

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 教科書は使用しません。毎回、講義用プリントを配布し、それに沿って説明します。

参考書 伊藤誠『資本主義経済の理論』岩波書店、1989年。伊藤誠『資本主義の限界とオルターナティブ』岩波書店、2017年。『Q&A 日本経済のニュースがわかる!』2018年版、日本経済新聞出版社。

授業外での学習

日ごろから新聞やインターネットの経済関連記事に目を通すよう心がけること。

評価方法

講義に臨む日常の姿勢を重視して、講義感想文(リアクションペーパー)を評価の第一の基準とし、課題レポートを第二の基準とします。成績評価に際しての比重: 講義感想文60% (60点満点) 、課題レポート40% (40点満点) 。合格基準: 両者あわせて60点 (100点満点) 。

履修上の注意

毎回、講義の最後の20分間で講義感想文(リアクションペーパー)を書いていただきます。また、期末に課題レポートを1回提出していただきます。受講に際して、前期の「資本主義経済の理論」を履修しておくことをお勧めします。なお、上記の事がらについて、状況に応じて若干変更することがあります。

科目名 初級マクロ経済学II
Title Elementary Macroeconomics II
科目区分 1群 基礎科目

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 中野 正裕 (ナカノ マサヒロ) 学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

この講義では「初級マクロ経済学I」を前提として、閉鎖経済と開放経済のIS-LM分析ならびに労働市場の分析を中心に理論学習を進めます。併せて資金循環統計や国際収支表などの統計指標について学び、理論分析との関係について理解することを目的とします。

達成目標

各種経済統計の性質と特徴、閉鎖経済ならびに開放経済の短期マクロ経済モデルに関する学習課題に取り組み、一定以上の成績を修めることが目標です。

スケジュール

概ね以下の手順で講義を進めます。(★: 講義後に定期テスト実施)

- 1 IS - LM分析(1) IS曲線の導出 (テキスト第6章: p.155~162)
- 2 IS - LM分析(2) 貨幣の需要と供給 (テキスト第6章: p.163~173, 第15章: p.491~501)
- 3 IS - LMモデル分析(3) LM曲線の導出 (テキスト第15章: p.501~511)
- 4 IS - LMモデル分析(4) 政策効果の分析 (テキスト第6章: p.174~178)
- 5 右下がりの総需要曲線の導出 (テキスト第6章: p.178~182)
- 6 資金循環統計 (テキスト第3章: p.54~71) ★
- 7 國際収支統計 (テキスト第3章: p.72~p.80)
- 8 開放経済のマクロ分析(1) 為替レートとIS/バランス (テキスト第9章: p.264~278)
- 9 開放経済のマクロ分析(2) 購買力平価と金利平価 (テキスト第9章: p.287~299)
- 10 開放経済のマクロ分析(3) 開放経済の乗数分析 (テキスト第9章: p.299~307)
- 11 開放経済のマクロ分析(4) マンデル・フレミングモデルのまとめ (テキスト第9章: p.311~313) ★
- 12 労働市場の分析(1) 労働需要と労働供給 (テキスト第10章: p.326~331)
- 13 労働市場の分析(2) 労働市場の均衡と実質賃金の硬直性 (テキスト第10章: p.332~337)
- 14 労働市場の分析(3) 長期の労働市場モデルとUV曲線 (テキスト第10章: p.337~345)
- 15 1~14の総括と問題演習

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 齊藤誠、岩本康志、太田聰一、柴田章久『マクロ経済学』(新版)
有斐閣 (ISBN 978-4-641-05384-7)

参考書 事前に指定せず、講義時に適宜紹介します。

授業外での学習

指定教科書の対応部分を必ず事前に一度読んでおくこと。また配布される資料に付いている練習問題は(講義で解説しなかった部分も)必ず解いておいて下さい。練習問題の模範解答はポータルサイトから入手できます。

評価方法

中間テスト(25点)2回と期末テスト(50点)の合計得点で評価します(その他の加点要素は初回の講義で説明)。

履修上の注意

原則として第6週、第11週に定期テストを実施する予定です。
第12週以降の講義で簡単な微分(1変数)を用いることがあるので、「微積分I」または「経済数学入門I」を事前に履修することを勧めます(履修の前提とはしません)。なお、継続的に予習・復習を行う習慣が身についていないと、理論体系の理解が次第に困難になりますので注意して下さい。

科目名 初級ミクロ経済学II
Title Elementary Microeconomics II
科目区分 1群 基礎科目

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 西川 静華 (ニシカワ シズカ) 学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 単位区分 単位数 開講時期
2~4 選択 2 後期

目的

ミクロ経済学とは個人や企業などの個別的な経済活動から資源の最適配分メカニズムを分析する学問である。この講義では初級ミクロ経済学Iで学んだ基礎を踏まえ、市場が完全ではない場合や失敗する場合について、ゲーム理論、産業組織論、公共経済学、環境経済学などの応用分野の手法を用いて学ぶ。

達成目標

- (1) ミクロ経済学の基礎理論を応用し、具体的な経済問題を分析できる
- (2) 問題点を的確に指摘し、適切な解決方法が存在するならばそれを提示することができる

スケジュール

- 第1回 イントロダクション：初級ミクロ経済学Iの復習
- 第2回 一般均衡理論I：エッジワースボックス
- 第3回 一般均衡理論II：厚生経済学の基本定理
- 第4回 不完全競争市場I：独占市場
- 第5回 ゲーム理論の基礎
- 第6回 不完全競争市場II：寡占
- 第7回 不完全競争市場III：寡占
- 第8回 中間試験
- 第9回 生産要素の市場I：労働者市場
- 第10回 生産要素の市場II：資本市場
- 第11回 市場の失敗I：外部性
- 第12回 市場の失敗II：公共財
- 第13回 政府の介入I：不完全競争市場
- 第14回 政府の介入II：市場の失敗
- 第15回 総括

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 とくになし

参考書 講義中に適宜紹介する

授業外での学習

課題（演習問題）を適宜出すので、期限内に提出すること

評価方法

課題（30%）、中間試験（30%）、期末試験（40%）

履修上の注意

基礎数学A・B、初級ミクロ経済学Iの講義と同程度の知識はあるものとします。経済学は独学よりも講義に出席するほうが圧倒的に簡単に楽に学べます。休まず毎回講義に来てください。

科目名 ゲーム理論II
Title Game Theory II
科目区分 2群 経済理論

担当教員
非常勤講師 毛塚 和宏 (ケヅカ カズヒロ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

この講義では、ゲーム理論の具体的な応用例を取り上げ、そこで用いられるモデルを理解する。例えば、なぜ現実の市場で、カルテルや談合が行われて価格が吊り上げられることが起きるのだろうか？一社だけ抜け駆けをして商品の生産量を増やせば、その一社は莫大な利益を上げることができるはずである。また、なぜ多くの企業は、大卒の学生を高い賃金で採用するのだろうか？大学での学びは、労働者としての生産性を向上させるものばかりではないのにも関わらず、である。この講義の目的は、一般的な理論モデルをこれら現実の事例と対応付けることによって、抽象的な思考力を涵養することである。また、このような現実の経済現象を説明するために多少高度なゲーム理論の知識が必要となる。そこで、確率論も含んだ応用的な意思決定モデルを理解することによって、利害が複雑に対立する状況における戦略的な思考法を身につけることも目的とする。

達成目標

- 授業内で扱うモデル（無限繰り返しゲーム、ペイジアンゲーム、展開型ペイジアンゲームなど）のメカニズムを、他人に説明できるようになる。
- 上述のモデルを、簡単な数学を用いて表現できるようになる。
- 上述のモデルを、自分で見つけた別の社会現象に応用して分析できるようになる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス＆ゲーム理論Iの復習①
第2回 ゲーム理論Iの復習②
第3回 募占市場のモデル
第4回 有限回繰り返しゲーム
第5回 無限回繰り返しゲーム
第6回 フォーク定理
第7回 不確実性とゲーム理論
第8回 不完備情報の標準形ゲーム
第9回 ペイジアン・ナッシュ均衡
第10回 オークション
第11回 不完備情報の展開系ゲーム
第12回 シグナリング・ゲーム：分離均衡
第13回 シグナリング・ゲーム：一括均衡
第14回 不完備情報のある交渉ゲーム
第15回 まとめ

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 ロバート・ギボンズ『経済学のためのゲーム理論入門』創文社

参考書 神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社 その他、授業中に適宜紹介する。

授業外での学習

やや高度なモデルを扱うため、入念な復習が必須である。またレポートでは、モデルが応用可能な社会現象を探して分析することを要求する。そのため、新聞記事や本などの文献を自力で探すことが必要となる。

評価方法

テスト：40%，レポート：40%，受講状況：20%

履修上の注意

- 講義の履修にあたり、基礎数学A・B、確率・統計入門、ゲーム理論I、初級ミクロ経済学Iの講義内容と同程度の知識を有することを前提とする。
- 情報の経済学を並行して履修することを奨励する。一部重複するトピックがあるが、受講者の理解が深まるよう、それぞれ異なる視点から講義する。

科目名 経済学方法論II
Title Methodology of Economics II
科目区分 2群 経済理論

教授 伊藤 宣広 (イトウ ノブヒロ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

経済学とは何をするための学問なのだろうか？また経済学はどのような経緯で現在の姿になったのだろうか？本講義では、いわゆる近代経済学の流れを展望し、個々の理論・思想体系の根底にある考え方に入れることで、それらが真に意味するところを掘り下げて考察する。経済学方法論IIでは主にケインズ経済学（マクロ経済学）の方法論を扱う。

達成目標

マクロ経済学やマクロ経済学を方法論的見地から検討することにより、経済学のより深い理解をめざす。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 G.E.ムーア『倫理学原理』と合成の誤謬
- 第3回 J.M.ケインズ『インドの通貨と金融』『平和の経済的帰結』『貨幣改革論』
- 第4回 金本位制をめぐる諸問題
- 第5回 『貨幣論』と基本方程式、投資・貯蓄アプローチ
- 第6回 古典派の第一公準と第二公準
- 第7回 乗数と節約のパラドックス
- 第8回 流動性選好と不確実性、債券価格と長期利子率
- 第9回 ケインズと株式投資
- 第10回 D.H.ロバートソンと実物的景気循環論
- 第11回 R.G.ホートレーと貨幣的景気循環論
- 第12回 新古典派総合とフィリップス曲線
- 第13回 自然失業率仮説、マネタリズム
- 第14回 合理的期待形成仮説
- 第15回 総括授業

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

- 教科書 伊藤宣広『投機は経済を安定させるのか？—ケインズ『雇用・利子および貨幣の一般理論』を読み直す』現代書館、2016年。
- 参考書 伊藤宣広『現代経済学の誕生—ケンブリッジ学派の系譜』中公新書、2006年。（紙の書籍は品切れだが、電子書籍版が出ている）

授業外での学習

復習をすること

評価方法

定期試験(100%)

履修上の注意

予備知識は特に必要としないが、初級マクロ経済学、初級マクロ経済学、経済学史などを併せて履修すると、相互の理解を深める上で有益であると思われる。

科目名 情報の経済学
Title Information Economics
科目区分 2群 経済理論

担当教員
非常勤講師 毛塚 和宏 (ケヅカ カズヒロ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

「情報の経済学」は、一部または全部のアクターが、不完全なかたちでしか情報を入手できない状況を分析する理論である。標準的なミクロ経済学では、全ての市場参加者が財や価格について完全に情報を得ることのできる状況を扱ってきた。しかし現実の経済現象の中には、この仮定が成り立たない場合がある。例えば中古車市場では、販売会社は中古車の状態（車体内部の状態や事故歴など）をよく理解している。しかし顧客は、中古車について、販売会社ほどはよく理解していない。このような市場では、標準的なミクロ経済学で学んだメカニズムが機能しないことがある。本講義では第一に、これら情報の非対称性や不確実性が市場取引や効率性に与える影響を学ぶ。同時に、情報の経済学を学ぶことは、確率論やゲーム理論の数学的発想を学ぶことにもつながる。そこで第二に、これらの数理的な意思決定手法を身に着けることも目的とする。

達成目標

- ・ 不確実性や情報の非対称性が経済活動に影響を及ぼしている状況を、自力で発見し分析できるようになる。
- ・ 不確実性や情報の非対称性が存在する状況において、経済学の理論に依拠した意思決定ができるようになる。
- ・ 上記の2点を、簡単な数学を用いて表現できるようになる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
第2回 初級ミクロ経済学I、確率・統計の復習
第3回 期待効用（危険回避、リスク・プレミアム）
第4回 リスク分散とポートフォリオ選択
第5回 保険市場
第6回 非対称情報と誘因整合性
第7回 ゲーム理論と情報
第8回 逆選択
第9回 統計的差別
第10回 スクリーニング
第11回 シグナリング
第12回 エージェンシー問題
第13回 インセンティブ契約とモニタリング
第14回 所有権
第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社

参考書 萩下史郎『非対称情報の経済学—スティグリツと新しい経済学』光文社 その他、授業中に適宜紹介する。

授業外での学習

やや高度なモデルを扱うため、入念な復習が必須である。またレポートでは、モデルが応用可能な社会現象を探して分析することを要求する。そのため、新聞記事や本などの文献を自力で探すことが必要となる。

評価方法

テスト：40%，レポート：40%，受講状況：20%

履修上の注意

- ①講義の履修にあたり、基礎数学A・B、確率・統計入門、初級ミクロ経済学Iの講義内容と同程度の知識を有することを前提とする。
- ②ゲーム理論I / IIと並行して（または過去に履修したうえで）履修することを奨励する。一部重複するトピックがあるが、受講者の理解が深まるよう、それぞれ異なる視点から講義する。

科目名 中級マクロ経済学II
Title Intermediate Macroeconomics II
科目区分 2群 経済理論

非常勤講師	担当教員 岩本 光一郎 (イワモト コウイチ ロウ)	担当教員との連絡方法 学内ポータルサイトのシラバス参照
-------	----------------------------------	--------------------------------

配当年次 3~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

中級マクロ経済学Iに引き続き、齊藤・岩本・太田・柴田(2010)を題材として学部中級レベルのマクロ経済学の体系的理解を目指す(同書のうち本講義がカバーするのは第13~18章)。具体的には、中級マクロ経済学Iと合わせた本講義を以て、初級レベル(学部1,2年生レベル)からの段差が極めて大きいといわれる上級レベル(大学院修士課程レベル)のマクロ経済学への橋渡しとなることを目的とする。また併せて、身に付けた知識を活用するテクニック・ノウハウを身に着けることも目指したい。

達成目標

- ・「マイクロファウンデーション」「新しいマクロモデル」についての理解を深める
- ・目の前の経済事象に対し、(現時点の経済学の限界を踏まえた上で)自分なりのロジックを組み立て、それを他人に理路整然と説明できるようになる
- ・公務員試験や各種資格試験の問題に、自力で回答できるようになる

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 マクロ経済モデルのミクロ的基礎 1
- 第3回 マクロ経済モデルのミクロ的基礎 2
- 第4回 消費と投資 1
- 第5回 消費と投資 2
- 第6回 消費と投資 3
- 第7回 ニューケインジアン・モデル 1
- 第8回 ニューケインジアン・モデル 2
- 第9回 ニューケインジアン・モデル 3
- 第10回 マクロ経済と労働市場 1
- 第11回 マクロ経済と労働市場 2
- 第12回 金融市場と貨幣市場 1
- 第13回 金融市場と貨幣市場 2
- 第14回 経済成長
- 第15回 総括

専門教育科目
(経済学科)

教科書の内容に基づく標準的な講義計画を上に示したが、同書の全内容を扱うには時間が不足するので、目標達成のため重要なイシューを優先的に扱い、必要に応じた取捨選択を行う可能性がある。

教科書・参考文献

教科書 齊藤・岩本・太田・柴田(2010)『マクロ経済学』有斐閣 第4部(13~18章)

参考書 加藤涼(2006)『現代マクロ経済学講義—動学的一般均衡モデル入門』東洋経済新報社
その他、必要に応じて講義中に紹介する。

授業外での学習

- ・教科書の講義該当箇所を事前に読み、可能ならば計算にもトライしておく
- ・比較的頻繁に、公務員試験(地方上級、国家総合/一般職)レベルの課題を課す(その解説は講義内で時間を取って行う)

評価方法

期末試験70%、平常点(課題提出など)30%

履修上の注意

講義は予習をしていることを前提に行われる。このレベルになると漫然と講義を聴いているだけでは身に付かないもので、常に自分で手を動かして計算過程等を追うことが求められる。そのため、ある程度の水準の数学知識は前提とする(要求される内容については齊藤・岩本・太田・柴田(2010)の数学付録を参照)。

科目名 中級ミクロ経済学II
Title Intermediate Microeconomics II
科目区分 2群 経済理論

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 宇都宮 仁(ウツノミヤ ヒトシ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

ミクロ経済学とは、消費者や企業という個々の経済主体の選択を基礎とし、資源配分における市場の役割、機能を分析する学問である。市場の役割、機能を明らかにするために、市場経済のエッセンスと思われる要素を抜き出し、市場をモデル化して分析を行うため、ミクロ経済学では数学的な思考も必要となる。本講義では中級ミクロ経済学Iで学習した完全競争市場での理論を踏まえ、初級ミクロ経済学I、IIで身につけた知識を使い、不完全競争市場の問題を解く力を身につけることを目的とする。公務員試験や大学院入試の学習にも対応した講義となっている。

達成目標

- ・市場の機能が発揮されない市場で均衡が分析できるようになること
- ・ゲーム理論を用いた分析ができるようになること
- ・公務員試験や大学院入試に必要な知識の基礎を身につけること

スケジュール

第1回	ガイダンス
第2回	経済厚生：経済余剰
第3回	経済厚生：物価指數と数量指數
第4回	経済厚生：資源配分の評価基準
第5回	経済厚生：社会厚生関数
第6回	不完全競争：独占
第7回	不完全競争：複占
第8回	不完全競争：寡占
第9回	不完全競争：不完全代替財市場
第10回	不完全競争：その他の企業間競争
第11回	不完全競争：ゲームの理論
第12回	公共経済：課税と補助金
第13回	公共経済：公共財
第14回	公共経済：外部性
第15回	総括

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 武隈慎一 『演習ミクロ経済学 第2版』 新世社 2017年

参考書 武隈慎一 『ミクロ経済学』 新世社 1999年

授業外での学習

習った部分の演習問題や公務員試験問題を何問か指示するので、次回の講義までに各自で解いておくこと。

評価方法

期末試験80%，平常点20%

履修上の注意

「初級ミクロ経済学I」「初級ミクロ経済学II」「中級ミクロ経済学I」を履修済みであることが望ましい。
「中級ミクロ経済学I」を履修していない受講生は教科書の該当範囲を自習しておくこと。

科目名 計量経済学II
Title Econometrics II
科目区分 2群 経済理論

担当教員
非常勤講師 大石 隆介(オオイシ リュウスケ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

経済学とは世の中で起こる様々な経済現象を理解するための学問である。しかしそこで提唱された理論は真実なのか、これを確かめるためには実際に観測されたデータを用いた裏付けが必要となる。計量経済学ではデータを用いた統計的な分析を行い、経済学に関連する理論を証明することなどを目的としている。本科目では計量経済学で学んだ知識を基に計量分析についての理解を深めていく。特に多重回帰分析、そして回帰モデルにおける標準的な仮定が満たされない場合に起こる問題などについて理解することを目指す。

達成目標

履修者が計量経済学（多重回帰分析・回帰モデルにおける標準的な仮定が満たされない場合に起こる問題）について正しく理解し、データを用いて実際に計量分析を行えるようになることを目標とする。

スケジュール

- 1 : ガイダンス
- 2 : 多重回帰分析の基礎 (教科書第5章)
- 3 : 多重回帰モデルの拡張 : モデルの関数型 (教科書第7章)
- 4 : 多重回帰モデルの拡張 : ダミー変数 (教科書第7章)
- 5 : 多重回帰モデルの拡張 : ラグ変数 (教科書第7章)
- 6 : 多重回帰モデルの拡張 : 多重共線性 (教科書第7章)
- 7 : F検定 : F検定の考え方 (教科書第8章)
- 8 : F検定 : 線型制約のテスト (教科書第8章)
- 9 : F検定 : 構造変化の検定 (教科書第8章)
- 10 : 攪乱項の系列相関 : 系列相関 (教科書第8章)
- 11 : 攪乱項の系列相関 : ダービン=ワトソン統計量 (教科書第9章)
- 12 : 攪乱項の系列相関 : コクラン=オーカット法 (教科書第9章)
- 13 : 攪乱項の不均一分散 : 不均一分散と簡単な解決法 (教科書第9章)
- 14 : 攪乱項の不均一分散 : 不均一分散モデルの検定 (教科書第9章)
- 15 : まとめ

教科書・参考文献

教科書 「入門計量経済学 Excelによる実証分析へのガイド」 山本拓 竹内明香 新世社

参考書 「計量経済学」 山本拓 新世社

授業外での学習

教科書を事前に読み、講義終了後に復習すること。

評価方法

コースワーク (課題) 20% 定期テスト 80%

履修上の注意

計量経済学Iを前学期に履修していることが望ましい。

科目名 経済数学II

Title Mathematics for Economics II

科目区分 2群 経済理論

担当教員

非常勤講師 虞 朝聞(グ チヨウブン)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

経済現象は必ずしも経済主体の行動の結果として生じるのではなく、「偶然」の影響を多分に受けていることが多い。また、例えば企業間の契約時に、互いの企業が自社についての情報は持っているが、相手の企業については不確実な情報しか持っていないという、いわゆる「情報の非対称性」が生じているケースが現実にはしばしば観察される。これらの状況を経済理論で分析する際には、「確率論」という数学の一分野の用いることが必須であり、特に測度論や積分論の基礎理論に立脚した「測度論的確率論」がしばしば用いられる。本講義では、測度論的確率論の基礎を習得することを目的に、リーマン積分やルベーグ積分など、その土台となっている理論についても解説する。

達成目標

学部上級レベル、あるいは大学院レベルの経済理論の教科書、または経済理論の学術論文に登場する「確率論」の部分の論理や計算の展開が正確に追える能力を身に付けることを目標とする。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス、集合と関数、リーマン積分(1)(点列の収束の厳密な定義)
- 第2回 リーマン積分(2)(リーマン積分の定義、可積分条件(ダルブーの定理)、連続関数の可積分性)
- 第3回 リーマン積分(3)(微積分学の基本定理、部分積分法)
- 第4回 リーマン積分(4)(累次積分、体積確定な集合)
- 第5回 リーマン積分(5)(広義積分)、リーマン積分の応用(外部性の部分均衡分析)
- 第6回 ルベーグ積分(1)(リーマン積分の欠陥、集合体、 σ -集合体、有限加法的測度、可算加法的測度)
- 第7回 ルベーグ積分(2)(カラテオドリの拡張定理、ルベーグ測度の性質)
- 第8回 ルベーグ積分(3)(ルベーグ積分の定義、ルベーグ可積分関数、単調収束定理、ルベーグの優収束定理)
- 第9回 ルベーグ積分(4)(直積測度、フビニの定理)
- 第10回 ルベーグ積分(5)(符号付測度、絶対連続性、ラドン=ニコディムの定理)
- 第11回 測度論的確率論の基礎(1)(確率変数、期待値、分散、独立性)
- 第12回 測度論的確率論の基礎(2)(条件付き確率、条件付き期待値)
- 第13回 測度論的確率論の経済理論への応用(1)(オークション理論(1))
- 第14回 測度論的確率論の経済理論への応用(2)(オークション理論(2))
- 第15回 測度論的確率論の経済理論への応用(3)(オークション理論(3))

教科書・参考文献

教科書

参考書 R.M. Dudley "Real Analysis and Probability" Cambridge University Press 2002

授業外での学習

予習は基本的に必要ない。3回に1回以上の頻度で講義の後半の時間を使って、計算演習を行う(あるいは、自宅学習用の演習問題を課す)ので、そこで出題された問題を確実に解けるように復習しておくこと。

評価方法

期末試験(100%)による。公平性の観点から、単位を落としそうな学生からの救済措置の要求には一切応じない。

履修上の注意

『経済数学入門II』あるいは『経済数学I』を履修済みであるか、あるいはそれと同等程度の数学の知識を前提とする。

科目名 産業組織論II
Title Industrial Organization II
科目区分 2群 経済理論

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 宇都宮 仁 (ウツノミヤ ヒトシ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

産業組織論はミクロ経済学の一応用分野で、企業や産業の分析を通して財やサービスの生産、販売が市場で効率的に行われているかどうかを検証・評価することを課題としている。また、市場メカニズムが満足に機能していない時に、これを改善するための方策を検討するという政策的思考の強い学問である。本講義では「産業組織論入門」を前提として日本の産業組織構造や政策を中心に学習する。これにより、ミクロ経済学で学んだ理論を現実の経済問題に応用する分析例についても紹介していく。

達成目標

- ミクロ経済学の理論を現実の経済問題に応用する方法について理解できるようになること
- 産業組織に関連する公務員試験の練習問題を解けるようになること

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
第2回 寡占市場①：クールノーとベルトラン
第3回 寡占市場②：様々な寡占企業の行動
第4回 カルテル①：カルテルの種類と非効率性
第5回 カルテル②：ゲーム理論による分析
第6回 カルテル③：カルテルに対する規制
第7回 市場支配力：市場支配力とは？
第8回 集中度：集中度とハーフィンダール指数
第9回 合併①：定義と種類
第10回 合併②：企業結合規制
第11回 戦略的行動：コミットメントとサンク・コスト
第12回 市場の独占化：略奪価格
第13回 垂直的な統合と制限①：効率性
第14回 垂直的な統合と制限②：制限
第15回 総括

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 泉田成美・柳川隆『プラクティカル 産業組織論』有斐閣アルマ,2008年

参考書 適宜紹介する

授業外での学習

教科書の事前に指定した箇所をよく読み予習すること。また新聞などにも目を通し、講義に関連する記事は読んでおくこと。

評価方法

期末試験80%，平常点20%

履修上の注意

「初級ミクロ経済学I」「初級ミクロ経済学II」「産業組織論入門I」を履修済みであることが望ましい。
「産業組織論入門I」で学習する内容を多く使うため、履修していない受講生は教科書で前期の内容をあらかじめ自習しておくこと。

科目名 経済統計
Title Economic Statistics
科目区分 3群 應用経済分析

教授 佐藤 綾野 (サトウ アヤノ) 担当教員 担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

1990年代以降、日本は「失われた20年」と呼ばれる不況に陥り、その原因是「デフレ」であると言われました。デフレとは何か、あるいはデフレはいつから始まり、またいつまで続いた(続いている?)のでしょうか。2007年に発生したサブプライム問題、2008年9月のリーマンショックに端を発した景気減速、現在も続くアベノミクスの真の効果は、経済指標ではどのように表れているのでしょうか。本講義では、簡単なマクロ経済および経済政策の理論について説明し、マクロ経済統計データの読み方や性質について解説します。

達成目標

本講義では、履修者が各自でマクロ統計データの分析を行い、実際に観察されるマクロ経済や経済政策について自分なりの意見を持てるようになることを到達目標としています。

スケジュール

- 1 イントロダクション～経済統計とは
- 2 貨幣供給量の定義と種類
- 3 ベースマネーと信用乗数
- 4 金融政策と中央銀行の役割
- 5 貨幣供給量と物価水準
- 6 物価指数の種類とバイアス
- 7 ゼロ金利政策と量的金融政策
- 8 中間テスト
- 9 失業と物価水準
- 10 フィリップスカーブ
- 11 景気循環とトレンド
- 12 経済成長と潜在成長率
- 13 GDPギャップと実質GDP成長率
- 14 経済予測と計量経済学
- 15 講義のまとめ

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 谷沢弘毅著 「コアテキスト経済統計」 新世社

参考書 講義中に適宜指定します。

授業外での学習

教科書を事前に読み、また講義終了後には練習問題を解くこと。

評価方法

中間テスト20% 定期テスト80%

履修上の注意

特に履修制限はありませんが、講義には積極的に参加してください。

科目名 金融論II
Title Theory of Finance II
科目区分 3群 應用経済分析

担当教員 今野 昌信 (コンノ マサノブ)		担当教員との連絡方法 学内ポータルサイトのシラバス参照				
教授	担当教員 今野 昌信 (コンノ マサノブ)	担当教員との連絡方法 学内ポータルサイトのシラバス参照	配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期

目的

本講義では金融の理論と政策に焦点を当てます。標準的な金融理論を理解することが第1の目的です。また、文
章だけで綴られた教科書もありますが、経済統計を解析して実証する方法を利用するためにはモデルを用いた経
済分析の方法を理解する必要があります。教科書のモデル分析の検討を通じて、この方法に慣れることができます。教科書目次にしたがって講義しますので、金融をテーマにその方法を理解するようにしてください。

達成目標

標準的な金融理論とモデル分析を理解すること。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貨幣の供給と High Powered Money
- 第3回 管理通貨制度
- 第4回 貨幣乗数の理論
- 第5回 利子率と収益性
- 第6回 流動性選好理論
- 第7回 利子率の期間構造
- 第8回 貸付資金説
- 第9回 資産価格の決定
- 第10回 IS-LM分析
- 第11回 金融政策の目的
- 第12回 財政・金融政策と資産効果
- 第13回 総需要曲線
- 第14回 古典派と Keynes
- 第15回 総括授業

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 岩田規久男『金融』東洋経済新報社 講義内容はテキストの5、7~9章に対応しますが、教科書記載内容と全く同じではありません。
参考書 授業で適宜指示します。

授業外での学習

マクロ経済学やミクロ経済学の分析方法を使いますので、同時に履修するか、あるいは自分で学習して相乗効果を高めましょう。現実の金融問題に関しては、新聞・TVなどに日ごろから目を通してその深層を考えましょう。

評価方法

期末試験を実施します。成績評価は出席調査を含む受講状況が5割、期末試験5割。但し、期末試験の受験かつ試験結果が合格であることが単位修得の必要条件です。また、任意提出のレポート課題を出します。レポートは加算点に使用します。

履修上の注意

基礎知識は求めません。受講しながら金融問題や分析方法を理解してください。生きた現実が教科書です。
新聞・TVなどメディアから報道される社会の動きを批判的に観察するよう心がけてください。
授業は遅れず、休まず出席してください。学生証での入室チェックを忘れずに。

科目名 財政学II
Title Public Finance II
科目区分 3群 應用経済分析

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 天羽 正継 (アモウ マサツグ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

財政とは、国や地方自治体などの政府が租税や公債によって財源を調達し、それを用いて国民や住民に公共サービスを提供する活動のことである。財政に関するニュースに私たちが接しない日はないと言ってよく、税制改革や予算編成、国債発行など、いずれも大きな政治的・経済的問題として報じられている。また、普段の私たちの生活を見れば、道路や水道といった生活インフラはいずれも財政を通じて提供されている。すなわち、現代の政治、経済、社会を考える上で財政を無視することはできないのである。本講義では、こうした財政のメカニズムを理解するために必要な財政学の基礎知識について学ぶとともに、現実のさまざまな財政問題をどのようにして解決していくべきかについて考えていく。

達成目標

受講者が財政学の基礎知識を身に付けることを第一の達成目標とする。また、財政を支えるのは国民や住民である私たち自身であり、学生諸君は、大学を卒業して社会人になれば、財政に対して大きな責任を有することになる。したがって、財政問題の解決ためにどのような政策が必要なのかを自分の頭で考えることが社会人として重要なになってくるのであり、そのための思考力を身に付けることを第二の達成目標とする。

スケジュール

- 第1回 財政とは何か？財政学とは何か？（財政学Iの復習）
- 第2回 公債と財政赤字(1)日本の財政赤字と国債
- 第3回 公債と財政赤字(2)国債の発行・償還と国債管理政策
- 第4回 公債と財政赤字(3)公債発行がもたらす諸問題
- 第5回 公債と財政赤字(4)財政の持続可能性
- 第6回 財政投融資(1)財政投融資とは何か？
- 第7回 財政投融資(2)財政投融資の歴史と課題
- 第8回 財政と経済安定化政策(1)GDPの決定理論と財政政策
- 第9回 財政と経済安定化政策(2)IS/LM分析と財政金融政策
- 第10回 財政と経済安定化政策(3)マンデル＝フレミング・モデルと財政金融政策
- 第11回 財政と経済安定化政策(4)経済のグローバル化と財政金融政策
- 第12回 地方財政(1)日本の地方制度と地方財政
- 第13回 地方財政(2)地方税
- 第14回 地方財政(3)地方交付税と国庫支出金
- 第15回 地方財政(4)地方債と地方財政の健全化

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 特に指定せず、講義資料を配布するとともに、研究室のホームページにアップする (URL:<http://www1.tcu.ac.jp/home1/m-amou/>)。

参考書 植田和弘・諸富徹編『テキストブック現代財政学』2016年、西村幸浩著『財政学入門』2013年、持田信樹著『財政学』2009年、神野直彦著『財政学』2007年。

授業外での学習

(1)上記参考文献の中から自分に合ったものを選び、読むことを勧めます。(2)普段から財政に関するニュースに接し、積極的な問題意識を持つようにして下さい。(3)もしどうしても分からないことがあれば、そのままにしておらず、教員に積極的に質問しに来て下さい。

評価方法

講義中に出す課題(20%)と期末試験(80%)により評価する。課題は主として講義内容に関連して受講者の意見や考えなどを問うもので、不定期に実施する。期末試験は大きく用語問題と記述・計算問題から構成される。

履修上の注意

(1)前期の「財政学I」を履修していることを履修の条件とはしませんが、履修していない受講者は講義資料等で予め前期の内容を自習しておいて下さい。(2)公務員志望者には特に履修を勧めます。

科目名 応用計量経済学
Title Applied Econometrics
科目区分 3群 応用経済分析

担当教員
准教授 小林 徹 (コバヤシ トオル)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

応用計量経済学は、重回帰分析(OLS)を中心とした分析手法を用いて、実際に計量経済モデルを推定します。PCのソフトは、エクセルを中心に使用し、エクセルを用いた計量経済分析を授業中にPCを使いながら実践しています。

エクセルを中心に行う理由は、社会人になった際、専門の統計ソフトが導入されていない会社も多いからです。授業の前半部分では、エクセルの様々な機能を用いたデータの作成や加工。集計表の作成、検定の実施などデータ分析の基礎について詳細に練習します。このような計量経済モデルを想定しない分析を練習する理由は、社会に出てデータ分析を行う場合に、計量経済学を学んでいない多くの人にとっても理解が出来る手法によって分析をする必要が多いからです。

達成目標

計量経済学の手法に基づく、データ分析ができるようになる。
分析結果の妥当性のチェックや問題点を検討できるようになる。

スケジュール

- 第1回 応用計量経済学の進め方、評価方法、応用計量経済分析の特徴
- 第2回 エクセルによるデータ収集とデータ管理
- 第3回 エクセルによる集計と作図・作表
- 第4回 基本集計、クロス集計による分析
- 第5回 エクセルによる統計学の応用(検定)
- 第6回 回帰分析
- 第7回 パソコンを用いた演習テストI
- 第8回 研究テーマにそった分析モデルの設計①
- 第9回 回帰分析結果が妥当かどうかの検討：自己相関、不均一分散、多重共線性など
- 第10回 ダミー変数(回帰分析で名義尺度、順序尺度をどのように扱うのか)
- 第11回 線形確率モデル
- 第12回 研究テーマにそった分析モデルの設計②
- 第13回 与えられた分析テーマに対する分析練習①
- 第14回 与えられた分析テーマに対する分析練習②
- 第15回 パソコンを用いた演習テストII

教科書・参考文献

教科書 授業で使用するテキストは小林が作成済であり適宜配布する

参考書 白砂堤津耶『初步からの計量経済学 第2版』 日本評論社

授業外での学習

復習が特に重要。授業で実施された分析を再度パソコンで実施する。与えられた宿題を実施すること。

評価方法

第7回と第15回講義時の演習テスト(60%)
宿題の提出状況と内容(40%)

履修上の注意

PC教室で授業を行うので、PC教室の定員を超えた場合抽選を行います。計量経済学I・IIが履修済みか並行して履修していることが望ましい。

科目名 国際経済学II
Title International Economics II
科目区分 3群 応用経済分析

教授 藤井 孝宗 (フジイ タカムネ) 担当教員 担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

本講義では、国際経済の中でも、特に実物面（実際の商品、サービス、人の移動が伴うもの）について、その発生のメカニズム、及び各国の政策に与える影響を紹介、解説する。後期の国際経済学IIでは、ノーマティブ・セオリーと呼ばれる、貿易政策に関する理論や厚生効果について紹介するとともに、現実経済における重要課題であるトピックについて個別に紹介する。現実と経済理論の接点や理論の現実への適応可能性について考えてもらいたい。

達成目標

貿易政策の厚生効果の理解・現実国際経済における問題点の把握

スケジュール

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | イントロダクション（教科書序章）& 前期の復習 |
| 第2回 | 貿易政策とは（教科書第7章） |
| 第3回 | 貿易政策の厚生効果：部分均衡（教科書第7章） |
| 第4回 | 貿易政策の厚生効果：部分均衡（教科書第7章）（レポート） |
| 第5回 | 貿易政策の厚生効果：一般均衡（教科書第7章） |
| 第6回 | 貿易政策の厚生効果：一般均衡（教科書第7章） |
| 第7回 | 貿易政策の厚生効果：一般均衡（教科書第7章）（レポート） |
| 第8回 | 市場のゆがみと貿易政策（教科書第8章） |
| 第9回 | 戦略的貿易政策（教科書第9章） |
| 第10回 | 貿易政策の政治経済学（教科書第10章） |
| 第11回 | 個別トピック1：貿易と経済成長（教科書第11章・第12章） |
| 第12回 | 個別トピック2：サービス貿易（教科書第13章） |
| 第13回 | 個別トピック3：海外直接投資と多国籍企業（教科書第14章） |
| 第14回 | 個別トピック4：国際経済体制と地域経済（教科書第15章）（レポート） |
| 第15回 | まとめ |

教科書・参考文献

教科書 木村福成「国際経済学入門」日本評論社

参考書 石川城太・椋寛・菊池徹『国際経済学をつかむ（第2版）』有斐閣、阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学』有斐閣、中西訓嗣『国際経済学（国際貿易編）』ミネルヴア書房

授業外での学習

事前に教科書を読んで予習をすることを強く勧める。また、特に貿易政策や直近の国際経済事情については、WTOや経済産業省などのHPに多くの情報が載っているので、あわせて閲覧することが望ましい。

評価方法

講義内のレポート30% (10%×3回) + 学期末テスト70% 出席点などは考慮しない。

履修上の注意

基礎ミクロ経済学I、IIを履修済みであることを履修条件とする。また、本科目と併せて国際金融論を履修することが望ましい。

科目名 環境経済学II
Title Environmental Economics II
科目区分 3群 應用経済分析

教授	担当教員 山本 芳弘 (ヤマモト ヨシヒロ)	担当教員との連絡方法 学内ポータルサイトのシラバス参照
----	-----------------------------	--------------------------------

配当年次 3~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

前期科目「環境経済学I」で学んだ内容をより深く考える。
環境経済学の成果が問題解決のためにどのように活用されているかを学ぶとともに、新たな政策の立案について考える。

達成目標

環境問題の本質と解決策について、経済学を用いて論理的に説明できる。
環境政策の役割や機能を説明できるとともに、新たな政策を立案するスキルを身につける。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス、環境問題の現状と環境経済学
- 第2回 支払意思額と受入補償額
- 第3回 仮想評価法と費用便益分析
- 第4回 経済学分析ツールの復習
- 第5回 外部性
- 第6回 環境税
- 第7回 排出権取引
- 第8回 汚染削減のモデル分析
- 第9回 地球温暖化対策についての国際交渉の現状
- 第10回 交渉のモデル分析
- 第11回 二酸化炭素排出の要因分解と削減策
- 第12回 再生可能エネルギー普及策
- 第13回 省エネルギー推進策
- 第14回 地域社会と環境政策
- 第15回 まとめと発展的学習のための指針

教科書・参考文献

教科書 授業で説明するスライドのプリントアウトを毎回配布する。

参考書 授業で扱うテーマ毎に紹介する。

授業外での学習

授業後は必ずレジュメやノートに目を通し、学習内容の定着を図ること。
各自の自主学習にゆだねた部分を実際に取り組んでみること。

評価方法

授業時間内での課題提出：30～40%、学期末試験：残り60～70%
詳細は初回授業で説明する。

履修上の注意

必修科目「市場と経済」レベルの予備知識で受講可能。
前期科目「環境経済学I」を履修していることが望ましい（未履修でも受講は可能）。
毎回の授業時間内で解答し提出する課題の解説は、次回授業の冒頭で行う。

科目名 公共経済学II
Title Public Economics II
科目区分 3群 應用経済分析

担当教員
准教授 岡田 知之 (オカダ トモユキ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

政府はより豊かな社会を実現するために、さまざまなかたちで民間の経済活動に対して介入を行っている。政府が活動を行う為には財源が必要となるが、財源の代表例として、税金を挙げることができる。この授業の目的は、税の存在意義や税が経済活動に与える影響を考察することにより、税に関する理解を深めることである。

達成目標

経済の理論をふまえたうえで、さまざまな税が経済に与える影響を客観的に理解することが、この授業の目標である。

スケジュール

- 第1回 税の役割、税の根拠
- 第2回 望ましい税制
- 第3回 累進度、転嫁と帰着、転嫁の種類
- 第4回 個別消費税と供給曲線、需要の価格弾力性、供給の価格弾力性
- 第5回 弹力性と需要曲線：供給曲線、弾力性と租税の負担①
- 第6回 弹力性と租税の負担②
- 第7回 最適消費、個別消費税
- 第8回 定額税、個別消費税と定額税の比較
- 第9回 一般消費税との比較、労働所得税（労働時間が一定のケース）
- 第10回 労働所得税（労働時間が一定のケース）と一般消費税の比較
- 第11回 最適労働供給
- 第12回 労働所得税、消費税
- 第13回 労働所得税と消費税の比較
- 第14回 所得再分配政策
- 第15回 まとめ

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 教科書は利用しない。

参考書 麻生良文（1998）『公共経済学』有斐閣

授業外での学習

予習は必要ないが、授業後に十分な復習をおこなうこと。

評価方法

試験で評価を行う予定である。

履修上の注意

必要な知識はできるだけ補足しながら、授業を進める予定である。経済学の基礎に自信の無い者は、欠席しないようにしていただきたい。

科目名 経済政策論II
Title Economic Policy II
科目区分 3群 應用経済分析

教授	担当教員 溝口 哲郎 (ミゾグチ テツロウ)	担当教員との連絡方法 学内ポータルサイトのシラバス参照
配当年次 3~4	単位区分 選択	単位数 2

目的

本講義の目的は、政府による公共政策を理解するための理論的基礎を学び、評価することにある。講義では具体的に、①政府構造とその限界、②租税、補助金、歳入構造、③官僚行動とレンタシーキング、④腐敗・汚職の経済分析、⑤地方財政と政府間財政関係などのトピックを取り扱う予定である。

達成目標

政府の経済活動を理解するための理論的基礎を学び、最終的にその考え方を実際の経済政策を分析する際に応用することにある。特にミクロ経済学の手法を応用し、経済政策を評価できるようになることを目標とする。

スケジュール

- 第1回 講義ガイダンス
第2回 1.イントロダクション : IS-LMモデルとその限界
第3回 2.マクロ経済政策とマクロモデルI : マンデル＝フレミング: モデルの概観
第4回 2.マクロ経済政策とマクロモデルII : マンデル＝フレミング: モデルの導出
第5回 公共財の供給 : メカニズムデザイン理論の基礎
第6回 外部性の補整 : ピグー税、外部性の内部化
第7回 社会的決定と政治過程 : I 合意形成の理論
第8回 社会的決定と政治過程 : II 政治と官僚による政策決定
第9回 社会的決定と政治過程 : III 官僚行動の理論
第10回 社会的決定と政治過程 : IV レントシーキングの理論
第11回 地方分権と政府間財政関係 : I 地方分権の経済分析
第12回 地方分権と政府間財政関係 : II 政府間財政移転の経済分析
第13回 腐敗と汚職の経済分析 : I 腐敗・汚職の発生メカニズムとその厚生分析
第14回 腐敗と汚職の経済分析 : II 腐敗・汚職防止のインセンティブ設計の理論の基礎
第15回 授業のまとめ

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 林正義・小川光・別所俊一郎(2010)『公共経済学』(有斐閣)

参考書 畑農鋭矢・林正義・吉田浩(2015)『財政学をつかむ【新版】』(有斐閣)

授業外での学習

テキストおよび参考書の予復習が必須です。授業内で授業内容に関する問題を出題しますが、これらの問題は授業外での学習の目的で出しています。これらの問題を解くことによって、履修者は授業内容をより深く勉強することができます。

評価方法

平常点(10%)、小テストおよび宿題(30%)、期末試験(60%)で評価します。

履修上の注意

専門科目のためマクロ経済学およびミクロ経済学の知識が前提となります。そのため初級マクロ経済学I・II、初級ミクロ経済学I・IIの履修済であることを履修の条件とします。また中級マクロ経済学I・IIおよび中級ミクロ経済学I・II、財政学I・IIおよび公共経済学I・IIの履修を併せて行なうことを強く推奨します。

科目名 労働経済学II
Title Labor Economics II
科目区分 3群 應用経済分析

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 小林 徹 (コバヤシ トオル) 学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

労働経済学は、働くことや企業が人を雇用するということについて、経済学の理論とデータを駆使して分析をする学問分野です。たとえば、近年話題になっている過重労働の問題、女性労働力の活用促進、技術進歩による雇用喪失などが分析対象に挙げられます。このような様々な労働問題についての分析では、それぞれの問題が発生するメカニズムについて理論的な考察を行い、そこから得られた仮説をデータを用いて検証するという手順がとられます。

労働経済学IIでは、ミクロ経済学で学んだ知識を応用し労働市場の余剰分析を前半部で行います。その後に労働経済学に特有の理論分析を学びます。具体的には、賃金制度や賃金格差の発生要因、労働市場での差別、就職活動などになります。

達成目標

近年の労働問題の背景にある原因について、自分なりの仮説を述べることができる。
データを用いた労働経済分析で陥りやすい問題について述べることができます。

スケジュール

- 第1回 労働経済学IIの進め方、評価方法、労働経済学の動向
- 第2回 労働市場分析I：労働市場の均衡と労働供給曲線の理解
- 第3回 労働市場分析II：労働市場の均衡と労働需要曲線の理解
- 第4回 労働市場分析III：労働市場の余剰分析の基礎（労働者余剰と生産者余剰を計算する）
- 第5回 労働市場分析IV：労働市場の余剰分析の応用（税金の影響、移民の影響、企業誘致の影響）
- 第6回 おさらいと小テスト①
- 第7回 賃金格差I：後払い賃金制度による格差の発生
- 第8回 賃金格差II：補償賃金による格差の発生
- 第9回 賃金格差III：差別による格差の発生
- 第10回 賃金格差IV：効率賃金による格差の発生
- 第11回 就職活動とサーチI
- 第12回 就職活動とサーチII
- 第13回 おさらいと小テスト②
- 第14回 労働経済学の問題演習I
- 第15回 労働経済学の問題演習II

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 授業で用いるテキストは、作成したテキストがありますので、適宜配布します。

参考書 吉田良生、牧野文夫、小崎敏男『キャリアと労働の経済学』、日本評論社
大森義明著『労働経済学』 日本評論社

授業外での学習

教科書と講義資料を読み、予習復習をすること。

評価方法

期末試験60%
小テスト40%

履修上の注意

労働経済学Iが履修済みであることを推奨します。
初級ミクロ経済学I・IIが履修済みであることを推奨します。

科目名 経済史概論II
Title Economic History II
科目区分 4群 経済史・経済思想

担当教員
非常勤講師 米山 秀 (ヨネヤマ マサル)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

グローバリゼーションのもとで新たな形をとりつつある諸対立の中には、意外にも古くにその歴史的源流があるものがある。この講義では、こうした対立の一つとして、英米対日独という形をとることが多かった対立に焦点を当てて具体的に見ていくことにしたい。

なお、取り上げる時代や具体的な問題は前期と異なるが関心や方法はまったく同じである。前期にはその対立の形成過程を見ることになるが、後期にはその対立が最近まで様々な具体的な形をとってきたことを近代史の中で確認してみたい。

達成目標

もとより講義中に実際に取り上げるのは一つの視点にすぎないが学生自身が自らの視点や新たな展望を見い出すことも期待されている。

スケジュール

第1回	序 前期との関連 「前工業的要因」の規定性
第2回	序 二つの「豊かな国」と家族類型、既存の展望
第3回	英米工業化の前提 勤勉革命(欧米)、消費・生活革命
第4回	英米工業化の前提 男性稼ぎ主
第5回	独日工業化の前提 オスト・エルベの歩合賃金、ブルー・マンデー
第6回	独日工業化の前提 地元名望家(地主・商人)と小農
第7回	独日工業化の前提 東アジアのスミス的成长、勤勉革命(日本)、イギリス商人と「日本のギルド」
第8回	英米の工業化 農業革命と都市化
第9回	英米の工業化 高賃金とエネルギー革命
第10回	独日の工業化 家父長的鉄鋼業・鉄道業、官営模範工場
第11回	独日の工業化 広範な家族従業
第12回	二つの工業化の帰結 両大戦間のニューディールとファシズム
第13回	二つの工業化の帰結 戦後のEUと高度成長
第14回	二つの工業化の帰結 ニートとフリーター、リストラ
第15回	まとめ 我々の展望 収斂か分離か

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。資料などは講義中に配布する。

参考書 講義中にテーマに即して紹介する。

授業外での学習

照会した参考文献を読み、レポートなどの課題にこたえる。
配布史料を用いて講義内容を復習することもある。

評価方法

定期試験(70%) リアクション・ペーパ(20%) レポート(10%)。

履修上の注意

第1回の講義で、講義の進め方、評価方法などについて口頭説明を行う予定である。

科目名 日本近代経済史

Title Economic History in Japan During The Modern Ages

科目区分 4群 経済史・経済思想

教授 富澤 一弘 (トミザワ カズヒロ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

わが国の近代経済史について、講義を致します。講義にあたっては、政治史、社会史、文化史等、隣接諸学の成果も活用しつつ、講述致して参ります。なお、本期は、近世から近代への移行期、開国前夜の通史を主要テーマに、講義致します。受講生が同時代の全体像を把握・理解できるように、懇切に指導して参ります。また、講義中、適宜、原史料・文献等を紹介致します。

達成目標

開国前夜の政治史・経済史の全体像を把握でき、近代日本の成り立ちを、的確に認識できるような受講生の育成を目指しております。

スケジュール

第1回	近代世界への参入①	世界と江戸の同時代(1)
第2回	近代世界への参入②	世界と江戸の同時代(2)
第3回	近代世界への参入③	世界と江戸の同時代(3)
第4回	寛政の改革① 政治	
第5回	寛政の改革② 経済	
第6回	寛政の改革③ 社会	
第7回	文化文政期の日本①	政治
第8回	文化文政期の日本②	経済
第9回	文化文政期の日本③	社会
第10回	天保の改革① 政治	
第11回	天保の改革② 経済	
第12回	天保の改革③ 社会	
第13回	近代化政策の展開①	光そして影(1)
第14回	近代化政策の展開②	光そして影(2)
第15回	総括：展望・予察	

教科書・参考文献

教科書 『開国前夜の世界』(横山伊徳氏、吉川弘文館、平成25年3月)

参考書 『角川日本史辞典』(角川書店、平成8年11月)
『角川世界史辞典』(角川書店、平成13年10月)

授業外での学習

毎日1時間の教科書の精読を、求めます。

評価方法

平常点3割、定期試験7割の割合を以って、評価を行います。

履修上の注意

時間厳守、ベルと同時に講義を開始致します。

科目名 日本史特講
Title Japanese History Special Lecture
科目区分 4群 経済史・経済思想

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 沢目 健介(サワメ ケンスケ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

歴史は「過去と現在との対話」ともいわれる。人は同じようで異なる、異なるようで同じ存在である。それ故、歴史とは時系列の中で過去の人々の様々なありようを学びつつ、現在を考え、かつ未来を生きる術（すべて）のための知的営みであるとも言える。世界の中の日本という視点を忘れずに、古代から現代までを15回で行う。のために、現行指導要領を参考に高校日本史レベルの知識を出発点にして歴史叙述を行い、さらに現在の学術的な水準を理解する方法を適宜示す。J·S·ミルの言葉を援用すれば「すべて(everything)について何事が(something)を知り、何事がについてはすべてを知る」ことが歴史を教える者にも必要であろう。通史的な基礎的知識を身に付け、興味・関心のある事象を専門的に学ぶことが必要なのである。教職を目指す者は、常に「何を教えるのか」という問題関心を持って学ぶべきである。

達成目標

古代から現代までの政治史・経済史を中心に理解を深め、文化史分野は必要最低限にとどめる。将来どのような学校で授業を行うにしても、年代や語句等の基本的事項は身につけなければならない。その定着は定期試験で確認する。「過去と現在の往還」が歴史の醍醐味であるから、絶えず現在起きている日本および世界の事象に目配りが必要である。歴史の中に現在を考え、現在の事象に歴史的視点を活かす知識と知恵を身に付ける。

スケジュール

- 第1回 導入および中国史書の日本とヤマト政権、律令国家の形成
- 第2回 平安王朝の形成と武士の成長
- 第3回 鎌倉幕府の成立と衰退
- 第4回 室町幕府から戦国大名の時代
- 第5回 幕藩体制の成立とその社会
- 第6回 幕藩体制の安定と経済の発展
- 第7回 幕藩体制の動搖から衰退へ
- 第8回 近代国家の成立①開国と維新
- 第9回 近代国家の成立②立憲国家と日清戦争
- 第10回 近代国家の成立③立憲国家と日露戦争
- 第11回 第一次世界大戦前後の日本
- 第12回 第二次世界大戦前後の日本
- 第13回 占領期の日本
- 第14回 高度成長期の日本
- 第15回 高度成長の終焉と冷戦終結後の日本

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 とくに指定しない

参考書 高校教科書、日本史年表(高校で使用したもので可)、その他授業で適宜紹介する。

授業外での学習

授業の際に、適宜次回提出課題の提出を求める予定である。課題の提出は、ワープロ原稿だけでなく、文献資料等の「書写」つまり手書き提出を求めることがある。「書きながら学び、書きながら考える」、つまり「腕で学ぶ」ことも知るべきである。文化史的知識については、博物館や美術館めぐりで深めるとよい。

評価方法

定期試験70%、授業課題15%、受講状況15%

履修上の注意

高校の知識を基礎にさらに深く日本の通史を学びたい学生を歓迎する。ただ、教職課程履修者を前提に授業を進めるため、課題提出など授業外の負担が大きくなる可能性がある。
絶えず年表を手元に置き、年表を横断的かつ縦断的に読み解く「クセ」をつけよう。

科目名 世界史特講

Title World History Special Lecture

科目区分 4群 経済史・経済思想

担当教員

担当教員との連絡方法

非常勤講師 沢目 健介 (サワメ ケンスケ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

歴史は「過去と現在との対話」ともいわれる。人は同じようで異なる、異なるようで同じ存在である。それ故、歴史とは時系列の中で過去の人々の様々なありようを学びつつ、現在を考え、かつ未来を生きる術（すべて）のための知的営みであるとも言える。世界の中の日本という視点を忘れずに、古代から現代までを15回で行う。のために、現行指導要領を参考に、高校世界史レベルの知識を出発点にして歴史叙述を行い、さらに現在の学術的な水準を理解する方法を適宜示す。J·S·ミルの言葉を援用すれば「すべて(everything)について何事が(something)を知り、何事がについてはすべてを知る」ことが歴史を教える者にも必要であろう。通史的な基礎的知識を身に付け、興味・関心のある事象を専門的に学ぶことが必要なのである。教職を目指す者は、常に「何を教えるのか」という問題関心を持って学ぶべきである。

達成目標

古代から現代までの政治史・経済史を中心に理解を深め、文化史分野は必要最低限にとどめる。将来どのような学校で授業を行うにしても、年代や語句等の基本的事項は身につけなければならない。その定着は定期試験で確認する。「過去と現在の往還」が歴史の醍醐味であるから、絶えず現在起きている日本および世界の事象に目配りが必要である。歴史の中に現在を考え、現在の事象に歴史的視点を活かし知識と知恵を身に付ける。

スケジュール

- | | |
|-------|--|
| 第 1回 | 導入 および 世界の文明 (①オリエント・ギリシア・ローマ世界 ②内陸アジア・東アジア (~10 c) |
| 第 2回 | ヨーロッパ世界の形成 (4 c ~) |
| 第 3回 | イスラーム世界の形成 (7 c ~ 16 c) |
| 第 4回 | 内陸アジアと東アジア世界 (13 c ~ 14 c) |
| 第 5回 | アジアの繁栄 (14 c ~ 18 c) |
| 第 6回 | 近世ヨーロッパの形成 (15 c ~ 17 c) |
| 第 7回 | 近世ヨーロッパの对外展開 (17 c 後半 ~ 18 c) |
| 第 8回 | 欧米近代の成立 ①産業革命とアメリカ独立革命 |
| 第 9回 | 欧米近代の成立 ②フランス革命 |
| 第 10回 | 欧米近代国民国家の発展 (19 c のヨーロッパ) |
| 第 11回 | アジア世界の動搖 (19 c のアジア) |
| 第 12回 | 帝国主義とアジアの民族運動 |
| 第 13回 | 二つの世界大戦 (1914 ~ 1945) |
| 第 14回 | 冷戦と第三世界 (1945 ~) |
| 第 15回 | 現代の世界 (1991年ソ連崩壊以後) および まとめ |

教科書・参考文献

教科書 とくに指定しない

参考書 高校教科書、世界史年表（高校で使用したもので可）、その他授業中に適宜紹介する。

授業外での学習

授業の際に、適宜次回提出課題の提出を求める予定である。課題の提出は、ワープロ原稿だけでなく、文献資料等の「書き」つまり手書き提出を求めることがある。「書きながら学び、書きながら考える」、つまり「腕で学ぶ」ことも知るべきである。文化史的知識については、博物館や美術館めぐりで深めるとよい。

評価方法

定期試験70%、レポート15%、受講状況15%

履修上の注意

高校の知識を基礎にさらに深く世界の通史を学びたい学生を歓迎する。ただ、教職課程履修者を前提に授業を進めるため、課題提出など授業外の負担が大きくなる可能性がある。
絶えず年表を手元に置き、年表を横断的かつ縦断的に読み解く「癖」をつけよう。

科目名 社会経済学II
Title Social Economic Theory II
科目区分 4群 経済史・経済思想

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 船木 恵子(フナキ ケイコ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

現代の社会経済システムは、第二次世界大戦後にいち早く金ドル本位制や、ブレトンウッズ体制を経て、金融システムの構築をしたアメリカを中心に形成されたグローバル・スタンダードである。またそれに対応する形で形成されたEU型の地域統合がある。一方地球規模で開発途上国を含めて資源・環境問題の解決をシステム化しようとする大きな流れが主流となりつつあり、まさに多方面かつ広範にわたり複雑化している。講義では、このような現代経済の概要を国家や経済政策を含めて理解したうえで、実際の経済と経済理論のギャップを社会経済学の視点から学ぶ。

達成目標

現代経済の概要や問題点をおおまかに理解することを達成目標とする。現代社会は資本主義経済による市場経済システムによって構築されている一方で、市場経済システムだけでは対応しきれない資源環境問題や、また、そこから抜け落ちてしまつた労働市場の諸問題も抱えている。このような現実社会の諸問題を認識し、自ら考える意欲と知識を少しでも身につけていくことを目指したい。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：社会経済学の特徴と概要
- 第2回 世界経済の歩み(第二次世界大戦後の世界経済)
- 第3回 世界経済の歩み(グローバリゼーションの時代)
- 第4回 EUの理念
- 第5回 アジアの金融危機
- 第6回 新自由主義を超えて
- 第7回 カール・ポランニーの「市場と非市場」
- 第8回 ピケティとマルクス—二つの『資本論』
- 第9回 資本主義とは何か—グローバル資本主義の現局面
- 第10回 資本主義とは何か—経済グローバル化
- 第11回 経済学は家庭をどう扱ってきたか？
- 第12回 新家庭経済学とフェミニスト経済学
- 第13回 ワーク・ライフ・バランス(経済学と政策科学)
- 第14回 経済学の目的を考えてみよう
- 第15回 講義の補足

教科書・参考文献

教科書 現代経済の解説—グローバル資本主義と日本経済 3版 (SGCIME・御茶の水書房・2017)

参考書 『貧困と格差—ピケティとマルクスの対話』 社会評論社、『大転換』カール・ポランニー 東洋経済新報社、『ジェンダーの政治経済学』有斐閣、などその都度指示する。

授業外での学習

講義後は学習内容の定着を図ること。配布資料はポータルサイトに貼り付けるので、欠席して受け取れなかつた者は自分でダウンロードして理解しておくこと。

評価方法

試験(80%)と平常点(20%)で評価する。

履修上の注意

必要と思われる場合には確認ペーパーを実施する予定。配布資料はポータルサイトに貼り付けるので基本的に余りがなければ再配布はおこなわない。

科目名 日本経済思想史
Title History of Japanese Economic Thought
科目区分 4群 経済史・経済思想

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 青柳 淳子 (アオヤギ ジュンコ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

江戸時代の対外政策として日本では「四つの口」が開かれていきました。そして開国後は欧米の文化や学問が一気に流入することになりました。しかし、日本を含めた東洋の学問思想と、欧米の学問思想の間には大きな違いがあり、近代化への転換において、日本の知性は欧米とのギャップを越える必要がありました。歴史の連續面からとらえてみれば、この落差を越えるための準備は江戸時代に進められていたと考えることができます。この観点から、本講義では日本の経済思想の原点を江戸時代に求め、「経世濟民」を追求した人物たちを取り上げます。江戸時代、知識人の素養として広く浸透した中国の朱子学、そこから派生した日本儒学、また蘭学の受容といった江戸時代における学問の諸相と、具体的に取り上げる人物の経済思想との関連を通して、江戸時代における経済思想の歴史的意義を考えます。特に、明治の啓蒙思想につながりうる経済思想史の流れに注目します。

達成目標

江戸時代の経世家と呼ばれる人たちは、経済的諸問題をどのように解決しようと考えたのでしょうか。欧米の経済思想に接する前の、江戸時代における経済思想の諸相を知り、それぞれの経世家が論じた経済政策の概要を把握しましょう。そして、江戸時代の経世家たちの思想が、最終的に明治の啓蒙思想家である福沢諭吉のどのような面に引き継がれていくのかを説明できるようにしましょう。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション：日本経済思想史の課題と授業の目的について
第2回 江戸時代の儒学について
第3回 社会経済認識と朱子学の受容
第4回 為政者的経世論の諸相：熊沢蕃山
第5回 為政者の経世論の諸相：荻生徂徠①
第6回 為政者の経世論の諸相：荻生徂徠②
第7回 為政者の経世論の諸相：太宰春台
第8回 国益思想の展開へ：三浦梅園
第9回 国益思想の展開へ：海保青陵
第10回 国益思想の展開へ：林 子平
第11回 国益思想の展開へ：本田利明
第12回 蘭学と新たな知性：渡辺華山
第13回 蘭学と新たな知性：高野長英
第14回 幕末から明治へ：福沢諭吉①
第15回 幕末から明治へ：福沢諭吉②

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 特に使用しません。毎回プリントを配布します。必要に応じて参考文献を指示します。

参考書 小室正紀編『幕藩制転換期の経済思想』慶應義塾大学出版会、2016年、逆井孝仁ほか編『日本の経済思想四百年』日本経済評論社1990年、『日本思想大系』全67巻 岩波書店1970~1982年など

授業外での学習

配布するプリントに従って、毎回講義内容を復習しましょう。授業内容をノートにまとめ、毎回学習内容を確認しましょう。授業で紹介する参考文献にも積極的に目を通しましょう。政治経済に関するニュースや新聞記事にも注目し、大学生としての一般教養を身につけましょう。

評価方法

学期末試験 40% コメントシート 30% 受講状況 30%

履修上の注意

江戸時代の政治経済や文化について、高校程度の日本史の知識がある方が授業を理解しやすいでしょう。

科目名 社会思想
Title Social Thought
科目区分 4群 経済史・経済思想

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 田中 将人(タナカ マサト) 学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

社会秩序のあるべき姿について考察した代表的思想家について、思想史の形をとつて概観する。講義でとりあげられる思想家はいずれも過去の人物であるため、一見したところその思想は古色蒼然たるものに思われるかもしれない。だが、彼らが置かれた時代的文脈に照らして理解しようと努める場合、各々の問いかけをリアリティとともに追体験することが可能となる。本講義では、古典的思想家の眼を通じて社会秩序の基礎的な把握の仕方を学ぶとともに、そこから翻って今日の社会の自明性を対象化しうる視座を養うことを目的としたい。

達成目標

社会について考えるための様々な視点ならびに観念の来歴を知ること。
古典を読むための基礎的な知的体力と態度を身につけること。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ホップズ①『リヴァイアサン』
- 第3回 ホップズ②『リヴァイアサン』続き
- 第4回 ロック①『市民政府論』
- 第5回 ロック②『市民政府論』続き
- 第6回 ルソー①『人間不平等起源論』
- 第7回 ルソー②『社会契約論』
- 第8回 ミル①『自由論』
- 第9回 ミル②『代議制統治論』
- 第10回 トクヴィル①『アメリカのデモクラシー』第一巻
- 第11回 トクヴィル②『アメリカのデモクラシー』第二巻
- 第12回 アーレント①『全体主義の起源』
- 第13回 アーレント②『人間の条件』
- 第14回 ロールズ①『正義論』
- 第15回 ロールズ②『正義論』続き

教科書・参考文献

教科書 指定しないが、講義で紹介する本のうち最低一冊は購入することが望ましい。講義にあたっては毎回レジュメを配布する。
参考書 講義中に適宜紹介する。

授業外での学習

特別に課すことはないが、自主的に積極的な学習をすることが望ましい。

評価方法

講義への感想票(15%)、期末試験(85%)

履修上の注意

詳しくは講義初回のイントロダクションで説明する。講義内容も評価基準も詳しくはないので、その点を充分に認識したうえで履修の採否を決めること。意欲的な受講者を歓迎する。

科目名 現代資本主義論II
Title Modern Capitalism II
科目区分 4群 経済史・経済思想

担当教員
非常勤講師 白 春驅 (ハク シュンリュウ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

本講義は資本主義の形成と発展過程を確認するとともに、資本主義と国家の関係、資本主義発展史における福祉国家の位置付け及び資本主義の構造と実質を確かめながら、現代資本主義への歴史的評価、現代資本主義の危機と21世紀の国家システムの構築を認識し理解することを目的とする。

達成目標

本講義は現代資本主義の制度とその発展モデル及び他の社会制度または比較を通して現代の経済社会の現状と将来を思考するヒントを得ることと、議論展開のための能力を身につけることを目標とする。

スケジュール

- 第1回 日本的資本主義とは
- 第2回 新たな資本形態
- 第3回 日本の経済構造の変化
- 第4回 現代資本主義経済体系の構造分析
- 第5回 グローバル化と現代資本主義経済体系の形成
- 第6回 世界経済体系の二重構造
- 第7回 現代資本主義への再思考
- 第8回 新資本主義の出現
- 第9回 現代資本主義の類型
- 第10回 資本主義経済の問題点
- 第11回 地球温暖化を考える
- 第12回 現代資本主義の発展モデル
- 第13回 北欧資本主義の成功要因
- 第14回 グローバル時代の資本主義
- 第15回 過剰富裕時代の到来

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 白春驅「現代資本主義入門」、三恵社、2008年、2000円(税込)。

参考書 石見徹「世界経済史」、東洋経済新報社、2009年(第8刷)、3000円+税。

授業外での学習

講義内容への理解を深めるには、事前の予習を勧める。

評価方法

受講状況(30%)、毎回の小テスト(20%)、定期試験(50%)を基に総合的に評価する。

履修上の注意

資本主義全体に関する基礎的理解をベースに講義を進めるため、毎回の積み重ねが断片的な認識結果を避けるわけである。講義中に小まめなメモ作業を行うので休まずに受講することを望ましい。

科目名 現代経済思想II
Title Modern Economic Thoughts II
科目区分 4群 経済史・経済思想

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 中路 敬(ナカジ タカシ) 学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

約2世紀半にわたる経済学の歴史のうち、主として後半の約150年間のいわゆる近代経済学の成り立ちの経緯を中心講義します。

達成目標

20世紀初頭から現代までの経済学の潮流を理解します。

スケジュール

- 第1回 イントロ
- 第2回 ケンブリッジ学派の形成 A.マーシャル
- 第3回 マーシャルの経済学
- 第4回 マーシャルの後継者たち
- 第5回 ケインズ革命以前のケインズ
- 第6回 『一般理論』I
- 第7回 『一般理論』II
- 第8回 ヒックスとサミュエルソン
- 第9回 ケインズ経済学の動学化と計量経済学I
- 第10回 ケインズ経済学の動学化と計量経済学II
- 第11回 ゲームの理論の展開I(フォン・ノイマン&モルゲンシュテルン)
- 第12回 ゲームの理論の展開II(ナッシュ)
- 第13回 一般均衡理論の展開(アロー、ドウブリューラ)
- 第14回 近年の経済学・経済思想の潮流
- 第15回 まとめ ※進歩状況に応じて大幅に変わることがあります。

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 なし

参考書 隨時指示します。

授業外での学習

ミクロ経済学・マクロ経済学関連科目、計量経済学、経済学方法論について各自学習すること。

評価方法

期末試験のみの予定。平常点の有無、和文レポート、英文翻訳レポート等、受講者と相談の上変更する可能性があります。

履修上の注意

本講義の内容は、ほぼすべての経済学科目にかかわりますが、とくにミクロ経済学・マクロ経済学関連、計量経済学、経済学方法論と合わせて履修することを勧めます。多少は微積分を使用します。

科目名 経済学史II
Title History of Political Economy II
科目区分 4群 経済史・経済思想

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 中路 敬(ナカジ タカシ) 学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
3~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

約2世紀半にわたる経済学の歴史のうち、主として前半の約100年間の経済学の成り立ちの経緯を講義します。

達成目標

古典派経済学の成熟と解体の過程を多面的に理解します。

スケジュール

- 第1回 イントロ～前期のおさらい
- 第2回 J.S.ミルの経済学I 分配論など
- 第3回 J.S.ミルの経済学II 値値論など
- 第4回 J.S.ミルの経済学III 動態論など
- 第5回 J.S.ミルの経済学IV 社会哲学への含意
- 第6回 イギリス古典派経済学の解体
- 第7回 F.リストのイギリス古典派経済学批判
- 第8回 ドイツ歴史学派の形成
- 第9回 旧ドイツ歴史学派の手法
- 第10回 新ドイツ歴史学派といわゆる方法論争
- 第11回 マルクス経済学の“哲学的”基礎I カント・ヘーゲルとの関係
- 第12回 マルクス経済学の“哲学的”基礎II 弁証法的唯物論の構築と射程
- 第13回 マルクス経済学体系 値値論など
- 第14回 マルクス経済学体系 資本主義の命運
- 第15回 まとめ ※ 進捗状況に応じて大幅に変わることあります。

(専門教育科目)
経済学科

教科書・参考文献

教科書 なし

参考書 Jurg Niehans, A History of Economic Theory: Classic Contributions, 1720-1980.
Johns Hopkins Univ Press. 1994

授業外での学習

随時指示する。

評価方法

期末試験のみの予定。平常点の有無、和文レポート、英文翻訳レポートなど受講者と相談の上変更する可能性があります。

履修上の注意

本講義の内容は、ほぼすべての経済学科目にかかわりますが、とくに資本主義経済の理論と経済学方法論と合わせて履修することを勧めます。

科目名 世界経済論II
Title World Economy II
科目区分 5群 経済事情・経済制度

教授 矢野 修一 (ヤノ シュウイチ) 担当教員 担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

世界経済論I・IIを通じ、第二次世界大戦後における世界経済の展開過程を振り返り、金融グローバル化の意味、その歴史的帰結を考える(I・IIの個別履修可)。世界経済論IIでは、ブレトンウッズ体制崩壊のプロセス70年代半ば以降の世界経済の変容、周期的な金融危機と規制改革について講述する。現在の世界金融危機の本質を歴史的・制度的文脈に位置づける本講義の受講を通じ、新聞・テレビ等のニュースへの理解を深めてもらいたい。

達成目標

現代史の知識を深めるとともに、新聞・テレビ等で流れる世界経済関連ニュースの理解度を高める。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス（単位認定方法、昨年度履修状況・授業評価アンケート結果、講義テーマ・関連科目解説、その他諸注意）
- 第2回 ブレトンウッズ体制の崩壊—金融グローバル化の幕開け
- 第3回 ヨーロッパ市場への支持①
- 第4回 ヨーロッパ市場への支持②
- 第5回 金融協力の失敗①
- 第6回 金融協力の失敗②
- 第7回 金融再グローバル化へのターニングポイント①
- 第8回 金融再グローバル化へのターニングポイント②
- 第9回 金融自由化への転換①
- 第10回 金融自由化への転換②
- 第11回 國際金融危機への対処①
- 第12回 國際金融危機への対処②
- 第13回 國際金融危機への対処③
- 第14回 貿易の管理と金融の自由化①
- 第15回 貿易の管理と金融の自由化②

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 特に使用しない。レジュメ、資料を用いて授業を行う。

参考書 講義中に提示する。

授業外での学習

初回ガイダンスにおいて例示する講義補完媒体（新聞・テレビ番組・雑誌等）の日常的活用、関連講義の履修

評価方法

期末に行われる筆記試験（80%）、毎講義後のリアクションペーパーの回答内容・提出状況（20%）で評価する。就職活動等に伴う出席不足を補うためのレポート提出等を認めて成績評価の参考材料とする場合あり。

履修上の注意

遅刻厳禁（入室限度時刻を設定し、以後入室禁止）。履修に際し、特に予備知識は必要としないが、「実社会で通用しないことは教室内でも通用しない」という原則を理解できない人の履修はお断りしたい。

科目名 国際雇用論II
Title International Labor Markets II
科目区分 5群 経済事情・経済制度

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 石井 久子(イシイ ヒサコ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

労働市場を国別に国際比較することにより日本における労働市場の構造的な特徴や経済変動に対する反応をよりよく理解することを目的とします。各国の価値観や文化を考慮したうえで、経済的な枠組みを探り、労働市場の特徴や機能について学びます。本年度は各國の教育制度が労働市場に及ぼす影響について特に注目してみます。また、さまざまな国の若年労働についても着目します。世界の労働市場について知識を深めることにより、国際的な視野が広がることを期待します。

達成目標

労働市場を国際比較することにより、日本の労働市場をよりよく理解し、新聞や白書に掲載された雇用に関する記事をクリティカルに読む能力を高めます。

スケジュール

- 第1回 概要: 国際雇用論IIで何を学ぶのか
- 第2回 日本の雇用について: 正社員の働き方を考えてみよう
- 第3回 日本の雇用について: 女性の働き方を考えてみよう
- 第4回 日本の雇用について: 若者の働き方を考えてみよう
- 第5回 アメリカの雇用について: 所得格差拡大の要因について考えてみよう
- 第6回 アメリカの雇用について: 男女間賃金格差の縮小について考えてみよう
- 第7回 イギリスの雇用について: Brexitの雇用に与える影響とは何か
- 第8回 フランスの雇用について: フランスの女性はワークライフバランスをいかに実現しているのか
- 第9回 ドイツの雇用について: 日本より労働時間が年間約300時間も短い働き方とは
- 第10回 イタリアの雇用について: 若年失業率が高く、二ートも多いのはなぜだろう
- 第11回 オランダの雇用について: パートタイム革命とは何であろうか
- 第12回 まとめと確認(中間試験)
- 第13回 オーストラリアの雇用について: アメリカやヨーロッパの労働市場と比べてみよう
- 第14回 世界の労働市場における最近の動向について
- 第15回 国際雇用論IIの総括

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 特に指定はありません。

参考書 特にOECDの統計や文献を参照します。

授業外での学習

日頃から雇用に関する情報を新聞や経済誌等から積極的に収集し、知識を深めることを習慣とすることが重要です。講義終了後はノートや配布資料を見直し、理解を確認しましょう。

評価方法

平常点(20%)、中間試験(40%)、期末レポート(40%)により評価します。第12回目の講義日に中間試験を実施する予定です。確定した実施日については、改めて事前にお知らせしますので、ご留意ください。

履修上の注意

履修生の経済学についての理解度や国際雇用論への関心度を考慮して、講義内容や講義の順番を変更することがあります。多角的な講義展開を試みます。

科目名 行政法II
Title Administrative Law II
科目区分 5群 経済事情・経済制度

担当教員
非常勤講師 金井 洋行 (カナイ ヒロユキ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

後期では、行政法の基礎理論や一般的法理論を使って、行政法の個別的な重要テーマに関する紛争を解きほぐしていく姿勢を身に付け、行政法のシステムの機能の理解を深めることを、第一義的な目的とする。特に、道路、河川、建物、公園、港湾、食品、税金等の身近な生活資源をめぐる法律問題の法的位置付けを把握し、行政法と隣接する諸法(民法・刑法・訴訟法等)との関連性を理解することを、第二義的な目的とする。

達成目標

- ①公の物的手段に関する法律関係を行政処分との関連性で理解する。
- ②行政上の強制制度、安定性確保の制度の問題点を理解する。
- ③行政によって国民住民が被る損害・損失・不利益に対する、行政上の救済と回復の制度を理解する。

スケジュール

- 第1回 行政法の体系における各論的な法システムの課題
- 第2回 公物関係と行政処分(1)- 処分対象物の物権変動と処分の効力
- 第3回 公物関係と行政処分(2)- 行政財産の貸付
- 第4回 建物除去命令と行政代執行
- 第5回 行政上の緊急措置の根拠
- 第6回 行政上の立入検査
- 第7回 行政上の処罰の特質
- 第8回 土地収用・公用制限と損失補償
- 第9回 公務員の特定と国家賠償責任
- 第10回 賠償制度と損失補償制度の谷間の問題
- 第11回 洪水災害と河川の管理責任
- 第12回 行政訴訟の特質と機能
- 第13回 取消訴訟の訴訟要件(訴権的利益の存在)
- 第14回 住民訴訟と自治体行政の監視
- 第15回 定期試験

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 金井洋行・新田浩司著『プロローグ行政法』八千代出版 2,800円+税

参考書 授業開始時に指定する。

授業外での学習

次回の授業のケースに関連する考察事項を提示するので次回までに教科書等を参考に考えておき、授業中の質問に答えられるようにしておくこと。なお、提示する考察事項は、レジュメ中の〔考察項目〕で取りこぼしたものと新たなものを見分けることがある。

評価方法

定期試験(70~80%)、授業態度、質問、意見発表その他の平常点(30~20%)

履修上の注意

行政法は、いわば総合法学的な性格をもっているので、特に、憲法や民法等の周辺科目の基本的知識を身につけていくことが望ましい。質問、意見等を書き込む連絡票を用意しておくので、積極的に質問や意見等を提出することを期待する。

科目名 日本経済論II
Title Japanese Economy II
科目区分 5群 経済事情・経済制度

担当教員
非常勤講師 山田 博文 (ヤマダ ヒロフミ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

本講義は、日々の身近な経済ニュース、グローバル時代の日本経済の仕組みと動向に焦点を当て、それらがよく理解できるような金融や経済の基礎知識を体系的に学ぶことを目的にしている。

達成目標

基礎知識を「死んだ知識」に閉じこめないで、「生きた知識」として躍動させ、現代日本の経済問題を自主的に分析できるようになること。

スケジュール

- 第1回 日本経済論IIのガイダンス
- 第2回 現代経済のグローバル化・情報化・金融化
- 第3回 経済学って、なに？
- 第4回 なんのために働くのか？
- 第5回 グローバル化は何を変えたのか？
- 第6回 好況と不況はなぜ生まれるのか？
- 第7回 日本の経済成長とはなんだったのか？
- 第8回 経済大国日本でなぜ貧困と格差が拡大するのか？
- 第9回 「金融」は世の中を豊かにしたのか？
- 第10回 日本の財政は破綻するのか？
- 第11回 アメリカと日本の経済は一体なのか？
- 第12回 ウォール街はなぜ破綻したのか？
- 第13回 戦争と経済は関係するのか？
- 第14回 日本は東アジアで孤立するのか？
- 第15回 私たちはどんな経済社会をめざすのか？

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

- 教科書 山田博文『(第2版) 99%のための経済学入門～マネーがわかれれば社会が見える～』(大月書店、2016年7月)
- 参考書 山田博文『(第3版) これならわかる金融経済～グローバル時代の日本経済入門～』(大月書店、2013年9月)

授業外での学習

日々変化する経済動向です。それは、新聞やTVのニュースとなって報道されます。受講生は、これらの経済記事の意味と効果について検討してください。

評価方法

受講状況・レポートなどの点数を10%、テストの点数を90%、として総合的に評価する。

履修上の注意

経済は生き物である。各種の相場が変化するだけではなく、経済システムそのものの変化が急速に進展している。受講者には、日頃から経済関係の新聞・雑誌に目を通し、主体的に問題にアプローチする姿勢がもとめられる。

科目名 社会学特講
Title Sociology Special Lecture
科目区分 5群 経済事情・経済制度

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 名和 賢美(ナワ ケンミ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

現代社会は多様化複雑化する一方ですが、本科目では現実の数多くの社会現象や社会問題について理解を深めています。まず序盤では、社会学という学問に関する概説的な講義により、基本概念や基本的な方法論などを学んでいます。その後、多種多様な社会学の研究対象の中から、毎回、特定のテーマを設けて、世界の諸統計資料を多角的かつ深く読み解くと同時に読み解いた内容をきちんと筋道を立てて表現するという作業を反復練習し、社会学固有の比較方法に習熟することを目指します。

達成目標

- (1) 社会学的方法の把握・・・社会現象・問題をジャーナリスト的観点から考える姿勢からの脱却
(2) データ読み解力の向上・・・社会問題に関する既存データを鵜呑みにするような態度からの脱却
(3) 論理的表現力の向上・・・社会問題データにおける問題点をダラダラと伝える思考からの脱却

スケジュール

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方、評価方法)
第2回 社会学という語の成立
第3回 社会学の成立、社会学的なものの考え方、社会調査
(注) 第3回授業時に「受講希望理由書」を提出すること。未提出の場合、評価対象外とします。
第4回 政治社会学：政治参加と民主化
(注) 第4回以降は、毎回必ず、教科書と国語辞典を持参すること。
第5回 教育社会学：学校教育と学歴社会
第6回 福祉社会学：人口と高齢化
第7回 民族社会学：宗教と難民
第8回 環境社会学：CO₂排出量と温暖化
第9回 都市社会学：生活環境と観光
第10回 情報社会学：情報化と情報リテラシー
第11回 児童社会学：家族と育児
第12回 レポートのテーマ選定、既存データの利用方法
第13回 社会学と高等教育
第14回 社会学と中等教育
第15回 総括授業

(注) スケジュールは授業の進行状況等により変更する場合もあります。

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 『今がわかる時代がわかる世界地図』 2018年版、成美堂出版。

参考書 授業中に適宜紹介します。

授業外での学習

以下のような予習・復習を毎回指示します。
(予習) 教科書の特定ページを読み、小レポートの草稿を作成する。
(復習) 返却された小レポートをパソコンで清書する。

評価方法

小レポート10回分：80%、レポート：20%。全出席し適当に小レポートを出せば単位が取れるような甘い授業ではありません。データ読み解力と論理的表現力を駆使した小レポートの作成を毎回繰り返さない限り、単位取得は難しいでしょう。なお、小レポートは添削・採点し、翌週の授業初めに返却・講評する予定です。

履修上の注意

※ 1年生は「日本語リテラシーI・II」を履修した後で受講することが望ましい。
※ 例年、教職課程で履修せざるを得ない学生が受講生の半数以上を占めます。一般学生の割合の低さは、毎回ヒヒヒ言つて大いに苦労するほど、受講のシンドさトップクラスの授業だからです。

科目名 経済地理学II
Title Economic Geography II
科目区分 5群 経済事情・経済制度

担当教員
非常勤講師 斎野 岳廊(サイノ タケロウ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

経済地理学の実践的意義の一つは、経済・産業活動が効率的にいとなまれるための地理的空間のありかたを提示することにある。本科目では、はじめに現代の先進国においてますます重要性をもつオフィス活動の立地に焦点をあて、国際競争力の高い産業空間の形成について論じ、つぎに「産業集積論」の基礎を幅広く学びつつ、地域経済や都市経済にとって重要な原則を考察していく。その上で地域経済・都市経済の拡大システムとしての国土全体にわたる合理的な産業配置の編成がについて追究していくことが目的である。

達成目標

現代先進国的主要産業活動の要としてのオフィス活動がいかに重要であるかを理解できたか。「産業革命」以来の近代社会が集積経済の累積的なメカニズムの結果であることを理解し、グローバル化が進む現代においても産業集積論の学習が必要不可欠であることを理解できたか。本科目で学んだオフィス立地論、産業集積論をベースに日本の地域・国土政策の問題点と産業配置の将来ビジョンを展望する視点をもつことができるようになったか。

スケジュール

- 第1回 はじめに-経済地理学の意義と応用
- 第2回 オフィスの定義と現代社会における付帯的オフィス活動の意義
- 第3回 オフィス活動の重要性-国民経済、都市経済、都市地域構造
- 第4回 オフィス立地の理論(1)-ハイクの先駆的研究と補足
- 第5回 オフィス立地の理論(2)-中心地理論の適用
- 第6回 オフィス立地の理論(3)-クリスタマーの中心地理論の再説
- 第7回 中枢管理機能のオフィス立地-大企業の本社立地を例として
- 第8回 本社オフィス立地の実際と類型化
- 第9回 大企業本社はなぜ「東京」へ集中するか-その要因と考察
- 第10回 産業集積と現代社会
- 第11回 ウエーバーの工業集積論-その概要と意義
- 第12回 産業集積論(1)-マーシャルの外部性と集積理論
- 第13回 産業集積論(2)-中間財の生産と集積の内部分化
- 第14回 産業集積論(3)-技術的外部経済とスピンドル
- 第15回 オフィス産業と産業集積論からみた日本列島の将来ビジョン

専門教育科目
(経済学科)

教科書・参考文献

教科書 テキストは使用しません。授業の際に講義内容のレジュメを配布して授業をすすめます。

参考書 松原宏『経済地理学-立地・地域・都市の理論』(東京大学出版会) 山本健児『経済地理学入門新版-地域の経済発展』(原書房)

授業外での学習

授業中に指示した課題を学外で取り組み、その成果は定期試験で確認する。

評価方法

定期試験の成績90%、受講態度等の平常点10%、の割合で評価します。

履修上の注意

本科目を受講するにあたって前期開講の「経済地理学I」を受講していることは必ずしも前提とはしていませんが、相互に関連した事項も含みますので、理解をいっそう深めるためにはあわせて受講されることをおすすめします。

科目名 中国経済論II
Title Chinese Economy II
科目区分 5群 経済事情・経済制度

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 大石 恵 (オオイシ メグミ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

この講義では、改革開放政策採用以降の中国経済に注目し、現代中国が抱える様々な問題について学ぶ。1980年代以降、中国経済は目覚ましい発展を遂げた。その間に、中国は都市と農村、東部沿海地域と内陸地域の格差だけでなく、都市内部の貧困、農業の停滞など、様々な問題に直面するようになった。講義では、経済体制改革の過程で生じた格差や矛盾について考察し、中国政府の政策や残された課題について検討する。

達成目標

先進国、新興国、途上国という3つの顔を持つ中国について、知識と理解を深めることを目標とする。

スケジュール

- 第1回 序論、改革開放後の中国経済
- 第2回 対外開放と直接投資の受入(1)段階的対外開放
- 第3回 対外開放と直接投資の受入(2)外資導入の進展
- 第4回 対外開放と直接投資の受入(3)日中経済関係
- 第5回 国有企業改革(1)様々な企業の所有形態
- 第6回 国有企業改革(2)所有制改革
- 第7回 農業改革(1)請負制の導入
- 第8回 農業改革(2)三農問題
- 第9回 農業改革(3)戸籍管理制度の緩和
- 第10回 地域開発政策(1)地域開発政策の歴史と西部大開発
- 第11回 地域開発政策(2)広域経済開発
- 第12回 地域開発政策(3)地方の経済振興
- 第13回 格差・貧困(1)中国の貧困対策
- 第14回 格差・貧困(2)都市の格差と貧困対策
- 第15回 総括

教科書・参考文献

教科書 教科書の指定はしない。講義に必要な資料等は、授業中に配布する。

参考書 加藤弘之・上原一慶編著『現代中国経済論』ミネルヴァ書房、2011年；丸川知雄『現代中国経済』有斐閣、2013年など。

授業外での学習

日頃から中国に関する報道に关心を持ち、新聞などで積極的に情報を収集しておく。

評価方法

期末試験(80%) + リアクションペーパー(20%) = 100%で評価する。

履修上の注意

- (1)中国経済論Iを履修済みであることが望ましい。
- (2)始業後10分を経過しての入室は慎むこと。

科目名 社会保障制度論
Title Social Security System
科目区分 5群 経済事情・経済制度

教授 秋朝 礼恵 (アキトモ アヤエ)
担当教員

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

社会保障は、個人が健康で安心な生活を送れるよう、社会全体で負担を分かち合い支えあうシステムである。今日、日本の社会保障制度は、グローバル化、人口構造、就業構造そして地域構造の変化等社会的経済的变化の下で、岐路に立たされている。そこで、本講義では、主として日本の社会保障制度を事例として取り上げ、また諸外国の事例も比較参考しつつ、今後の社会保障制度のあり方を考えるための基礎力を養う。

達成目標

基礎的知識や統計データ等を用いて、現行制度が抱える課題と今後のあり方について考え、表現できること。

スケジュール

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | インロダクション、講義内容、講義の進め方、評価などの説明 |
| 第2回 | 社会保障制度の概要および基礎概念 |
| 第3回 | 社会保険：保険の原理、社会保険と民間保険 |
| 第4回 | 社会保険：年金保険制度①（概要および基礎概念） |
| 第5回 | 社会保険：年金保険制度②（給付面） |
| 第6回 | 社会保険：年金保険制度③（負担面） |
| 第7回 | 社会保険：年金保険制度④（諸外国の事例と日本との比較） |
| 第8回 | 社会保険：医療保険制度①（概要および国民医療費） |
| 第9回 | 社会保険：医療保険制度②（給付と負担） |
| 第10回 | 社会保険：医療保険制度③（医療サービス供給） |
| 第11回 | 社会保険：医療保険制度④（諸外国の事例と日本との比較） |
| 第12回 | 社会福祉：保育サービス① |
| 第13回 | 社会福祉：保育サービス② |
| 第14回 | 公的扶助：生活保護制度 |
| 第15回 | 社会保障制度の現代的課題 |

教科書・参考文献

教科書 教科書は特に定めず、毎回講義でレジュメを配布する。

参考書 中央法規『社会保障入門2018』、小塩隆士『社会保障の経済学』日本評論社、厚生労働省『厚生労働白書』など。その他、講義中に適宜紹介する。

授業外での学習

前回の授業内容を理解しているという前提で講義を進めるので、各自で復習をしておくこと。不明な点は各自で調べ考えて理解を深めること。質問は歓迎する。

評価方法

期末試験(70%)およびコメントペーパー(30%)で評価する。

履修上の注意

必須ではありませんが、前期の「社会保障原理」の受講を勧めます。
受講生の理解度などに応じて、上記スケジュールが多少変わる場合があります。

科目名 経済法II
Title Economic Law II
科目区分 5群 経済事情・経済制度

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 北 博行(キタ ヒロユキ) 学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3・4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

経済法という名前の法律はありませんが、その概念の中心となる法律が「私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律」(「独占禁止法」)であり、これを補完する法律が「下請代金支払遅延等防止法」(「下請法」)、「不当景品類及び不当表示防止法」(「景表法」)、「入札談合等闇与行為の排除及び防止並びに職員による入札等の公正を害すべき行為の処罰に関する法律」(「官製談合防止法」)であることについては異論はないと考えます。独占禁止法は、公正且つ自由な競争を促進することで一般消費者の利益確保と国民経済の民主的で健全な発達を促進することを目的としています。そしてこの目的を達成する為に、私的独占、不当な取引制限、不公正な取引方法を禁止し、事業支配力の過度の集中(企業結合を含む)を防止する法律です。経済法IIでは独占禁止法(不公正な取引方法)および下請法と景表法を取り上げ、毎回事例に基づき解説します。

達成目標

新聞などで報道される経済法事件の具体的な内容と企業活動・国民経済に与える影響を、法律に基づいて考え方発言できる力を身に付けて欲しいと思います。また経済法事件に巻き込まれない為の法律知識を養って欲しいと思います。

スケジュール

- 第1回 独占禁止法の歴史
- 第2回 取引拒絶事例「着うた事件」
- 第3回 差別対価事例「北国新聞事件」
- 第4回 不当廉売事例「シンエネコーポレーション事件」
- 第5回 再販売価格維持事例1「ハーゲンダッツ事件」
- 第6回 再販売価格維持事例2「アディダス事件」
- 第7回 優越的地位の濫用事例「山陽マルナカ事件」「日本トイザらス事件」
- 第8回 抱合せ事例「マイクロソフト事件」「藤田屋事件」
- 第9回 拘束条件付取引事例「東洋精米機事件」「20世紀フォックス事件」「大分大山農協事件」
- 第10回 役員選任干渉事例「日本興業銀行事件」「三菱銀行事件」
- 第11回 取引妨害事例「東急パーキングシステム事件」
- 第12回 下請法事件「日本生活協同組合事件」「大創事件1&2」
- 第13回 景表法事件1「虫よけ事件」「木曽路事件」
- 第14回 景表法事件2「秋田書店事件」
- 第15回 第1回から第14回までの要点整理

教科書・参考文献

教科書 毎回講義ノートを配布します。きちんと綴じて保管してください。

参考書 小田切宏之著『競争政策論』(日本評論社)
後藤晃著『独占禁止法と日本経済』(NTN出版)

授業外での学習

毎回取り上げる事例については「事例集」を配布予定です。一読するよう心掛けて下さい。復習に重点をおいて勉強してください。

評価方法

定期試験(すべて持込可)で評価します。尚、授業を欠席して合格点を得ることは困難です。

履修上の注意

疑問点、不明点が生じたらぜひ質問をしてください。
また意見を述べることで考え方や理解が整理されると思いますので積極的な発言を期待します。

科目名 地方財政論II
Title Local Public Finance II
科目区分 5群 経済事情・経済制度

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 倉地 真太郎(クラチ シンタロウ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3・4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

本講義の目的は、地方財政に対する理解を深め、今の日本が抱える財政問題・社会問題について様々な観点から考察できるようになることである。福祉や行政サービス等、地方自治体が提供するサービスは、住民の生活に密着した身近な存在である。また近年では、「地方消滅」や待機児童等の問題が多くの人々の関心を集めている。しかしながら、地方財政が実際にどのような課題を抱えているか、普段の生活ではなかなか知ることができないのが現状ではないだろうか。地方自治体は住民のニーズに基づいたサービスを提供するわけだが、その一方で地方の財政自主権が実質的に制限されているため、画一的な地方財政運営の一般化が現状となっている。なぜ日本の地方財政運営は画一的になったのだろうか?後期では日本の地方財政制度の歴史的展開や国際比較を踏まながら、地方財政の収入面や政府間関係の課題に焦点を当てる。

達成目標

後期は地方財政の収入面についての理解を深めることを目標とする。前期には地方財政が提供するサービスに焦点を当てたが、十分なサービスの確保には中央政府の意向が強く反映されている。他国の事例や歴史的な制度の変遷を豊富に学び、現実の地方財政の課題を多角的に検討できるようになることが理想である。就活・公務員試験には直接役立つことはないが、社会人になってから活きるような授業を目指す。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：地方財政論Iの復習とIIの概要
- 第2回 納税者の反乱
- 第3回 財政戦争
- 第4回 租税競争
- 第5回 地方税の制度と歴史
- 第6回 ふるさと納税
- 第7回 地方財政計画
- 第8回 地方交付税
- 第9回 国庫支出金
- 第10回 財政破綻と自治体基金
- 第11回 地方財政の予算と公会計
- 第12回 国と地方の協議の場
- 第13回 地方自治と市民参加
- 第14回 地方分権改革
- 第15回 まとめ・復習

教科書・参考文献

教科書 指定はしない。

参考書 林建久編(2003)『地方財政読本第5版』東洋経済新報社。
金子勝、神野直彦編著(1998)『地方に税源を』東洋経済新報社。

授業外での学習

興味関心があるトピックについては、講義資料だけでなく参考文献を参照することをオススメする。地元や関心のある自治体の財政状況に関する資料を日頃から収集した上で講義に参加すると理解が深まると思われる。授業で分からないことがあったら、担当者HPのWebフォームやメールなどで質問することを歓迎する。

評価方法

講義への授業態度、中間レポート、期末試験によって評価する。特に期末試験を重視する。授業では任意でリアクションペーパー、あるいは質問フォーム(Web)で質問・感想を提出することを推奨している。これを授業に対する積極的参加の指標として加点する。具体的には授業の進捗状況を見ながら決めるので、注意されたい。

履修上の注意

後期からの履修も歓迎する。補完的な関係となっているため、できる限り『地方財政論I』とセット履修を勧めたい。また、より深い理解のために『財政学』や『公共経済学』の履修を勧める。
講義資料は、授業内で配布するが、できる限り担当者HP(<https://shintarokurachi.org/>)にも同じ資料を掲載する予定である。昨年度の配布資料の閲覧を希望する者は担当者にその旨を連絡すること。

科目名 近代経済学II
Title Modern Economics II
科目区分 5群 経済事情・経済制度

担当教員
准教授 中路 敬 (ナカジ タカシ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3・4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

本講義では、近代経済学の分析で用いられる数学的手法の概略を講義し、その後、ミクロ経済学の基本的な考え方を講義する。

達成目標

前期に同じ

スケジュール

- 第1回 イントロ
- 第2回 労働の供給関数
- 第3回 生産関数と生産者の要素需要
- 第4回 さまざまな費用概念と費用関数
- 第5回 利潤最大化と供給関数の導出
- 第6回 「短期」と「長期」
- 第7回 生産関数と費用関数の関係
- 第8回 部分均衡理論
- 第9回 一般均衡理論
- 第10回 安定性分析
- 第11回 余剰分析
- 第12回 不完全競争の理論I (単純独占など)
- 第13回 不完全競争の理論II (クルノー複占理論など)
- 第14回 不完全競争の理論III (独占的競争の理論など)
- 第15回 まとめ 進歩状況に応じて大幅に変わるべき可能性があります。

教科書・参考文献

教科書 特に指定はしませんが、講義中に参照できるような基本文献をつねに持参しておくことが望ましい。

参考書 武隈慎一『ミクロ経済学 増補版』(新世社,1999年)
同『演習 ミクロ経済学』(新世社,1994年)

授業外での学習

微積分を多用するため、解析学にかかわる各種教養・専門科目の各自学習しておくこと。

評価方法

期末試験のみの予定。平常点の有無・レポートの加点等、受講者と相談の上変更する可能性があります。

履修上の注意

通常での履修を強く推奨します。微積分を多用するため、解析学にかかわる各種教養・専門科目の履修者が望ましい。希望者がいれば、演習問題として公務員試験等の過去問等のプリントを配布します。

科目名 特別講義（経営学）
Title Special Lecture (Business Administration)
科目区分 1群 経営学の基礎

教授 谷口 聰（タニグチ サトシ） 担当教員
担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

「日本の現場力 一先人の知恵と経験に学ぶ」
資源の乏しい日本が、第二次世界大戦後に高度成長を経て、経済大国になれたのは日本人の力による処が大きい。「現場力」では、様々な現場で、現場の問題点を直視して日本人の創意、工夫により様々な困難に打ち勝つてきた。様々な企業の第一線で活躍してきた方々に自らの体験と、そこから得られた事を学ぶ。

達成目標

(1) 困難な課題に関する現場力の習得 (2) 短時間に集中して的確に講師の話をまとめる能力 (3) 段落書法 (paragraph writing) の活用

スケジュール

- 第1回 モノづくり会社（化学産業）の面白さ、内・外、老・若：総合力發揮が鍵-会社の仕組みを理解する
- 第2回 医薬品企業の難しさ、面白さ（医薬品企業のビジョンと課題）
- 第3回 自分を変える挑戦により、道が拓ける～その実践「モノづくり40年体験」事例
- 第4回 航空業界から企業コンサルタントに転身 キャリアデザインに必要な機会活用、モティベーション維持etc.
- 第5回 商社マン、ヨーロッパでの奮闘記
- 第6回 企業買収とは何か：ブリヂストンを参考にして
- 第7回 服作りの現場で使うCADシステム開発物語
- 第8回 東京ディズニーランドの現場力
- 第9回 日本車の欧州輸出とドイツ車の日本輸入～輸出と輸入は表裏一体
- 第10回 基礎産業資源としてのアルミニウムの海外開発輸入について
- 第11回 IT企業および中小製造業の経営における現場力の価値と事例
- 第12回 アミノ酸と共に歩んだ100年史-味の素(株)のグローバル展開より
- 第13回 日本のエネルギー源の主役となったLNG貯蔵地下タンクの技術開発を振り返る
- 第14回 南極・昭和基地運営の観測隊適応力
- 第15回 日本の現場力を金融の視点から考える

教科書・参考文献

教科書 なし

参考書 各講師の著書

授業外での学習

新聞を読み、事業開発や事業転換等に関する記事に目を通し、講義との関連を考えよう。学内のPCから新聞記事データベースに接続し、記事検索をしてみるのも良い。

評価方法

毎回の出席レポート（10割）。レポート提出数が全回数の3分の2に満たない場合は失格。

履修上の注意

講義計画や講義の順序、また講義題目等は都合により変更される場合がある。講義中の私語は控えること。諸君の講義中における態度が本学学生に対する社会からの評価につながると思って臨むこと。

科目名 外国経営史
Title Foreign Business History
科目区分 1群 経営学の基礎

教授 担当教員
加藤 健太 (カトウ ケンタ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

この講義の目的は、19世紀後半から20世紀にかけて、いち早く大企業体制を成立したアメリカを主たる対象にして、大量生産と大量流通と大量消費を可能にした企業の戦略と組織、企業者活動の実態を学び、アメリカにおける企業発展のダイナミズムを理解することである。具体的には、フォード、スタンダードオイル、シアーズ・ローバック、ウォルマート、コカコーラ、マクドナルドなどの事例を取り上げ、垂直統合やM&A(合併・買収)といった経営戦略、事業部制やフランチャイズ・システムといった経営組織などに解説を加える。

達成目標

達成目標は、時代背景を踏まえながら、アメリカにおけるビッグ・ビジネスの発展とその要因、新たなビジネス・モデルとその仕組みを理解するとともに、それらに関する正確な議論を展開できるようになることである。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション -「ゆたかな社会」の出現と展開-
- 第2回 ヘンリー・フォードと自動車の世紀の幕開け -T型はいかなる意味で革新的であったか-
- 第3回 アメリカ企業のM&A戦略(前編) -ビッグ・ビジネスの誕生-
- 第4回 アメリカ企業のM&A戦略(後編) -ゴールドマンサックスの20世紀-
- 第5回 シアーズ・ローバックはいかにして農村の救世主となったのか -近代的な小売業態としての通販-
- 第6回 チェーンストアの時代 -エコノミー・ストアとスーパー・マーケット-
- 第7回 ウォルマートの小売業態開発戦略
- 第8回 中間復習講義
- 第9回 コカ・コーラ社の垂直統合戦略 -大量流通はどのように実現したか-
- 第10回 マクドナルドの成長とフランチャイズ・システム
- 第11回 サウスランドの事業創造とセブン-イレブン -コンビニエンスストア事業の発展と変貌-
- 第12回 ファッショングランドの海外進出と対日戦略 -カルダンの失敗とヴィトンの成功、ディオールの復活-
- 第13回 GAPの成長とSPAモデルの構築
- 第14回 シリコンバレーの発展とビジネス・モデルの変貌 -産業集積とIT革命-
- 第15回 コンクルージョン -アメリカ企業発展のダイナミズム-

教科書・参考文献

教科書 教科書は特になく、講義の時にレジュメを配布する。

参考書 講義全体に関しては、安部悦生ほか『ケースブック アメリカ経営史』有斐閣(2002年)と鈴木良隆ほか『ビジネスの歴史』有斐閣(2004年)が参考になる。個別企業に関しては講義内に提示する。

授業外での学習

レジュメなどを用いて、講義の中で示されるポイントを復習し、事実関係だけでなく、“メカニズム”を理解することが大切である。

評価方法

受講態度、講義の中で実施するミニテスト・リアクションペーパー・レポート等(30%)、持込不可の期末テスト(70%)

履修上の注意

いうまでもなく、講義中の私語は厳禁。

科目名 人間関係論
Title Human Relations
科目区分 1群 経営学の基礎

担当教員
非常勤講師 久宗 周二 (ヒサムネ シュウジ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

産業における作業意欲は一般に産業モラールと呼び、組織における人間の行動を考える上での手掛かりとなっている。組織を運営していくために必要なモチベーション、リーダーシップを理解するとともに、人間関係に大きな影響を与える人間の行動特性について考える。

達成目標

会社などの組織へのモチベーションやリーダーシップ、仕事へ関心を持ち人間関係への影響などを理解する。人間の行動分析の手法を学び、応用できるようにする。積極的な意思疎通により他者と協調し、時にはリーダーシップを発揮することで自らが成長するとともに、組織や他者を支えることができる。

スケジュール

1. ガイダンス ホーソンの実験 序論 (その1)
2. ホーソンの実験 バンク実験 (その2)
3. ホーソンの実権 総論 (その3)
4. マズローの五段階欲求説、ハーズバーグの衛生理論
5. アダムスの公平理論・アージリスの成長理論
6. モチベーションの諸理論
7. リーダーシップに関する諸説 リーダーシップとは (その1)
8. リーダーシップに関する諸説 PM理論など (その2)
9. リーダーシップに関する諸説 コンテンジエンシー理論など (その3)
10. 自己啓発
11. チームビルディング
12. 人間の行動特性 飛行機での行動 (その1)
13. 人間の行動特性 駅での行動 (その2)
14. 人間の行動特性 商店での行動 (その3)
15. 人間の行動特性 バスでの行動 (その4)・ 総括

教科書・参考文献

教科書 必要に応じて資料を配布する

参考書 「産業心理学」正田亘 著 恒星社厚生閣

専門教育科目
(経営学科)

授業外での学習

講義に関連する書籍、資料を熟読すると共に、関連するニュースや新聞記事に关心を持つこと。

評価方法

テスト70%、平常点(小レポート、受講態度等)30%

履修上の注意

最近の出来事や話題、日常生活を例にして、授業を進めていきます。質問は隨時受け付けます。
身近なテーマに対してはディスカッションをしたいと考えています。

科目名 簿記論B
Title Bookkeeping
科目区分 1群 経営学の基礎

担当教員
非常勤講師 梶井 憲俊 (カジイ ノリトシ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 4	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

企業は、経営資源（人的資源、物的資源、資金資源、情報）を活用して、購入・製造・販売活動等により業績を把握している。そのため企業活動の測定と記録の方法は、一定の記帳ルール（複式簿記）に基づいて行われていることを理解させることを目的としている。更に、経営者は、経営資源を管理・運営し、企業の業績を利害関係者に対して提供する責任があることを理解させる。

達成目標

本講義において、企業の経済取引が複式簿記の記帳ルールにもとづいて記録・集計されて、利益が算出される仕組み及び財務諸表（貸借対照表・損益計算書など）の仕組みを習得することを目標としている。

スケジュール

- 第1回 簿記の基礎とその役割
- 第2回 簿記上の取引に関する仕訳と転記の仕組み
- 第3回 企業の主要な商品売買取引の記帳方法（三分法と分記法）
- 第4回 現金預金の取引（現金過不足、当座預金、小口現金等）
- 第5回 手形の取引（振出、裏書、割引）
- 第6回 有価証券の範囲（株式、社債、国債）とその取引
- 第7回 固定資産の種類、取得
- 第8回 その他の取引（未収入金、未払金、貸付金、借入金、手形貸付金、手形借入金、前払金、前受金、仮払金など）
- 第9回 その他の取引（立替金、預り金、商品券、他店商品券、資本金、引出金、訂正仕訳）
- 第10回 帳簿の種類（主要簿、補助簿および仕訳帳と総勘定元帳の仕組み）
- 第11回 帳簿の種類（小口現金出納帳、仕入帳、売上帳、受取手形記入帳、支払手形記入帳、売掛金元帳、買掛金元帳）
- 第12回 帳簿の種類（商品有高帳、仕訳と補助簿の関係）
- 第13回 試算表の種類と作成および総勘定元帳との関係
- 第14回 伝票（三伝票）と仕訳日計表仕組み
- 第15回 仕訳日計表の作成と各勘定元帳、売掛金・買掛金元帳の転記
- 第16回 決算手続き（現金過不足の整理）
- 第17回 決算手続き（消耗品の整理）
- 第18回 決算手続き（貸倒引当金の設定）
- 第19回 決算手続き（売上原価の計算と記帳）
- 第20回 決算手続き（固定資産の減価償却）
- 第21回 決算手続き（引出金の整理）
- 第22回 固定資産の売却
- 第23回 経過勘定（前払費用、前受収益）
- 第24回 経過勘定（未払費、未収収益）
- 第25回 現金過不足等の整理
- 第26回 8桁精算表の作成（その1）
- 第27回 8桁精算表の作成（その2）
- 第28回 貸借対照表の作成
- 第29回 損益計算書の作成
- 第30回 簿記の役割と利害関係者との関係

教科書・参考文献

教科書 簿記の教科書 滝沢ななみ著 出版社：TAC出版

参考書 授業中に指示する。

授業外での学習

授業の内容を確認するため、問題等を解くことが大切です。

評価方法

評価方法は、定期試験の成績(80%)、受講状況(10%)、授業の取り組み等(10%)の総合的に評価する。

履修上の注意

講義計画に基づいて、教科書、プリントを使用しながら理解度を確認し、授業を展開する。簿記は、段階的に難易度が高くなるので欠席をしないこと。また、電卓を使用する。

科目名 戰略的經營論
Title Strategic Management
科目区分 2群 戰略とマーケティング

担当教員
非常勤講師 森 哲男 (モリ テツオ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

戦略についての基本概念を復習しながら、戦略や組織にかかる実際のマネジメント課題を事例を通して見ていく。マネジメントにおける課題と具体的な問題解決を考える機会を提供することによって、企業活動や経営に対して考察を深めることを目標とする。

達成目標

企業の競争環境における問題や組織上の具体的な問題が理解できる。
また解決への考察を通して、戦略経営における実践的な知識を深めることができる。

スケジュール

- 第1回 講義の概要と現在の戦略的経営
- 第2回 標準化戦略：ケース・スタディ（マブチモーター）
- 第3回 市場ニーズと組織：ケース・スタディ（キリンとアサヒビール）
- 第4回 組織慣性と変革：ケース・スタディ（コダックと富士フィルム）
- 第5回 組織慣性と変革：ケース・スタディ（IBM）
- 第6回 中間試験
- 第7回 経営と人的資源管理：ケース・スタディ（星野リゾート）
- 第8回 組織文化とリーダーシップ：ケース・スタディ（地方鉄道の再生）
- 第9回 市場ニーズとビジネスモデル：ケース・スタディ（アスクル）
- 第10回 規制緩和とビジネスモデル：ケース・スタディ（アメリカン・ホーム・ダイレクト）
- 第11回 顧客ニーズとビジネスモデル：ケース・スタディ（サウスウェスト）
- 第12回 顧客ニーズとビジネスモデル：ケース・スタディ（アマゾン）
- 第13回 プラットフォーム戦略：ケース・スタディ（アドビ、アップル、グーグル）
- 第14回 プラットフォーム戦略：ケース・スタディ（ベターブレイス）
- 第15回 講義のまとめと期末試験

教科書・参考文献

教科書 必要に合わせ、資料を配布するので特になし。

参考書 適宜紹介する。

授業外での学習

復習は、その都度、事例についての記事等をあわせて読んでおくことが望ましい。

評価方法

中間試験：50%，期末試験：50%で評価する。

履修上の注意

特になし。

科目名 国際ビジネス概論
Title International Business
科目区分 2群 戦略とマーケティング

教授 担当教員
清水 さゆり (シミズ サユリ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

企業規模の大小を問わず、多くの企業が国境を超えて事業活動を展開しています。こうした企業の事業活動の実態と理論について理解することが国際ビジネス科目的講義目的です。
国際ビジネス概論では、国際ビジネスの基礎を学び、企業の国際化のロジックを理解し、国際ビジネスに関心をもつことが目的です。そのため、国際化の理論、多国籍企業の生成や歴史、国際ビジネス環境などを学びます。また、理論の有用性と補完性について確認・理解してもらうために、ケーススタディや映像資料等を用いる予定です。

達成目標

国際ビジネスに固有の諸課題について関心をもち、自ら考察できるようになること。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 國際的な企業活動
- 第3回 海外直接投資と自由貿易
- 第4回 國際化の理論-プロダクトサイクル論
- 第5回 國際化の理論-ハイマー理論
- 第6回 國際化の理論-内部化理論
- 第7回 ケース
- 第8回 多国籍企業の生成・歴史
- 第9回 海外直接投資-受入国への影響
- 第10回 海外直接投資-本国への影響
- 第11回 多国籍企業と国家の関係
- 第12回 國際市場セグメンテーションと参入方式
- 第13回 グローバルマーケティング戦略
- 第14回 グローバルサプライチェーンマネジメント
- 第15回 総括授業

教科書・参考文献

教科書 特に指定しません。

参考書 江夏健一・桑名義晴編(2006)『新版 理論とケースで学ぶ国際ビジネス』同文館出版
その他、適宜紹介します。

授業外での学習

授業内容についての復習を行う。また、常に新聞記事等を通じて企業活動に関心を持つ。

評価方法

定期試験70%、平常点30%
その他、ミニテスト、レポート等を加味し総合的に評価します。

履修上の注意

私語等授業の妨げになる行為は厳に禁止します。
ケーススタディや課題を課す場合があるので、積極的な授業への参加を求めます。

科目名 マーケティング
Title Marketing
科目区分 2群 戰略とマーケティング

講師 三富 悠紀 (ミトミ ユウキ)
担当教員 担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

具体的なマーケティング施策を策定するに当たっては、消費者が特定の商品・サービスを何故選んでいるかを理解することが求められる。また、マーケティングはメーカーだけで行われるものではない。サービスを提供する企業や、非営利組織においても行われている。更に日本国内だけでなく、海外も視野に入れて行われる。本科目では、マーケティング・ミックスの考え方を発展させた内容について、ケースを踏まえた講義を実施する。

達成目標

- ①企業がどのようにして消費者情報を収集し、マーケティング施策に応用しているか説明することができる
 - ②メーカーに限らず、サービス企業、非営利組織におけるマーケティング戦略について分析することができる
- 上記の2つを習得できるようにすることが、本講義の達成目標である。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション：マーケティング情報を収集することの重要性
- 第2回 マーケティング情報の収集と活用(1)：1次データと2次データ
- 第3回 マーケティング情報の収集と活用(2)：ビッグデータ
- 第4回 データベース・マーケティング
- 第5回 マーケティングサイエンスへの入門
- 第6回 消費者の理解：消費者行動の基本
- 第7回 ブランド・マネジメント(1)：ブランドとは何か
- 第8回 ブランド・マネジメント(2)：ブランドの評価と測定
- 第9回 国際マーケティング(1)：国際経営とマーケティング
- 第10回 国際マーケティング(2)：標準化と現地適応
- 第11回 サービス・マーケティング(1)：サービスの特性
- 第12回 サービス・マーケティング(2)：サービス企業における課題
- 第13回 非営利組織におけるマーケティング戦略
- 第14回 インターネットの発展とマーケティング戦略の変化
- 第15回 まとめ：情報技術の進歩とマーケティング

教科書・参考文献

教科書 和田充夫・恩藏直人・三浦俊彦『マーケティング戦略』有斐閣アルマ、2006年

参考書 古川一郎・守口剛・阿部誠『マーケティング・サイエンス入門』有斐閣アルマ、2011年
その他参考文献は、講義中に追って明示する

授業外での学習

- ①ECサイトで購買を行ったり、コンビニやスーパーなどでICカードを利用して購買を行った際に、消費者の情報がどう企業に蓄積されていくか考えること。
- ②自分がどのように商品・サービスを選択しているかを意識しながら購買を行うこと。

評価方法

講義内で適宜実施するコメントカードの提出と定期試験の結果を総合的に評価する。
コメントカードは講義に関連した内容について質問をするので、それに対するコメントを書いて、提出してもらうものである。評価の比率は、期末テスト75%、コメントカードを25%とする。

履修上の注意

本講義では、基本的なマーケティングに関する知識を身に付けているという前提の下で、実施する。授業で使用する講義資料は指定するHPに適宜アップロードするので、各自ダウンロードしておくこと。
<https://make3103-tcuoe.jimdo.com/>

科目名 マーケティング・リサーチ
Title Marketing Research
科目区分 2群 戦略とマーケティング

教授 佐藤 敏久 (サトウ トシヒサ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

本講義の目的はマーケティングにおける意思決定の判断材料として、統計的な処理を含む定量的分析の方法、例えば、質問紙調査の方法、多変量解析について理解し、どの分析手法が、どの意思決定には必要なのかについて実際に検討できるレベルにまで至ることにある。また、質的分析、例えば、観察法や参与観察、グループインタビューなどについて理解を深めることも重要である。マーケティング・リサーチの結果は必ずしも万能ではないが、実際の企業にとっては市場の将来を見極めるうえで、現在の市場を考えておくことは避けては通れない。企業にとっては「ある程度売れてもらわなければ困る」のが現実である。したがって、ビジネスの、どのようなシーンで使用されるのか、どの程度のことが予測可能かも知つておく必要がある。

達成目標

- ①主に何を知りたいのかということによって、分析手法が決まることを理解する。
- ②統計的な知識とその理解を深める。
- ③多変量解析の各分析手法を使った調査前の準備、本調査、ソフトの使い方と操作の意味と、分析出力結果の読み取り方について理解すること。

スケジュール

- 第1回 社会を研究するとは何か/仮説検証型研究/事例研究/定量的研究と定性的研究/リサーチデザイン
- 第2回 仮説検証型研究/調査項目の決定/測定尺度/度数分布表とヒストグラム/代表値/散布度
- 第3回 質問紙調査の基本プロセス/問題設定に対する問い合わせ/仮説の立て方/仮説を生み出す方法/先行研究の方法/仮説から質問を作るプロセス/概念図式の整理
- 第4回 概念の定義付け/概念の操作化/質問項目の決定/尺度化/サーストン法など尺度の信頼性/尺度の妥当性/調査対象の設定と決定/モデルとその改良
- 第5回 測定の妥当性と検討/測定の信頼性/集計方法（クロス集計表など）と解析方法（多変量解析など）
- 第6回 相関分析/正規性の検定/有意水準と有意確率/標準化と回帰分析/因子分析/主成分分析/クラスター分析/判別分析/質問表の作成/予備調査と修正/データ処理の手順と方法（PCでのソフト操作）
- 第7回 多変量解析の分類と実際/対数線形モデル/回帰分析②/ロジスティック回帰分析/判別分析
- 第8回 数量化分析/クロスポインデンス分析/正準相関分析/多次元尺度法//パス解析/共分散構造分析（SEM）など
- 第9回 母数・標本統計量・実現値/分布/帰無仮説/統計量の算出/棄却域と採択域の算出
- 第10回 サンプル抽出/母数の区間推定と信頼区間/検定（t検定、F検定など）について/
- 第11回 サンプリング法/母比率の推定/回答比率と精度/標本数と標本誤差/調査方法
- 第12回 帰無仮説の判断/分散分析/主効果・交互作用/多重比較検定/有意水準と効果量/両側検定・片側検定など
- 第13回 AHP分析/データマイニングの各手法（コンジョイント分析、実験計画法、ニューラルネットワークなど）/ペイズ推定など
- 第14回 質的分析/事例研究/観察法/実験法/モチベーションリサーチ/フォーカスグループインタビューなど
- 第15回 ZMET/ラダリング法/エスノグラフィーの方法 / IAT/総括授業（科学的方法論）

教科書・参考文献

教科書 担当者が作成したプリントを配布する。

参考書 適宜紹介する。

授業外での学習

普段何気なく使っている概念、例えば、「かわいい」、「体力」、「学力」などの具体的な内容とは何か、あるいは、現象（病気や成績など）の原因は何なのか、どうやったら判明するのかを生活の中で意識する。

評価方法

課題提出に加えて、定期試験によって、評価を行う。

履修上の注意

PC教室で授業を行うので、PC教室の定員を超えた場合抽選を行う。配布プリントはファイリングすること。1,2年生の段階で、統計学や心理学、データ分析関連の科目的履修、さらに、エクセルやSPSSなどの統計ソフトを使う講義や講座があれば受講しておくことが望ましい。

科目名 貿易論
Title Foreign Trade
科目区分 2群 戰略とマーケティング

担当教員
非常勤講師 里見 泰啓 (サトミ ヤスヒロ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

戦後日本の経済発展は国際貿易によるところも大きい。この授業では、戦後日本経済の発展過程と国際経済の変遷を辿りながら日本の貿易構造の変化を論ずる。このなかでは国内企業の海外直接投資と海外への生産移管にも触れ、グローバル競争のなかでの企業行動をみる。基本的な貿易理論についても解説し、現実と理論の両面から国際貿易を考えていく。

尚、授業はシラバスに則って進めるが、受講生の関心や理解度なども考慮して、若干変更する場合もある。

達成目標

国際経済環境の変化なかで、戦後日本経済の発展プロセスと貿易の役割を理解する。基本的な貿易理論を理解する。

スケジュール

- 第1回 貿易とはなにか
- 第2回 戦前の国際経済 - 大恐慌とブロック経済 -
- 第3回 戦後の国際経済体制の確立 - プレイトンウッズ体制 -
- 第4回 復興期の日本経済と貿易
- 第5回 高度経済成長期の日本経済と貿易
- 第6回 安定成長期の日本経済と貿易
- 第7回 日本経済の成熟化と貿易
- 第8回 貿易の基礎理論①
- 第9回 貿易の基礎理論②
- 第10回 リカードの貿易理論
- 第11回 ヘクシャー・オリーンの貿易理論
- 第12回 需要決定型貿易理論
- 第13回 国際分業と貿易の変化
- 第14回 近年の国際経済と企業行動 - グローバル経済のなかでの企業行動の事例 -
- 第15回 まとめ（貿易と所得分配、貿易と経済成長の関係なども概説）

教科書・参考文献

教科書 テキストは特に指定しない。

参考書 伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』日本評論社など。この他、適宜、紹介する。

専門教育科目
(経営学科)

授業外での学習

講義計画に応じて事前学習を行うこと。また、講義後は学習内容の定着を図ること。

評価方法

定期試験により評価する（100%）。ただし、受講状況も考慮する場合がある。

履修上の注意

特になし。

科目名 コーポレート・ガバナンス
Title Corporate Governance
科目区分 3群 組織とマネジメント

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 井上 真由美(イノウエ マユミ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

企業の長期的な発展のためにはコーポレートガバナンス（企業統治）のあり方が重要である。この講義では、コーポレートガバナンスの基本的な概念および理論を解説し、さらに各国のコーポレートガバナンスのタイプを紹介する。なお近年のわが国におけるコーポレートガバナンスの変容も興味深いトピックである。この検討とともに、今後の望ましい日本企業のガバナンスのあり方を考察する。

達成目標

- ・コーポレートガバナンスに関する基本的な概念および理論を理解する。
- ・各国のコーポレートガバナンスの歴史・変遷と特徴を知る。
- ・近年のわが国におけるコーポレートガバナンスの変容を踏まえた上で、今後の望ましいガバナンスのあり方を考察するための基礎を身につける。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 コーポレートガバナンスの基礎知識
- 第3回 日本のコーポレートガバナンスの歴史（1）
- 第4回 日本のコーポレートガバナンスの歴史（2）
- 第5回 日本のコーポレートガバナンスの歴史（3）
- 第6回 アメリカのコーポレートガバナンスの歴史（1）
- 第7回 アメリカのコーポレートガバナンスの歴史（2）
- 第8回 現代のアメリカ企業のガバナンス
- 第9回 前半のまとめと中間試験
- 第10回 グローバル資本主義の暴走
- 第11回 日本における株主資本主義の台頭
- 第12回 さまざまな投資ファンド
- 第13回 アングロサクソン型とライン型資本主義
- 第14回 資本市場のグローバル化と各国の対応
- 第15回 これからの日本企業のガバナンス

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。レジュメを用いた講義を行う。

参考書 講義の中で紹介する。

専門教育科目
(経営学科)

授業外での学習

講義終了後、図書館のデータベース（日経テレコン21、日経BP記事検索サービス、D-VISON NET）を利用し、講義内容と関連のある記事を読み、内容についての理解を深める。

評価方法

数回の講義内小レポート（10点）、中間試験（45点）、期末試験（45点）の点数で評価する。

履修上の注意

中間・期末両試験を受験することが、単位取得の条件。

科目名 経営組織論
Title Organization Theory
科目区分 3群 - B 経営系応用

教授 担当教員 藤本 哲 (フジモト テツ) 担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

経営組織論は、組織目的を効率よく達成するための仕組みづくりや、環境の変化に応じて組織を変革するための仕組みづくりをするためには、どうすればいいのかを考えるための材料を提供する。人間が本来持つ特性の研究は主に心理学で蓄積されてきた。また状況や脈絡の影響が大きく、非人道的な行為でさえ、何のためらいも無く実行できてしまうことも明らかにされてきた。そのように可塑的な人間行動は、仕事を遂行するという場面において、どのように現れるのか。自分の思うとおりには他人は動いてくれないのが当たり前であることを踏まえ、大まかにはどのような傾向があるのかを学んでいく。経営組織論を学ぶことで、組織を望ましいものとするためには我々一人ひとりがどのように行動すればいいのか指針を得ることが出来るであろう。

達成目標

(1) 経営組織論の基礎概念や基本理論を習得し、履修生各自が、所属する組織の運営をより良いものとするにはどうすればよいかを考えるために手掛かりを学び取る。(2) 自律的学習のやり方を身につける。(3) 授業中の質問時間に質問することで皆のために貢献する。(4) 友人ではない人に話しかけるきっかけを作らせる。

スケジュール

- 第1回 分業と専門化 (教科書 3章 3節他 , 『組織デザイン』 2章他) Division of labour and specialization
第2回 官僚制と規模 (教科書 7章) Bureaucracy and organization size
第3回 組織構造の公式化と組織の知識 (教科書 7章) Formalization of organizational structure and organizational knowledge
第4回 組織構造の複雑性と専門職 (教科書 7章) Complexity of organizational structure and professionals
第5回 組織構造の集権化 (教科書 7章) Centralization of organizational structure and centrality
第6回 組織の成長と衰退 (教科書 8章 1節) Growth and decline of organizations (organizational lifecycle)
第7回 物理的環境とコミュニケーション構造 (教科書 9章) Physical structure and communication structure
第8回 組織と技術 (教科書 8章 3・4節) Organizations and technology
第9回 組織と環境の不確実性 (教科書 4章 1・2・4節) Uncertainty of environment and organizations
第10回 組織文化 (教科書 9章) Organizational culture
第11回 組織学習と組織変革 (教科書 14・15章) Organizational learning and organizational transformation
第12回 組織均衡 (教科書 3章 1節、11章 1節) Organizational equilibrium
第13回 組織の取引費用観 (教科書 4章 3節) Transaction cost perspective of organizations
第14回 資源依存と組織間関係 (教科書 5章 1節) Resource dependencies and inter-organizational relationships
第15回 組織の制度論 (<http://www.gbrc.jp/journal/amr/free/dlranklog.cgi?dl=AMR6-9-3.pdf>)
Institutionalism of organizations

教科書・参考文献

教科書 桑田耕太郎、田尾雅夫『組織論』(補訂版)有斐閣アルマ

参考書 沼上幹『組織デザイン』日経文庫。ロビンス『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社。佐藤郁哉
山田真茂留『制度と文化』日本経済新聞出版社。

授業外での学習

教科書を入手したら目次を熟読する。授業の各回が、教科書ではどのあたりに該当するか予想し、目次にメモしておく。予習では、次回の授業範囲に関連する項目について、指定した教科書・参考書を熟読。授業後はノートや配布資料、教科書に目を通し、自分のこれまでの経験に関連するものがないか振り返りメモする。

評価方法

期末試験10割。過年度の得点分布を、パソコン教室のPCにログインして画面に出てくる「配布フォルダ」の中に入れてあるので参考に。

履修上の注意

学生証を忘れた場合は欠席として扱われる。教科書に載っていることは配布資料に盛り込まれないので教科書は欠かせない。配布資料の残部は研究室前で配布(無くなり次第終了)。LiveCampusを通じて連絡することがある。関連資料をPC教室の配布フォルダの中に入れていることがある。

科目名 人的資源管理
Title Human Resource Management
科目区分 3群 組織とマネジメント

担当教員 指定
准教授 永田 瞬(ナガタ シュン)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

雇用関係にある労働者からいかにして働きぶりを引き出すのか。このことは現代企業経営にとってもっとも大事な課題のひとつである。賃金水準をいかにして決定して、どのように引き上げるのか。労働時間管理をどのように進めなのか、外国人労働者をいかに育成していくのか、福利厚生をどのように設定するのか。これらはすべて労働者の管理に関わる諸策である。企業内で労働力を管理し、適切な働きぶりを引き出すための諸策は、労務管理(personal management)、あるいは人的資源管理(human resource management)と呼ばれる。この講義では、現代日本の人的資源管理の特徴を取り上げる。

達成目標

- ・ 繊維産業のグローバル化の現状を理解できる。
- ・ サービス産業の労働力不足の背景を理解できる。
- ・ 外国人労働者について何が論点になっているのか、把握できる。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 雇用ポートフォリオ戦略
- 第3回 国内アパレル産業の苦悩
- 第4回 サービス産業における労働力不足問題
- 第5回 間接雇用と直接雇用
- 第6回 偽装請負問題
- 第7回 セル生産方式と派遣労働
- 第8回 前半講義の復習とコメント
- 第9回 日本の外国人労働者問題
- 第10回 自動車産業と日系人
- 第11回 繊維産業と技能実習生
- 第12回 國際比較から見た日本の労働時間管理
- 第13回 情報通信革命と労働時間管理
- 第14回 価格競争と労働時間
- 第15回 後半部分の学習到達度の確認

教科書・参考文献

教科書 黒田兼一他『人間らしい「働き方」「働かせ方』』ミネルヴァ書房、2009年。入手方法は第1回目にアナウンスする。

参考書 岩佐卓也『現代ドイツの労働協約』法律文化社、2015年など。

授業外での学習

教科書を指定しているので、事前に該当項目を予習し、講義後に復習をすることが望ましい。予習と復習で2時間程度必要となる。

評価方法

- ・ 出席9回以下は評価対象外。10回以上出席を前提として、平常点30%、期末テスト等70%の総合点で評価する。
- ・ リアクションペーパーを配布するので講義内容に関する質問等を記入すること。可能な限り返信する。

履修上の注意

- ・ 遅刻しないこと、おしゃべりをしないこと。真剣に授業を受ける受講者の妨げとなる行為をしないこと。
- ・ 担当教員は経営労務論や経営学史も担当している。あわせて受講すると理解が深まる。

科目名 経営科学
Title Management Science
科目区分 3群 組織とマネジメント

担当教員
非常勤講師 神宮 貴子 (ジングウ タカコ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

経営管理上のさまざまな問題に対し、科学的に意思決定を支援する考え方・手法を「経営科学（マネジメント・サイエンス）」という。
本講義では、その代表的な手法のいくつかについて、実際に問題を解き、演習を交えながら学ぶ。

達成目標

経営上の問題解決にあたって、問題を定量化・モデル化し、代替案を探索・評価する科学的なアプローチが具体的にわかるようになることを自指す。

スケジュール

- 第1回 ガイダンスと経営科学序論
- 第2回 問題解決とモデル化
- 第3回 線形計画法(1)
- 第4回 線形計画法(2)
- 第5回 線形計画法(3)
- 第6回 線形計画法(4)
- 第7回 経済性工学(1)
- 第8回 経済性工学(2)、階層分析法-AHP-(1)
- 第9回 階層分析法-AHP-(2)
- 第10回 包絡分析法-DEA-
- 第11回 組合せ最適化
- 第12回 ネットワーク
- 第13回 待ち行列
- 第14回 意思決定と経営科学アプローチ
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。授業に必要な資料はその都度配布する。
原則、授業の配布資料は授業実施後にポータルにアップする。

参考書 授業の中で隨時紹介する。

授業外での学習

授業中わからなかつた箇所、解けなかつた問題について、復習をすること。
次回授業までの課題やキーワードを指示する場合があるので、復習・予習しておくこと。

評価方法

試験 50%、授業への参加状況 50% を原則とし、総合的に評価する。

履修上の注意

出席は学生証の登録で管理するため、学生証を忘れないこと。
授業中に演習問題に取り組むことがあるため、電卓を常に持参すること。（√キーのついた電卓、できれば関数電卓が望ましい）
授業実施後に、欠席や紛失で資料が必要になった場合には、ポータルから自分で印刷すること。

科目名 経営情報システム論
Title Management Information System
科目区分 3群 組織とマネジメント

担当教員
非常勤講師 関川 弘 (セキガワ ヒロシ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

情報技術の発展の過程を踏まえ、情報と情報技術が企業経営にどのように活かされ、また影響を与えていているか理解すること、また、テレビ、新聞、雑誌等で使われている情報技術、情報ビジネス関連の用語、概念に関する理解を深めリテラシーを高めることを目的とする。

達成目標

1. 新聞記事等で使われている情報技術やビジネスに関する用語、概念について理解を深める。
2. 経営で使われる様々な情報システムについて理解を深める。
3. 情報システムの構成要素(ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク等)について理解を深める。

スケジュール

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | ガイダンス、経営情報システムとは |
| 第2回 | 情報システムの構成(ハードウェア) |
| 第3回 | 情報システムの構成(ソフトウェア) |
| 第4回 | 情報システムの構成(ネットワーク) |
| 第5回 | 経営情報システム事例(販売管理) |
| 第6回 | 経営情報システム事例(発注管理) |
| 第7回 | 経営情報システム事例(生産) |
| 第8回 | 経営情報システム事例(製品開発) |
| 第9回 | 経営情報システム事例(マーケティング) |
| 第10回 | 経営情報システム事例(サプライチェーン・マネジメント) |
| 第11回 | 経営情報システム事例(e-ビジネス) |
| 第12回 | 経営情報システム事例(まとめ) |
| 第13回 | 経営情報システムの変遷(1) |
| 第14回 | 経営情報システムの変遷(2) |
| 第15回 | まとめ |

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。レジュメを用いた講義を行う。

参考書 講義の中で紹介する。

授業外での学習

情報技術の発展とそれに伴う経営の変化に关心を持ち続けて下さい。

評価方法

ペーパテスト(70%)。毎回の講義で100文字前後のサマリー提出を求める。講義サマリー(30%)。

履修上の注意

真摯な学習態度を求める。

科目名 経営工学
Title Industrial Engineering
科目区分 3群 組織とマネジメント

准教授 担当教員 向井 悠一朗 (ムカイ ユウイチロ
ウ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

本講義は、「ものづくり」企業の生産システムに必要なインプット（労働力・資本設備・原材料・製品設計）の管理を学ぶ。これを通じて、生産現場のパフォーマンス（QCD+F）と企業の競争力の向上のための、インプットの管理に関する基本的な考え方を身につける。

達成目標

「ものづくり」のインプットである労働力、資本設備、原材料の管理、改善についての体系的な理解を目指す。さらに生産システムの上流にあたる、製品開発や研究開発を取り上げる。「良い設計・良い流れ」を通じてものづくり企業の競争力を高めるための、インプット（経営資源）の管理と「良い設計」の部分について体系的に理解する。

スケジュール

- 第1回 導入（競争力の諸要素などについて）
- 第2回 生産戦略
- 第3回 人事労務管理(1)労使関係・雇用管理
- 第4回 人事労務管理(2)作業設計・動機づけ・労働条件
- 第5回 設備管理と生産技術(1)設備投資
- 第6回 設備管理と生産技術(2)自動化に関わる生産技術の選択
- 第7回 購買管理(1)SCM
- 第8回 購買管理(2)部品の取引
- 第9回 製品開発の基礎
- 第10回 製品開発の競争力
- 第11回 開発期間とその管理
- 第12回 開発生産性とその管理
- 第13回 総合商品力と開発の組織・プロセス(1)総合商品力、イノベーションの成功要因
- 第14回 総合商品力と開発の組織・プロセス(2)総合商品力と開発プロセス、組織
- 第15回 研究開発戦略

教科書・参考文献

教科書 藤本隆宏 (2001) 『生産マネジメント入門II(生産資源・技術管理編)』日本経済新聞社

参考書 Clark, K.B. and T. Fujimoto (1991) Product Development Performance, Boston: Harvard Business School Press. (田村明比古訳 (1993) 『製品開発力』ダイヤモンド社)

授業外での学習

教科書の入手は必須としない代わりに、授業資料の量が多い。隨時、授業資料を復習すること。
加えて、新聞記事、ビジネス誌を普段から読むことを薦める。

評価方法

期末試験70%・リアクション・ペーパー（数回）30%（変更の可能性がある。変更の場合、初回の授業時に知らせる。）

履修上の注意

履修の順序は問わないが、本講義の履修に際しては生産管理の知識があることが望ましい。生産管理と合わせて履修することを薦める。

スケジュール・評価方法は、変更の可能性があるので、授業やポータルサイトなどの連絡に注意すること。

科目名 情報処理II
Title Information ProcessingII
科目区分 3群 組織とマネジメント

担当教員
准教授 石田 崇 (イシダ タカシ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

本講義では初学者を対象として、C言語によるプログラミングやアルゴリズムの考え方を理解する。コンピュータによる実習を通じて基本的な文法を学習し、自分でプログラミングを行える能力を身につけることを目的とする。

達成目標

- ・ C言語による基本的なソースコードを理解し、プログラムの動作を理解することができる
- ・ C言語の基本的な文法がわかる
- ・ C言語の簡単なプログラムを自分でゼロから作成することができる

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 C言語の概要とコンピュータ
- 第3回 プログラムの構造と変数
- 第4回 入出力
- 第5回 式と演算
- 第6回 制御命令（1）
- 第7回 制御命令（2）
- 第8回 制御命令（3）
- 第9回 配列
- 第10回 関数（1）
- 第11回 関数（2）
- 第12回 アルゴリズム（1）
- 第13回 アルゴリズム（2）
- 第14回 授業のまとめ
- 第15回 最終課題

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。必要に応じて配布資料を用意します。

参考書 講義中に適宜提示します。

授業外での学習

プログラミングに慣れるようにし、授業で扱った内容を自分でも繰り返してみること。
授業後は配布資料やノートに目を通し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

15週目に実施する最終課題：80%，毎回の演習の取組み状況：20%

履修上の注意

PC教室で授業を行うので、PC教室の定員を超えた場合抽選を行います。
講義には毎回出席することを前提とします。
理解度や進捗状況に応じて内容を変更する場合があります。

科目名 会計学II
Title AccountingII
科目区分 4群 会計と企業財務

教授 担当教員
田中 久夫 (タナカ ヒサオ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

会計学Iに続き、会計学の入門講座として、会計学の基本原理とそのトピックスを学びます。これまでの伝統的な会計理論の基本原理を理解して、財務諸表の作成原理を学びます。加えて、喫緊の課題として、特にわが国会計基準と国際会計基準、国際財務報告基準等の異同を知るとともに、その整合の必要性や可能性、またはその障害等を探っていきます。

達成目標

会計学Iに続き、会計学の基礎を学ぶ。ただし、前期においてすでに基礎理論は理解されているはずであるので後期はすこし応用編を講義したい。会計学の知識は、どうのような場面で役に立ち、活用できるのか、その知識を持てば、どういう仕事に巡り会えるのか、など、より実務に近い場面での実践編を行いたい。

スケジュール

第1回	会計学の意義と新しい役割（上級・応用編）	1
第2回	同	2
第3回	会計の理論と実践（上級・応用編）	1
第4回	同	2
第5回	簿記の仕組みの進展と利用（上級・応用編）	1
第6回	同	2
第7回	損益算線の会計・新しい利益概念（包括利益等）（上級・応用編）	1
第8回	同	2
第9回	資産の会計・資産評価方法の指摘変遷（上級・応用編）	1
第10回	同	2
第11回	負債の会計・オフバランス負債・持分の会計（上級・応用編）	1
第12回	同	2
第13回	純資産の会計・新しい企業評価法（上級・応用編）	1
第14回	同	2
第15回	総括授業	

教科書・参考文献

教科書 財務会計講義、桜井久勝、中央経済社

参考書 田中久夫編著『アカウンティング ホライズン』税務経理協会・田中久夫編著『ベーシック簿記テキスト』税務経理協会・田中久夫著『商法と税法の研究』森山書店

授業外での学習

教科書・参考文献等を熟読すること。

評価方法

期末テスト60点（レポートに替えることがある。）及び授業中に行う数回の小テスト40点（実施しないことがある。）の成績による。試験では、教科書、ノート等の資料はすべて持ち込み不可としている。なお、授業への出欠席の評価は一切考慮しない。

履修上の注意

事前に「簿記論」および「会計学I」の授業を受講していることが望ましい。

科目名 管理会計論
Title Management Accounting
科目区分 4群 会計と企業財務

教授 中村 彰良 (ナカムラ アキヨシ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

企業の経済活動を記録・集計・報告する企業会計のうち、企業内部で業績評価や意思決定のために利用される管理会計の概要を把握する。

達成目標

管理会計のイメージを掴む。管理会計の簡単な計算問題が解ける。

スケジュール

第1回	管理会計とは
第2回	経営分析 (1)
第3回	経営分析 (2)
第4回	経営分析 (3)
第5回	短期利益計画 (1)
第6回	短期利益計画 (2)
第7回	資金計画 (1)
第8回	資金計画 (2)
第9回	資本予算 (1)
第10回	資本予算 (2)
第11回	予算管理
第12回	関連原価分析
第13回	在庫管理 (1)
第14回	在庫管理 (2)
第15回	部門業績評価

教科書・参考文献

教科書 中村彰良著『管理会計論』創成社

参考書

専門教育科目
(経営学科)

授業外での学習

教科書等で予習し、授業後は配布した問題等をもう一度やってみる。

評価方法

平常点 20 %、テスト 80 %

履修上の注意

簿記と原価計算の基礎知識があったほうが望ましい。授業中に出席確認を兼ねて問題に解答して提出してもらうことがある。

科目名 原価計算論
Title Cost Accounting
科目区分 4群 会計と企業財務

講師 梅田 宙 (ウメダ ヒロシ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

原価計算は、製品の製造やサービスの提供を行うにあたって必要な原価を計算する手法である。本講義では、原価計算の基本的な考え方方に加え、現実社会でいかに原価情報が活用されているのかを解説する。

達成目標

原価計算の計算技法を理解する。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 原価計算の基礎
- 第3回 原価計算の原則と手続き・原価計算システムと財務会計
- 第4回 材料費会計
- 第5回 労務費会計・製造経費会計
- 第6回 原価の部門別計算
- 第7回 製造間接費の製品別計算
- 第8回 個別原価計算
- 第9回 単純総合原価計算
- 第10回 工程別総合原価計算
- 第11回 組別総合原価計算
- 第12回 等級別総合原価計算
- 第13回 標準原価計算：意義と手続き
- 第14回 標準原価計算：差異分析
- 第15回 CVP分析

教科書・参考文献

教科書 片岡洋一(2015)『原価計算セミナー』中央経済社。

参考書

授業外での学習

- ・講義に対応する章を事前に読む。
- ・自分が関心を持った企業の財務諸表を読む。

評価方法

定期試験(70%)と平常点(30%)の総合評価(平常点：授業内テスト)

履修上の注意

簿記の基本知識(日商簿記検定3級程度)を有していることが望ましい。

科目名 財務会計II
Title Financial AccountingII
科目区分 4群 会計と企業財務

担当教員
准教授 藻利 衣恵 (モウリ キヌエ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

本講義では、「財務会計Iでは物足りない」、「財務会計Iの講義を履修し財務会計をさらに学びたい」、「難関の資格試験に挑戦したい」等の希望をもつ学生を対象に、現在設定・公表されている主要な会計基準について、財務会計Iより詳細に会計処理およびその背後にある考え方の説明を行います。

達成目標

- ① 特に近年話題となる会計領域について、我が国や海外の会計処理とその背後にある基本思考を理解すること
- ② 実際の有価証券報告書に記載されている内容を理解できるようになること
(当面の目標としては、日本経済新聞等における財務会計関連記事を理解できるようになること)

スケジュール

- 第1回 ガイダンス - 会計基準をめぐる国際的な動向
- 第2回 財務会計の復習(1)-財務会計の概念フレームワーク(1)
- 第3回 財務会計の復習(2)-財務会計の概念フレームワーク(2)
- 第4回 財務会計の復習(3)-財務会計の概念フレームワーク(3)
- 第5回 企業結合(1)
- 第6回 企業結合(2)
- 第7回 連結財務諸表(1)
- 第8回 連結財務諸表(2)
- 第9回 資産の減損/リース
- 第10回 無形資産(研究開発費・ソフトウェア含む)/金融商品
- 第11回 外貨建取引の換算
- 第12回 退職給付
- 第13回 純資産-株主資本(自己株式含む)
- 第14回 純資産-その他の要素(ストック・オプション含む)
- 第15回 税効果

教科書・参考文献

- 教科書 事前配布したレジュメを使って説明します。
(<http://www.asb.or.jp> [企業会計基準委員会]に掲載されている会計基準)
- 参考書 斎藤静樹『企業会計入門』有斐閣。
桜井久勝『財務会計講義(第18版)』中央経済社。

専門
（経営教育科目）

授業外での学習

財務会計Iで学んだ論点をより高度に説明します。財務会計Iの復習をしながら進めますが、予習としてレジュメを読んだうえで、授業で課す演習問題で復習することが望まれます。(提出はなしとしますが、定期試験の問題になりますので、定期的に復習するようにして下さい。)

評価方法

平常点(出席をはじめとする授業への取り組みや、レポート) 40%
期末試験 60%

履修上の注意

企業と会計、簿記論A～C、会計学I・II、および財務会計Iを履修したことを前提として授業を進めます。
なお、皆さんのニーズや履修者のレベルにより、【スケジュール】は変更される可能性があります。

科目名 企業財務論II
Title Corporate Financell
科目区分 4群 会計と企業財務

教授 阿部 圭司 (アベ ケイジ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

企業が下す投資意思決定とそれに伴う資金調達に関する一連の問題を取り扱います。本講義では企業の財務活動における意思決定問題に対する理解を深め。問題解決のための理論とツールを提供します。また、DCF法を用いた企業価値評価とその用途を解説します。

達成目標

- (1) DCF法による企業価値評価を理解する。また、資本コストについて理解する。
- (2) NPV法に代表される資本予算の評価方法を理解する。
- (3) 短期、長期の資金管理と資金調達について理解する。また、配当政策と企業価値について理解する。
- (4) 資本構成と企業価値に関するいわゆるMM命題について理解する。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 財務諸表と財務業績の測定（損益計算書、貸借対照表の理解）
- 第3回 財務諸表と財務業績の測定（キャッシュフロー計算書の理解、収益性の指標）
- 第4回 財務諸表と財務業績の測定（安全性の指標、成長性の指標、その他の指標、総合評価）
- 第5回 資金調達と配当政策（資金調達の概要、株式による調達、債券による調達）
- 第6回 資金調達と配当政策（金融機関からの借入、企業間信用、内部金融、短期資金管理）
- 第7回 資金調達と配当政策（配当政策、配当政策と企業価値、配当のシグナリング効果）
- 第8回 資本コスト（株式の資本コスト）
- 第9回 資本コスト（負債の資本コスト）
- 第10回 資本コスト（加重平均資本コスト）
- 第11回 資金運用 投資決定ルール（資本コストと資金運用の関係、正味現在価値法）
- 第12回 資金運用 投資決定ルール（内部収益率法、その他の手法）
- 第13回 企業価値評価（割引キャッシュフロー法、継続価値(ターミナルバリュー)）
- 第14回 企業価値評価（EVA法、MVA）
- 第15回 企業価値評価（その他の方法）

教科書・参考文献

教科書 斎藤正章・阿部圭司、「ファイナンス入門'17」，放送大学教育振興会

参考書 用いません。

専門
（経営教育科目）

授業外での学習

講義日の1週間前には資料がポータルにアップされるので、教科書と並行してこれを読んでおくこと。

評価方法

原則として期末試験（100%）により評価します。また、一部平常点を加えることがあります。

履修上の注意

講義内容はテキストと配布資料を合わせたものになる。テキストの学習のみでは不十分であることに注意。

科目名 証券論
Title Investments
科目区分 4群 会計と企業財務

教授 阿部 圭司 (アベ ケイジ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

証券投資に関わる理論および実務的応用の飛躍的発展と、経済のグローバリズムを反映して、わが国経済における証券市場の地位と、その重要性が高まっています。本講義では研究、実務双方で広く用いられている基本的概念・制度・理論の理解を目的として、証券市場が経済に果たす役割を解説します。

達成目標

- (1)証券市場の役割について理解する。
- (2)各証券の種類、特徴、違いについて理解する。
- (3)証券の価格付けに関する考え方、各種指標について理解する。
- (4)証券市場の参加者（投資家、証券会社）について理解する。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 証券とは何か、証券市場の歴史
- 第3回 金利の機能（単利と複利、現在価値と将来価値）
- 第4回 株式（株式の機能、種類、株主権）
- 第5回 株式の発行市場（市場規模、発行形態、上場・廃止基準、IPO, SEO）
- 第6回 株式の流通市場（市場規模、売買制度）
- 第7回 株式の流通市場（PER、PBRなどの投資尺度）
- 第8回 債券（債券の機能、種類、発行市場、債券格付け）
- 第9回 債券（流通市場、債券価格）
- 第10回 投資信託（投資信託の機能、種類）
- 第11回 証券市場の参加者達（証券会社の機能、機関投資家、個人投資家、外国人投資家）
- 第12回 株式の価格（リターンとリスク、配当割引モデル）
- 第13回 リスク資産の評価（資本資産評価モデル(CAPM)、3ファクター、4ファクターモデル）
- 第14回 資本市場の効率性（効率的市場仮説、アノマリー）
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 ポータル上で配布される資料を用います。

参考書 用いません

授業外での学習

講義日の1週間前には資料がポータルにアップされるので、これを読んでおくこと。

評価方法

原則として、期末試験（100%）により評価します。また、一部平常点を加える場合があります。

履修上の注意

予備知識は不要ですが、日頃から経済・経営分野のニュースに触れ、企業活動に関心を持つよう心掛けて下さい。

科目名 物権法
Title Law of Realty
科目区分 5群 経営と法

担当教員
非常勤講師 萩原 基裕 (ハギワラ モトヒロ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

本講義は、民法典第二編の「物権」全般（担保物権を含む）を対象としています。必要な範囲で、物権に関係する民法特別法の問題や民法の物権以外の領域に関係する問題も扱っていきます。人が物に対して持つ権利が物権ですが、社会において物権がどのような役割を果たしているのか、法適用の際にどのような問題が生じているのかを中心に、基本論点について学んでいきます。

達成目標

物権の種類・性質・機能を理解でき、物権をめぐる基本問題や論点について議論の構造を把握し、問題点の指摘、解決方法の提示を展開できる。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション、物権の種類、物権法の基本構造
- 第2回 物権法の基本原則（物権法定主義、物権の一般的効力など）、物権変動論概説
- 第3回 不動産物権変動論①
- 第4回 不動産物権変動論②
- 第5回 動産物権変動論
- 第6回 占有権
- 第7回 所有権
- 第8回 共有
- 第9回 用益物権概説、地上権、永小作権
- 第10回 地役権、入会権
- 第11回 担保物権序説、留置権、先取特権
- 第12回 質権、抵当権①
- 第13回 抵当権②
- 第14回 抵当権③、非典型担保物権（仮登記担保）
- 第15回 非典型担保物権（譲渡担保、所有権留保）

教科書・参考文献

教科書 淡路剛久ほか『民法II物権〔第3版補訂〕』（有斐閣、2010）、¥1,900

参考書 講義中に適宜紹介します。

授業外での学習

法律用語は講義でも解説しますが、授業後に法律用語辞典を用いて用語の意味を正しく把握するように努めてください。また、物権法を理解するためには、民法の他の分野の理解も必要になる場合があります。本講義のみならず、他の民法関連講義もあわせて履修すると効率的に勉学が進められます。

評価方法

期末試験100%で評価します。

履修上の注意

講義には六法（有斐閣のポケット六法など）を持参するようにしてください。

科目名 債権法各論
Title Law of Obligations II
科目区分 5群 経営と法

教授 谷口 聰 (タニグチ サトシ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

本講義では民法の一分野である債権法に関して講義する。債権法各論とは、民法典債3編「債権」の第2章から第5章の規定に関する理論的および実践的な項目のことと指す名称である。債権とは、社会一般的には、金銭請求権のことを意味するが、その債権の主たる発生原因である契約と不法行為に関して講義をする。

達成目標

民法の債権法各論分野における基礎的な知識の習得を目標とする。取引の基本的法律である民法の一領域である債権法各論を学習することにより、法的思考力の習得と一般的な論理的思考力の向上をも図れるように講義したい。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス（民法典における債権法各論の位置づけ）
- 第2回 契約の成立（一般原則）
- 第3回 契約の成立（契約成立の擬制）
- 第4回 契約の効力（同時履行の抗弁権、第三者のためにする契約）
- 第5回 契約の解除
- 第6回 売買契約
- 第7回 貸貸借契約
- 第8回 消費貸借契約、使用貸借契約
- 第9回 事務処理契約（雇用契約、請負契約、委任契約、寄託契約）
- 第10回 非典型契約
- 第11回 事務管理、不当利得
- 第12回 不法行為（不法行為制度）
- 第13回 不法行為（一般的不法行為の成立要件）
- 第14回 不法行為（損害賠償額の算定）
- 第15回 民法典（債権関係）大改正について

教科書・参考文献

教科書 『ポケット六法』（有斐閣）最新版

参考書 講義において、適宜、推薦したい。

授業外での学習

予習と復習はともに大切であるが、本講義においては、復習に重点をおいてもらいたい。講義で配布したレジュメ、講義の説明、テキストの説明などを合わせて、ノートを作成、または、データを作成して保存してもらいたい。

評価方法

定期期末試験 80%、学習意欲を中心とする平常点 20%。

履修上の注意

民法は取引に関する基礎的な法律であるが、債権法各論の学習には「民法総則」の知識が必要である。本講義の履修においては、右科目の履修後または同時に履修することをお勧めしたい。さらに、本講義は「債権法総論」との関連性も強い科目であるため、合わせて履修することが理想的である。

科目名 労使関係法
Title Labor Relations Law
科目区分 5群 経営と法

担当教員
非常勤講師 佐々木 達也 (ササキ タツヤ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

労働法は、雇用の場において生じる様々な問題を規律する法分野である。労働法は、①個別労働者と使用者との関係を規律する個別の労働法（雇用関係法）、②労働組合と使用者あるいは使用者団体との関係を規律する集団的労働法（労使関係法）、③失業者等の雇用機会を保障することを目的とした労働市場法（雇用保障法）から構成されている。

本講義においては、集団的労働法を中心に、基礎となる法的知識を習得し、それに基づき基本的な問題について検討することを目的とする。

達成目標

集団的労働法の全体的把握および正確かつ最新の知識を習得することで、集団的労働法を取り巻く問題状況を理解し、その問題について法的に考える力を身につけることを達成目標とする。

スケジュール

- 第1回 集団的労働法の生成過程と現在
- 第2回 積法における労働基本権保障
- 第3回 公務員における労働基本権の制限
- 第4回 労働組合法における労働者・使用者
- 第5回 労働組合の意義と組織
- 第6回 労働組合の内部統制
- 第7回 組合活動とその保障
- 第8回 団体交渉制度
- 第9回 労働協約の意義と法的性質、労働協約の成立
- 第10回 労働協約の効力と協約自治の限界
- 第11回 労働協約の拘束力、期間と終了
- 第12回 争議行為
- 第13回 不当労働行為制度の意義、不当労働行為の主体と不当労働行為意思
- 第14回 不当労働行為の類型と成立要件、不当労働行為の救済
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

本講義では、毎回レジュメを配布する。

参考書 毛塚勝利・米津孝司・脇田滋編『アクチュアル労働法』（法律文化社）
名古道功・吉田美喜夫・根本到編『労働法I』（法律文化社）

授業外での学習

受講前に、次回の授業に関連する箇所について、指定した教科書や参考書に目を通しておくことが望まれる。
また、労働問題や労働裁判、労働政策に関する新聞・ニュース等の報道に、普段から注目してほしい。

評価方法

原則として、定期試験によって評価する。ただし、小テストやリアクションペーパー等の提出を求め、それを評価に加えることとする。

履修上の注意

受講の際には、例えば、労働関係法規集（独立行政法人労働政策研究・研修機構）や労働六法（旬報社）などの労働法規（施行規則・指針等を含む）が掲載されている法規集を持参すること。
「労働法」も併せて履修することが望ましい。

科目名 会社法II
Title Corporation Law II
科目区分 5群 経営と法

担当教員
准教授 尾形 祥（オガタ ショウ）

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

会社は私たちに様々な財やサービスあるいは働く場所を提供し、社会において必要不可欠な存在といえます。会社は、その株主ないしは債権者や従業員といった様々なステークホルダーにその利益を適切に分配することが要請されます。したがって、会社がその利益を最大化することは至上命題といえます。しかし、会社はその巨大な「規模」ゆえに、社会に及ぼす負の影響は計り知れません。本講義では、会社が健全かつ効率的に利益を獲得するためにはどのような規制が必要かについて検討します。具体的には、取締役をはじめとする役員の法的責任といったコーポレート・ガバナンスをめぐる問題や合併などの組織再編行為に関する法的諸問題を検討することを目的とします。

達成目標

会社法の基礎的知識の獲得やリーガルマインドの涵養を目指します。会社をめぐる法的問題に会社法はどのように対処しようとしているのか、その限界は何かを考える能力を身に付けます。さらに、判例や裁判例を取り上げ、実際の事例に触ることにより事案の具体的な解決能力を身に付けます。事例問題や選択問題を実際に解くことで、会社法の基礎的知識の獲得や法的思考能力の向上を目指します。

スケジュール

- 第1回 会社法総論
- 第2回 株式会社の機関設計～株主総会、取締役会、監査役（会）、委員会～
- 第3回 株主総会とは何か
- 第4回 株主総会の招集手続
- 第5回 株主総会の決議
- 第6回 株主総会決議の取消しの訴え、無効、不存在確認の訴え
- 第7回 株式会社の業務執行～取締役、取締役会、代表取締役～
- 第8回 取締役の義務と内部統制システム
- 第9回 競業取引
- 第10回 自己取引、利益相反取引、取締役の責任
- 第11回 監査役（会）
- 第12回 会計参与、会計監査人、指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社
- 第13回 合併、会社分割
- 第14回 株式交換・株式移転、事業譲渡
- 第15回 総括～我が国におけるコーポレート・ガバナンスの問題点

教科書・参考文献

教科書 神田秀樹『会社法』（最新版、弘文堂）および六法全書（最新版）を持参してください。

参考書 江頭憲治郎『株式会社法』（第5版、有斐閣、2015年）。会社法判例百選（第2版、有斐閣、2011年）など。なお、講義中に適宜紹介します。

授業外での学習

講義中に配布するレジュメや教科書で予め講義の予習をしてきてください。また、知識の定着度を確認するための事例問題や選択問題をレジュメに記載しますので、講義前に予習してきて下さい。これらの問題の解き方を講義中に解説しますので、講義後に問題を解きながらして知識の定着を図り、理解度を高めてください。

評価方法

学期末試験（100%）成績で評価します（持込不可）。テストでは基礎的な知識や考え方を幅広く問いますので、毎回の講義内容をしっかりと理解する必要があります。

履修上の注意

ポータルサイト上にレジュメ、スライドをアップロードしますので、事前に読んで講義に臨んでください。その他の資料は講義中にのみ配布しますが、一定期間経過後は配布しませんので、必ず毎回の講義で配布物を確認してください。

科目名 統計学II
Title Statistics II
科目区分 1群 基礎科目

担当教員
准教授 宮田 庸一(ミヤタ ヨウイチ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

仮説検定とは、あるグループに対して行った新しい指導方法に効果があったかどうか、同一業種、同一勤続年数の男子と女子の平均給与に差があるのかどうかなどを、データから検証する手法のことである。この講義では、仮説検定の理論（有意水準、検定統計量、p値など）およびExcelを用いた統計処理について説明を行う。

達成目標

以下の2点を目標とする

- (1) 仮説検定の理論を理解する
- (2) 実際のデータに対して、適切な仮説を設定し、Excelを用いて検定を行うことができる

スケジュール

- 1 ガイダンス、シグマ記号の復習
- 2 標本平均、標本分散、標準偏差
- 3 確率の定義、加法定理
- 4 確率分布、期待値、分散（分散の計算公式は説明しない※1）
- 5 期待値、分散の性質
- 6 同時分布、確率変数の独立性（条件付き確率は説明しない※2）
- 7 連続型確率変数、標準正規分布、正規分布（標準化などは結果のみ示す※3）
- 8 無作為標本、標本分布（8.1～8.5章）
- 9 中心極限定理（8.6章）
- 10 仮説検定1（帰無仮説、対立仮説、検定統計量、母平均の両側検定）（10.1～10.2章）
- 11 仮説検定2（2種の誤り、母平均の片側検定）（10.2～10.4章）
- 12 t分布、分散の不偏推定量（10.8章）
- 13 仮説検定3（t検定）（10.8章）
- 14 仮説検定4（2標本問題）（10.9章）
- 15 Excelを用いた仮説検定

教科書・参考文献

教科書 宮田庸一（2012）統計学がよくわかる本、アイ・ケイコーポレーション

参考書 [1] 刈屋武昭・勝浦正樹（1994）統計学、東洋経済新報社
[2] 統計学入門、東京大学出版会、1991

授業外での学習

講義で理解できない箇所があったときには、次回の講義までに、勉強して理解しておくこと。
講義もしくは教科書の説明がわかりにくく感じた場合、参考書[1]を見ると良い。数学の素養がある学生であれば[2]の方がよいかもしれない。

評価方法

評価1:試験60%，小テスト/宿題/課題提出40% 評価2:試験80%，小テスト/宿題20%
評価1と評価2で点数の高い方を成績とする。

履修上の注意

第1回から第9回目までは統計学に関する復習となるが、理論的な詳細は省略する箇所がある。このため事前に「統計学（統計学I）」を受講しておくことを強く勧める。また上記の※2の条件付き確率に関しては、教養科目の「確率・統計入門」で説明を行う。前の講義内容の知識を用いて、次の講義を進めることが多いので、休まずに出席し理解するようにしてください。

科目名 初級マクロ経済学II
Title Elementary Macroeconomics II
科目区分 1群 経済・経営の基礎

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 中野 正裕 (ナカノ マサヒロ) 学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

この講義では「初級マクロ経済学I」を前提として、閉鎖経済と開放経済のIS-LM分析ならびに労働市場の分析を中心に理論学習を進めます。併せて資金循環統計や国際収支表などの統計指標について学び、理論分析との関係について理解することを目的とします。

達成目標

各種経済統計の性質と特徴、閉鎖経済ならびに開放経済の短期マクロ経済モデルに関する学習課題に取り組み、一定以上の成績を修めることが目標です。

スケジュール

概ね以下の手順で講義を進めます。(★: 講義後に定期テスト実施)

- 1 IS - LM分析(1) IS曲線の導出 (テキスト第6章: p.155 ~ 162)
- 2 IS - LM分析(2) 貨幣の需要と供給 (テキスト第6章: p.163 ~ 173, 第15章: p.491 ~ 501)
- 3 IS - LMモデル分析(3) LM曲線の導出 (テキスト第15章: p.501 ~ 511)
- 4 IS - LMモデル分析(4) 政策効果の分析 (テキスト第6章: p.174 ~ 178)
- 5 右下がりの総需要曲線の導出 (テキスト第6章: p.178 ~ 182)
- 6 資金循環統計 (テキスト第3章: p.54 ~ 71) ★
- 7 國際収支統計 (テキスト第3章: p.72 ~ p.80)
- 8 開放経済のマクロ分析(1) 為替レートとIS/バランス (テキスト第9章: p.264 ~ 278)
- 9 開放経済のマクロ分析(2) 購買力平価と金利平価 (テキスト第9章: p.287 ~ 299)
- 10 開放経済のマクロ分析(3) 開放経済の乗数分析 (テキスト第9章: p.299 ~ 307)
- 11 開放経済のマクロ分析(4) マンデル・フレミングモデルのまとめ (テキスト第9章: p.311 ~ 313) ★
- 12 労働市場の分析(1) 労働需要と労働供給 (テキスト第10章: p.326 ~ 331)
- 13 労働市場の分析(2) 労働市場の均衡と実質賃金の硬直性 (テキスト第10章: p.332 ~ 337)
- 14 労働市場の分析(3) 長期の労働市場モデルとUV曲線 (テキスト第10章: p.337 ~ 345)
- 15 1 ~ 14の総括と問題演習

教科書・参考文献

教科書 齊藤誠、岩本康志、太田聰一、柴田章久『マクロ経済学』(新版)
有斐閣 (ISBN 978-4-641-05384-7)

参考書 事前に指定せず、講義時に適宜紹介します。

授業外での学習

指定教科書の対応部分を必ず事前に一度読んでおくこと。また配布される資料に付いている練習問題は(講義で解説しなかった部分も)必ず解いておいて下さい。練習問題の模範解答はポータルサイトから入手できます。

評価方法

中間テスト(25点)2回と期末テスト(50点)の合計得点で評価します(その他の加点要素は初回の講義で説明)。

履修上の注意

原則として第6週、第11週に定期テストを実施する予定です。

第12週以降の講義で簡単な微分(1変数)を用いることがあるので、「微積分I」または「経済数学入門I」を事前に履修することを勧めます(履修の前提とはしません)。なお、継続的に予習・復習を行う習慣が身についていないと、理論体系の理解が次第に困難になりますので注意して下さい。

科目名 初級ミクロ経済学II
Title Elementary Microeconomics II
科目区分 1群 経済・経営の基礎

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 西川 静華(ニシカワ シズカ) 学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

ミクロ経済学とは個人や企業などの個別的な経済活動から資源の最適配分メカニズムを分析する学問である。この講義では初級ミクロ経済学Iで学んだ基礎を踏まえ、市場が完全ではない場合や失敗する場合について、ゲーム理論、産業組織論、公共経済学、環境経済学などの応用分野の手法を用いて学ぶ。

達成目標

- (1) ミクロ経済学の基礎理論を応用し、具体的な経済問題を分析できる
- (2) 問題点を的確に指摘し、適切な解決方法が存在するならばそれを提示することができる

スケジュール

- 第1回 イントロダクション：初級ミクロ経済学Iの復習
- 第2回 一般均衡理論I：エッジワースボックス
- 第3回 一般均衡理論II：厚生経済学の基本定理
- 第4回 不完全競争市場I：独占市場
- 第5回 ゲーム理論の基礎
- 第6回 不完全競争市場II：寡占
- 第7回 不完全競争市場III：寡占
- 第8回 中間試験
- 第9回 生産要素の市場I：労働者市場
- 第10回 生産要素の市場II：資本市場
- 第11回 市場の失敗I：外部性
- 第12回 市場の失敗II：公共財
- 第13回 政府の介入I：不完全競争市場
- 第14回 政府の介入II：市場の失敗
- 第15回 総括

教科書・参考文献

教科書 とくになし

参考書 講義中に適宜紹介する

授業外での学習

課題(演習問題)を適宜出すので、期限内に提出すること

評価方法

課題(30%)、中間試験(30%)、期末試験(40%)

履修上の注意

基礎数学A・B、初級ミクロ経済学Iの講義と同程度の知識はあるものとします。経済学は独学よりも講義に出席するほうが圧倒的に簡単に楽に学べます。休まず毎回講義に来てください。

科目名 World Issues II
Title World Issues II
科目区分 2群 国際系基礎

教授 関口 智子 (セキグチ トモコ) 担当教員 担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
1~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

このクラスは、英語のニュースを素材に、語彙力とリスニング力を向上させるとともに、英語構文力や理解力を養成する。教材として、インターネットで配信されている生の英語ニュースを聞き、世界で起きている出来事について学んでいく。時事英語で用いられる用語・表現を適切な日本語用語・表現に変換し、聞き取りが難しいところは、ニュース原稿で確認し正確な内容把握を行う。また、このクラスを通じ、英語で世界情勢を理解する背景知識も養っていく。

達成目標

1. 世界の出来事を英語で理解するための語彙力を習得する。
2. 徐々に早いスピードのニュースを理解できるようにする。
3. 世界情勢に関する知識を英語と日本語で身に付ける。

スケジュール

- 第1回 Introduction
第2回 ニュース英語の語彙増強
第3回 副教材 (CNN 10から最新のニュースをピックアップ)
第4回 ニュース英語の語彙増強
第5回 副教材 (CNN 10から最新のニュースをピックアップ)
第6回 ニュース英語の聞き方
第7回 副教材 (CNN 10から最新のニュースをピックアップ)
第8回 ニュース英語の聞き方
第9回 副教材 (CNN 10から最新のニュースをピックアップ)
第10回 ニュース英語の読み方
第11回 副教材 (CNN 10から最新のニュースをピックアップ)
第12回 ニュース英語の読み方
第13回 副教材 (CNN 10から最新のニュースをピックアップ)
第14回 副教材 (CNN 10から最新のニュースをピックアップ)
第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 後程、指定する。

参考書 授業中に隨時紹介する。

授業外での学習

毎回の予習、復習。国際問題に关心を持ち、日頃から日本語および英語の新聞やネットの記事を読んだり、ニュースを聞くこと。

評価方法

20% : 発表
30% : 小テスト
50% : 期末テスト

履修上の注意

定員24名。定員を超えた場合、TOEIC 500点以上または英検2級以上の学生を優先するので、証明となるものを持参すること。なお、初回授業で実力診断テストを実施するので、必ず出席すること。

科目名 Critical ThinkingII
Title Critical ThinkingII
科目区分 2群 国際系基礎

教授 ハーフトン ニコラス アンドリュー (ハーフトン ニコラス
アンドリュー) 担当教員と連絡方法
学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4 単位区分 選択 単位数 2 開講時期 後期

目的

This course is the second of a two part series. The focus of Critical Thinking II is for students to expand upon their understanding of argument, and on how to recognize and use the language used in arguments and debates. Critical Thinking II aims to build upon what was taught in Critical Thinking I by helping you to develop a deeper understanding of language. You will learn how to clearly recognize fallacies, and you will become more confident in questioning and evaluating evidence. In short, this is a class in best practice for decision-making.

達成目標

In addition to improving your reading skills further, you will learn more about the language of persuasion and argument. You will also learn how to present your own short arguments, and to respond to questions or counter arguments either orally or in writing. You will also participate in debates and discussions.

スケジュール

- 第1回 Introduction to Critical Thinking: What to Believe and Why.
- 第2回 Questioning Language: A review of logic, ambiguity, and assumption
- 第3回 Using Misdirection and Emotive Language
- 第4回 DESERVE A DOPE SLAP? Syllogisms, Missing Premises, and Missing Conclusions
- 第5回 Rules for Judging Validity of Arguments
- 第6回 Judging Whether an Inductive Argument is Strong and Weak
- 第7回 Fallacies I: Red herrings, circles and more
- 第8回 Fallacies II: To assume will make an ass of you and me, and that's a slippery slope
- 第9回 The Fallacies III (Spot that Fallacy)
- 第10回 The Fallacies IV: How to campaign like Trump (Use that Fallacy)
- 第11回 How Good is the Evidence: Observation, Research, Generalizations and Surveys?
- 第12回 Using Observation, Research, Generalizations and Surveys
- 第13回 Propaganda
- 第14回 Review
- 第15回 The Great Debate

教科書・参考文献

教科書 Prints

参考書 Information regarding extra reading material will be given during class.

授業外での学習

As this course focuses on universal intellectual standards, care and practice are essential. Homework assignments and pre-class preparation such as looking up new vocabulary will count toward your final grade.

評価方法

Sixty percent of your grade will be awarded for homework, and in-class speaking activities such as short debates. The final test will account for 40%.

履修上の注意

受講の目安 : TOEIC 600点またはTOEFL iBT 60点以上程度。
遅刻 : 授業開始後10分以内に到着した場合を指す。それ以降は欠席扱いとなる。遅刻3回で欠席1回とみなす。欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には、単位を認定しない。

科目名 金融論II
Title Theory of Finance II
科目区分 3群 - A 経済系応用

教授 今野 昌信 (コンノ マサノブ)
担当教員 担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

本講義では金融の理論と政策に焦点を当てます。標準的な金融理論を理解することが第1の目的です。また、文
章だけで綴られた教科書もありますが、経済統計を解析して実証する方法を利用するためにはモデルを用いた経
済分析の方法を理解する必要があります。教科書のモデル分析の検討を通じて、この方法に慣れることができます。教科書目次にしたがって講義しますので、金融をテーマにその方法を理解するようにしてください。

達成目標

標準的な金融理論とモデル分析を理解すること。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貨幣の供給と High Powered Money
- 第3回 管理通貨制度
- 第4回 貨幣乗数の理論
- 第5回 利子率と収益性
- 第6回 流動性選好理論
- 第7回 利子率の期間構造
- 第8回 貸付資金説
- 第9回 資産価格の決定
- 第10回 IS-LM分析
- 第11回 金融政策の目的
- 第12回 財政・金融政策と資産効果
- 第13回 総需要曲線
- 第14回 古典派と Keynes
- 第15回 総括授業

教科書・参考文献

教科書 岩田規久男『金融』東洋経済新報社 講義内容はテキストの5、7~9章に対応しますが、教科書記載内容と全く同じではありません。

参考書 授業で適宜指示します。

授業外での学習

マクロ経済学やミクロ経済学の分析方法を使いますので、同時に履修するか、あるいは自分で学習して相乗効果を高めましょう。現実の金融問題に関しては、新聞・TVなどに日ごろから目を通してその深層を考えましょう。

評価方法

期末試験を実施します。成績評価は出席調査を含む受講状況が5割、期末試験5割。但し、期末試験の受験かつ試験結果が合格であることが単位修得の必要条件です。また、任意提出のレポート課題を出します。レポートは加算点に使います。

履修上の注意

基礎知識は求めません。受講しながら金融問題や分析方法を理解してください。生きた現実が教科書です。
新聞・TVなどメディアから報道される社会の動きを批判的に観察するよう心がけてください。
授業は遅れず、休まず出席してください。学生証での入室チェックを忘れずに。

科目名 財政学II
Title Public Finance II
科目区分 3群 - A 経済系応用

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 天羽 正継 (アモウ マサツグ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

財政とは、国や地方自治体などの政府が租税や公債によって財源を調達し、それを用いて国民や住民に公共サービスを提供する活動のことである。財政に関するニュースに私たちが接しない日はないと言ってよく、税制改革や予算編成、国債発行など、いずれも大きな政治的・経済的問題として報じられている。また、普段の私たちの生活を見れば、道路や水道といった生活インフラはいずれも財政を通じて提供されている。すなわち、現代の政治、経済、社会を考える上で財政を無視することはできないのである。本講義では、こうした財政のメカニズムを理解するために必要な財政学の基礎知識について学ぶとともに、現実のさまざまな財政問題をどのようにして解決していくべきかについて考えていく。

達成目標

受講者が財政学の基礎知識を身に付けることを第一の達成目標とする。また、財政を支えるのは国民や住民である私たち自身であり、学生諸君は、大学を卒業して社会人になれば、財政に対して大きな責任を有することになる。したがって、財政問題の解決ためにどのような政策が必要なのかを自分の頭で考えることが社会人として重要なになってくるのであり、そのための思考力を身に付けることを第二の達成目標とする。

スケジュール

- 第1回 財政とは何か？財政学とは何か？（財政学Iの復習）
- 第2回 公債と財政赤字(1)日本の財政赤字と国債
- 第3回 公債と財政赤字(2)国債の発行・償還と国債管理政策
- 第4回 公債と財政赤字(3)公債発行がもたらす諸問題
- 第5回 公債と財政赤字(4)財政の持続可能性
- 第6回 財政投融資(1)財政投融資とは何か？
- 第7回 財政投融資(2)財政投融資の歴史と課題
- 第8回 財政と経済安定化政策(1)GDPの決定理論と財政政策
- 第9回 財政と経済安定化政策(2)IS/LM分析と財政金融政策
- 第10回 財政と経済安定化政策(3)マンデル＝フレミング・モデルと財政金融政策
- 第11回 財政と経済安定化政策(4)経済のグローバル化と財政金融政策
- 第12回 地方財政(1)日本の地方制度と地方財政
- 第13回 地方財政(2)地方税
- 第14回 地方財政(3)地方交付税と国庫支出金
- 第15回 地方財政(4)地方債と地方財政の健全化

教科書・参考文献

教科書 特に指定せず、講義資料を配布するとともに、研究室のホームページにアップする (URL:<http://www1.tcu.ac.jp/home1/m-amou/>)。

参考書 植田和弘・諸富徹編『テキストブック現代財政学』2016年、西村幸浩著『財政学入門』2013年、持田信樹著『財政学』2009年、神野直彦著『財政学』2007年。

授業外での学習

(1)上記参考文献の中から自分に合ったものを選び、読むことを勧めます。(2)普段から財政に関するニュースに接し、積極的な問題意識を持つようにして下さい。(3)もしどうしても分からないことがあれば、そのままにしておらず、教員に積極的に質問しに来て下さい。

評価方法

講義中に出す課題(20%)と期末試験(80%)により評価する。課題は主として講義内容に関連して受講者の意見や考えなどを問うもので、不定期に実施する。期末試験は大きく用語問題と記述・計算問題から構成される。

履修上の注意

(1)前期の「財政学I」を履修していることを履修の条件とはしませんが、履修していない受講者は講義資料等で予め前期の内容を自習しておいて下さい。(2)公務員志望者には特に履修を勧めます。

科目名 ゲーム理論II
Title Game Theory II
科目区分 2群 経済理論

担当教員
非常勤講師 毛塚 和宏 (ケヅカ カズヒロ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

この講義では、ゲーム理論の具体的な応用例を取り上げ、そこで用いられるモデルを理解する。例えば、なぜ現実の市場で、カルテルや談合が行われて価格が吊り上げられることが起きるのだろうか？一社だけ抜け駆けをして商品の生産量を増やせば、その一社は莫大な利益を上げることができるはずである。また、なぜ多くの企業は、大卒の学生を高い賃金で採用するのだろうか？大学での学びは、労働者としての生産性を向上させるものばかりではないのにも関わらず、である。この講義の目的は、一般的な理論モデルをこれら現実の事例と対応付けることによって、抽象的な思考力を涵養することである。また、このような現実の経済現象を説明するために多少高度なゲーム理論の知識が必要となる。そこで、確率論も含んだ応用的な意思決定モデルを理解することによって、利害が複雑に対立する状況における戦略的な思考法を身につけることも目的とする。

達成目標

- 授業内で扱うモデル（無限繰り返しゲーム、ペイジアンゲーム、展開型ペイジアンゲームなど）のメカニズムを、他人に説明できるようになる。
- 上述のモデルを、簡単な数学を用いて表現できるようになる。
- 上述のモデルを、自分で見つけた別の社会現象に応用して分析できるようになる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス＆ゲーム理論Iの復習①
第2回 ゲーム理論Iの復習②
第3回 募占市場のモデル
第4回 有限回繰り返しゲーム
第5回 無限回繰り返しゲーム
第6回 フォーク定理
第7回 不確実性とゲーム理論
第8回 不完備情報の標準形ゲーム
第9回 ペイジアン・ナッシュ均衡
第10回 オークション
第11回 不完備情報の展開系ゲーム
第12回 シグナリング・ゲーム：分離均衡
第13回 シグナリング・ゲーム：一括均衡
第14回 不完備情報のある交渉ゲーム
第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 ロバート・ギボンズ『経済学のためのゲーム理論入門』創文社

参考書 神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社 その他、授業中に適宜紹介する。

授業外での学習

やや高度なモデルを扱うため、入念な復習が必須である。またレポートでは、モデルが応用可能な社会現象を探して分析することを要求する。そのため、新聞記事や本などの文献を自力で探すことが必要となる。

評価方法

テスト：40%，レポート：40%，受講状況：20%

専門教育科目
(国際学科)

履修上の注意

- 講義の履修にあたり、基礎数学A・B、確率・統計入門、ゲーム理論I、初級ミクロ経済学Iの講義内容と同程度の知識を有することを前提とする。
- 情報の経済学を並行して履修することを奨励する。一部重複するトピックがあるが、受講者の理解が深まるよう、それぞれ異なる視点から講義する。

科目名 国際経済学II
Title International Economics II
科目区分 3群 - A 経済系応用

教授	担当教員 藤井 孝宗 (フジイ タカムネ)	担当教員との連絡方法 学内ポータルサイトのシラバス参照
配当年次 3・4	単位区分 選択	単位数 2

目的

本講義では、国際経済の中でも、特に実物面（実際の商品、サービス、人の移動が伴うもの）について、その発生のメカニズム、及び各国の政策に与える影響を紹介、解説する。後期の国際経済学IIでは、ノーマティブ・セオリーと呼ばれる、貿易政策に関する理論や厚生効果について紹介するとともに、現実経済における重要課題であるトピックについて個別に紹介する。現実と経済理論の接点や理論の現実への適応可能性について考えてもらいたい。

達成目標

貿易政策の厚生効果の理解・現実国際経済における問題点の把握

スケジュール

- 第1回 イントロダクション（教科書序章）& 前期の復習
第2回 貿易政策とは（教科書第7章）
第3回 貿易政策の厚生効果：部分均衡（教科書第7章）
第4回 貿易政策の厚生効果：部分均衡（教科書第7章）（レポート）
第5回 貿易政策の厚生効果：一般均衡（教科書第7章）
第6回 貿易政策の厚生効果：一般均衡（教科書第7章）
第7回 貿易政策の厚生効果：一般均衡（教科書第7章）（レポート）
第8回 市場のゆがみと貿易政策（教科書第8章）
第9回 戦略的貿易政策（教科書第9章）
第10回 貿易政策の政治経済学（教科書第10章）
第11回 個別トピック1：貿易と経済成長（教科書第11章・第12章）
第12回 個別トピック2：サービス貿易（教科書第13章）
第13回 個別トピック3：海外直接投資と多国籍企業（教科書第14章）
第14回 個別トピック4：国際経済体制と地域経済（教科書第15章）（レポート）
第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 木村福成「国際経済学入門」日本評論社

参考書 石川城太・椋寛・菊池徹『国際経済学をつかむ（第2版）』有斐閣、阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学』有斐閣、中西訓嗣『国際経済学（国際貿易編）』ミネルヴア書房

授業外での学習

事前に教科書を読んで予習をすることを強く勧める。また、特に貿易政策や直近の国際経済事情については、WTOや経済産業省などのHPに多くの情報が載っているので、あわせて閲覧することが望ましい。

評価方法

講義内のレポート30% (10%×3回) + 学期末テスト70% 出席点などは考慮しない。

履修上の注意

基礎ミクロ経済学I, IIを履修済みであることを履修条件とする。また、本科目と併せて国際金融論を履修することが望ましい。

科目名 環境経済学II
Title Environmental Economics II
科目区分 3群 - A 経済系応用

担当教員 担当教員との連絡方法
教授 山本 芳弘 (ヤマモト ヨシヒロ) 学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3・4 単位区分 選択 単位数 2 開講時期 後期

目的

前期科目「環境経済学I」で学んだ内容をより深く考える。
環境経済学の成果が問題解決のためにどのように活用されているかを学ぶとともに、新たな政策の立案について考える。

達成目標

環境問題の本質と解決策について、経済学を用いて論理的に説明できる。
環境政策の役割や機能を説明できるとともに、新たな政策を立案するスキルを身につける。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス、環境問題の現状と環境経済学
- 第2回 支払意思額と受入補償額
- 第3回 仮想評価法と費用便益分析
- 第4回 経済学分析ツールの復習
- 第5回 外部性
- 第6回 環境税
- 第7回 排出権取引
- 第8回 汚染削減のモデル分析
- 第9回 地球温暖化対策についての国際交渉の現状
- 第10回 交渉のモデル分析
- 第11回 二酸化炭素排出の要因分解と削減策
- 第12回 再生可能エネルギー普及策
- 第13回 省エネルギー推進策
- 第14回 地域社会と環境政策
- 第15回 まとめと発展的学習のための指針

教科書・参考文献

教科書 授業で説明するスライドのプリントアウトを毎回配布する。

参考書 授業で扱うテーマ毎に紹介する。

授業外での学習

授業後は必ずレジュメやノートに目を通し、学習内容の定着を図ること。
各自の自主学習にゆだねた部分を実際に取り組んでみること。

評価方法

授業時間内での課題提出：30～40%、学期末試験：残り60～70%
詳細は初回授業で説明する。

履修上の注意

必修科目「市場と経済」レベルの予備知識で受講可能。
前期科目「環境経済学I」を履修していることが望ましい（未履修でも受講は可能）。
毎回の授業時間内で解答し提出する課題の解説は、次回授業の冒頭で行う。

科目名 公共経済学II
Title Public Economics II
科目区分 3群 - A 経済系応用

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 岡田 知之(オカダ トモユキ) 学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3・4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

政府はより豊かな社会を実現するために、さまざまなかたちで民間の経済活動に対して介入を行っている。政府が活動を行う為には財源が必要となるが、財源の代表例として、税金を挙げることができる。この授業の目的は、税の存在意義や税が経済活動に与える影響を考察することにより、税に関する理解を深めることである。

達成目標

経済の理論をふまえたうえで、さまざまな税が経済に与える影響を客観的に理解することが、この授業の目標である。

スケジュール

- 第1回 税の役割、税の根拠
- 第2回 望ましい税制
- 第3回 累進度、転嫁と帰着、転嫁の種類
- 第4回 個別消費税と供給曲線、需要の価格弾力性、供給の価格弾力性
- 第5回 弹力性と需要曲線：供給曲線、弾力性と租税の負担①
- 第6回 弹力性と租税の負担②
- 第7回 最適消費、個別消費税
- 第8回 定額税、個別消費税と定額税の比較
- 第9回 一般消費税との比較、労働所得税（労働時間が一定のケース）
- 第10回 労働所得税（労働時間が一定のケース）と一般消費税の比較
- 第11回 最適労働供給
- 第12回 労働所得税、消費税
- 第13回 労働所得税と消費税の比較
- 第14回 所得再分配政策
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 教科書は利用しない。

参考書 麻生良文(1998)『公共経済学』有斐閣

授業外での学習

予習は必要ないが、授業後に十分な復習をおこなうこと。

評価方法

試験で評価を行う予定である。

履修上の注意

必要な知識はできるだけ補足しながら、授業を進める予定である。経済学の基礎に自信の無い者は、欠席しないようにしていただきたい。

科目名 経済政策論II
Title Economic Policy II
科目区分 3群 - A 経済系応用

担当教員 溝口 哲郎 (ミゾグチ テツロウ)
教授 担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3・4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

本講義の目的は、政府による公共政策を理解するための理論的基礎を学び、評価することにある。講義では具体的に、①政府構造とその限界、②租税、補助金、歳入構造、③官僚行動とレントシーキング、④腐敗・汚職の経済分析、⑤地方財政と政府間財政関係などのトピックを取り扱う予定である。

達成目標

政府の経済活動を理解するための理論的基礎を学び、最終的にその考え方を実際の経済政策を分析する際に応用することにある。特にミクロ経済学の手法を応用し、経済政策を評価できるようになることを目標とする。

スケジュール

- 第1回 講義ガイダンス
第2回 1.イントロダクション : IS-LMモデルとその限界
第3回 2.マクロ経済政策とマクロモデルI : マンデル＝フレミング: モデルの概観
第4回 2.マクロ経済政策とマクロモデルII : マンデル＝フレミング: モデルの導出
第5回 公共財の供給 : メカニズムデザイン理論の基礎
第6回 外部性の補整 : ピグー税、外部性の内部化
第7回 社会的決定と政治過程 : I 合意形成の理論
第8回 社会的決定と政治過程 : II 政治と官僚による政策決定
第9回 社会的決定と政治過程 : III 官僚行動の理論
第10回 社会的決定と政治過程 : IV レントシーキングの理論
第11回 地方分権と政府間財政関係 : I 地方分権の経済分析
第12回 地方分権と政府間財政関係 : II 政府間財政移転の経済分析
第13回 腐敗と汚職の経済分析 : I 腐敗・汚職の発生メカニズムとその厚生分析
第14回 腐敗と汚職の経済分析 : II 腐敗・汚職防止のインセンティブ設計の理論の基礎
第15回 授業のまとめ

教科書・参考文献

教科書 林正義・小川光・別所俊一郎(2010)『公共経済学』(有斐閣)

参考書 畑農鋭矢・林正義・吉田浩(2015)『財政学をつかむ【新版】』(有斐閣)

授業外での学習

テキストおよび参考書の予復習が必須です。授業内で授業内容に関する問題を出題しますが、これらの問題は授業外での学習の目的で出しています。これらの問題を解くことによって、履修者は授業内容をより深く勉強することができます。

評価方法

平常点(10%)、小テストおよび宿題(30%)、期末試験(60%)で評価します。

履修上の注意

専門科目のためマクロ経済学およびミクロ経済学の知識が前提となります。そのため初級マクロ経済学I・II、初級ミクロ経済学I・IIの履修済であることを履修の条件とします。また中級マクロ経済学I・IIおよび中級ミクロ経済学I・II、財政学I・IIおよび公共経済学I・IIの履修を併せて行なうことを強く推奨します。

科目名 計量経済学II
Title Econometrics II
科目区分 3群 - A 経済系応用

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 大石 隆介(オオイシ リュウスケ) 学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3・4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

経済学とは世の中で起こる様々な経済現象を理解するための学問である。しかしそこで提唱された理論は真実なのか、これを確かめるためには実際に観測されたデータを用いた裏付けが必要となる。計量経済学ではデータを用いた統計的な分析を行い、経済学に関連する理論を証明することなどを目的としている。本科目では計量経済学上で学んだ知識を基に計量分析についての理解を深めていく。特に多重回帰分析、そして回帰モデルにおける標準的な仮定が満たされない場合に起こる問題などについて理解することを目指す。

達成目標

履修者が計量経済学（多重回帰分析・回帰モデルにおける標準的な仮定が満たされない場合に起こる問題）について正しく理解し、データを用いて実際に計量分析を行えるようになることを目標とする。

スケジュール

- 1 : ガイダンス
- 2 : 多重回帰分析の基礎 (教科書第5章)
- 3 : 多重回帰モデルの拡張 : モデルの関数型 (教科書第7章)
- 4 : 多重回帰モデルの拡張 : ダミー変数 (教科書第7章)
- 5 : 多重回帰モデルの拡張 : ラグ変数 (教科書第7章)
- 6 : 多重回帰モデルの拡張 : 多重共線性 (教科書第7章)
- 7 : F検定 : F検定の考え方 (教科書第8章)
- 8 : F検定 : 線型制約のテスト (教科書第8章)
- 9 : F検定 : 構造変化の検定 (教科書第8章)
- 10 : 攪乱項の系列相関 : 系列相関 (教科書第8章)
- 11 : 攪乱項の系列相関 : ダービン=ワトソン統計量 (教科書第9章)
- 12 : 攪乱項の系列相関 : コクラン=オーカット法 (教科書第9章)
- 13 : 攪乱項の不均一分散 : 不均一分散と簡単な解決法 (教科書第9章)
- 14 : 攪乱項の不均一分散 : 不均一分散モデルの検定 (教科書第9章)
- 15 : まとめ

教科書・参考文献

教科書 「入門計量経済学 Excelによる実証分析へのガイド」山本拓 竹内明香 新世社

参考書 「計量経済学」山本拓 新世社

授業外での学習

教科書を事前に読み、講義終了後に復習すること。

評価方法

コースワーク (課題) 20% 定期テスト 80%

履修上の注意

計量経済学Iを前学期に履修していることが望ましい。

科目名 労働経済学II
Title Labor Economics II
科目区分 3群 - A 経済系応用

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 小林 徹 (コバヤシ トオル)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3・4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

労働経済学は、働くことや企業が人を雇用するということについて、経済学の理論とデータを駆使して分析をする学問分野です。たとえば、近年話題になっている過重労働の問題、女性労働力の活用促進、技術進歩による雇用喪失などが分析対象に挙げられます。このような様々な労働問題についての分析では、それぞれの問題が発生するメカニズムについて理論的な考察を行い、そこから得られた仮説をデータを用いて検証するという手順がとられます。

労働経済学IIでは、ミクロ経済学で学んだ知識を応用し労働市場の余剰分析を前半部で行います。その後に労働経済学に特有の理論分析を学びます。具体的には、賃金制度や賃金格差の発生要因、労働市場での差別、就職活動などになります。

達成目標

近年の労働問題の背景にある原因について、自分なりの仮説を述べることができる。
データを用いた労働経済分析で陥りやすい問題について述べることができます。

スケジュール

- 第1回 労働経済学IIの進め方、評価方法、労働経済学の動向
- 第2回 労働市場分析I：労働市場の均衡と労働供給曲線の理解
- 第3回 労働市場分析II：労働市場の均衡と労働需要曲線の理解
- 第4回 労働市場分析III：労働市場の余剰分析の基礎（労働者余剰と生産者余剰を計算する）
- 第5回 労働市場分析IV：労働市場の余剰分析の応用（税金の影響、移民の影響、企業誘致の影響）
- 第6回 おさらいと小テスト①
- 第7回 賃金格差I：後払い賃金制度による格差の発生
- 第8回 賃金格差II：補償賃金による格差の発生
- 第9回 賃金格差III：差別による格差の発生
- 第10回 賃金格差IV：効率賃金による格差の発生
- 第11回 就職活動とサーチI
- 第12回 就職活動とサーチII
- 第13回 おさらいと小テスト②
- 第14回 労働経済学の問題演習I
- 第15回 労働経済学の問題演習II

教科書・参考文献

教科書 授業で用いるテキストは、作成したテキストがありますので、適宜配布します。

参考書 吉田良生、牧野文夫、小崎敏男『キャリアと労働の経済学』、日本評論社
大森義明著『労働経済学』 日本評論社

授業外での学習

教科書と講義資料を読み、予習復習をすること。

評価方法

期末試験60%
小テスト40%

履修上の注意

労働経済学Iが履修済みであることを推奨します。
初級ミクロ経済学I・IIが履修済みであることを推奨します。

科目名 国際ビジネス概論
Title International Business
科目区分 3群 - B 経営系応用

教授 清水 さゆり (シミズ サユリ)
担当教員 担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

企業規模の大小を問わず、多くの企業が国境を超えて事業活動を展開しています。こうした企業の事業活動の実態と理論について理解することが国際ビジネス科目的講義目的です。
国際ビジネス概論では、国際ビジネスの基礎を学び、企業の国際化のロジックを理解し、国際ビジネスに関心をもつことが目的です。そのため、国際化の理論、多国籍企業の生成や歴史、国際ビジネス環境などを学びます。また、理論の有用性と補完性について確認・理解してもらうために、ケーススタディや映像資料等を用いる予定です。

達成目標

国際ビジネスに固有の諸課題について関心をもち、自ら考察できるようになること。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 國際的な企業活動
- 第3回 海外直接投資と自由貿易
- 第4回 國際化の理論-プロダクトサイクル論
- 第5回 國際化の理論-ハイマー理論
- 第6回 國際化の理論-内部化理論
- 第7回 ケース
- 第8回 多国籍企業の生成・歴史
- 第9回 海外直接投資-受入国への影響
- 第10回 海外直接投資-本国への影響
- 第11回 多国籍企業と国家の関係
- 第12回 國際市場セグメンテーションと参入方式
- 第13回 グローバルマーケティング戦略
- 第14回 グローバルサプライチェーンマネジメント
- 第15回 総括授業

教科書・参考文献

教科書 特に指定しません。

参考書 江夏健一・桑名義晴編(2006)『新版 理論とケースで学ぶ国際ビジネス』同文館出版
その他、適宜紹介します。

授業外での学習

授業内容についての復習を行う。また、常に新聞記事等を通じて企業活動に関心を持つ。

評価方法

定期試験 70%、平常点 30%
その他、ミニテスト、レポート等を加味し総合的に評価します。

履修上の注意

私語等授業の妨げになる行為は厳に禁止します。
ケーススタディや課題を課す場合があるので、積極的な授業への参加を求めます。

科目名 貿易論
Title Foreign Trade
科目区分 2群 戰略とマーケティング

担当教員
非常勤講師 里見 泰啓 (サトミ ヤスヒロ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

戦後日本の経済発展は国際貿易によるところも大きい。この授業では、戦後日本経済の発展過程と国際経済の変遷を辿りながら日本の貿易構造の変化を論ずる。このなかでは国内企業の海外直接投資と海外への生産移管にも触れ、グローバル競争のなかでの企業行動を見る。基本的な貿易理論についても解説し、現実と理論の両面から国際貿易を考えていく。

尚、授業はシラバスに則って進めるが、受講生の関心や理解度なども考慮して、若干変更する場合もある。

達成目標

国際経済環境の変化なかで、戦後日本経済の発展プロセスと貿易の役割を理解する。基本的な貿易理論を理解する。

スケジュール

- 第1回 貿易とはなにか
- 第2回 戦前の国際経済 - 大恐慌とブロック経済 -
- 第3回 戦後の国際経済体制の確立 - プレイトンウッズ体制 -
- 第4回 復興期の日本経済と貿易
- 第5回 高度経済成長期の日本経済と貿易
- 第6回 安定成長期の日本経済と貿易
- 第7回 日本経済の成熟化と貿易
- 第8回 貿易の基礎理論①
- 第9回 貿易の基礎理論②
- 第10回 リカートの貿易理論
- 第11回 ヘクシャー・オリソンの貿易理論
- 第12回 需要決定型貿易理論
- 第13回 国際分業と貿易の変化
- 第14回 近年の国際経済と企業行動 - グローバル経済のなかでの企業行動の事例 -
- 第15回 まとめ（貿易と所得分配、貿易と経済成長の関係なども概説）

教科書・参考文献

教科書 テキストは特に指定しない。

参考書 伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』日本評論社など。この他、適宜、紹介する。

授業外での学習

講義計画に応じて事前学習を行うこと。また、講義後は学習内容の定着を図ること。

評価方法

定期試験により評価する（100%）。ただし、受講状況も考慮する場合がある。

履修上の注意

特になし。

科目名 コーポレート・ガバナンス
Title Corporate Governance
科目区分 3群 - B 経営系応用

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 井上 真由美 (イノウエ マユミ) 学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

企業の長期的な発展のためにはコーポレートガバナンス（企業統治）のあり方が重要である。この講義では、コーポレートガバナンスの基本的な概念および理論を解説し、さらに各国のコーポレートガバナンスのタイプを紹介する。なお近年のわが国におけるコーポレートガバナンスの変容も興味深いトピックである。この検討とともに、今後の望ましい日本企業のガバナンスのあり方を考察する。

達成目標

- ・コーポレートガバナンスに関する基本的な概念および理論を理解する。
- ・各国のコーポレートガバナンスの歴史・変遷と特徴を知る。
- ・近年のわが国におけるコーポレートガバナンスの変容を踏まえた上で、今後の望ましいガバナンスのあり方を考察するための基礎を身につける。

スケジュール

- | | |
|------|------------------------|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2回 | コーポレートガバナンスの基礎知識 |
| 第3回 | 日本のコーポレートガバナンスの歴史（1） |
| 第4回 | 日本のコーポレートガバナンスの歴史（2） |
| 第5回 | 日本のコーポレートガバナンスの歴史（3） |
| 第6回 | アメリカのコーポレートガバナンスの歴史（1） |
| 第7回 | アメリカのコーポレートガバナンスの歴史（2） |
| 第8回 | 現代のアメリカ企業のガバナンス |
| 第9回 | 前半のまとめと中間試験 |
| 第10回 | グローバル資本主義の暴走 |
| 第11回 | 日本における株主資本主義の台頭 |
| 第12回 | さまざまな投資ファンド |
| 第13回 | アングロサクソン型とライン型資本主義 |
| 第14回 | 資本市場のグローバル化と各国の対応 |
| 第15回 | これからの日本企業のガバナンス |

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。レジュメを用いた講義を行う。

参考書 講義の中で紹介する。

授業外での学習

講義終了後、図書館のデータベース（日経テレコン21、日経BP記事検索サービス、D-VISON NET）を利用し、講義内容と関連のある記事を読み、内容についての理解を深める。

評価方法

数回の講義内小レポート（10点）、中間試験（45点）、期末試験（45点）の点数で評価する。

専門教育科目
(国際学科)

履修上の注意

中間・期末両試験を受験することが、単位取得の条件。

科目名 経営組織論
Title Organization Theory
科目区分 3群 - B 経営系応用

教授 藤本 哲 (フジモト テツ) 担当教員 担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

経営組織論は、組織目的を効率よく達成するための仕組みづくりや、環境の変化に応じて組織を変革するための仕組みづくりをするためには、どうすればいいのかを考えるための材料を提供する。人間が本来持つ特性の研究は主に心理学で蓄積されてきた。また状況や脈絡の影響が大きく、非人道的な行為でさえ、何のためらいも無く実行できてしまうことも明らかにされてきた。そのように可塑的な人間行動は、仕事を遂行するという場面において、どのように現れるのか。自分の思うとおりには他人は動いてくれないのが当たり前であることを踏まえ、大まかにはどのような傾向があるのかを学んでいく。経営組織論を学ぶことで、組織を望ましいものとするためには我々一人ひとりがどのように行動すればいいのか指針を得ることが出来るであろう。

達成目標

(1) 経営組織論の基礎概念や基本理論を習得し、履修生各自が、所属する組織の運営をより良いものとするにはどうすればいいかを考えるために手掛かりを学び取る。 (2) 自律的学習のやり方を身につける。 (3) 授業中の質問時間に質問することで皆のために貢献する。 (4) 友人ではない人に話しかけるきっかけを自ら作る。

スケジュール

- 第1回 分業と専門化 (教科書 3章 3節他 , 『組織デザイン』 2章他) Division of labour and specialization
第2回 官僚制と規模 (教科書 7章) Bureaucracy and organization size
第3回 組織構造の公式化と組織の知識 (教科書 7章) Formalization of organizational structure and organizational knowledge
第4回 組織構造の複雑性と専門職 (教科書 7章) Complexity of organizational structure and professionals
第5回 組織構造の集権化 (教科書 7章) Centralization of organizational structure and centrality
第6回 組織の成長と衰退 (教科書 8章 1節) Growth and decline of organizations (organizational lifecycle)
第7回 物理的環境とコミュニケーション構造 (教科書 9章) Physical structure and communication structure
第8回 組織と技術 (教科書 8章 3・4節) Organizations and technology
第9回 組織と環境の不確実性 (教科書 4章 1・2・4節) Uncertainty of environment and organizations
第10回 組織文化 (教科書 9章) Organizational culture
第11回 組織学習と組織変革 (教科書 14・15章) Organizational learning and organizational transformation
第12回 組織均衡 (教科書 3章 1節、11章 1節) Organizational equilibrium
第13回 組織の取引費用観 (教科書 4章 3節) Transaction cost perspective of organizations
第14回 資源依存と組織間関係 (教科書 5章 1節) Resource dependencies and inter-organizational relationships
第15回 組織の制度論 (<http://www.gbrc.jp/journal/amr/free/dlranklog.cgi?dl=AMR6-9-3.pdf>)
Institutionalism of organizations

教科書・参考文献

教科書 桑田耕太郎、田尾雅夫『組織論』(補訂版)有斐閣アルマ

参考書 沼上幹『組織デザイン』日経文庫。ロビンス『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社。佐藤郁哉
山田真茂留『制度と文化』日本経済新聞出版社。

授業外での学習

教科書を入手したら目次を熟読する。授業の各回が、教科書ではどのあたりに該当するか予想し、目次にメモしておく。予習では、次回の授業範囲に関連する項目について、指定した教科書・参考書を熟読。授業後はノートや配布資料、教科書に目を通し、自分のこれまでの経験に関連するものがないか振り返りメモする。

評価方法

期末試験10割。過年度の得点分布を、パソコン教室のPCにログインして画面に出てくる「配布フォルダ」の中に入れてあるので参考に。

履修上の注意

学生証を忘れた場合は欠席として扱われる。教科書に載っていることは配布資料に盛り込まれないので教科書は欠かせない。配布資料の残部は研究室前で配布(無くなり次第終了)。LiveCampusを通じて連絡することがある。関連資料をPC教室の配布フォルダの中に入れていることがある。

科目名 財務会計II
Title Financial AccountingII
科目区分 3群 - B 経営系応用

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 藻利 衣恵 (モウリ キヌエ) 学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

本講義では、「財務会計Iでは物足りない」、「財務会計Iの講義を履修し財務会計をさらに学びたい」、「難関の資格試験に挑戦したい」等の希望をもつ学生を対象に、現在設定・公表されている主要な会計基準について、財務会計Iより詳細に会計処理およびその背後にある考え方の説明を行います。

達成目標

- ① 特に近年話題となる会計領域について、我が国や海外の会計処理とその背後にある基本思考を理解すること
- ② 実際の有価証券報告書に記載されている内容を理解できるようになること
(当面の目標としては、日本経済新聞等における財務会計関連記事を理解できるようになること)

スケジュール

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス - 会計基準をめぐる国際的な動向 |
| 第2回 | 財務会計Iの復習(1)-財務会計の概念フレームワーク(1) |
| 第3回 | 財務会計Iの復習(2)-財務会計の概念フレームワーク(2) |
| 第4回 | 財務会計Iの復習(3)-財務会計の概念フレームワーク(3) |
| 第5回 | 企業結合(1) |
| 第6回 | 企業結合(2) |
| 第7回 | 連結財務諸表(1) |
| 第8回 | 連結財務諸表(2) |
| 第9回 | 資産の減損/リース |
| 第10回 | 無形資産 (研究開発費・ソフトウェア含む) /金融商品 |
| 第11回 | 外貨建取引の換算 |
| 第12回 | 退職給付 |
| 第13回 | 純資産-株主資本 (自己株式含む) |
| 第14回 | 純資産-その他の要素 (ストック・オプション含む) |
| 第15回 | 税効果 |

教科書・参考文献

- 教科書 事前配布したレジュメを使って説明します。
(<http://www.asb.or.jp> [企業会計基準委員会]に掲載されている会計基準)
参考書 斎藤静樹『企業会計入門』有斐閣。
桜井久勝『財務会計講義(第18版)』中央経済社。

授業外での学習

財務会計Iで学んだ論点をより高度に説明します。財務会計Iの復習をしながら進めますが、予習としてレジュメを読んだうえで、授業で課す演習問題で復習することが望まれます。(提出はなしとしますが、定期試験の問題になりますので、定期的に復習するようにして下さい。)

評価方法

平常点 (出席をはじめとする授業への取り組みや、レポート) 40%
期末試験 60%

履修上の注意

企業と会計、簿記論A～C、会計学I・II、および財務会計Iを履修したことを前提として授業を進めます。
なお、皆さんのニーズや履修者のレベルにより、【スケジュール】は変更される可能性があります。

科目名 企業財務論II
Title Corporate Finance II
科目区分 3群 - B 経営系応用

教授 阿部 圭司 (アベ ケイジ) 担当教員 担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

企業が下す投資意思決定とそれに伴う資金調達に関する一連の問題を取り扱います。本講義では企業の財務活動における意思決定問題に対する理解を深め、問題解決のための理論とツールを提供します。また、DCF法を用いた企業価値評価とその用途を解説します。

達成目標

- (1) DCF法による企業価値評価を理解する。また、資本コストについて理解する。
- (2) NPV法に代表される資本予算の評価方法を理解する。
- (3) 短期、長期の資金管理と資金調達について理解する。また、配当政策と企業価値について理解する。
- (4) 資本構成と企業価値に関するいわゆるMM命題について理解する。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 財務諸表と財務業績の測定（損益計算書、貸借対照表の理解）
- 第3回 財務諸表と財務業績の測定（キャッシュフロー計算書の理解、収益性の指標）
- 第4回 財務諸表と財務業績の測定（安全性の指標、成長性の指標、他の指標、総合評価）
- 第5回 資金調達と配当政策（資金調達の概要、株式による調達、債券による調達）
- 第6回 資金調達と配当政策（金融機関からの借入、企業間信用、内部金融、短期資金管理）
- 第7回 資金調達と配当政策（配当政策、配当政策と企業価値、配当のシグナリング効果）
- 第8回 資本コスト（株式の資本コスト）
- 第9回 資本コスト（負債の資本コスト）
- 第10回 資本コスト（加重平均資本コスト）
- 第11回 資金運用 投資決定ルール（資本コストと資金運用の関係、正味現在価値法）
- 第12回 資金運用 投資決定ルール（内部収益率法、他の手法）
- 第13回 企業価値評価（割引キャッシュフロー法、継続価値(ターミナルバリュー)）
- 第14回 企業価値評価（EVA法、MVA）
- 第15回 企業価値評価（他の方法）

教科書・参考文献

教科書 斎藤正章・阿部圭司、「ファイナンス入門'17」，放送大学教育振興会

参考書 用いません。

授業外での学習

講義日の1週間前には資料がポータルにアップされるので、教科書と並行してこれを読んでおくこと。

評価方法

原則として期末試験（100%）により評価します。また、一部平常点を加えることがあります。

履修上の注意

講義内容はテキストと配布資料を合わせたものになる。テキストの学習のみでは不十分であることに注意。

科目名 会社法II
Title Corporation Law II
科目区分 3群 - B 経営系応用

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 尾形 祥 (オガタ ショウ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

会社は私たちに様々な財やサービスあるいは働く場所を提供し、社会において必要不可欠な存在といえます。会社は、その株主ないしは債権者や従業員といった様々なステークホルダーにその利益を適切に分配することが要請されます。したがって、会社がその営利を極大化することは至上命題といえます。しかし、会社はその巨大な「規模」ゆえに、社会に及ぼす負の影響は計り知れません。本講義では、会社が健全かつ効率的に利益を獲得するためにはどのような規制が必要かについて検討します。具体的には、取締役はじめとする役員の法的責任といったコーポレート・ガバナンスをめぐる問題や合併などの組織再編行為に関する法的諸問題を検討することを目的とします。

達成目標

会社法の基礎的知識の獲得やリーガルマインドの涵養を目標とします。会社をめぐる法的問題に会社法はどのように対処しようとしているのか、その限界は何かを考える能力を身に付けます。さらに、判例や裁判例を取り上げ、実際の事例に触ることにより事案の具体的解決能力を身に付けます。事例問題や選択問題を実際に解くことで、会社法の基礎的知識の獲得や法的思考能力の向上を目指します。

スケジュール

- 第1回 会社法総論
- 第2回 株式会社の機関設計～株主総会、取締役会、監査役（会）、委員会～
- 第3回 株主総会とは何か
- 第4回 株主総会の招集手続
- 第5回 株主総会の決議
- 第6回 株主総会決議の取消しの訴え、無効、不存在確認の訴え
- 第7回 株式会社の業務執行～取締役、取締役会、代表取締役～
- 第8回 取締役の義務と内部統制システム
- 第9回 競業取引
- 第10回 自己取引、利益相反取引、取締役の責任
- 第11回 監査役（会）
- 第12回 会計参与、会計監査人、指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社
- 第13回 合併、会社分割
- 第14回 株式交換・株式移転、事業譲渡
- 第15回 総括～我が国におけるコーポレート・ガバナンスの問題点

教科書・参考文献

教科書 神田秀樹『会社法』（最新版、弘文堂）および六法全書（最新版）を持参してください。

参考書 江頭憲治郎『株式会社法（第5版、有斐閣、2015年）』、『会社法判例百選（第2版、有斐閣、2011年）』など。なお、講義中に適宜紹介します。

授業外での学習

講義中に配布するレジュメや教科書で予め講義の予習をしてきてください。また、知識の定着度を確認するための事例問題や選択問題をレジュメに記載しますので、講義前に予習してきて下さい。これらの問題の解き方を講義中に解説しますので、講義後に問題を解きながらして知識の定着を図り、理解度を高めてください。

評価方法

学期末試験（100%）成績で評価します（持込不可）。テストでは基礎的な知識や考え方を幅広く問いますので、毎回の講義内容をしっかりと理解する必要があります。

履修上の注意

ポータルサイト上にレジュメ、スライドをアップロードしますので、事前に読んで講義に臨んでください。その他の資料は講義中にのみ配布しますが、一定期間経過後は配布しませんので、必ず毎回の講義で配布物を確認してください。

科目名 国際コミュニケーション論
Title International Communication
科目区分 4群 国際系応用(社会・政治)

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 加藤 恵美(カトウ エミ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

この授業は、異なる文化を用いて生きる人びとの間のコミュニケーションを、言語 / 非言語、時間と空間、メディア、政治 / 権力、グローバリゼーションといった複数の観点から考察する。この授業が、科目名にある「国際」ではなく、「文化」をキーワードにするのは、コミュニケーションの問題となる文化と文化の間の「際(境界)」が、国と国の間の「際」を包摂するような、より広い概念であるからである。また、この授業はみなさんにとって、「国際コミュニケーション」の技能を高める機会ではなく、その学問的な理解を深める機会である。したがって、「国際コミュニケーション」ということばを聞いた時にみなさんがまず想像する「何か」についても、批判的に検討することになるだろう。

達成目標

- { 1 } 「国際コミュニケーション」に関する基本的な知識を身につける。
- { 2 } その知識に基づき、「国際コミュニケーション」について議論をすることができる。
- { 3 } その議論を自らの関心に基づいて深め、また表現することができる。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション(科目的ねらい、授業の進め方の説明)
- 第2回 グローバル社会における異文化コミュニケーション(第1章)
- 第3回 「文化」とは(第2章)
- 第4回 「コミュニケーション」とは(第3章)
- 第5回 言語コミュニケーション①(第4章)
- 第6回 言語コミュニケーション②(第4章)
- 第7回 非言語コミュニケーション(第5章)
- 第8回 時間と空間(第6章)
- 第9回 文化の接触(第7章)
- 第10回 メディア:現象(第8章)
- 第11回 メディア:理論(第9章)
- 第12回 文化をめぐる政治(第10章)
- 第13回 グローバリゼーションの諸問題(第11章)
- 第14回 授業の振り返り①
- 第15回 授業の振り返り②

教科書・参考文献

教科書 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』(ミネルヴァ書房、2010年)。

参考書 授業の中で必要に応じて示す。

授業外での学習

各回の授業で扱う章をあらかじめ読み、要点をまとめた上で授業に出席すること。予習は必須。また、期末レポートの作成に向けて、「国際コミュニケーション」問題の具体的な事例についての関心を高めること。

評価方法

平常点20パーセント、期末レポート80パーセント。

履修上の注意

履修者数によって、スケジュールを変更する場合がある。詳しくは、第1回の授業で示す。

科目名 国際文化論
Title International Cultural Relations
科目区分 4群 国際系応用(社会・政治)

講師 齋川 貴嗣(サイカワ タカシ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

この授業では、国際関係を文化の視点で見ることを試みる。その際に、文化という概念の歴史的変遷や、その多義的な意味内容に特に注意を払う。各トピックに関する主要な研究動向と、現実世界の歴史的展開や今日の状況、国際関係と私たち自身とのつながりを、バランスよく学習することを目指したい。授業の前半では、国際関係を文化の視点で見る枠組み、また文化に起因する国際関係の諸問題を歴史的に検討する。後半では、そうした国際文化的な問題を解決するための取り組みを紹介する。授業全体を通して、固定化された国家間関係としての国際関係ではなく、ダイナミックに変化し、「動く」ものとして国際関係を理解するよう試みる。

達成目標

講義全体を通して、国際関係を文化的視点から見る研究や議論の広がりを概観し、主要な研究・議論のおおまかな内容をつかむことができるようになることを目標とする。国際関係を、国家間の関係や狭い意味での政治・安全保障に限定せず、より幅広い、かつ私たちの身近なものとして考える手がかりを提供できればと考えている。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 文化的概念史
- 第3回 国際関係の単位の文化性：文化単位としての国民
- 第4回 文化触变論
- 第5回 国際関係の関係の文化性（1）：ステレオタイプと戦争
- 第6回 国際関係の関係の文化性（2）：文化的冷戦
- 第7回 国際関係の関係の文化性（3）：グローバル化のなかの偏見と憎悪
- 第8回 国際関係を動かす活動（1）：国際文化交流
- 第9回 国際関係を動かす活動（2）：ソフト・パワーとパブリック・ディプロマシー
- 第10回 国際関係を動かす活動（3）：日本の文化外交
- 第11回 構論：日本文化の捉え方
- 第12回 国際関係を動かす活動（4）：ユネスコの取り組み
- 第13回 3.11以後の国際文化論（1）：原子力と文化
- 第14回 3.11以後の国際文化論（2）：自然災害と文化
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 特になし。授業では毎回ハンドアウトを配布する予定。

参考書 平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年。その他、授業において随時紹介する。

授業外での学習

普段から新聞・ニュース等を通して、国際関係に生じる諸問題に関心をもつこと。授業において紹介される参考文献を積極的に読むこと。

評価方法

基本的には期末テストで評価するが、毎回のリアクションペーパーも加味する。

履修上の注意

授業各回の内容は予定であり、受講者数等によって変更の可能性がある。詳細は初回授業時に配布する講義予定表を参照のこと。なお、授業後毎回、受講者にはリアクションペーパーで授業内容に関する質問や意見をフィードバックしてもらう。

科目名 国際協力論
Title International Cooperation
科目区分 4群 国際系応用(社会・政治)

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 黒崎 龍悟(クロサキ リュウゴ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

私たちの生活を諸外国/地域とのつながりなしには考えることはできません。この授業では、こうした国際関係のなかでも重要な位置を占める国際協力の取り組みについて理解を深めていきます。第二次世界大戦後に世界大の動きとして現ってきた国際協力の変遷と現状について学際的な視点から理解することを目的とします。前半に総論的な内容を紹介し、後半で各論として分野別の協力事例について紹介していきます。また、各トピックの内容を通して、国際協力を進めるうえでの課題についても考えます。

達成目標

国際協力に関する基礎的な概念について説明できるようになる。
理論の変遷が現場での実践事例との関係のもとに発展してきたことについて理解する。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス-授業の進め方について
- 第2回 総論1:国際協力の変遷と現在
- 第3回 総論2:経済開発
- 第4回 総論3:社会開発
- 第5回 総論4:人間開発
- 第6回 総論5:国際協力の担い手
- 第7回 各論1:保健医療
- 第8回 各論2:教育
- 第9回 各論3:環境
- 第10回 各論4:ジェンダー
- 第11回 各論5:文化協力
- 第12回 各論6:平和構築
- 第13回 各論7:難民支援
- 第14回 各論8:貿易
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 特に指定しません。毎回テーマに沿って配布資料や映像資料を用意します。

参考書 大坪滋他編 2009年『国際開発学入門-開発学の学際的構築』勁草書房。
勝間靖編著 2012年『テキスト国際開発論』ミネルヴァ書房。そのほか授業で紹介していきます。

授業外での学習

授業内容に関連した最新情報(新聞記事、雑誌記事など)に目を通しておくことが望ましい。また、配布資料・自分で作成したノートなどを適宜見直して、学習内容の定着を図ってください。

評価方法

受講状況30%
最終課題70%

(専門教育科目)
国際学科

履修上の注意

授業中の私語を禁止します。
授業の内容や順序は一部変更になる場合があります。
現代アフリカ論を受講予定の方には、この授業の受講を推奨します。

科目名 平和学
Title Peace Studies
科目区分 4群 国際系応用(社会・政治)

担当教員
准教授 三牧 聖子(ミマキ セイコ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

「平和」は、人類の頭を悩ませ続けてきた難問である。いかに実現できるのか。そもそも「平和」とはいかなる状態を意味するのか。世界のひとびとすべてが等しく享受できる理想的な「平和」状態はあるのか。それとも、私たちが享受している「平和」は、誰かの「平和」を犠牲にして、あるいは、誰かの「非平和」を見ないことにによって成立しているのだろうか。私たちが「平和」を目的として掲げるとき、それは、「誰」の平和であるべきだろうか。個人、家族、国民、それとも世界のひとびとすべてだろうか。

本講義では、現代世界において平和を脅かしている様々な問題を理解し、その解決方法を模索し、議論する。他方、そのような実践的な課題のみならず、「平和」とは何かに関する上述の哲学的な問いを、思想や歴史のテキストを通じて、考えていく。

達成目標

世界平和が直面している様々な課題について学ぶことを通じ、世界平和と私たち自身の平和が密接に結びついていることを理解し、私たち自身が世界平和に向かってどう働きかけることができるかを思考する能力を身につける。以上の学びを通じて、21世紀を生きる市民としての知識と精神を養う。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 戦争(1)
- 第3回 戦争(2)
- 第4回 核と平和(1)
- 第5回 核と平和(2)
- 第6回 グローバルな貧困(1)
- 第7回 グローバルな貧困(2)
- 第8回 中間テスト
- 第9回 差別と暴力(1)
- 第10回 差別と暴力(2)
- 第11回 グローバル化と平和(1)
- 第12回 グローバル化と平和(2)
- 第13回 地球の今後(1)
- 第14回 地球の今後(2)
- 第15回 今後の世界を予測する

教科書・参考文献

教科書 教科書は特に指定しない。使用教材は授業で配布する。

参考書 授業中に追って指示するが、入手しやすく、問題の概観に適した図書として、押村高『国際正義の論理』(講談社現代新書、2008)

授業外での学習

指定された文献や記事は必ず読み、その理解を問われた際には解凍できる状態で(わからないところがあった場合は、どこがわからなかつたのかを明確にした上で)受講すること。

評価方法

試験(期末50%、中間20%)、リアクションペーパーなどの平常点(30%)で評価する。なお、リアクションペーパーについては、提出さえすれば得点となるのではなく、授業の内容を理解し、それに基づいた考察が展開された、優れたものののみ加点の対象となる。

履修上の注意

日々変転する世界を知るために、国内外のニュースや記事にも積極的に目を通し、授業外で獲得した知識もリアクションペーパーや発言にも積極的に反映させていってほしい。英文記事を用いることもある。能動的な学習に关心を持つ意欲的な学生の受講を歓迎する。

科目名 移民研究
Title Migration Studies
科目区分 4群 国際系応用(社会・政治)

担当教員
非常勤講師 加藤 恵美(カトウ エミ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

この授業は、日本の「移民」に焦点を絞りながら、「移民」を多角的に考察することを目的とする。その考察の観点とは、まずグローバルな/国際比較の/ローカルな(地域社会の)観点であり、さらに歴史的な観点である。高齢化が進む日本社会において、不足する労働力を海外から補うための「移民」政策に関する議論が活発化している。しかし日本にとっての「移民」問題は、決して新しい問題ではない。そしてこれまでの日本の経験は、「労働力としての移民」政策が、「移民」問題をさらに深刻化し、日本における共生社会の形成を妨げかねないことを証明している。この授業はみなさんにとて、「人間としての移民」という見地からようやく知ることができる「移民」問題の複雑性についての理解を深める機会になるであろう。

達成目標

- (1) 「移民」に関する基本的な知識を身につける。
- { 2 } その知識に基づき、「移民」について議論をすることができる。
- (3) その議論を自らの関心に基づいて深め、また表現することができる。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション(科目的ねらい、授業の進め方の説明)
- 第2回 「移民」とは誰か(定義)
- 第3回 「移民」はどこからどこへ移動するのか①(難民)
- 第4回 「移民」はどこからどこへ移動するのか②(外国人労働者)
- 第5回 いつ「移民」でなくなるのか①(法的地位の観点)
- 第6回 いつ「移民」でなくなるのか②(文化的観点)
- 第7回 前半の振り返り
- 第8回 外国人労働者の子どもの育ちに関するドキュメンタリー鑑賞
- 第9回 外国人労働者の子どもの育ちをめぐる問題のフォローアップ
- 第10回 在日コリアンに関するドキュメンタリー鑑賞
- 第11回 在日コリアンをめぐる問題のフォローアップ
- 第12回 レポート作成の準備①
- 第13回 レポート作成の準備②
- 第14回 レポート作成の準備③
- 第15回 レポート作成の準備④

教科書・参考文献

教科書 指定しない。

参考書 授業の中で必要に応じて示す。

授業外での学習

期末レポートの作成に向けて、「移民」問題の具体的な事例についての関心を高めること。

評価方法

平常点30パーセント、期末レポート70パーセント。

履修上の注意

履修者数によって、スケジュールを変更する場合がある。詳しくは、第1回の授業で示す。

科目名 グローバルメディア論
Title Global Media Studies
科目区分 4群 国際系応用(社会・政治)

担当教員
非常勤講師 結城 かほる(ユウキ カホル)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

本講義ではメディアの発達史を踏まえ、現代におけるメディアのグローバル化およびメディアによるグローバル化について考えていく。経済のグローバル化やインターネットの発達・普及により、ニュースをはじめとするメディアの消費行動は大きく変化した。その結果、従来のマスメディアは変容を迫られ、ジャーナリズムとしての機能の低下を失いつつある。他方で、テクノロジーの発達は個人や小集団による情報発信を可能にし、新たな形のジャーナリズムも発達しつつある。今日のメディアの変容を深くとらえ、メディアアリテラシーを身につけたい。

達成目標

メディアについての基本的知識を身につける。
グローバル化とメディアの関係について理解する。
グローバルメディアについて批判的に考察できる。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション メディアとそのグローバル化
- 第2回 メディアとは何か 歴史と変遷
- 第3回 メディアとジャーナリズム
- 第4回 日本国内のメディア概況1(主要メディアの立ち位置)
- 第5回 日本国内のメディア概況2(主要メディアが抱えてきた課題)
- 第6回 國際政治と海外メディア1(英米メディアとその報道姿勢・バイアス)
- 第7回 國際政治と海外メディア2(非英米メディアの発信・影響力の増加)
- 第8回 プロパガンダとしてのメディア
- 第9回 市民メディアと視点の多様化、「ハイパーコカルジャーナリズム」の動き
- 第10回 ネットの普及とメディアの変容1(経営・態勢への影響)
- 第11回 ネットの普及とメディアの変容2(媒体の複合化・コンテンツの変化)
- 第12回 AIなど新たな技術のもたらす変化
- 第13回 今求められるメディアアリテラシー1 批判的に接する姿勢
- 第14回 今求められるメディアアリテラシー2 内なる固定概念に気づく
おわりに より良い消費者・発信者であるには
- 第15回

教科書・参考文献

教科書 特になし。授業内で別途レジュメを配布する。

参考書 Ian Hargreaves "Journalism: A Very Short Introduction" second edition
(2014, Oxford University Press)特に第8章

授業外での学習

授業の多くは、講義とワークショップ形式の議論を組み合わせて実施する。授業外でも、国内・海外ニュースをわざ積極的に触れること。その際、作り手は誰か、なぜそのような内容で作られているかを考えつつ、自分はなぜ関心を持ったのか、内容をどのように受け止めているかを意識すること。

評価方法

テストまたはレポートで評価する。

履修上の注意

科目名 グローバル政治論
Title Global Politics
科目区分 4群 国際系応用(社会・政治)

担当教員
非常勤講師 福原 正人(フクハラ マサト)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

本講義は、政治哲学・政治理論といった領域で議論される「グローバルな正義論」と呼ばれる分野を概説する。もしあなたが、孤島で気の知れた友人たちと自給自足の生活を営んでいるとしよう。ここでは、厳密な意味で、「せいぎ」といった言葉は存在しないだろう。というのも、友人はあなたの振る舞いを大目に見てくれるし、あなたは友人の困窮に躊躇なく手をさしのべるからだ。しかし、あなたは一生それ違うことえない「誰か」と営むグローバルな社会に暮らしており、あなたの自由が国境を越えた「誰か」の自由と衝突したり、この「誰か」を平等なメンバーとして手をさしのべる場面に向き合わざるをえないようである。このとき、自由や平等に関するルールや新たなルールを決める手順をあらかじめ考えてみることは望ましいだろう。そこで講義前半では、とりわけ正義論に関する基礎的な知識を概説した上で、講義後半では具体的なテーマを検討したい。

達成目標

本講義の達成目標は、上記の目的のために必要となる基本的な知識や抽象的な思考様式に親しみ自身でも運用できること。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション：グローバルな問題とは？
第2回 政治哲学をはじめるにあたって
第3回 正義とは何か(1)
第4回 正義とは何か(2)
第5回 まとめ
第6回 正義の射程を考える(1)：コスマポリタニズム
第7回 正義の射程を考える(2)：ステイティズム
第8回 正義の射程を考える(3)：人権論
第9回 まとめ
第10回 貧困：先進国は発展途上国を援助する義務があるのか。
第11回 資源：国家は領土内の資源を独占する権利をもつのか。
第12回 移民：国家は移民を排除する権利をもつのか。
第13回 戦争：国家は戦争を行う権利をもつのか。
第14回 環境：先進国と発展途上国のあいだで排出権はどうに割り当てるのか。
第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 講義用ノートを配布しますので必要ありません。

参考書 宇佐美誠編『グローバルな正義』勁草書房、小田川大典ほか編『国際政治哲学』ナカニシヤ出版、押村高『国際正義の論理』講談社現代新書、馬渕浩二『貧困の倫理学』平凡社新書

授業外での学習

授業内容に関して自分なりに問題関心をもち、あれこれ考えることが大切です。

評価方法

基本的に論述テスト(70%)、リアクションペーパー(30%)で評価しますが、希望者がいればレポート課題を評価に加算します。

履修上の注意

受講の際には哲学や政治学などに関する予備的な知識は不要ですが、抽象的な思考を諦めず、耳障りのいい結論に飛びつかずに根気よく考えることが求められます。なお、講義後半の具体的なテーマは受講者の希望に応じて適宜変更します。

科目名 国際人権論
Title International Human Rights
科目区分 4群 國際系応用(社会・政治)

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 小倉 康久(オグラ ヤスヒサ) 学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

從来、人権は国内法あるいは国内の問題として捉えられてきた。しかし、第2次世界大戦以降、社会の国際化が進むにつれて国家の枠を超えて普遍的に人権を保障しようとする潮流が生まれてきた。この講義では、国際社会で生じている様々な人権問題を理解したうえで、国際人権法や国際組織およびNGOなどの具体的な活動について理解を深めることを目的とする。

達成目標

国際社会における様々な人権問題および国際人権法の基礎的な知識を習得すること。

スケジュール

- 第1回 国際人権とは何か
- 第2回 人権の歴史的展開
- 第3回 国際人権条約(1)
- 第4回 国際人権条約(2)
- 第5回 人種差別の禁止
- 第6回 難民問題(1)
- 第7回 難民問題(2)
- 第8回 武力紛争における人権の保護
- 第9回 国際組織の活動(1)
- 第10回 国際組織の活動(2)
- 第11回 國際的な刑事裁判
- 第12回 NGOの活動(1)
- 第13回 NGOの活動(2)
- 第14回 国際人権法の国内実施
- 第15回 国際人権の未来

教科書・参考文献

教科書 『ブリッジブック国際人権法(第2版)』信山社。

参考書 『国際条約集(2017年版)』有斐閣。その他、講義中に適宜指示する。

授業外での学習

次の授業範囲について、教科書の該当箇所、あるいは指定した文献をよく読み予習しておくこと。

評価方法

学期末試験: 100%

履修上の注意

理解を深めるために人権に関連する国際法および国内法の講義を履修することが望ましい。

科目名 グローバルヒストリー
Title Global History
科目区分 4群 國際系応用（社会・政治）

講師 齋川 貴嗣（サイカワ タカシ）

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

国際関係が本質的变化を遂げつつある現在、歴史を振り返ることがかつてないほど強く求められている。しかし、国際関係の歴史はどのように振り返るべきであろうか。これまで国際関係論（International Relations）が前提としてきた国家間関係の歴史として振り返るだけでは十分ではないだろう。地域全体、国際社会全体の中で、さまざまな主体が多層にわたって織りなしてきた関係の歴史として捉える必要がある。以上から本講義では、グローバルな視点から国際関係の歴史を振り返ることで、国家間関係からグローバル関係へと国際関係が歴史的に変化しつつあることを示したい。

達成目標

大きな歴史的視野を持って国際関係の諸問題を考えることができるようになることを目標とする。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 主権国家システム以前の世界：中世ヨーロッパ / 華夷秩序
- 第3回 ヨーロッパ主権国家システムの誕生と展開：外交、国際法、勢力均衡
- 第4回 主権国家システムの世界的拡大：「国際社会」の成立と帝国主義
- 第5回 19世紀的主権国家システムの破綻：グローバルな戦争としての第一次世界大戦
- 第6回 主権国家システムの再構築：国際連盟と戦争違法化
- 第7回 主権国家システムの超克と失敗：「満洲」問題
- 第8回 主権国家システムの変容①：国際連合の成立と戦後処理
- 第9回 主権国家システムの変容②：植民地の独立とポストコロニアリズム
- 第10回 グローバルな冷戦の展開①
- 第11回 グローバルな冷戦の展開②
- 第12回 冷戦の終焉とグローバル市民社会の形成
- 第13回 地域統合の進展：ヨーロッパ統合
- 第14回 ポスト主権国家システムと暴力：テロの世紀としての21世紀？
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 なし。授業では毎回ハンドアウトを配布する予定。

参考書 入江昭『歴史家が見る現代世界』講談社現代新書、2014年。
入江昭『二十世紀の戦争と平和 [増補版]』東京大学出版会、2000年。

授業外での学習

普段から新聞・ニュース等を通して、国際関係に生じる諸問題に関心をもつこと。授業において紹介される参考文献を積極的に読むこと。

評価方法

基本的には期末テストで評価するが、毎回のリアクションペーパーも加味する。

履修上の注意

授業各回の内容は予定であり、受講者数等によって変更の可能性がある。詳細は初回授業時に配布する講義予定表を参照のこと。なお、授業後毎回、受講者にはリアクションペーパーで授業内容に関する質問や意見をフィードバックしてもらう。

科目名 現代ヨーロッパ論
Title Contemporary Europe
科目区分 4群 國際系応用(社会・政治)

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 土谷 岳史(ツチヤ タケシ) 学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

本講義ではEU(欧洲連合)の政治制度及び政策についてみていく。歴史的な欧洲統合の流れを確認し、EUがながいヨーロッパの理想と不可分であること、2度の世界大戦の惨禍から生まれたことを理解する。そのうえEUの諸政策についての理解を深めていくことでEUを深く理解したい。

達成目標

EUの基本的な知識を習得する。
EUという秩序について理解する。
EUの諸政策について理解する。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション：本講義の概要・目的
- 第2回 EUの歴史：古代からのヨーロッパ概念について
- 第3回 EUの歴史：2度の世界大戦と欧洲統合
- 第4回 EUの歴史：EUの歩み
- 第5回 EUの基本制度
- 第6回 EUの経済金融政策
- 第7回 EUと人の移動
- 第8回 シエンゲン空間
- 第9回 EUの農業政策
- 第10回 EUの地域政策
- 第11回 EUの外交安全保障防衛政策
- 第12回 EUの移民政策
- 第13回 EUデモクラシーの模索：デモクラシーの複数のモデル
- 第14回 EUデモクラシーの模索：特異な政体としてのEU
- 第15回 講義のまとめ

教科書・参考文献

教科書 とくになし

参考書 講義で指示する

授業外での学習

幅広いものを扱うため、講義の復習はもちろんのこと、参考文献を読み能動的に学習することが求められる。

評価方法

基本的にレポートで評価するが、毎回の講義でのリアクションペーパーも加味する。

履修上の注意

『国際関係論』『政治学』『Introductory International Relations』のいずれかを受講していることが望ましい。受講生には海外の報道を調査するなどの簡単な課題が出されることがあるので、積極的な参加が望まれる。

科目名 現代アジア論
Title Contemporary Asia
科目区分 4群 國際系応用(社会・政治)

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 紀 旭峰(キ キヨクホウ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

本講義では、近代から現代に至るまでの東アジア地域を対象とし、東アジアの歴史、政治、経済を学んでいく。とくに、東アジア各国それぞれの政治体制、民主化の経験と経済発展（アジアNIEs、開発独裁論を含む）を通して、多元的かつ多面的な東アジアを分析する。また、「日中」・「日韓」・「日台」・「中台」関係についても考えていく。

達成目標

1. 近現代の東アジア世界がどのように変容したかについての基礎的な知識を習得する。
2. 東アジアの近現代史を複眼的に観察する力を養成する。
3. 一次史料、参考文献と先行研究の検索方法を習得する。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション（本講義の目的と概要について説明する。基本的文献、参考図書等を紹介する。）
第2回 東アジアの近現代について
第3回 西洋の衝撃：近代化の開始・朝貢体制の崩壊
第4回 日本帝国主義と植民地統治
第5回 戦前期のアジア主義
第6回 東アジアの反帝国主義・反植民地主義運動（1910～1920年代）
第7回 日本の敗戦と東アジアの戦後体制
第8回 中国①
第9回 中国②
第10回 朝鮮半島
第11回 台湾①
第12回 台湾②
第13回 台湾③
第14回 香港
第15回 まとめ・理解度の確認

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。講義の際に、プリントを配布する。

参考書 授業中に適宜紹介する。

授業外での学習

日常的にアジアに関する記事を読んでみること。また、講義の内容でよく理解できなかつたこと、あるいは自分が疑問に感じた問題などについて、図書館の図書、或いはネット（CiNiiなど）で検索し、調べてみること。

評価方法

期末試験（60%）、平常点（コメントシートなど）（40%）

履修上の注意

授業形式は講義が中心となるが、質疑応答の時間も設けたい。受講生の積極的な授業参加を希望する。

科目名 現代アフリカ論
Title Contemporary Africa
科目区分 4群 國際系応用(社会・政治)

担当教員 指定
准教授 黒崎 龍悟(クロサキ リュウゴ)

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

この授業は大きく二つの部分になります。前半はサハラ以南アフリカ諸国に展開してきた社会の多様性と、その成り立ちについて学際的視点から理解を深めます。後半では、ミクロとマクロの視点を往還しつつ、とくに開発支援事業との関連においてアフリカの諸国家/地域社会の現代的展開について学びます。開発支援事業がどのような理論的・方法的変遷をとげてきたのか、そしてそれらがアフリカの諸国家/地域社会にどのような影響を与えてきたかについて農業開発・牧畜開発・自然保護・平和構築などのトピックに沿いながら理解を深めます。以上のこととおして、グローバル化時代のアフリカの現状を多面的・動態的に捉える視点を養います。

達成目標

- ・サハラ以南アフリカの諸地域に展開する生業の特徴について学際的視点から理解する。
- ・国家形成・開発支援事業と人々の生活の変容の関連について動態的に理解する。
- ・同時代を生きる人々が生活する場としてアフリカを捉え、私たちの社会とのつながりについて理解する。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス-等身大のアフリカ理解に向けて
第2回 アフリカの自然環境
第3回 アフリカの歴史
第4回 狩猟採集社会・牧畜社会
第5回 農耕社会
第6回 水辺社会・都市社会
第7回 開発理論の変遷
第8回 狩猟採集社会と自然保護計画
第9回 牧畜社会と水資源開発
第10回 農耕社会と農業近代化政策
第11回 民族間関係と平和構築介入
第12回 環境問題の複合性
第13回 アフリカ型発展へのアプローチ①
第14回 アフリカ型発展へのアプローチ②
第15回 まとめ-同時代を生きるアフリカ

教科書・参考文献

教科書 特に指定しません。毎回テーマに沿って作成した配布資料や映像資料を用意します。

参考書 松田素二編 2014年 『アフリカ社会を学ぶ人のために』世界思想社。
掛谷誠・伊谷樹一編著 2011年 『アフリカ地域研究と農村開発』京都大学学術出版会。

授業外での学習

授業内容に関連した最新情報(新聞記事、雑誌記事など)に目を通しておくことが望ましい。また、配布資料・自分で作成したノートなどを適宜見直して、学習内容の定着を図ってください。

評価方法

受講状況30%
最終課題70%

履修上の注意

授業中の私語を禁止します。
授業の内容や順序は一部変更になる場合があります。

科目名 世界経済論II
Title World Economy II
科目区分 5群 国際系応用(経済・経営)

教授 矢野 修一(ヤノ シュウイチ)
担当教員 担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

世界経済論I・IIを通じ、第二次世界大戦後における世界経済の展開過程を振り返り、金融グローバル化の意味、その歴史的帰結を考える(I・IIの個別履修可)。世界経済論IIでは、 Bretton Woods体制崩壊のプロセス 70年代半ば以降の世界経済の変容、周期的な金融危機と規制改革について講述する。現在の世界金融危機の本質を歴史的・制度的文脈に位置づける本講義の受講を通じ、新聞・テレビ等のニュースへの理解を深めてもらいたい。

達成目標

現代史の知識を深めるとともに、新聞・テレビ等で流れる世界経済関連ニュースの理解度を高める。

スケジュール

- | | |
|------|---|
| 第1回 | ガイダンス(単位認定方法、昨年度履修状況・授業評価アンケート結果、講義テーマ・関連科目解説、その他諸注意) |
| 第2回 | Bretton Woods体制の崩壊—金融グローバル化の幕開け |
| 第3回 | ユーロ市場への支持① |
| 第4回 | ユーロ市場への支持② |
| 第5回 | 金融協力の失敗① |
| 第6回 | 金融協力の失敗② |
| 第7回 | 金融再グローバル化へのターニングポイント① |
| 第8回 | 金融再グローバル化へのターニングポイント② |
| 第9回 | 金融自由化への転換① |
| 第10回 | 金融自由化への転換② |
| 第11回 | 国際金融危機への対処① |
| 第12回 | 国際金融危機への対処② |
| 第13回 | 国際金融危機への対処③ |
| 第14回 | 貿易の管理と金融の自由化① |
| 第15回 | 貿易の管理と金融の自由化② |

教科書・参考文献

教科書 特に使用しない。レジュメ、資料を用いて授業を行う。

参考書 講義中に提示する。

授業外での学習

初回ガイダンスにおいて例示する講義補完媒体(新聞・テレビ番組・雑誌等)の日常的活用、関連講義の履修

評価方法

期末に行われる筆記試験(80%)、毎講義後のリアクションペーパーの回答内容・提出状況(20%)で評価する。就職活動等に伴う出席不足を補うためのレポート提出等を認めて成績評価の参考材料とする場合あり。

履修上の注意

遅刻厳禁(入室限度時刻を設定し、以後入室禁止)。履修に際し、特に予備知識は必要としないが、「実社会で通用しないことは教室内でも通用しない」という原則を理解できない人の履修はお断りしたい。

科目名 外国経営史
Title Foreign Business History
科目区分 5群 国際系応用(経済・経営)

教授 加藤 健太(カトウ ケンタ)
担当教員 担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4 単位区分 選択 単位数 2 開講時期 後期

目的

この講義の目的は、19世紀後半から20世紀にかけて、いち早く大企業体制を成立したアメリカを主たる対象にして、大量生産と大量流通と大量消費を可能にした企業の戦略と組織、企業者活動の実態を学び、アメリカにおける企業発展のダイナミズムを理解することである。具体的には、フォード、スタンダードオイル、シアーズローバック、ウォルマート、コカコーラ、マクドナルドなどの事例を取り上げ、垂直統合やM&A(合併・買収)といった経営戦略、事業部制やフランチャイズ・システムといった経営組織などに解説を加える。

達成目標

達成目標は、時代背景を踏まえながら、アメリカにおけるビッグ・ビジネスの発展とその要因、新たなビジネス・モデルとその仕組みを理解するとともに、それらに関する正確な議論を展開できるようになることである。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション -「ゆたかな社会」の出現と展開-
- 第2回 ヘンリーフォードと自動車の世紀の幕開け -T型はいかなる意味で革新的であったか-
- 第3回 アメリカ企業のM&A戦略(前編) -ビッグ・ビジネスの誕生-
- 第4回 アメリカ企業のM&A戦略(後編) -ゴールドマンサックスの20世紀-
- 第5回 シアーズ・ローバックはいかにして農村の救世主となつたのか -近代的な小売業態としての通販-
- 第6回 チェーンストアの時代 -エコノミー・ストアとスーパー・マーケット-
- 第7回 ウォルマートの小売業態開発戦略
- 第8回 中間復習講義
- 第9回 コカ・コーラ社の垂直統合戦略 -大量流通はどのように実現したか-
- 第10回 マクドナルドの成長とフランチャイズ・システム
- 第11回 サウスランドの事業創造とセブン-イレブン -コンビニエンスストア事業の発展と変貌-
- 第12回 ファッショングランドの海外進出と対日戦略 -カルダンの失敗とヴィトンの成功、ディオールの復活-
- 第13回 GAPの成長とSPAモデルの構築
- 第14回 シリコンバレーの発展とビジネス・モデルの変貌 -産業集積とIT革命-
- 第15回 コンクルージョン -アメリカ企業発展のダイナミズム-

教科書・参考文献

教科書 教科書は特になく、講義の時にレジュメを配布する。

参考書 講義全体に関しては、安部悦生ほか『ケースブック アメリカ経営史』有斐閣(2002年)と鈴木良隆ほか『ビジネスの歴史』有斐閣(2004年)が参考になる。個別企業に関しては講義内に提示する。

授業外での学習

レジュメなどを用いて、講義の中で示されるポイントを復習し、事実関係だけでなく、“メカニズム”を理解することが大切である。

評価方法

受講態度、講義の中で実施するミニテスト・リアクションペーパー・レポート等(30%)、持込不可の期末テスト(70%)

履修上の注意

いうまでもなく、講義中の私語は厳禁。

科目名 中国経済論II
Title Chinese Economy II
科目区分 5群 国際系応用(経済・経営)

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 大石 恵(オオイシ メグミ) 学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

この講義では、改革開放政策採用以降の中国経済に注目し、現代中国が抱える様々な問題について学ぶ。1980年代以降、中国経済は目覚ましい発展を遂げた。その間に、中国は都市と農村、東部沿海地域と内陸地域の格差だけでなく、都市内部の貧困、農業の停滞など、様々な問題に直面するようになった。講義では、経済体制改革の過程で生じた格差や矛盾について考察し、中国政府の政策や残された課題について検討する。

達成目標

先進国、新興国、途上国という3つの顔を持つ中国について、知識と理解を深めることを目標とする。

スケジュール

- 第1回 序論、改革開放後の中国経済
- 第2回 対外開放と直接投資の受入(1)段階的対外開放
- 第3回 対外開放と直接投資の受入(2)外資導入の進展
- 第4回 対外開放と直接投資の受入(3)日中経済関係
- 第5回 国有企業改革(1)様々な企業の所有形態
- 第6回 国有企業改革(2)所有制改革
- 第7回 農業改革(1)請負制の導入
- 第8回 農業改革(2)三農問題
- 第9回 農業改革(3)戸籍管理制度の緩和
- 第10回 地域開発政策(1)地域開発政策の歴史と西部大開発
- 第11回 地域開発政策(2)広域経済開発
- 第12回 地域開発政策(3)地方の経済振興
- 第13回 格差・貧困(1)中国の貧困対策
- 第14回 格差・貧困(2)都市の格差と貧困対策
- 第15回 総括

教科書・参考文献

教科書 教科書の指定はしない。講義に必要な資料等は、授業中に配布する。

参考書 加藤弘之・上原一慶編著『現代中国経済論』ミネルヴァ書房、2011年；丸川知雄『現代中国経済』有斐閣、2013年など。

授業外での学習

日頃から中国に関する報道に关心を持ち、新聞などで積極的に情報を収集しておく。

評価方法

期末試験(80%) + リアクションペーパー(20%) = 100%で評価する。

履修上の注意

- (1)中国経済論Iを履修済みであることが望ましい。
- (2)始業後10分を経過しての入室は慎むこと。

科目名 経済史概論II
Title Economic History II
科目区分 5群 國際系応用(経済・経営)

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 米山 秀(ヨネヤマ マサル)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

グローバリゼーションのもとで新たな形をとりつつある諸対立の中には、意外にも古くにその歴史的源流があるものがある。この講義では、こうした対立の一つとして、英米対日独という形をとることが多かった対立に焦点を当てて具体的に見ていくことにしたい。

なお、取り上げる時代や具体的な問題は前期と異なるが関心や方法はまったく同じである。前期にはその対立の形成過程を見ることになるが、後期にはその対立が最近まで様々な具体的な形をとってきたことを近代史の中で確認してみたい。

達成目標

もとより講義中に実際に取り上げるのは一つの視点にすぎないが学生自身が自らの視点や新たな展望を見い出すことも期待されている。

スケジュール

第1回	序 前期との関連 「前工業的要因」の規定性
第2回	序 二つの「豊かな国」と家族類型、既存の展望
第3回	英米工業化の前提 勤勉革命(欧米)、消費・生活革命
第4回	英米工業化の前提 男性稼ぎ主
第5回	独日工業化の前提 オスト・エルべの歩合賃金、ブルー・マンデー
第6回	独日工業化の前提 地元名望家(地主・商人)と小農
第7回	独日工業化の前提 東アジアのスミス的成长、勤勉革命(日本)、イギリス商人と「日本のギルド」
第8回	英米の工業化 農業革命と都市化
第9回	英米の工業化 高賃金とエネルギー革命
第10回	独日の工業化 家父長的鉄鋼業・鉄道業、官営模範工場
第11回	独日の工業化 広範な家族従業
第12回	二つの工業化の帰結 両大戦間のニューディールとファシズム
第13回	二つの工業化の帰結 戦後のEUと高度成長
第14回	二つの工業化の帰結 ニートとフリータ、リストラ
第15回	まとめ 我々の展望 収斂か分離か

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。資料などは講義中に配布する。

参考書 講義中にテーマに即して紹介する。

授業外での学習

照会した参考文献を読み、レポートなどの課題にこたえる。
配布史料を用いて講義内容を復習することもある。

(専門教育科目)
国際学科

評価方法

定期試験(70%)リアクション・ペーパ(20%)レポート(10%)。

履修上の注意

第1回の講義で、講義の進め方、評価方法などについて口頭説明を行う予定である。

科目名 社会保障制度論
Title Social Security System
科目区分 5群 国際系応用(経済・経営)

教授 秋朝 礼恵(アキトモ アヤエ)
担当教員

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次
2~4

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

社会保障は、個人が健康で安心な生活を送れるよう、社会全体で負担を分かち合い支えあうシステムである。今日、日本の社会保障制度は、グローバル化、人口構造、就業構造そして地域構造の変化等社会的経済的变化の下で、岐路に立たされている。そこで、本講義では、主として日本の社会保障制度を事例として取り上げ、また諸外国の事例も比較参考しつつ、今後の社会保障制度のあり方を考えるための基礎力を養う。

達成目標

基礎的知識や統計データ等を用いて、現行制度が抱える課題と今後のあり方について考え、表現できること。

スケジュール

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | インロダクション、講義内容、講義の進め方、評価などの説明 |
| 第2回 | 社会保障制度の概要および基礎概念 |
| 第3回 | 社会保険：保険の原理、社会保険と民間保険 |
| 第4回 | 社会保険：年金保険制度①(概要および基礎概念) |
| 第5回 | 社会保険：年金保険制度②(給付面) |
| 第6回 | 社会保険：年金保険制度③(負担面) |
| 第7回 | 社会保険：年金保険制度④(諸外国の事例と日本との比較) |
| 第8回 | 社会保険：医療保険制度①(概要および国民医療費) |
| 第9回 | 社会保険：医療保険制度②(給付と負担) |
| 第10回 | 社会保険：医療保険制度③(医療サービス供給) |
| 第11回 | 社会保険：医療保険制度④(諸外国の事例と日本との比較) |
| 第12回 | 社会福祉：保育サービス① |
| 第13回 | 社会福祉：保育サービス② |
| 第14回 | 公的扶助：生活保護制度 |
| 第15回 | 社会保障制度の現代的課題 |

教科書・参考文献

教科書 教科書は特に定めず、毎回講義でレジュメを配布する。

参考書 中央法規『社会保障入門2018』、小塩隆士『社会保障の経済学』日本評論社、厚生労働省『厚生労働白書』など。その他、講義中に適宜紹介する。

授業外での学習

前回の授業内容を理解しているという前提で講義を進めるので、各自で復習をしておくこと。不明な点は各自で調べ考えて理解を深めること。質問は歓迎する。

評価方法

期末試験(70%)およびコメントペーパー(30%)で評価する。

履修上の注意

必須ではありませんが、前期の「社会保障原理」の受講を勧めます。
受講生の理解度などに応じて、上記スケジュールが多少変わる場合があります。

科目名 貿易政策論
Title Trade Policies
科目区分 5群 國際系応用(経済・経営)

教授 野崎 謙二(ノザキ ケンジ)
担当教員 担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 3・4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

近年のグローバル化の進展により、財・サービスが国境を越えて取引されるようになってきています。各國は自國の利益が大きくなるように政策を行っていますが、そのために貿易摩擦などの問題が生じています。これらを解決し、貿易のメリットを享受するために様々な制度の構築が行われています。それは二国間での取組みであったり、多国間での取組みであったりします。そこでこの講義では、貿易政策に関して、その歴史や理論的な理解を踏まえて、現実の政策や制度を理解することを目的とします。

達成目標

- (1) 貿易の現状や課題を政策的な視点から分析する能力を醸成します。
(2) 日本企業の経済活動という視点から、近年の二国間・多国間の貿易制度を理解できるようになります。

スケジュール

- 第1回 貿易政策の役割
第2回 貿易政策の手段
第3回 貿易政策の具体例
第4回 自由貿易のメリット
第5回 経済のブロック化と第2次世界大戦
第6回 戦後GATT体制の構築
第7回 GATTと日本
第8回 WTOへの再編と機能
第9回 FTAとEPA
第10回 日本のFTAの特徴
第11回 広域FTA①：EUの概要と特徴
第12回 広域FTA②：NAFTAの概要と特徴
第13回 ASEAN経済共同体の概要と特徴
第14回 TPPとRCEP
第15回 今後の展望

教科書・参考文献

教科書 教科書は使用しません。

参考書 多和田眞(2010)「コンパクト国際経済学」(新世社)、渡邊頼純(2012)「GATT・WTO体制と日本-国際貿易の政治的構造」(北樹出版)。その他授業において適宜紹介します。

授業外での学習

国際経済に関する出来事を常にチェックする習慣をつけてください。新聞や雑誌の記事で疑問に思うことがあれば遠慮なく質問をしてください。必要に応じて皆で議論しましょう。

評価方法

中間レポート(40%)と期末試験(60%)により評価します。

履修上の注意

必須条件ではありませんが、国際経済学I・IIを履修するようにしてください。

科目名 異文化経営論
Title Cross Cultural Management
科目区分 5群 国際系応用(経済・経営)

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 佐藤 敦子(サトウ アツコ)

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

現代社会においては、ビジネスの重要な要素である、ヒト、モノ、カネ、情報が、国境を越えてダイナミックに行き交っています。多くの日本企業が海外市場に様々な形で進出し、また国内外で外国人従業員の雇用を増やし、国際化を推進しています。一方で、社会のグローバル化が進んでも、国民性や文化の違いがはつきりと存在していることが実証されており、社内外の環境が多様に変化する企業においては、異なる文化に対応する経営の取組み(=異文化経営)が求められています。この講義では、理論やケースを参照しながら、グローバル化するビジネス社会を取り巻く状況や変化を認識し、文化の違いがビジネスに及ぼす影響とその背景、アカデミックな研究状況について学習します。

達成目標

- * 異文化の存在と、それがビジネスへ及ぼす影響を認識する。
- * 企業経営において求められる異文化対応を理解する(例) 異文化マーケティング、異文化対応の人的資源管理、等)

スケジュール

第1回	イントロダクション	
第2回	ビジネスの国際化	: ビジネスにおける異文化との接点(1)
第3回	ビジネスの国際化	: ビジネスにおける異文化との接点(2)
第4回	ビジネスの国際化	: ビジネスにおける異文化との接点(3)
第5回	異文化マネジメント研究	: 文化が違うと、人々の考え方や行動が異なるということ(1)
第6回	異文化マネジメント研究	: 文化が違うと、人々の考え方や行動が異なるということ(2)
第7回	異文化マネジメント研究	: 文化が違うと、人々の考え方や行動が異なるということ(3)
第8回	異文化経営	- 戦略
第9回	異文化経営	- 組織
第10回	異文化経営	- マーケティング
第11回	異文化経営	- 海外生産、R&D
第12回	異文化経営	- 人的資源管理
第13回	異文化経営	- 財務
第14回	異文化経営	- リーダーシップ
第15回	まとめと総括	

教科書・参考文献

教科書 各項目に応じて、パワーポイント資料を提示します。

参考書 太田正孝編著(2016)「異文化マネジメントの理論と実践」同文館出版
吉原英樹・白木三秀編著(2011)「ケースに学ぶ国際経営」有斐閣ブックス

授業外での学習

日本経済新聞等で日々報道される企業ニュースの中で、異文化経営に関わることに注意を払ってください。授業の中で関連する新聞記事、雑誌記事、論文を配布するので、必ず読んでください。それらについてディスカッションしたり、レポートを書いてもらいます。

評価方法

中間レポートと期末レポート(合わせて70%)と平常点(授業参加貢献度、リアクションペーパー)(30%)

履修上の注意

特に無し

科目名 国際経営戦略論
Title International Strategic Management
科目区分 5群 国際系応用（経済・経営）

教授	担当教員 清水 さゆり（シミズ サユリ）	担当教員との連絡方法 学内ポータルサイトのシラバス参照
----	-------------------------	--------------------------------

配当年次 2~4	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-------------	------------	----------	------------

目的

技術進歩、規制の緩和、新興国の成長等によって、経営資源が以前より容易に国境を超えるようになった。そのため、国境を超えて事業活動を展開する企業にとって、様々な側面で戦略策定がより重要になってきている。こうした点から、本講義では、国境を超えて事業を展開する企業の戦略策定や戦略的行動を理解することを目的とする。

理論の有用性と補完性について確認・理解してもらうために、ケーススタディや映像資料等を用いる予定です。

達成目標

企業の国際的な事業活動とその課題に関心を持ち、自ら考察できるようになること。

スケジュール

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 国際経営環境
- 第3回 国際経営戦略の特徴
- 第4回 国際経営戦略理論（初期の戦略論）
- 第5回 国際経営戦略理論（近年の戦略論）
- 第6回 欧系多国籍企業の国際経営戦略
- 第7回 米系多国籍企業の国際経営戦略
- 第8回 日系多国籍企業の国際経営戦略
- 第9回 新興国多国籍企業の国際経営戦略
- 第10回 国際市場開拓戦略
- 第11回 国際提携戦略
- 第12回 中小企業の国際経営戦略
- 第13回 中小企業の国際経営戦略
- 第14回 多国籍企業のCSR
- 第15回 総括授業

教科書・参考文献

教科書 特に指定しません。

参考書 江夏健一・桑名義晴編著（2018）『理論とケースで学ぶ国際ビジネス 第4版』同文館出版
その他、適宜紹介します。

授業外での学習

授業内容についての復習を行う。また、常に新聞記事等を通じて企業活動に関心を持つ。

評価方法

定期試験70%、平常点30%。
その他、ミニテスト、レポート等を加味し総合的に評価します。

履修上の注意

私語等授業の妨げになる行為は現に禁止します。
ケーススタディや課題を課す場合があるので、積極的な授業への参加態度が求められます。

科目名 市場と経済(A~D再履修)

Title Market and Economy

科目区分 6群 必修及び演習

担当教員

担当教員との連絡方法

履修要綱別冊参照

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1	単位区分 必修	単位数 2	開講時期 前期 または後期
-----------	------------	----------	------------------

目的

- ・ 1年生次を対象に、経済学の基礎となる考え方を学ぶ。
- ・ さまざまな社会現象を経済学ではどのように考えるかを知る。
- ・ 需要と供給の概念について、視覚的な理解を養う。
- ・ 経済学の研究分野を類型化し、具体的な経済問題との関わりをつかむ。

具体的には、教科書の第1~6章、第8-11章を中心に経済学の基礎を解説する。

大きく分けると前半がミクロ経済学の基本的な知識に関する部分、後半がマクロ経済学に関する基本的な知識に関する部分に相当する。

達成目標

経済学・経済理論の考え方のエッセンスをつかむ

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 経済学の10大原理：トレードオフ、限界原理、インセンティブ、交易など（教科書第1章）
- 第3回 経渓学者らしく考える：フロー循環図、生産可能性フロンティア、ミクロとマクロ（教科書第2章）
- 第4回 相互依存と公益からの利益：交換、比較優位（教科書第3章）
- 第5回 市場における需要と供給の作用：需要・供給（教科書第4章）
- 第6回 市場における需要と供給の作用：需要と供給の関係、均衡（教科書第4章）
- 第7回 需要、供給、及び政府の政策：価格規制・税金（教科書第5章）
- 第8回 需要、供給、及び政府の政策：需要の価格弾力性・供給の価格弾力性（教科書第5章補論）
- 第9回 消費者・生産者・市場の効率性：消費者余剰・生産者余剰（教科書第6章）
- 第10回 消費者・生産者・市場の効率性：総余剰・市場の効率性（教科書第6章）
- 第11回 国民所得の測定：GDP、GDPの構成、名目と実質（教科書第8章）
- 第12回 生計費の測定：物価、消費者物価指数、インフレーション、デフレーション（教科書第9章）
- 第13回 生産と成長：経済成長とは、生産性、貯蓄と投資（教科書第10章）
- 第14回 貯蓄・投資と金融システム：金融市場、国民所得勘定の恒等式、貨幣の機能（教科書第11章、第11章補論1）
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 N・グレゴリー・マンキュー(2014)『マンキュー入門経済学(第2版)』東洋経済新報社

参考書 各担当教員よりガイダンス時に指示。

授業外での学習

毎回講義前に、該当する教科書の章を読み、予習すること。また、教科書各章の終わりに、章のポイントや演習問題がまとめられている。その中のいくつかは問題演習のため宿題としてやってもらうが、他の問題についても自主勉強しておくことが望ましい。

評価方法

教科書の各章が終わるごとに演習問題を行い提出してもらう形で行う宿題(10回予定)と学期末試験により評価する。詳細については各担当教員よりガイダンス時に指示する。

履修上の注意

2・3年次に配当される専門基礎科目(基礎マクロ経済学、基礎ミクロ経済学)のいわば「予習」に相当する内容を学ぶ。今後の4年間の学習のベースになる知識を得るために講義なので、そのつもりで履修してほしい。

科目名 企業と会計(A~D再履修)
Title Business and Accounting
科目区分 6群 必修及び演習

担当教員
履修要綱別冊参照

担当教員との連絡方法

学内ポータルサイトのシラバス参照

配当年次 1	単位区分 必修	単位数 2	開講時期 前期または後期
-----------	------------	----------	-----------------

目的

この授業の目的は、経営学を学んでいく上で前提となる企業と会計についての基礎的事項を理解することである。具体的には、以下のことを到達目標とする。①複式簿記の原理が分かり、ごく簡単な取引事例から決算書が作れる。②基本的な財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書)を読むことができ、初步的な経営分析ができる。③企業と会計を取り巻く基本的な制度(株式会社制度、証券市場、情報開示など)を理解している。

達成目標

上記の目標を達成するために、財務諸表の読み方及びその作り方を中心に講義し、さらに必要に応じてその周辺的な話題を取り上げ理解を深める。

スケジュール

- 第1回 第1章「会計の意義」 会計の歴史から説き起こし、現代の会計の全体像と会計を学ぶ意義について解説する。
第2回 第2章「株式会社」 現代の企業を支える基本的な制度である株式会社制度と、会社制度における会計の位置づけについて解説する。
第3回 第3章「資本市場」 資本市場の基本的機能と、資本市場を規律する金融商品取引法における会計について解説する。
第4回 第4章「財務諸表①」 主要な財務諸表である貸借対照表と損益計算書の意義と基本的な構造について解説する。
第5回 第5章「簿記」(1) 簿記の基礎を簡単な事例を通して学ぶ。仕訳から元帳への転記、試算表の作成まで。
第6回 第5章「簿記」(2) 精算表を使ったB/S、P/Lの作成、貸倒引当金、減価償却費等の決算整理事項。
第7回 第6章「財務諸表②」 キャッシュフロー計算書、株主資本等変動計算書、連結財務諸表について解説する。
第8回 第7章「財務諸表の分析①」 自己資本比率、流動比率等の安全性分析と、売上高利益率等の集積性分析について学ぶ。
第9回 第8章「財務諸表の分析②」 資本利益率であるROEとROAの意義及びそれらを分解して分析する手法を学ぶ。
第10回 第9章「原価計算」 製品原価計算の基本的な考え方及び原価管理の初步について解説する。
第11回 第10章「損益分岐点分析」 直接原価計算の基本的な考え方と、損益分岐点分析の方法を学ぶ。
第12回 第11章「設備投資の意思決定」 投資意思決定の基礎として回収期間法とDCF法について解説する。
第13回 第12章「株式市場」 株価の理解の基礎としての配当割引モデル、リスクとリターンの関係、株価を使った指標等を学ぶ。
第14回 第13章「法人税」 税金に関する基礎知識と法人税の基本的な計算構造について解説する。
第15回 第14章「企業の社会的責任と非財務情報開示」 CSR(企業の社会的責任)と統合報告等の新しい情報開示の動向を解説する。

教科書・参考文献

- 教科書 前期: 水口剛・平井裕久・後藤晃範著『企業と会計の道しるべ』中央経済社, 2017
後期: 水口剛・平井裕久・後藤晃範著『企業と会計の道しるべ』中央経済社, 2017
参考書 明神信夫・水野一郎他著『アカウンティング—現代会計入門』同文館出版, 2007
佐藤裕一著『ビジュアル 経営分析の基本(新版)』日経文庫, 2003

授業外での学習

教科書を事前に読み、講義終了後は授業内容を復習しておくこと。

評価方法

平常点(中間テスト含む)20%、期末試験80%

履修上の注意

漫然と講義を聴くのではなく、各自、問題意識を持って臨むこと。途中、何回か実際に計算を行ってもらうので電卓を用意することが望ましい。